

SYLLABUS 2016

—学習の手引—



年次	組	番	氏名
----	---	---	----

福島県立いわき総合高等学校

はじめに

本校は、平成14年度4月からいわき市内で唯一の総合学科高校としてスタートしました。総合学科とは、「普通科」と「専門学科」の良いところを受け継ぎ、進路希望の実現などの自己目標の形成や達成といった「生きる力」を育成しながら、生徒一人一人がそれぞれの科目を自分の目標に沿って体系的に学習することができる第3の学科です。従来の学科は、学校が定めたカリキュラムに沿って基本的に全員が同じ科目を学習しています。それに対し、総合学科では、幅広い選択科目の中から自分の興味・関心・進路目標に応じて、自分が学びたいと思う科目を選んで学習することができます。

そのため、「一人一人」が自分で時間割を作る ことになります。

現在、本校では約120の選択科目を設定していますが、これらの科目を系統立てて分類し、グループ化したものが系列です。この系列には「人文・国際」、「自然科学」、「生活福祉」、「スポーツ健康」、「芸術・表現」、「情報」の六つの系列があります。

選択科目は、自由に選ぶことができますが、科目によっては、履修条件があるものや、時間割の都合により同時に選択できない科目もあります。また、一つの系列の中から集中的に選択したり、複数の系列にまたがって選択したりすることもできます。そのため、よく考えて選択しないと、

「学習につながりがなくなり、進路目標が達成できなくなってしまおう」ということになってしまいます。

科目選択は、君たちに任されています。その時大切なのは、次の三つのことです。

- ①自分は、将来何になりたいか。
- ②そのために、必要な科目は何か。
- ③その科目で目標は達成できるのか。

これらのことを自らよく考えて、自らの責任の下に科目を選択してください。

この冊子「**SYLLABUS 2016**」には、平成28年度入学生が受講する科目の内容と科目を選択する上での条件や心得などが詳しく説明されています。この冊子を大いに参考にして、あなたに最も合った時間割を自分の手で作り上げてください。

さあ、いよいよ本来の自主的学習が始まります。

福島県立いわき総合高等学校

〒973-8404 福島県磐いわき市内郷内町駒谷3-1

TEL 0246-26-3505・3945

FAX 0246-26-8273

URL <http://www.iwakisogo-h.fks.ed.jp/>

目 次

はじめに	1
目 次	2
科目選択のアドバイス	6
I 教育課程表	7
II 科目相互関係表	8
III モデルプラン	13
IV シラバス	17

1 必履修科目

国語総合	20	保健（1年次）	36
現代社会	22	保健（2年次）	38
世界史B	24	体育＜男子＞（1・2・3年次）	40
コミュニケーション英語I	26	体育＜女子＞（1・2・3年次）	42
数学I	28	社会と情報	44
化学基礎	30	産業社会と人間	46
生物基礎	32	2年次総合的な学習の時間	48
家庭基礎	34	3年次総合的な学習の時間	50

2 選択必履修科目

日本史A	54	物理基礎	62
日本史B	56	地学基礎	64
地 理A	58	音楽I	66
地 理B	60	美術I	68

3 選択科目

<人文国際系列>

国語表現	7 2	政治・経済	9 8
△現代文B* (2年次)	7 4	世界地誌	1 0 0
△古典B* (2年次)	7 6	時事問題研究	1 0 2
国語表現演習	7 8	コミュニケーション英語Ⅱ	1 0 4
古典A	8 0	英語表現Ⅰ	1 0 6
現代文演習	8 2	英語会話	1 0 8
△現代文B* (3年次)	8 4	英語基礎演習	1 1 0
△古典B* (3年次)	8 6	コミュニケーション英語Ⅲ	1 1 2
創作と鑑賞	8 8	英語表現Ⅱ	1 1 4
世界史演習	9 0	英語総合演習	1 1 6
日本史演習	9 2	英語会話上級	1 1 8
地理演習	9 4	異文化理解	1 2 0
倫理	9 6	中国語	1 2 2

<自然科学系列>

△数学Ⅱ* (2年次)	1 2 4	生物	1 4 4
△数学Ⅱ* (3年次)	1 2 6	物理	1 4 6
数学Ⅱ	1 2 8	地学	1 4 8
数学Ⅲ	1 3 1	理科演習 (物理)	1 5 0
数学A	1 3 4	理科演習 (化学)	1 5 2
数学B	1 3 6	理科演習 (生物)	1 5 4
数学基礎演習	1 3 8	応用物理	1 5 6
数学総合演習	1 4 0	応用化学	1 5 8
化学	1 4 2	応用生物	1 6 0

<生活福祉系列>

△ファッション造形基礎（2年次）・162	基礎看護	178
△ファッション造形基礎（3年次）・164	生活と看護	180
△子どもの発達と保育（2年次）・・・166	社会福祉基礎	182
△子どもの発達と保育（3年次）・・・168	介護福祉基礎	184
子ども文化	コミュニケーション技術	186
着付け	生活支援技術	188
△フードデザイン（2年）・・・174	介護総合演習	190
△フードデザイン（3年）・・・176	介護実習	192
	手話・点字	194

<スポーツ健康系列>

スポーツ概論	196	スポーツトレーナー実習	206
スポーツⅠ	198	コーチ学	208
スポーツⅡ	200	スポーツⅣ	210
スポーツⅢ	202	スポーツⅤ	212
スポーツ総合演習	204	ニュースポーツ	214

<芸術表現系列>

声楽基礎	216	ビジュアルデザイン	242
ソルフェージュ	218	構成演習	244
器楽基礎	220	絵画	246
音楽理論	222	立体造形	248
日本伝統音楽研究Ⅰ	224	美術概論	250
声楽	226	クラフトデザイン	252
ソルフェージュ演習	228	舞踊Ⅰ	254
器楽	230	演技・演出	256
音楽理論演習	232	舞踊Ⅱ	258
日本伝統音楽研究Ⅱ	234	演劇総合演習	260
音楽史	236	日本舞踊	262
構成	238	演劇表現	264
素描	240		

<情報系列>

△簿記演習* (2年次)	266	情報の表現と管理.....	278
△ワープロ演習* (2年次)	268	情報メディア.....	280
△簿記演習* (3年次)	270	ネットワークシステム	282
△ワープロ演習* (3年次)	272	表現メディアの編集と表現.....	284
アルゴリズムとプログラム	274	△情報テクノロジー* (3年次) ..	286
△情報テクノロジー* (2年次)	276		

科目選択のためのアドバイス

- (1) 自分の責任で科目選択すること。
(友達が選択するからといった安易な選択はしないこと。)
- (2) 進路に関わる科目選択をすること。
(モデルプランを参考に、自分にとってプラスとなる科目を選択すること。)
- (3) 保護者や先生方と十分に話し合うこと。
- (4) 科目の性格や内容を正しく理解すること。

< 科目の分類 >

- ①必履修科目
全員が必ず履修しなければならない科目です。
- ②選択必履修科目
いくつかの科目から選択して必ず履修しなければならない科目です。
- ③総合選択科目（2年次）
基礎科目です。2年次履修が基本となる科目です。
- ④総合選択科目（3年次）
基礎科目以外の科目です。
基礎科目からの発展として3年次履修が基本となる科目です。
(注) 総合選択科目で科目名の最初に△（後ろに*の印）が付いている科目は2年次から3年次かけて継続して履修する科目です。
- ⑤自由選択科目
年次を問わずに自由に選択することができる科目です。
(科目によっては年次が指定されている場合もあります。)

- (5) 履修条件をよく読み、2年次だけではなく、3年次の科目選択も十分に考えること。
(注) 履修条件の関係で3年次に自分の選択したい科目を選択できない場合もあります。
 - 同時履修が選択条件になっている科目
 - ある科目の履修が選択条件になっている科目
- (6) 実習等を伴う科目は実習費が必要になる場合もあります。備考をよく読むこと。
- (7) 人数の関係で開講できない科目もあります。

I 平成28年度入学生用教育課程表

1 年次		
必履修科目		
国語総合		4
現代社会		2
コミュニケーション英語 I		4
数学 I		4
化学基礎		2
生物基礎		2
体育		2
保健		1
家庭基礎		2
社会と情報		2
LHR		1
選択必履修科目		
どちらか選択	音楽 I	2
	美術 I	2
原則履修科目		
産業社会と人間		2

2 年次		
必履修科目		
世界史B		3
体育		2
保健		1
総合的な学習の時間		1
LHR		1

3 年次		
必履修科目		
体育		3
総合的な学習の時間		2
LHR		1

2 年次			
選択必履修科目			
どちらか選択	物理基礎	2	
	地学基礎	2	
1つ以上	日本史B	4	
	地理B	4	
3 年次	選択(注1)	日本史A	2
		地理A	2

(注1)以下の組み合わせの選択はできない。
日本史Bと日本史A
地理Bと地理A

年次	必履修等	選択
1	30	0
2	10~14	16~20
3	6~8	22~24

・校内科目名で表記
・科目名の右側は単位数
・(*)は継続履修の科目
・②は2年次、③は3年次科目

系列	総合選択科目					
	基礎科目(2年次)		基礎以外の科目(3年次)		自由選択科目	
	人文・国際	国語表現	2	古典A	2	創作と鑑賞②or③
	△現代文B(*)	2	△現代文B(*)	2		
	△古典B(*)	2	△古典B(*)	2		
			現代文演習	2		
			国語表現演習	2		
			世界史演習	4	世界地誌③	2
			日本史演習	4	時事問題研究②or③	2
			地理演習	4		
			倫理	2		
			政治・経済	2		
	コミュニケーション英語 II	4	コミュニケーション英語 III	4	中国語③	2
	英語基礎演習	2	英語総合演習	2	異文化理解②or③	2
	英語表現 I	2	英語表現 II	4		
	英語会話	2	英語会話上級	4		
					国際交流①~③	2
自然科学	数学 II	4	数学 III	6		
	数学 A	2	数学 B	2		
			数学総合演習	2		
	△数学 II(*)	2	△数学 II(*)	2		
			数学基礎演習	2		
	化学	4	物理	4		
	生物	4	地学	4		
	理科演習(物理)	2	理科演習(化学)	2		
			理科演習(生物)	2		
			応用物理	2		
			応用化学	2		
			応用生物	2		
生活福祉	△ファッション造形基礎(*)	2	△ファッション造形基礎(*)	2		
	△フードデザイン(*)	2	△フードデザイン(*)	2		
	△子どもの発達と保育(*)	2	△子どもの発達と保育(*)	2		
			子ども文化	2	着付け③	2
	社会福祉基礎	4	コミュニケーション技術	2	手話・点字③	2
	介護福祉基礎	4	介護総合演習	2		
			介護実習	2		
			生活支援技術	2		
			基礎看護	2	生活と看護	2
スポーツ健康	スポーツ概論	2	スポーツトレーナー実習	2	スポーツIV②or③	2
	スポーツ I	2	コーチ学	2	スポーツV②	2
	スポーツ II	2	スポーツ総合演習	2	ニューススポーツ②or③	2
	スポーツ III	2				
芸術・表現	音楽理論	2	音楽理論演習	2	音楽史②or③	2
	ソルフェージュ	2	ソルフェージュ演習	2		
	声楽基礎	2	声楽	2		
	器楽基礎	2	器楽	2		
	日本伝統音楽研究 I	2	日本伝統音楽研究 II	2		
	構成	4	構成演習	4	クラフトデザイン②or③	2
	素描	4	絵画	4		
	ビジュアルデザイン	2	立体造形	2		
			美術概論	2		
	舞踊 I	4	舞踊 II	4	演劇表現②or③	2
	演技・演出	4	演劇総合演習	4		
			日本舞踊	2		
情報	△簿記演習(*)	4	△簿記演習(*)	4		
	△ワープロ演習(*)	4	△ワープロ演習(*)	4		
	アルゴリズムとプログラム	4	ネットワークシステム	4		
	情報の表現と管理	2	表現メディアの編集と表現	4		
	△情報テクノロジー(*)	2	△情報テクノロジー(*)	2		
	情報メディア	2				

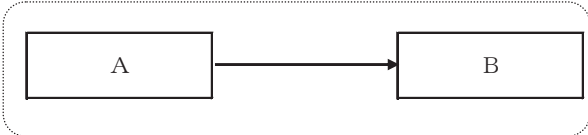
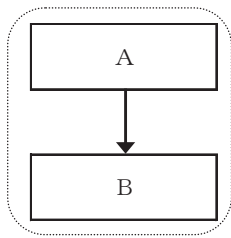
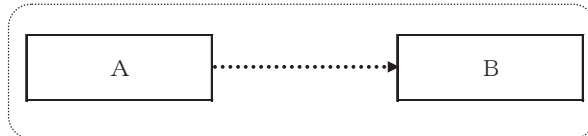
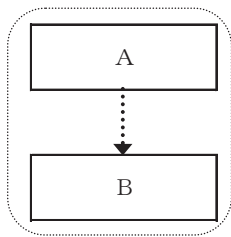
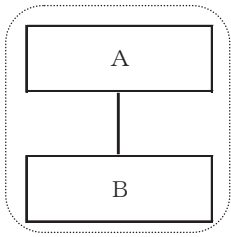
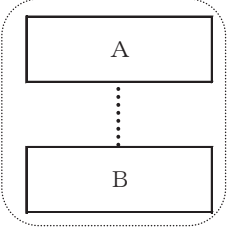
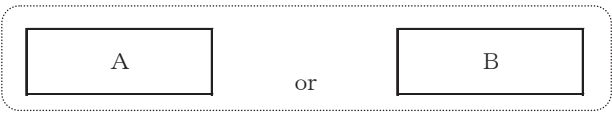
39科目104単位

55科目146単位

14科目28単位

Ⅱ 科目相互関係表

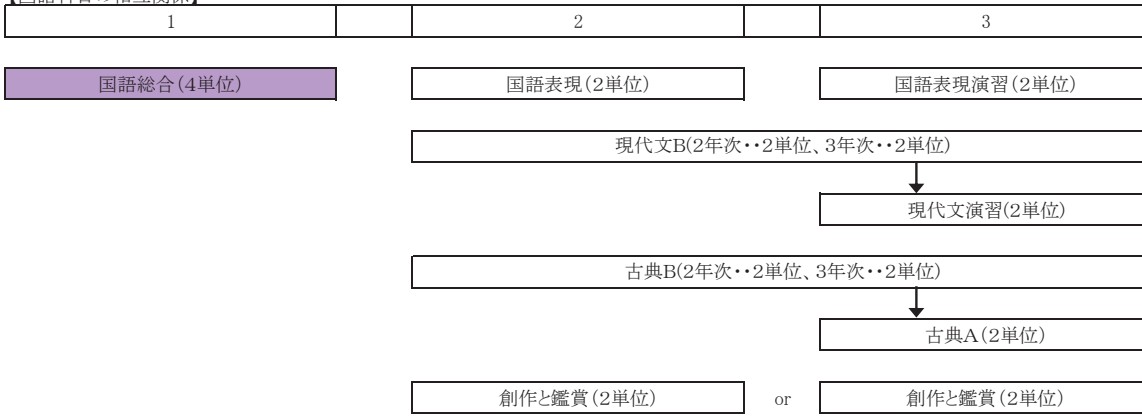
<科目相互関係表の見方>

	
<p>Bの科目を履修するためには必ずAの科目を履修しなくてはならない</p>	
	
<p>Bの科目を履修するためにはAの科目を履修していることが望ましい</p>	
	<p>AとBの科目は必ず同時に履修しなければならない</p>
	<p>AとBの科目は同時に履修することが望ましい</p>
	<p>AとBのどちらか一方の科目しか履修できない</p>

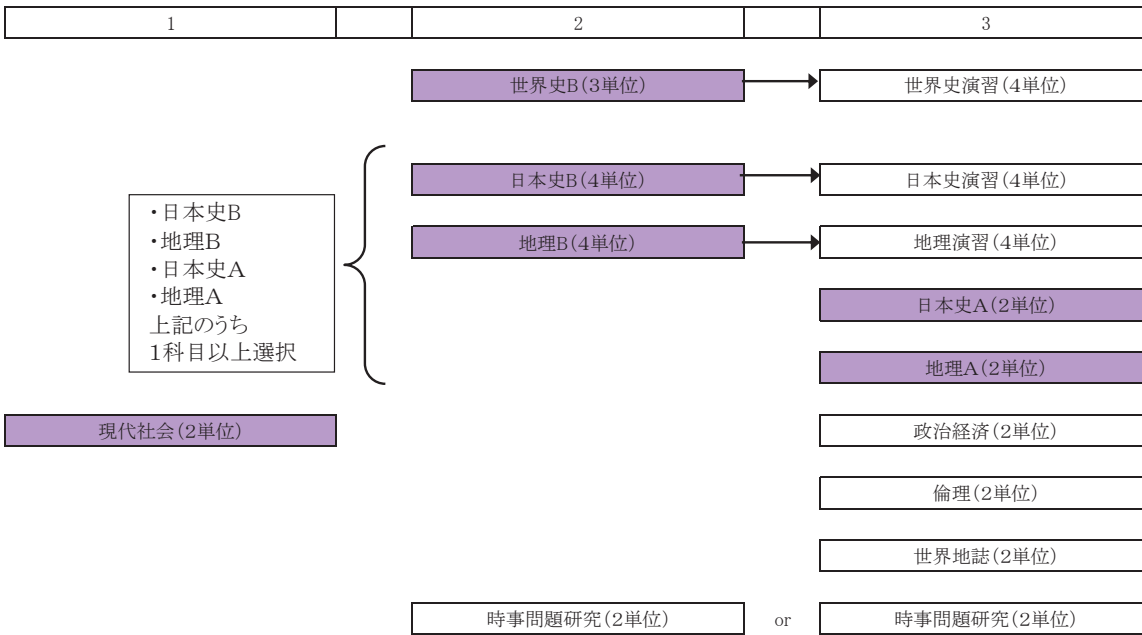
* 網掛けの科目は必修または選択必修の科目です。

① 人文・国際系列

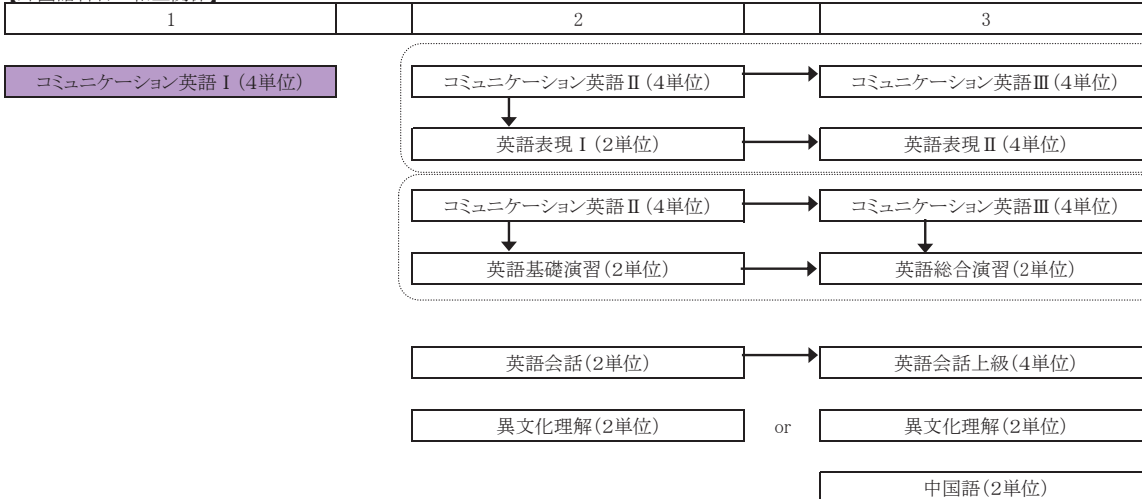
【国語科目の相互関係】



【地理歴史・公民科目の相互関係】

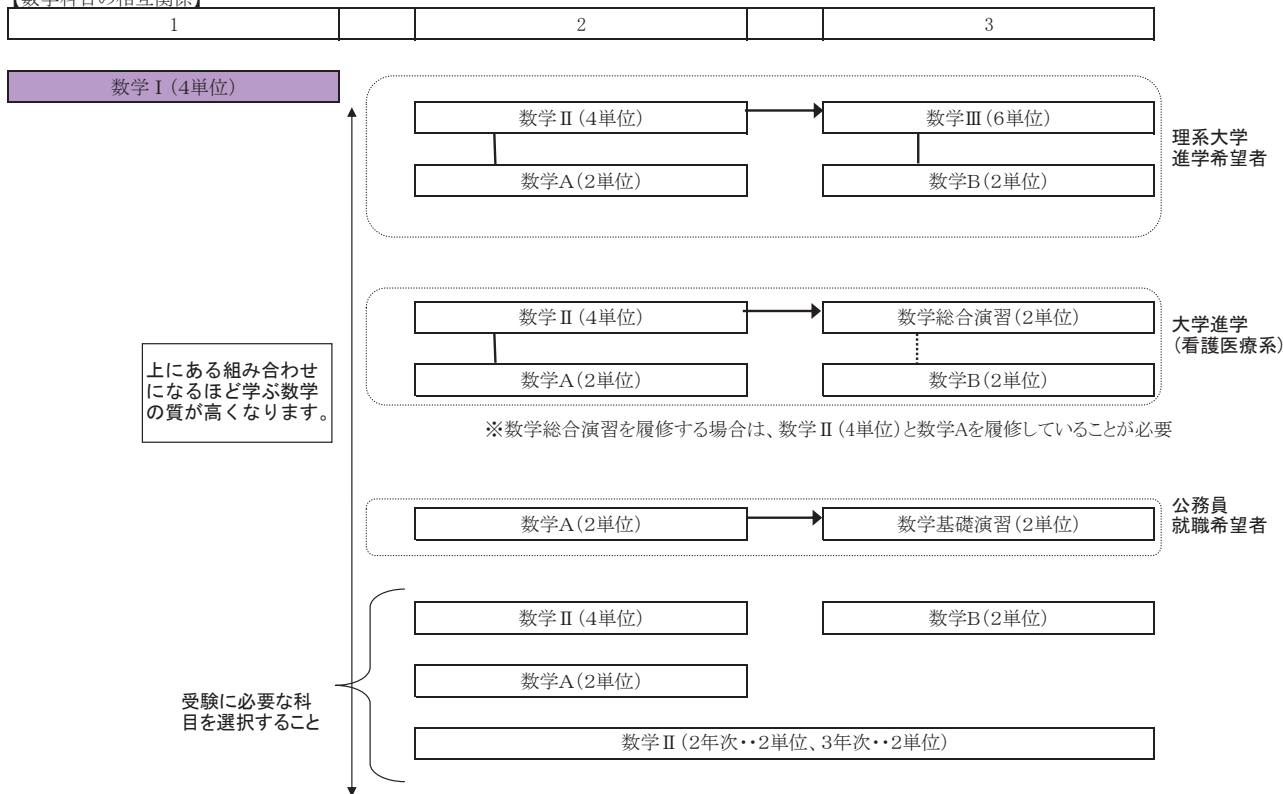


【外国語科目の相互関係】

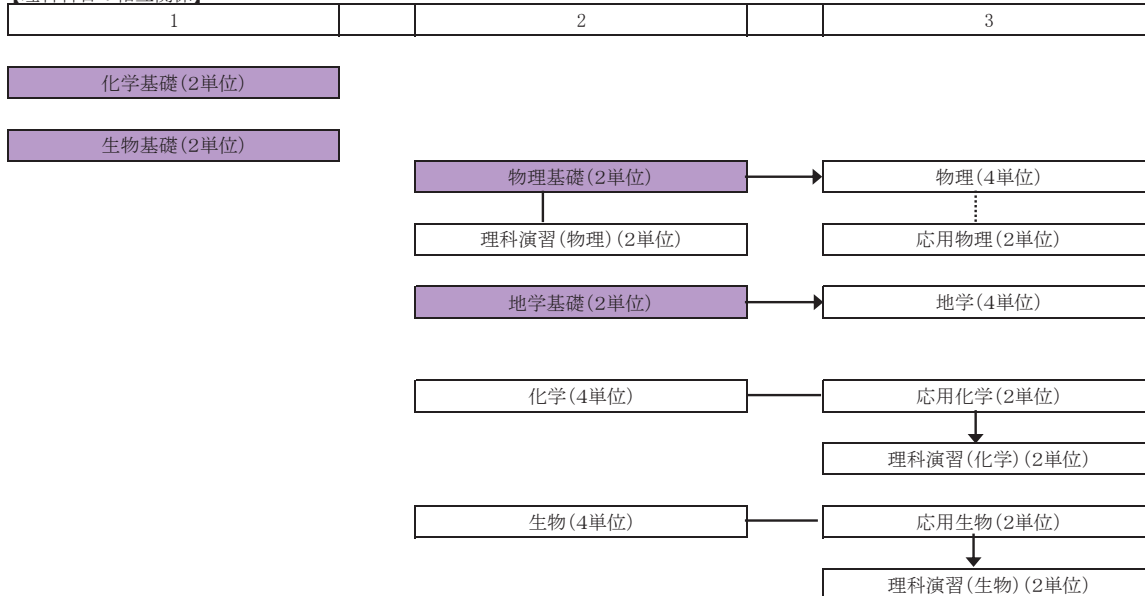


② 自然科学系列

【数学科目の相互関係】



【理科学目の相互関係】

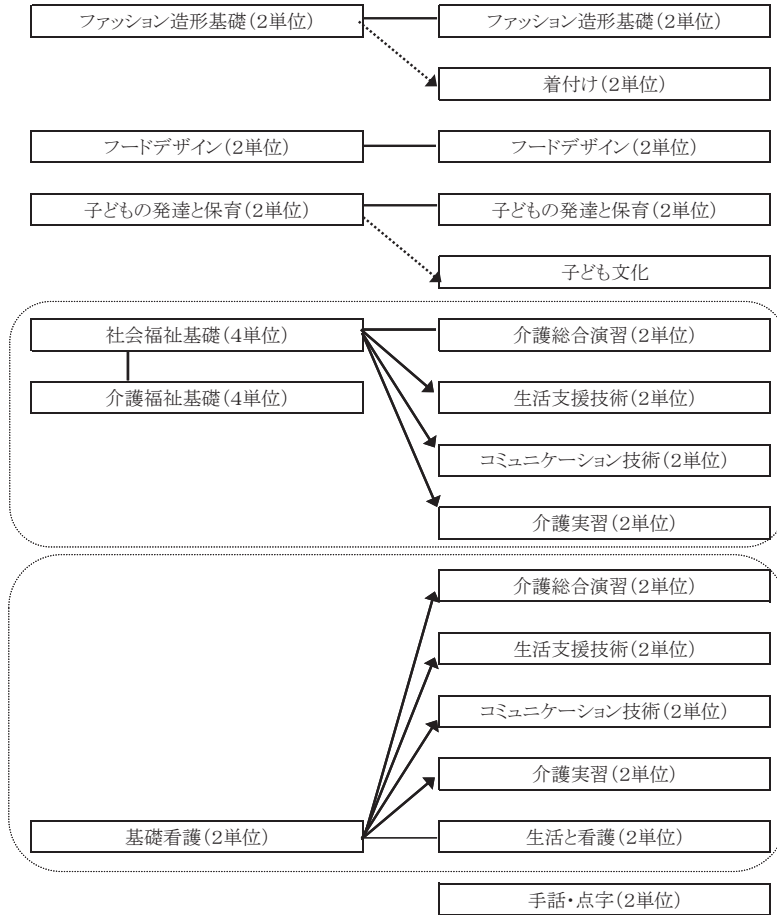


③ 生活福祉系列

【家庭・看護・福祉科目の相互関係】

1		2		3
---	--	---	--	---

家庭基礎(2単位)



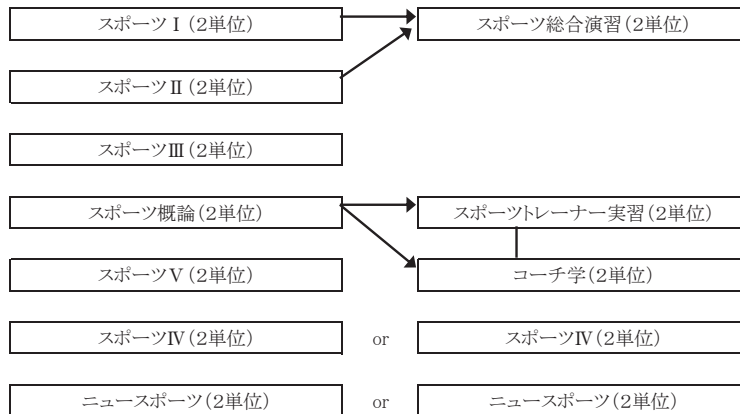
④ スポーツ健康系列

【体育科目の相互関係】

1		2		3
---	--	---	--	---

体育(1年次・2単位、2年次・2単位、3年次・3単位)

保健(1年次・1単位、2年次・1単位)

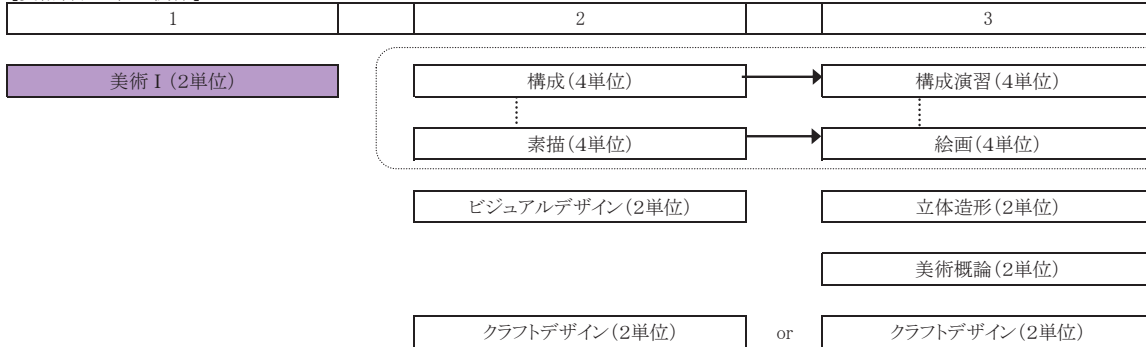


⑤ 芸術・表現系列

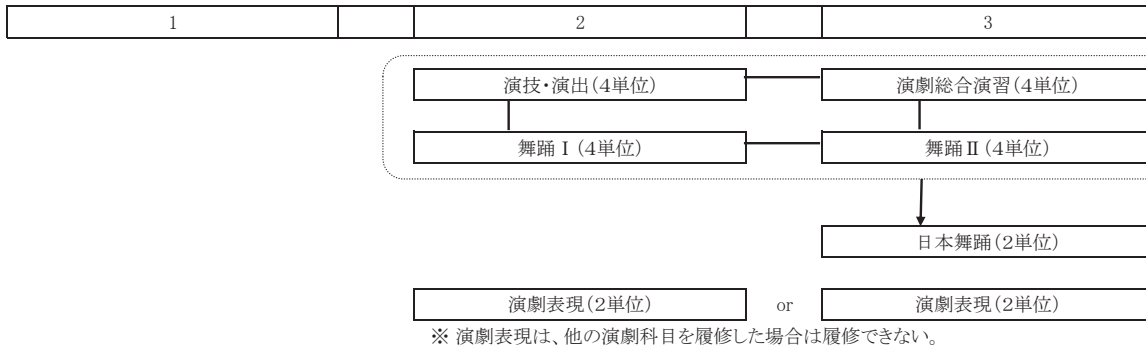
【音楽科目の相互関係】



【美術科目の相互関係】

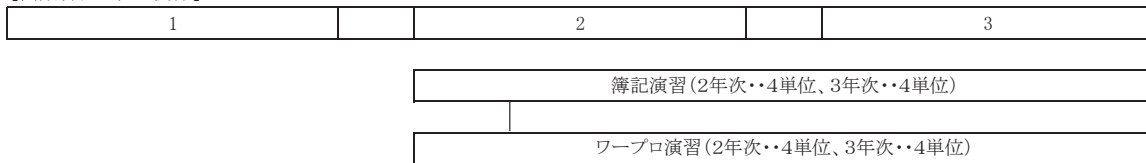


【演劇科目の相互関係】

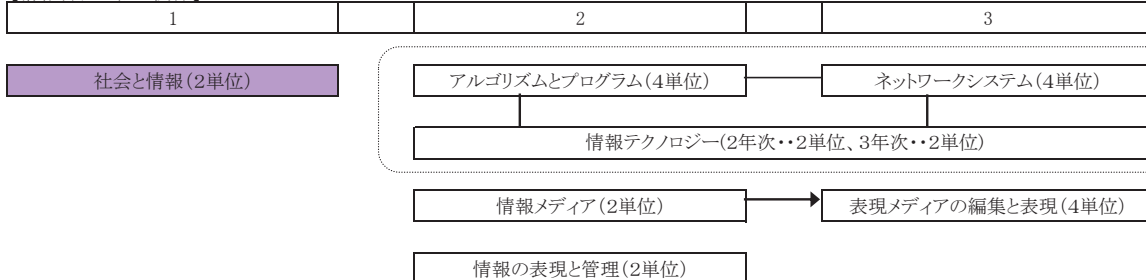


⑥ 情報系列

【商業科目の相互関係】



【情報科目の相互関係】



Ⅲ モデルプラン

- 1 国公立大学文系進学希望者
- 2 国公立大学理系進学希望者（化学・生物系）
- 3 私立大学文系進学希望者
- 4 私立大学理系進学希望者（物理・化学系）
- 5 医療系（看護・作業療法・理学療法等）大学・短期大学・専門学校進学希望者①
- 6 医療系（看護・作業療法・理学療法等）大学・短期大学・専門学校進学希望者②
- 7 社会福祉系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 8 保育系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 9 食物系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 10 体育系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 11 音楽系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 12 美術系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 13 演劇系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者
- 14 情報系（プログラミング）大学・短期大学・専門学校進学希望者
- 15 情報系（画像処理）大学・短期大学・専門学校進学希望者
- 16 公務員希望者
- 17 就職希望者
- 18 就職希望者（事務系）

1 国公立大学文系進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	現代文B	古典B	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅰ	数学Ⅱ	数学A	地学基礎	日本史B
3 年次	体育	総合学習	L H R	現代文B	古典B	古典A	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	数学B	数学総合演習	日本史演習	政治経済	

※数学Ⅱは4単位を履修することが望ましい。

2 国公立大学理系進学希望者（化学・生物系）

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	現代文B	古典B	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎演習	数学Ⅱ	数学A	地学基礎	化学または生物
3 年次	体育	総合学習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	古典B	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合演習	数学Ⅲ	数学B	応用化学 または 応用生物	理科演習 (化学 または 生物)	

※物理系（工学部等）の希望者は選択の仕方が複雑になりますので、理科の先生に相談してください。

3 私立大学文系進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	時事問題 研究	現代文B	古典B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅰ	日本史B	地学基礎	Free
3 年次	体育	総合学習	L H R	現代文B	現代文演習	古典B	古典A	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	英語表現Ⅱ	日本史演習	Free		

4 私立大学理系進学希望者（物理・化学系）

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎演習	数学Ⅱ	数学A	物理基礎	理科演習 (物理)	化学	Free
3 年次	体育	総合学習	L H R	日本史A or 地理A	コミュニケーション英語Ⅲ	数学Ⅲ	数学B	応用物理	物理	理科演習 (化学)	応用化学		

5 医療系（看護・作業療・理学療等）大学・短期大学・専門学校 進学希望者①

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	現代文B	古典B	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎演習	数学Ⅱ	数学A	地学基礎	生物	
3 年次	体育	総合学習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	古典B	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合演習	数学B	数学総合演習	理科演習 (生物)	応用生物	国語表現演習	Free

6 医療系（看護・作業療・理学療等）大学・短期大学・専門学校 進学希望者②

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	現代文B	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎演習	数学Ⅱ	数学A	生物	地学基礎	基礎看護	
3 年次	体育	総合学習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現演習	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合演習	数学B	数学総合演習	理科演習 (生物)	応用生物	生活と看護	Free

※診療放射線技師等を目指す場合は、2年次で物理基礎及び理科演習（物理）を3年次では物理及び応用物理を選択すること。

7 社会福祉系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学習	L H R	現代文B	国語表現	数学A	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎演習	社会福祉基礎	介護福祉基礎	地学基礎
3 年次	体育	総合学習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現演習	数学基礎演習	コミュニケーション英語Ⅲ	政治経済	世界史演習	介護実習	介護総合演習	手話・点字

※3年次には、進学希望先に応じて、生活支援技術・介護実習・コミュニケーション技術を選択することが望ましい。

8 保育系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎 演習	子どもの 発達と保 育	クラフト デザイン	器楽基礎	声楽基礎	地学基礎	数学A
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合 演習	子どもの 発達と保 育	子ども文 化	器楽	声楽	スポーツⅣ	数学基礎 演習	

※2年次に器楽基礎・声楽基礎を選択することが望ましい。
3年次はスポーツⅣを選択することが望ましい。

9 食物系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎 演習	数学Ⅱ	数学A	フードデザイン	化学	地学基礎
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合 演習	数学Ⅱ	フードデザイン	理科演習 (化学)	応用化学	Free	

10 体育系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	数学Ⅱ	数学A	スポーツ理論	スポーツ Ⅱ	地学基礎	生物
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	数学Ⅱ	数学基礎 演習	コーチ学	スポーツ 総合演習	スポーツ トレー ナー 実習	応用生物	Free

11 音楽系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	英語基礎 演習	数学A	ソルフェージュ	音楽理論	器楽基礎	声楽基礎	地学基礎
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	英語総合 演習	数学基礎 演習	ソルフェージュ 演習	音楽理論 演習	器楽	声楽	音楽史	

12 美術系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	素描	構成	数学A	情報 メディア	地学基礎
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	絵画	構成演習	数学基礎 演習	表現メディアの 編集と表現		

13 演劇系大学（含む短期大学・専門学校）進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	古典B	国語表現	コミュニケーション英語Ⅱ	舞踊Ⅰ	演技・演出	地学基礎	数学A
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	古典B	国語表現 演習	コミュニケーション英語Ⅲ	舞踊Ⅱ	演劇総合演習	日本舞踊	政治経済	

14 情報系（プログラミング）大学・短期大学・専門学校進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	数学Ⅱ		数学A	情報テ ク ノ ロ ジ ー	アルゴリズムとプログラム	物理基礎	理科演習 (物理)	コミュニケーション英語Ⅱ
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	数学B	数学総合 演習	ネットワー ク シ ス テ ム		情報テ ク ノ ロ ジ ー	物理	コミュニケーション英語Ⅲ	Free	

15 情報系（画像処理）大学・短期大学・専門学校進学希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	情報の表 現 と 管 理	情報 メ デ ィ ア	数学Ⅱ		数学A	物理基礎	理科演習 (物理)	コミュニケーション英語Ⅱ	Free
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	表現メ デ ィ ア の 編 集 と 表 現		数学B	数学総合 演習	コミュニケーション英語Ⅲ		Free			

16 公務員希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	古典B	国語表現	数学Ⅱ	数学A	コミュニケーション英語Ⅱ	時事問題 研究	地学基礎	Free
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	古典B	国語表現 演習	数学Ⅱ	数学基礎 演習	コミュニケーション英語Ⅲ		政治経済	Free	

17 就職希望者

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	数学Ⅱ	数学A	コミュニケーション英語Ⅱ	時事問題 研究	地学基礎	Free
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	数学Ⅱ	数学基礎 演習	コミュニケーション英語Ⅲ		政治経済	Free	

※就職試験に対応するため、国・数・英は必ず選択すること。

18 就職希望者（事務系）

2 年次	世界史B	体育	保健	総合学 習	L H R	現代文B	国語表現	数学A	コミュニケーション英語Ⅱ	簿記演習	ワープロ演習	地学基礎	Free
3 年次	体育	総合学 習	L H R	日本史A or 地理A	現代文B	国語表現 演習	数学基礎 演習	コミュニケーション英語Ⅲ		簿記演習	ワープロ演習	Free	

IV シラバス（全教科・科目）

1 必履修科目

2 選択必履修科目

3 選択科目

福島県立いわき総合高等学校

1 必履修科目

系 列	人文国際	教 科	国語	必履修科目（1年次）		
講座名	国語総合		単位数	4	ブロック 番号	
科目の概要	言語による表現能力や理解力、これらを土台とする伝え合う力といった、社会の変化に自ら対応するために必要な言語能力を総合的に身に付けるために設定された高等学校国語における基礎的な科目である。					
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 ・様々な教材を読み、言葉に関する知識・理解を深めより高度な学習への基礎を確かなものとする。 					
授業形態	講義					
教科書 使用教材等	「高等学校 国語総合」第一学習社「国語総合学習課題集」第一学習社 「新総合図説国語」東京書籍・国語辞典・古語辞典・その他（プリント教材）					
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語や言語文化に対する関心を深め国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしているかどうか。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして目的や場面に応じ筋道を立てて話したり的確に聞きとっているかどうか。 3. 自分の考えをまとめたり深めたりして相手や目的に応じて適切に文章を書けるかどうか。 4. 自分の考えを深めたり発展させたりしながら目的に応じて様々な文章を的確に読みとったり読書に親しんでいるかどうか。 5. 表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 6. 上記観点に基づき、豆テスト、ノートの提出、授業への取り組みなどを重視しながら定期考査を中心に評価する。 					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必ず、難解な語句の意味を調べておくこと。 ・授業には必ず、国語辞典や古語辞典もしくは漢和辞典を持参すること。 など準備や予習などが必要である。 					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	本校における国語学習オリエンテーション 現代文 評論「水の東西」	・本校における3年間の国語学習、図書館利用について学ぶ ・論理の展開に従い、筆者の主張を正確に読みとり要約できるようにする	感想文 中間 考査
	5月	古文 「宇治拾遺物語」 現代文 小説「羅生門」	・仮名遣いや言葉遣いに注意して音読し古文に慣れる ・様々な状況の中で揺れ動く微妙な人間の心理を読みとる	
	6月	古文 「徒然草」 現代文 詩「くらげの唄」 「I was born」	・古人の生き方や考え方に触れ、理解する ・音読に韻律を味わい、作品の情景や作者の感動を理解する	
	7月	現代文 評論『「間」の感覚」 漢文 漢文入門	・筆者の主張に対して自分の考えを深めていく作業に取り組む ・漢文を訓読する方法を学ぶ	
	8月	現代文 表現 手紙の書き方 漢文 故事成語	・形式に則った手紙の書き方を学ぶ ・故事成語の本来の意味、現在使われている意味を知る	
	9月	現代文 短歌「その子二十」	・定型律の特色を理解し、作者の感動の中心を押さえて作品を味わう	期末 考査
後期	10月	古文 歌物語「伊勢物語」	・物語や和歌の表現に即して古人の心情や感動を読みとる	中間 考査
	11月	現代文 小説 「血であがなったもの」	・「私」の心理変化や行動を周囲の状況から、整理して読みとる	
	12月	現代文 評論「科学の限界」	・筆者の論のすすめ方を整理し、読みとる	
	1月	漢文 「論語」	・現代人の生き方に通じる問題を「論語」の言葉から汲みとる	期末 考査
	2月	現代文 小説「富岳百景」	・時間の経過から「私」の心境がどのように変化したのか読みとる	
	3月	表現 意見文を書く		

系 列	人文国際	教 科	公民	必履修科目（1年次）		
講座名	現代社会		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民（政治、経済、国際問題）、青年期の特色、倫理（思想）など幅広い範囲の内容を学習します。 ・ 現代の社会の中で起こっている諸問題について多方面から学習し、これから自分がどう生きていけばよいのかを考えます。 ・ 新聞記事やテレビ報道などを参考に現実に行っている問題を捉え、自分の考えをまとめます。 ・ 社会に出たときの基礎的事項を学習します。 					
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の社会で起こっているさまざまな諸問題に関心を持つようにします。 ・ 広い視野に立って現代社会を捉え、公正に判断できる力を身に付けるようにします。 ・ 将来、自分がどんな生き方をしたいのかを考えます。 ・ 基本的用語などを正しく理解するようにします。 ・ 他人の意見を聞き、自分の考え方との違いについて考えます。 					
授業形態	講義					
教科書 使用教材等	教科書〔「最新現代社会」（実教出版）〕 資料集〔「最新現代社会資料集2016」（第一学習社）〕					
評価の観点 評価の方法	<p>（観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が指導した内容を理解し、自分の考え方がまとめられるかを確認します。 ・ 定期考査の結果（知識や思考力が身に付いているか）を基礎とし、提出物の状況、教師の発問に対する応答、出席状況、授業態度などを総合的に判断します。 					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の社会の公民分野と内容が重なるところが多いですが、その深さや取り上げかたは高等学校ならではのものです。また、中学校では勉強しなかった内容も説明します。 ・ 中学校で学習した内容のうえにたって、自分で問題を見つけ、解決することが大切になります。今、社会で起こっている問題や青年期の意義を考え自分の見つけてみる必要があります。 ・ 新聞記事やテレビのニュースに関心を持つことが大切になります。 					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	第2部 現代社会と人間 3 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> ・市場のしくみ ・現代の企業 ・金融の役割 ・財政の役割と租税 ・中小企業と農業 ・消費者問題 ・労働問題と労働者の権利 ・社会保障の役割 など 	中間 考査
	5月			
	6月	2 現代の民主政治と日本国憲法 第2章 日本国憲法の基本的生活 第2章 日本経済の特質と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の制定 ・平和主義とわが国の安全 ・国際連合と国際協力 ・こんにちの防衛問題 など 	
	7月			期末 考査
	8月	第3章 日本の政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ・政治機構と国会 ・行政権と行政機能の拡大 ・公正な裁判の保障 ・地方自治と住民福祉 ・政党政治地と選挙制度 など 	
	9月			
後期	10月	1 青年期と自己の形成 第1章 自分らしく生きる 第2章 人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期とは ・哲学と人間 ・宗教と人間 ・科学と人間 	中間 考査
	11月	第3章 日本人としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・古代日本人の思想 など 	
	12月	4 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連合と国連協力 ・第二次世界大戦後の国際政治 	
	1月	第2章 国際経済の動向と国際協力 第1部 わたしたちの生きる社会 第1章 地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易と国際収支 ・第二次世界大戦後の国際経済 など ・破壊される地球 ・地球環境問題への取り組み ・限りある資源 ・資源循環型社会の形成 など 	期末 考査
	2月	第2章 資源・エネルギー問題		
	3月			

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	必履修科目（2年次）		
講座名	世界史B		単位数	3	ブロック 番号	
科目の概要	<p>現在私たちが生活している、この時代のこの世界は、これまでに人類が重ねてきた様々な出来事を土台に成り立っています。つまり、現在の世の中を、表面的ではなく根底から正しく理解するためには歴史を学習することが欠かせません。また、歴史を学習することによって、過去人類が経験した様々な成功・失敗を知ることができます。それは、今後の社会をよりよいものにし、私たちの人生をよりよいものにするための大きなヒントになるはずです。</p> <p>この科目では世界の歴史を学習します。特に現在の世界と関わりの深い、18世紀後半（産業革命以降）から現代までの歴史を重点的に学習します。</p>					
科目の目標	<p>世界の歴史の大きな枠組みと流れを、日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。</p>					
授業形態	講義					
教科書 使用教材等	教科書「新選世界史B」（東京書籍） 図説「最新世界史図説タペストリー」（帝国書院）					
評価の観点 評価の方法	<p>（観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の歴史に対する関心が深まったか。 ・歴史の大きな枠組みと流れを捉え、広い視野で考える力が身についたか。 ・世界の歴史とそれを背景にした多様な文化に関する基礎的知識が身についたか。 <p>（方法）</p> <p>定期考査の結果を基礎とし、授業態度・提出物の状況などを含めて総合的に評価する。</p>					
選択条件	2年次必履修科目					
選択する上での心得	『歴史とは、現在と過去との絶えざる対話である』——これは、イギリスの歴史家E・H・カーの言葉です。この世界史の授業を通して、過去との対話を重ね、今ここに生きる自分の立ち位置を知り、激変する現代社会の中でどう生きるかを考え、人生と未来とを切り拓く上での一助としてください。					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	産業社会と国民国家の形成 産業革命 アメリカ合衆国の独立 フランス革命とナポレオン ウィーン体制と1848年の革命 国民国家の建設と国際関係の 変化 ヨーロッパの文化	18世紀後半から19世紀にかけて、 ヨーロッパやアメリカで自由や平 等などの思想が広がり、産業革命 など大きな経済的変革のようすを 学習します。 ヨーロッパ諸国がアジア各地への 進出を拡大し、それによってアジ ア世界が動揺するようすを学習し ます。	中間 考査	
	5月				
	6月				
	7月	世界市場の形成とアジア帝国 ヨーロッパ諸国のアジア進出 西アジアの変動 南アジア、東南アジアの変動 東アジアの変動		ヨーロッパ諸国がアジア各地への 進出を拡大し、それによってアジ ア世界が動揺するようすを学習し ます。	中間 考査
	8月				
	9月				
後期	10月	世界の分割 世界を支配する国々 アジアの民族主義と国家建設 世界の一体化	世界の一体化が加速する一方、ヨ ーロッパ諸国によるアジア・アフ リカの植民地化が進み、対立が表 面化するようすを学習します。 20世紀前半の世界の動向を二つの 大戦の背景と経過を中心に学習し ます。また、この時代に起こった、 世界恐慌・社会主義体制の拡大・ アジアの民族運動などについても 学習します。 20世紀後半の世界の動向を米ソ冷 戦の展開と終結を中心に学習しま す。また、この時代に起こったア ジア・アフリカ諸国の独立、多極 化の進展についても学習します。		中間 考査
	11月				
	12月				
	1月	戦後世界の形成と変容 冷戦の展開と第三世界 平和共存と多極化 冷戦の終結とその後の世界		世界の一体化が加速する一方、ヨ ーロッパ諸国によるアジア・アフ リカの植民地化が進み、対立が表 面化するようすを学習します。 20世紀前半の世界の動向を二つの 大戦の背景と経過を中心に学習し ます。また、この時代に起こった、 世界恐慌・社会主義体制の拡大・ アジアの民族運動などについても 学習します。 20世紀後半の世界の動向を米ソ冷 戦の展開と終結を中心に学習しま す。また、この時代に起こったア ジア・アフリカ諸国の独立、多極 化の進展についても学習します。	中間 考査
	2月				
	3月				
	3月				
					期末 考査

系 列	人文国際	教 科	英語	必履修科目（1年次）		
講座名	コミュニケーション英語 I		単位数	4	ブロック 番号	
科目の概要	<p>（授業について）</p> <p>原則的に、英語 I の教科書に沿った授業を展開していきます。扱われる文章の内容は、「環境問題」、「国際問題」、「友情」、「平和」、「異文化理解」など、幅広いものになります。これらを通して語法・英文法・語句などの基礎的な英語力と、グローバルなもの見方・考え方を育成します。また、週に 1 回の ALT と日本人教師による授業を通して、「聞く・話す」英語力育成もはかっています。</p>					
科目の目標	<p>日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考え方を英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養います。また積極的にコミュニケーションを図れるように学習していくことが目標です。</p> <p>主に「聞く・話す・読む・書く」という 4 技能のバランスの取れた英語力を育成することを目的にしています。また、<u>受講者全員英検 3 級以上の英語力</u>を目指します。</p>					
授業形態	講義・演習・ペアワーク・グループワーク					
教科書 使用教材等	<p>教科書:World Trek English Communication I（桐原書店）</p> <p>ワーク等:World Trek English Communication I ワークブック（桐原書店）</p> <p>単語集:コーパス 3000（東京書籍）</p> <p>英和辞典:ライトハウス英和辞典 第 6 版（研究社）</p>					
評価の観点 評価の方法	<p>1 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。</p> <p>2 日常的な話題について、外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現する。</p> <p>3 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。</p> <p>4 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。</p>					
選択条件	1 年次必履修科目					
選択する上 での心得	<p>① 予習・復習・課題を済ませて授業に臨むこと。</p> <p>② 授業には積極的に参加し、主体的に考え、学ぶこと。</p> <p>③ コミュニケーションを図る機会が多くあるため、活動する際に必要とされるマナーを守ること。</p> <p>英語は積み重ねの教科であり、この「コミュニケーション英語 I」は本校でのすべての英語科目の基礎となるものである。<u>毎時間予習・復習に努めることはもちろんのこと、授業においては集中し、積極的な姿勢で学習に励むこと。</u>また、授業中理解できなかった部分については、その都度質問をし、疑問点をその日のうちに解決する癖をつけること。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ALT との授業では積極的に発言をすること。評価に含まれます。 夏期休業・冬期休業ともに課題が出されます。提出が評価に大きく含まれるのでしっかり行うこと。 毎回の単語課題をしっかりと提出すること。 英検、TOEIC Bridgeなどを積極的に受験すること。 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	Lesson 1 Meet Different Cultures!	◎年間を通して、週1回ALTの先生とコミュニケーション中心の授業を行います。 ★ 世界の「常識」を比較しながら、異文化理解を深める。 <文法事項> 受け身、不定詞（名詞的用法）	毎週単 語テス ト実施
	5月	Lesson 2 Owen and Mzee	★ カバとゾウガメの実話から、友情について学ぶ。 <文法事項> 動名詞、不定詞（副詞的用法）	
	6月	Lesson 3 Sending Smiles through Picture Books	★ 絵本の翻訳を通して海外へ寄付をしている高校生のレポートを読み、国際協力について学ぶ。 <文法事項> 現在完了、形式主語、that節	中間 考査
	7月	Lesson 4 Break Out of Your Shell!	★ 障害を乗り越え、夢を実現した教師の体験談を読み、夢、人生について考えたり、意見の述べたりする。 <文法事項> 不定詞（形容詞用法）、比較	夏期 課題
	8月	Lesson 5 Soccer Uniforms Say a lot about Countries	★ ユニフォームに託された各国の歴史、文化について読んだり、意見をまとめたりする。 <文法事項> 関係代名詞、不定詞を含む表現	期末 考査
	9月			
後期	10月	Lesson 6 Hokulea's Adventure	★ 古代航海技術の再生に取り組む人びとの活動を読み、意見を交換したり、内容をまとめたりする。 <文法事項> 分詞、疑問詞節	中間 考査
	11月	Lesson 7 Q & A about Nature	★ 自然界の「なぜ？」を科学的に解説した文を読んで、内容をまとめたり、論理的に表現したりする。 <文法事項> 分詞、if節	
	12月	Lesson 8 Rose O'Neil (The creator of the Kewpies)	★ キューピーを考案したオニールの生涯を読んで、人生について考える。 <文法事項> 分詞構文、原形不定詞	冬期 課題
	1月	Lesson 9 Potato Stories (The history of a vegetable)	★ ジャガイモの歴史を読み、内容をまとめたり、まとめたものを英語で表現したりする。 <文法事項> 過去完了、関係副詞	期末 考査
	2月	Lesson 10 Mine Detection Dogs	★ 「地雷除去探知犬」の活躍を読み、世界について、平和について考え、自分の意見をまとめたりする。 <文法事項> 仮定法、関係副詞	
	3月			

系 列	自然科学	教 科	数学	必履修科目（1年次）		
講座名	数学 I		単位数	4	ブロック 番号	
科目の概要	<p>この「数学 I」は、中学校までに学んできた数学を復習しながら、社会生活を送る上で必要と思われる数学的な考え方、知識が得られる内容になっています。簡単に言うと、2・3年次で開講される数学科目の基礎となるものです。</p> <p>この数学 I は、「2次関数」、「2次不等式」、「三角比」等の高校生になって初めて学習する内容が含まれています。</p> <p>授業に関しては、講義＋問題演習の形になっています。問題演習に関しては、教科書の演習問題や副教材の問題集を使って、数多くの問題を解いていきます。</p>					
科目の目標	<p>①数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解する。</p> <p>②基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばす。</p> <p>③数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。</p>					
授業形態	講義・演習・確認テスト					
教科書 使用教材等	<p>教科書：最新 数学 I （数研出版）</p> <p>問題集：3 ROUND 数学 I （数研出版）</p>					
評価の観点 評価の方法	<p>積極的な姿勢で授業に取り組んでいるか（関心・意欲・態度）、自ら考えて課題を解決しようとしているか（思考・判断）、計算や作図・証明に工夫を凝らしているか（技能・表現）、定期考査・確認テスト（知識・理解）、提出物等を総合的に判断して評価します。</p>					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上での心得	<p>「数学 I」は高校で学習する最初の数学の科目で、本校でのすべての数学科目の基礎となるものです。この数学 I の内容を理解しないまま2・3年次の数学科目を選択すると、非常に苦労します。授業においては集中して臨み、積極的な姿勢で学習に励んでください。また、授業中理解できなかった部分については、その都度、質問をし、苦手な部分を無くすようにしてください。</p> <p>テストに関しては、定期考査と確認テストで評価します。確認テストは、不定期に実施しますのでしっかりと勉強してください。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には必ず教科書、ノート、問題集を用意しておくこと。 ・予習・復習を行うこと。特に復習には力を入れること。 ・課題（宿題）等は評価の一部となるので、必ずやり、期限まで提出すること。 ・看護系の入試や就職試験でもよく出題される。 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1章 数と式	第1節 整式 1. 整式 2. 整式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫 5. 因数分解 6. いろいろな因数分解 7. 実数 8. 根号を含む式の計算	中間考査
	5月			
	6月	第2章 2次関数とグラフ	第2節 1次不等式 9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の応用	
	7月		第1節 2次関数とグラフ 1. 関数 2. 関数とグラフ 3. ～7. 2次関数のグラフ 8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定	
	8月		第2節 2次方程式と2次不等式 10. 2次関数のグラフとx軸の共有点 11. 2次不等式 12. 2次不等式の応用	
	9月			
後期	10月	第3章 図形と計量	第1節 三角比 1. 鋭角の三角比 2. 三角比の応用 3. 三角比の相互関係 4. 三角比の拡張 5. 三角比が与えられたときの角 第2節 正弦定理・余弦定理 6. 正弦定理 7. 余弦定理 8. 三角形の面積 9. 図形の計量	中間考査
	11月	第4章 データの分析	1. データの代表値 2. データの散らばり 3. 四分位範囲 4. データの相関 5. 相関係数 6. 表計算ソフトによるデータの分析	
	12月			
	1月	第1章 数と式	第3節 集合と命題 14. 集合と部分集合 15. 共通部分、和集合、補集合 16. 命題と集合 17. 命題と証明	期末考査
	2月			
	3月			

系 列	自然科学	教 科	理科	必履修科目（1年次）		
講座名	化学基礎		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>化学の基本的な概念や原理・法則について学び、科学的な見方や考え方を養っていく科目です。</p> <p>○化学と人間生活・・・生活の中の化学、化学とその役割 ○物質の構成・・・粒子、化学結合 ○物質の変化・・・物質量、化学反応式、酸と塩基、酸化と還元</p>					
科目の目標	<p>日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力・態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養っていく。</p>					
授業形態	講義・実験					
教科書 使用教材等	<p>教科書「化学基礎」（啓林館） 問題集「改訂版 リードLightノート」（数研出版）</p>					
評価の観点 評価の方法	<p>・評価の観点…</p> <ol style="list-style-type: none"> ①科学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 <p>・評価の方法…</p> <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p>					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上での心得	<p>化学の基礎についての学習を行いますので、中学校の理科・第1分野の復習をしておくとう理解しやすくなります。</p>					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1部 化学と人間生活 第1章 化学と私達の生活 第1節 生活の中の化学	○日常生活の中で化学が果たしている役割を理解する。	中間考査
	5月	第2章 物質の状態 第1節 混合物と純物質	○実験における基本操作と物質を探究する方法を学習する。	
	6月	第2節 元素・単体・化合物 第3節 粒子の熱運動と物質の状態	○粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解する。	
	7月	第2部 物質の構成 第1章 物質の構成粒子 第1節 原子の構造と電子配置	○原子、分子、イオンとその結合についての基礎を学習する。	期末考査
	8月	第2節 イオンの生成 第3節 元素の周期表	○電子配置と周期律の関係を理解する。	
	9月	第2章 化学結合 第1節 イオン結合 第2節 共有結合 第3節 金属結合	○イオンからなる物質、分子からなる物質、金属について、性質の違いを理解する。	
後期	10月	第3部 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 第1節 原子量・分子量・式量	○物質の概念について学習する。	中間考査
	11月	第2節 化学反応式 第2章 酸と塩基	○化学反応の際の反応物と生成物の量的な関係を理解する。	
	12月	第1節 酸と塩基 第2節 水の電離とpH 第3節 酸・塩基の中和	○酸、塩基の性質の違いを理解し、中和反応の定量的な扱いができるようにする。	期末考査
	1月	第3章 酸化還元反応 第1節 酸化と還元	○酸化還元反応の定義と酸化数の定義を学習する。	
	2月	第2節 酸化剤と還元剤 第3節 金属の酸化還元反応	○酸化還元反応と電池の関係を理解する。	
	3月	第4節 酸化還元反応と人間生活		

系 列	自然科学	教 科	理科	必履修科目（1年次）		
講座名	生 物 基 礎		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>日常生活や社会との関連を考えながら、生物や生物現象を観察、実験を通して探究し、生物の基礎的な考え方や原理、法則を学習する科目です。</p> <p>(1) 生物と遺伝・・・細胞の働き、DNAの構造と機能 (2) 生物の体内環境の維持・・・体内環境を維持する仕組み (3) 生物の多様性と生態系・・・生態系の成り立ちとその保全の重要性</p>					
科目の目標	<p>日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基礎的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。</p>					
授業形態	講義・実験					
教科書 使用教材等	教科書「生物基礎」（数研出版） 問題集「生物基礎 学習ノート」（数研出版）					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①科学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p> 					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上での心得	<p>生物の基礎についての学習を行いますので、中学校の理科・第2分野の復習をしておくとう理解しやすくなります。</p>					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1章 生物の特徴 1節 生物の共通性と多様性	○生物の分類や細胞の構造とその働きについて学習する。 ・いろいろな生物 ・生物の共通性の由来 ・細胞の特徴	中間考査
	5月	2節 細胞とエネルギー	○動物や植物の細胞で起こる化学反応(代謝)について学習する。 ・代謝とエネルギー ・酵素 ・呼吸 ・光合成 ・ミトコンドリアと葉緑体の起源	
	6月	2章 遺伝子とその働き	○遺伝子発見の歴史とDNAの構造について学習する。	
	7月	1節 遺伝情報とDNA	・ゲノムと遺伝子 ・DNA研究の歴史 ・DNAの構造	
	8月	2節 遺伝情報の分配	○体細胞分裂とDNA量の変化について学習する。 ・細胞分裂とDNA ○遺伝情報からタンパク質が合成される過程について学習する。	
	9月	3節 遺伝情報とタンパク質の合成	・遺伝子とタンパク質 ・タンパク質の合成 ・遺伝子の発現	期末考査
後期	10月	3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境	○体液の組成と働き、腎臓の機能について学習する。 ・体液と体内環境 ・恒常性にかかわるしくみ	中間考査
	11月	2節 体内環境の維持のしくみ	○体内環境維持における神経とホルモンの働きについて学習する。 ・自律神経系による調節 ・ホルモンによる調節 ・自律神経とホルモンによる調節	
	12月	3節 免疫	○外界からの異物の侵入に対する生体防御について学習する。 ・生体防御 ・免疫のしくみ	
	1月	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	○植物の生活と森林の成り立ちについて学習する。 ・植物の生活と環境 ・植生とその構造 ・遷移と極相	
	1月	2節 気候とバイオーム	○世界や日本における植物分布について学習する。 ・バイオームの分布	期末考査
	2月	3節 生態系と物質循環	○食物連鎖や物質の循環について学習する。 ・生態系 ・エネルギーの流れと物質循環 ・生態系のバランス	
	3月	4節 生態系のバランスと保全	○環境問題とその取り組みについて学習する。 ・人間生活と生態系 ・生態系の保全	

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	必履修科目（1年次）		
講座名	家庭基礎		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、人の一生と家族・家庭、子どもの発達と保育・福祉、高齢者の生活と福祉、高齢者の生活と福祉、生活の科学と文化、消費生活と資源・環境などに関する知識と技術を実際の生活の場で生きた働く力となるよう総合的に学ぶ。</p>					
科目の目標	<p>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>					
授業形態	講義・実習					
教科書 使用教材等	<p>教科書「家庭基礎」（第一学習社） 基礎から学ぶ 家庭基礎ノート（第一学習社）</p>					
評価の観点 評価の方法	<p>各自の生活の中で課題を見つけ、その課題解決を目指して自ら考え、適切に判断し意欲的に取り組んでいるか、基礎的・基本的な知識・技術を身につけているかを定期考査、授業態度、提出物等を通して総合的に評価します。</p>					
選択条件	必履修科目					
選択する上 での心得	<p>学習ノートや課題プリント、ホームプロジェクト等の提出物は期限を守り、必ず提出するようにしてください。</p>					
備考	実験実習費（2,000円）					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	ホームプロジェクトと学校家庭 クラブ 1編1章 青年期を生きる 4 第1節 青年期を生きる	○ホームプロジェクト・学校家庭 クラブについての説明 ・青年期の課題と意思決定 ・男女の平等と相互の協力 ・仕事と生活の調和をめざして ・家族とは？	中間 考査
	5月	第2節 家族・家庭と社会とのか かわり 1編2章 壮年期 第1節 子どもの心身の発達	・次世代を育てるということ	
	6月	第2節 子どもの生活と親の役 割 ・ホームプロジェクト *夏休み各自1研究	・親と子—ともに育ちあう関係 ・ ホームプロジェクトの実施	
	7月	第3節 子どもをとりまく環境 と福祉 1編3章 高齢期	・子育て支援と地域の交流 ・みんなが迎える高齢期	
	8月	第1節 高齢期を同生きるか 第2節 高齢者の生活と福祉	・高齢期の暮らし	
	9月	1編4章 共生社会と福祉 ともに支え合う社会をめざして 2編1章 食べる 第1節 私たちの暮らしと食生 活	・暮らしを支える社会のしくみ ・食べるということ ・調理実習	期末 考査
後期	10 月	第2節 栄養と食品 第3節 食品の選び方	・人体と栄養 ・食品の安全・衛生	中間 考査
	11 月	第4節 食生活をデザインする 2編2章 装う 第1節 私たちの暮らしと被服	・1日にどれだけ栄養をとればよ いか ・装うということ	
	12 月	第2節 被服材料 第3節 被服の選択と管理	・被服材料の種類 ・被服の選び方	
	1月	2編3章 住まう 第1節 私たちの暮らしと住ま い 第2節 快適な住まいをめざし て	・住まうということ ・室内環境を快適に	期末 考査
	2月	2編4章 消費を考える 第1節 私たちの暮らしと経済 第2節 消費者の権利と責任 第3節 持続可能な社会をめざ して	・家庭経済のしくみ ・消費者問題と消費者の権利 ・私たちの暮らしと環境・資源	
	3月	生活をデザインしよう		

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	必履修科目（1年次）		
講座名	保健（1年次）		単位数	1	ブロック 番号	
科目の概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。					
科目の目標	わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するために、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解する。					
授業形態	講義					
教科書 使用教材等	現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート					
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・知識・理解（個人的及び社会的な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。）					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上 での心得	健康で明るい日常生活を送るために必要なことを学びます。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善できるように真剣に学ぶこと。					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 健康と意志決定・行動選択 健康に関する環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 健康水準の比較 健康の成立条件や要因 情報の収集、思考判断や計画と評価の重要性 	中間 考査
	5月	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病とその予防 食事と健康 運動と健康 休養・睡眠と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防 食生活の重要性と意義 運動習慣の形成 休養・睡眠のとり方 	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙と健康 飲酒と健康 	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙の問題点と対策 飲酒の問題点と対策 	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用と健康 現代の感染症 	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用の問題点と対策 感染症とは何か 	期末 考査
	8月	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の種類と感染症対策 エイズの実態と各国の状況 	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 欲求と適応機制 	<ul style="list-style-type: none"> 欲求の種類と欲求不満とそれに対する適応機制 	
後期	10月	<ul style="list-style-type: none"> 心身の相関とストレス ストレスへの対処 	<ul style="list-style-type: none"> 心と体の関わりとストレスの原因について 自分がとることができる対処法 自己実現を達成する過程や条件 	中間 考査
	11月	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康と自己実現 交通事故の現状と要因 交通社会における運転者の資質と責任 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故の特徴 運転者に必要とされるものと自己に対する責任や補償 	
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 安全な交通社会づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 法的な整備、施設・設備の充実や安全装置 適切な連絡・通報や運搬など応急手当の手順 	
	1月	<ul style="list-style-type: none"> 応急手当の意義とその基本 	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法の原理および手順 けがや熱中症の応急手当の手順や方法 	期末 考査
	2月	<ul style="list-style-type: none"> 心肺蘇生法 日常的な応急手当 		
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	必履修科目（2年次）		
講座名	保健（2年次）		単位数	1	ブロック 番号	
科目の概要	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。					
科目の目標	わが国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するために、ヘルスプロモーションの考え方を生かし、実践すること及び環境を改善していく努力が重要であることを理解する。					
授業形態	講義					
教科書 使用教材等	現代高等保健体育 現代高等保健体育ノート					
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・知識・理解（個人的及び社会的な生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。）					
選択条件	2年次必履修科目					
選択する上 での心得	健康で明るい日常生活を送るために必要なことを学びます。生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善できるように真剣に学ぶこと。					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期と健康 ・ 性意識と性行動の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体の発達の特徴 ・ 性意識の男女差 	中間 考査
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚生活と健康 ・ 妊娠・出産と健康 ・ 家族計画と人工妊娠中絶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康な結婚生活の留意点 ・ 受精・妊娠・出産の過程 ・ 家族計画の意義と人工妊娠中絶の条件 	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢と健康 ・ 高齢者のための社会的取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢に伴う心身の変化 ・ 保健・医療・福祉の連携と、総合的対策の必要性 	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健制度と保健その活用 ・ 医療制度とその活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健行政の役割としくみ ・ 医療保険のしくみと医療費が支払われるしくみ 	
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品と健康 ・ さまざまな保健活動や対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の種類と使い方 ・ 健康づくりのための活動 	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気汚染と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康への影響と原因物質 	
後期	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水質汚濁・土壌汚染と健康 ・ 健康被害の防止と環境対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康への影響と原因物質 ・ 環境汚染の防止・改善への対策 ・ ゴミ・し尿・下水道の整備 ・ 行政および製造・生産者が行っている対策 	中間 考査
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境衛生活動のしくみと働き ・ 食品衛生活動のしくみと働き 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品の安全性を保つために、私たち自身にできること 	
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働くことと健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事の仕方と職場環境の変化 ・ 労働災害の防止対策 	
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働災害と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場の健康増進対策と日常生活での健康増進 	
	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康的な職業生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間のまとめと反省 	期末 考査
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ 		

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	必履修科目（1・2・3年次）		
講座名	一般体育男子（1・2・3年次）		単位数	7	ブロック 番号	
科目の概要	運動についての理解と運動の合理的な実践を通し、高度な運動技術を習得し、心身共に健全な人間育成に資するとともに体育スポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。					
科目の目標	心と体を一体とし、運動についての理解と運動の合理的な実践を通して高度な運動技能を修得できる、心身共に健全な資質や能力を育てる。					
授業形態	実技					
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ					
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む。）					
選択条件	1・2・3年次必履修科目					
選択する上 での心得	礼節を重んじるとともに、時間を守ること。得意、不得意に関わらず、真剣に授業に臨み自己の体力増進に努めること。ルールを守り、身勝手な行動をとらないこと。					
備考	3年次は選択科目がグループ分けになっているため、球技（スポーツⅡ）を実施する。 1年次に2単位、2年次に2単位、3年次に3単位を履修する。					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1年次 2年次 3年次 オリエンテーション 集団行動 集団行動 球技3種 球技全般 球技全般	学習する意義や内容・評価の確認。 ・ 姿勢、方向転換、集合、整とん、 番号、解散、列の増減、開列、 行進。 ・ 体ほぐしの運動 ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲー ム ・ 試合・審判法 ・ 文部科学省新体力テスト実施 ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲー ム・試合・審判法 ・ クロール・平泳ぎ・背泳ぎ	中間 考査
	5月	ソフトボール ソフトボールソフトボール		
	6月	新体力テスト		
	7月	水 泳 水 泳 水 泳		期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	球技全般 球技全般 球技全般 バスケット サッカー サッカー サッカー バレー バレー バレー バスケット バスケット バードゴルフ	・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲー ム ・ 試合・審判法	中間 考査
	11月			
	12月			
	1月			期末 考査
	2月			
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	必履修科目（1・2・3年次）		
講座名	一般体育女子（1・2・3年次）		単位数	7	ブロック 番号	
科目の概要	運動についての理解と運動の合理的な実践を通し、高度な運動技術を習得し、心身共に健全な人間育成に資するとともに体育スポーツの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。					
科目の目標	心と体を一体とし、運動についての理解と運動の合理的な実践を通して高度な運動技能を修得できる、心身共に健全な資質や能力を育てる。					
授業形態	実技					
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ					
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む。）					
選択条件	1・2・3年次必履修科目					
選択する上 での心得	礼節を重んじるとともに、時間を守ること。得意、不得意に関わらず、真剣に授業に臨み自己の体力増進に努めること。ルールを守り、身勝手な行動をとらないこと。					
備考	3年次は選択科目がグループ分けになっているため、球技（スポーツⅡ）を実施する。 1年次に2単位、2年次に2単位、3年次に3単位を履修する。					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1年次 2年次 3年次 オリエンテーション 集団行動 集団行動 球技3種 球技全般 球技全般	学習する意義や内容・評価の確認。 ・ 姿勢、方向転換、集合、整とん、 番号、解散、列の増減、開列、 行進。 ・ 体ほぐしの運動 ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲー ム ・ 試合・審判法 ・ 文部科学省新体力テスト実施 ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲー ム ・ 試合・審判法 ・ クロール・平泳ぎ・背泳ぎ	中間 考査
	5月	バスケ バスケ バスケ		
	6月	新体力テスト 球技全般 球技全般 球技内容 選択		
	7月	水泳 水泳 水泳		期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	球技全般 球技全般 ソフトテニスソフトテニス ソフトテニス バレー バレー バレー バドミントンバドミントン バドミントン ソフトボールソフトボール	・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲー ム ・ 試合・審判法	中間 考査
	11月			
	12月			
	1月			期末 考査
	2月			
	3月			

系 列	情 報	教 科	情 報	必履修科目（1年次）		
講座名	社会と情報		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>情報社会に積極的に参画する態度を育てるために、情報の特徴や情報社会の課題、情報化が社会に及ぼす影響について学習します。</p> <p>コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・表現するとともに、効果的にコミュニケーションを行うために必要な基礎的知識と技能を習得します。</p>					
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる。 2. 情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して、情報を収集、処理、表現させる。 3. 効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	教科書「最新社会と情報（実教）」 副教材「基礎からはじめる情報リテラシー（実教）」 問題集「最新社会と情報学習ノート(実教)」					
評価の観点 評価の方法	<p>(観点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解して主体的に対応できたか。 2 情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かし、情報モラルを踏まえた思考を深め、適切に判断し表現できたか。 3 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱うことができたか。 <p>(方法)</p> <p>定期考査の結果(知識や思考力が身についているか)を基礎とし、課題の状況、授業への関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>					
選択条件	1年次必履修科目					
選択する上での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書中心の講義とコンピュータの実習を交互に行います。 ・実習は文書作成、表計算、プレゼンテーションに関するソフトウェアの操作を中心に学習します。欠席をすると、実習の進度が大幅に遅れてしまいます。 ・施設・設備を丁寧に扱い、積極的に取り組むことが大切です。 					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 情報社会とわたしたち 1 情報社会 2 情報社会の個人	1 情報社会と情報 2 情報化の光と影 1 個人情報とその保護 2 情報を扱う責任とモラル	中間考査 筆記試験 課題提出
	5月	3 情報とメディア	1 情報の特徴 2 メディアの特徴 3 メディアリテラシー	
	6月	2 情報機器とデジタル表現 1 デジタルと情報機器	1 アナログとデジタル 2 情報機器	
	7月	2 デジタル表現	1 2進数と情報量 2 数値・文字の表現 3 音声の表現 4 画像の表現 5 情報のデータ量	
	8月	3 表現と伝達 1 表現の工夫	1 わかりやすい情報伝達 2 企画書の作成	
	9月	2 表計算の利用	1 データの入力 2 グラフの作成 3 データの抽出 4 関数と引数 5 データの検索	
後期	10月	3 プレゼンテーション 4 Webページの利用	1 プレゼンテーションとは 2 多様な表現メディアの利用 1 Webサイトの制作 2 Webサイトの評価と改善	中間考査 筆記試験 課題提出
	11月	4 コミュニケーションとネットワーク 1 コミュニケーション 2 ネットワーク	1 発達の歴史 2 さまざまなコミュニケーション 3 ネットワークのコミュニケーション 4 守らなければならないルールとマナー 1 ネットワークの特性 2 インターネットのしくみ 3 インターネットのサービス 4 転送速度とデータ圧縮	
	12月	5 法規とセキュリティ 1 情報の管理・保護に関する法律 2 情報セキュリティ	1 知的財産権 2 さまざまな法律	
	1月	6 情報社会と問題解決 1 情報システムと人間	1 情報セキュリティ技術 2 情報セキュリティポリシー 1 社会における情報システム 2 人に優しい情報システム 3 情報社会の課題	
	2月	2 問題解決	1 問題解決の手順 2 問題解決の手法 3 アンケートの利用	
	3月	2 問題解決	4 問題解決の実践	

系 列	総合学科	教 科	総合学科	総合学科原則履修科目		
講座名	産業社会と人間		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>総合学科の高校生には「自分で課題を見つけ解決していく」「‘学び方’を学ぶ」「自分の意見を持ち相手に伝える」などの力が求められます。この力を身につけたうえで、＜自分自身の将来（進路）＞という課題を見つけ、それを実現させるためにはどうすべきかを考えていくことになるのです。</p> <p>「産業社会と人間（通称‘産社’）」は、自分の将来（進路）のガイダンス的役割を担う科目です。本校では、①自分を知る ②様々な生き方を知る ③社会を知る ④実際に様々なことを体験する の四点を柱とし、演習や実習を行います。そこから自分の将来をしっかりと考えるとともに、学校での生活の仕方や今後の人生設計を考えていきます。また多彩な外部講師による講演を通して自分たちが生きる社会についても考察します。</p>					
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身を知り、何事にも主体的に取り組む ○社会について勉強し、これからの社会に必要なことを学び、実践する ○進路目標を確立して、その実現に向けて努力する 					
授業形態	講義・演習・実習（年次全体での一斉授業・クラスごとの授業などがあります）					
教科書 使用教材等	『キャリアデザインノート 2016』 学習内容によって必要な場合は資料などを配布します。					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ①関心・意欲・態度（授業への参加状況、出席状況、レポート提出状況） ②理解の能力、知識・理解（感想文・レポートの内容） 					
選択条件	総合学科原則履修科目					
選択する上 での心得	<p>「産業社会と人間」は総合学科の根幹になる科目です。＜何となく＞授業を受けていても身につくことはありません。常に目標を持ち、自分の将来を意識しながら積極的に参加しましょう。レポートの提出や発表の機会も多くなります。</p> <p>また、外部講師講演や実習など外部の方とのかかわりが多くなります。時間通りに行動すること・制服を正しく着こなすこと・挨拶することなど、社会生活で必要なことを高校生活でも意識し、普段から心がけるようにしてください。</p>					
備考	<p>1 2月に行われる〈研究発表会〉では、産社で学んだ内容について代表生徒による発表を行います。</p> <p>3月に行われる〈ライフプラン発表会〉では、産社の総仕上げとなるライフプランについて、代表生徒による発表を行います。</p> <p>例年、コミュニケーションワークショップを実施しています。このプログラムについては、授業プログラムと同時展開で行うこととなります。</p>					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	①オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科について知る 産業社会と人間の目的を知る 	自分史 提出 将来設計表 提出
	5月	②自己理解 ③ライフプラン I	<ul style="list-style-type: none"> 現在までの自分を振り返る。 自分史 「将来設計表」の作成 	
	6月	④科目選択と履修計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 科目選択の目的と意義について考える 系列／科目ガイダンス 履修計画の作成 	
	7月	⑤社会を知る I ⑥上級学校を知る I ⑦コミュニケーション I	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンス（職業・専門学校） 大学授業体験 聞く力・話す力 	夏期 休業 課題
	8月	⑧コミュニケーション II	<ul style="list-style-type: none"> 質問力 	
	9月	⑨上級学校を知る II	<ul style="list-style-type: none"> 上級学校訪問 上級学校訪問の発表会 	礼状 レポート作成
	後期	10月	⑩社会を知る II ⑪社会を知る III ⑫社会を知る IV	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー 職業理解 外部講師講話
11月		⑬社会を知る V	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験実習 職場体験の発表会 	礼状 職場体験 レポート作成
12月		⑭ライフプラン II	<p>「第 13 回いわき総合高等学校生研究発表会」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ライフプラン」の作成 	ライフ プラン レポート 作成
1月			<ul style="list-style-type: none"> ライフプラン発表会(クラス) 	
2月		⑭ライフプラン全体発表	<ul style="list-style-type: none"> ライフプラン発表会（全体） 	
3月		⑮全体反省と自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 産社の意義の再確認と1年間の反省 1年間の反省と今後の抱負について 	

系 列	総合学科	教 科	総合学科	必履修科目（２年次）		
講座名	総合的な学習の時間（２年次）		単位数	1	ブロック 番号	
科目の概要	<p>総合学科で学ぶ高校生には、「自分で課題を見つけ解決していく」「‘学び方’を学ぶ」「自分の意見を持ち相手に伝える」などの力が求められます。１年次の『産業社会と人間』では自分の将来（進路）という課題のもとに、３年次の『課題研究』では自分で選定したテーマの研究のもとに＜課題解決力＞をつけていくのです。２年次における『総合的な学習の時間』では『産社』『総学』双方の橋渡しとなることがらを学んでいきます。</p> <p>本校における『総合的な学習の時間（通称‘総学’）』は、①課題研究の導入としての問題解決・情報運用・発表能力の育成 ②教科横断的な発想法育成 ③『産業社会と人間』で考えた自己実現のための考察 という三つの観点から、様々な学習活動を行います。具体的には、ひとつのテーマに対して個人またはグループで課題を見つけ解決していくこと、課題研究の前段階となるプレ課題研究を行うことなどです。</p> <p>また、『産業社会と人間』に引き続き外部講師講演会も行われます。さまざまな分野の講演を通じて自分が生きる社会を考察し、広く視野をもつことを身につけます。</p>					
科目の目標	<p>①進路という観点から、自己の理想と現実のギャップを埋める方策を再確認し、自己実現を目指す。</p> <p>②３年次に行う「課題研究」に必要な能力（問題解決・情報運用・発表能力など）を育成し、教科を超えた（教科を横断するような）幅広い発想力をつける。</p>					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	『２０１７ 課題研究の手引き／２０１６プレ課題研究の手引き』 学習内容に応じて必要な教材等を配布します					
評価の観点 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 （授業への参加状況、出席状況、レポート提出状況など）</p> <p>②理解の能力、知識・理解 （感想文・レポート・研究作品の内容など）</p>					
選択条件	必履修科目					
選択する上 での心得	<p>理論と実習を行います。欠席をすると、実習進度が遅れてしまうので気をつけましょう。また、実習などで施設・設備を利用する際には丁寧に扱い、真面目に取り組んでください。</p> <p>１年次の『産業社会と人間』に引き続き、外部講師講演会があります。制服の着こなし方や挨拶など、社会生活で必要なことを普段から意識して心がけること。</p>					
備 考	<p>１２月に行われる〈研究発表会〉では、修学旅行研究について代表生徒による発表を行います。</p>					

	月	学習内容	定期考査等
前期	4月	I. 課題研究の導入として、以下の能力育成を図る (ア) 問題解決能力 ・問題発見能力 ・問題整理能力 ・問題分析能力 ・問題統合能力 ・企画力 ・問題探求能力	
	5月	(イ) 情報運用能力 ・情報収集能力 ・情報選択能力 ・情報活用能力 ・情報発信能力	
	6月	(ウ) 討論技術 ・参加 ・協力 ・発言 ・まとめ、提案	
	7月	II. 課題研究の導入として以下の知識育成を図る	
	8月	(ア) 教科横断的な発想 ・研究内容と教科を関連付けて考える ・教科間の学習を関連付けて考える	
	9月	(イ) 知識・技術交換 ・自分たちの研究内容を教科・特別活動等で応用できる力 ・多角的視野育成	
	10月	III. 自分についての考察を深める (ア) 存在について ・集団の中における役割 ・自分の個性や特徴を知る	
	11月	(イ) 進路について ・興味関心を広げ、自己の進路に関する考えを深める ・社会状況を捉え、対応できる力	
	12月	IV. 表現能力育成 (ア) 発表能力 ・自分の能力を的確に述べる (イ) 協同	
	後期	1月	【上記の能力育成を図るための具体的な授業内容】 ○進路研究・修学旅行事前研究（4～5月・9～10月） ○プレ課題研究（12～1月） ○進路ガイダンス（実施計画に基づく） ○小論文対策（12・2月） ○各種外部講演会（実施計画に基づく） ○その他（実施計画に基づく）
	2月		
	3月	※実施内容が変更になる場合もあります。	

系 列	総合学科	教 科	総合学科	必履修科目（3年次）		
講座名	3年次総合的な学習の時間 (課題研究)		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>総合学科で学ぶ高校生には、「自分で課題を見つけ解決していく」「‘学び方’を学ぶ」「自分の意見を持ち相手に伝える」などの力が求められます。1年次の『産業社会と人間』では自分の人生とそれを実現する方法について考えました。</p> <p>3年次の「課題研究」は、いわき総合高校で学んできたことをもとに、学問に対する課題を見つけ研究していく科目です。しかし、『産社』の授業のようにいつ・何をするかは決まっていません。1年間で何を研究するか、毎時間何をするか、どこに調査に行くか、などほとんどを自分自身でやらなければなりません。</p> <p>この『課題研究』は、総合学科で学ぶべきことを身につける総まとめです。この課題研究で何を研究するのか、どんな作品を作るのかを意識して勉強に励むことが求められます。</p>					
科目の目標	<p>自己の理想を実現するために選択して学んできた科目、またそれに伴う体験をもとに、自ら課題を見つけ、研究し、一つの作品を作ることで、課題解決能力を育成する。同時にその研究を多くの人に効果的に伝えるプレゼンテーション能力の育成を図る。様々なことから課題を見つけ解決していく「生きる力」をつけることが目標である。</p>					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	「課題研究の手引き」「課題研究ノート」 *各教科からの資料					
評価の観点 評価の方法	①関心・意欲・態度 (研究への取り組み方、出席状況、レポート提出状況) ②理解の能力、知識・理解 (研究論文・レポート・作品の内容) ③その他教科の評価基準による					
選択条件	全員2年次の12月～3月に、教科・課題研究テーマを決定する。 (新年度になってからの教科変更は認めない)					
選択する上 での心得	12月に行われる「いわき総合高等学校研究発表会」に向けて、自分の研究を進めていかなければなりません。1年間(実質8ヶ月)で完成させなければならぬのでしっかりした計画を立てる必要があります。2年次の後半から課題研究の準備が始まります。3年間の総まとめなので、悔いのないよう取り組み、作品を完成させましょう。					
備考	毎年12月には課題研究校内発表会があり、各科の選考を経た代表者が、全校生の前で発表することになります。最も優れた発表者は福島県総合学科課題研究発表会に参加することになります。 研究の成果は、PC入力による「最終報告書」で提出してもらいます。これは『課題研究紀要』の原稿データとなりますので、全員必ず提出してください。(発表会代表者はレポートも掲載します。これもデータ提出となります)					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	①個人テーマ決定 ②研究計画作成	それぞれの系列・教科に分かれ、個人テーマの作成と年間計画の立案を行う。	
	5月	③個人研究	文献などを用いた調査 検定に向けての準備 作品の制作 など	
	6月			
	7月			
	8月			
	9月			
後期	10月		↓	
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

研究分野によって異なるが数回レポート提出、中間発表会、検討会などが行なわれる。

いわき総合高等学校研究発表会課題研究全体発表

福島県総合学科生徒課題研究発表会

2 選択必修履修科目

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	選択必履修科目 (3年次)
講座名	日本史A		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	江戸時代の終わりから現代にいたるまで、近現代を中心に日本の歴史を学習します。特に近代社会が成立し発展する過程に重点をおき、世界的な視野に立って、現代日本の形成の歴史的過程を正しく理解します。				
科目の目標	近現代史を中心とする日本の歴史の展開を、世界的視野に立ち日本を取り巻く国際環境などと関連付けながら考察する。そのことによって、歴史的思考力を培い、日本国民としての自覚と、国際社会において主体的に生きる力を養う。				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	教科書 : 高校日本史A (実教出版) 図 説 : 新詳日本史 (浜島書店)				
評価の観点 評価の方法	<p>日本の歴史に関心を持ち、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。【関心・意欲】</p> <p>日本の歴史を、世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断できるか。【思考・判断・表現】</p> <p>日本の歴史に関する資料を読み取り、適切に活用することができるか。【技能】</p> <p>日本の歴史についての基本的な事項についての知識を身に付け、歴史の展開について正しく理解しているか。【知識・理解】</p> <p>以上の観点に基づいて、定期考査の結果を基礎とし、授業態度、提出物の状況などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	日本史A・日本史B・地理A・地理Bのいずれか1科目以上を履修すること。ただし、2年次に日本史Bを履修した場合、3年次に日本史Aを履修することはできない。				
選択する上 での心得	<p>日本史を上級学校の受験科目とする可能性のある生徒、および上級学校で歴史や文化を専門に学習する予定の生徒は、この科目でなく日本史Bを選択してください。</p> <p>このシラバスを見れば分かるように、この科目は最近約150年の日本の歴史について学習する科目です。現代の私たちにつながる事項も多く登場すると思います。選択必履修科目ですので、やむを得ず選択する生徒も多いと思いますが、ぜひ高い関心を持って受講してください。</p>				
備 考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1章 近代への転換	江戸幕府の体制が揺らぎ滅んで、明治新政府が成立するようすを学習する。	中間考査
	5月	2章 大日本帝国の形成	明治新政府が欧米の文化の影響を受けながら、憲法制定など近代化を進めていくようすを学習する。	
	6月	3章 大日本帝国の展開	条約改正や日清戦争、日露戦争など対外関係の推移について学習する。	
	7月	4章 両大戦間の世界と日本	近代産業の発展のようすと近代文化の特色について学習する。	期末考査
	8月		政党政治が発展していくようすを学習する。	
	9月		第1次世界大戦が日本の経済や国際的地位に与えた影響について学習する。	
後期	10月	5章 15年戦争と日本・アジア	軍国主義が高まり国内政治と対外政策が変化し、敗戦へと向かうようすについて学習する。	
	11月	6章 戦後改革と高度経済成長	敗戦後の日本の復興について国際状況と関連付けながら学習する。	
	12月	7章 現代の世界と日本	高度経済成長を経て、経済大国として発展していくようすをその問題点とともに学習する。	
	1月	自宅学習	平和と民主主義を求める動きが世界をどう変えたかについて学習する。	期末考査
	2月			
	3月			

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	選択必履修科目 (2年次)	
講座名	日本史B		単位数	4	ブロック 番号	D 1
科目の概要	<p>日本の歴史の展開について、世界史的視野に立って各時代の特色及び変遷を総合的に考察し、日本の文化と伝統についての認識を深めます。この過程の中で学習の対象を狭い意味での日本史にのみ限定せず、各時代における国際環境との関連を視野に入れ、空間的なかかわりや世界史的な観点から日本の歴史と文化を考える学習を重視します。そのために、日本の歴史の展開について、その時代的背景としての政治・経済・社会・文化・対外関係などを総合した考察と理解や、それに基づく歴史的思考力を育成します。</p> <p>特に基本的な事項の知識理解を重点的に行い、上級学校進学に向けて日本史の力を養うための科目です。</p>					
科目の目標	<p>日本の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、日本の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>					
授業形態	講義（演習を行うこともある。）					
教科書 使用教材等	教科書： 高校日本史B（実教出版） 図 説： 新詳日本史（浜島書店）					
評価の観点 評価の方法	<p>日本の歴史に関心を持ち、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。【関心・意欲】</p> <p>日本の歴史を、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断できるか。【思考・判断・表現】</p> <p>日本の歴史に関する資料を読み取り、適切に活用することができるか。【技能】</p> <p>日本の歴史についての基本的な事項についての知識を身に付け、歴史の展開について正しく理解しているか。【知識・理解】</p>					
選択条件	<p>日本史A・日本史B・地理A・地理Bのいずれか1科目以上を履修すること。ただし、2年次に日本史Bを履修した場合、3年次に日本史Aを履修することはできない。また、2年次に日本史Bを履修していなければ、3年次に日本史演習を履修することができない。</p>					
選択する上での心得	<p>四年制大学進学を希望する者。日本史演習とセットで履修することをお勧めします。</p> <p>予習をしっかり行うことが必要です。教科書を読み込み、基本的な学習内容を把握し、理解できなかったところはノートに書き出し、授業の場等で質問すると良いでしょう。復習も大切です。授業内容を整理し、理解できた内容とできなかった内容をまとめましょう。わからなかったことはそのままにせず、質問して解決しましょう。また、興味を持ったところは、自分で調査・探求し、理解を深めましょう。</p>					
備 考	進捗等の状況により、学習内容を精選する場合があります。					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	原始・古代 ○ 文化と国家の形成	<p>原始社会の人々の生活の変化、大和朝廷による統一、律令に基づく古代国家の成立と推移及び文化の形成について、東アジア世界の動きとも関連付けて理解する。</p> <p>武家政権の成立から戦国大名の時代に至る武家社会の進展と文化の展開について、東アジア世界の動向と関連付けて理解する。</p>	中間考査	
	5月	○ 古代国家の確立			
	6月	中世 ○ 中世社会の成立			
	7月				期末考査
	8月	○ 中世社会の展開			
	9月				
後期	10月	近世 ○ 統一政権の成立	<p>織豊政権及び幕藩体制の特色と推移、社会・文化の動向について、国際関係とその影響にも触れながら理解する。</p>	中間考査	
	11月				
	12月				
	1月			期末考査	
	2月	○ 幕藩体制の展開			
	3月				

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	選択必履修科目 (3年次)
講座名	地理A		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	世界の人々の生活や世界各地の文化の特色について学習し、各地域がかかえている課題について考察します。また、現代の世界全体に共通する課題や、地域間のつながりにも注目します。さらに、必要な知識を身につけるだけでなく、さまざまな課題を解決するためにはどうすればよいのかといったことを考えたり、地図・グラフ・写真など地理的な資料をもとにした作業的な内容の学習もおこないます。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 世界に対して興味関心を深める。 2 世界の人々の生活・文化の地域的な特色、課題を正しく理解する。 3 国際化の進展など、世界情勢の変化を理解し、基本的な知識や考え方を身につける。 4 地図・資料などの情報を正しくよみとり、有効に活用する能力を養う。 				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	教科書「地理A」（東京書籍）、資料集「新詳地理資料」（帝国書院）、地図帳・その他				
評価の観点 評価の方法	<p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界に対して深い関心を持つ。 ・ 写真、地図、図表から地理的な情報を読み取り、諸問題について考察を深める。 ・ 地図化、グラフ化、読図などの地理的な技能をのばす。 ・ 世界各地の特徴についての基礎的知識を身につけ、民族・環境など世界の諸問題についての理解を深める。 <p><評価の方法></p> <p>定期考査の結果（知識や思考力が身に付いているか）を基礎とし、提出物の状況、資料作成能力、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	日本史A・日本史B・地理A・地理Bのいずれか1科目以上を履修すること。ただし、2年次に地理Bを履修した場合、3年次に地理Aを履修することはできない。				
選択する上での心得	上級学校の受験科目として地理を利用する可能性のある生徒、および上級学校で地理を専門に学習する予定の生徒は、この科目ではなく地理Bを選択してください。また、題材として世界全体について取り扱うので、世界全体に対してある程度興味関心のある生徒のみ受講してください。				
備考	具体的事例としてとりあげる国、地域については、各国の状況、国際情勢の変化に応じて変更する場合があります。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1 地球儀や地図からとらえる世界 (1) 地球儀と世界地図からとらえる世界 (2) 日本の位置と領域	地球は球面であることを認識し、地図とのずれを確認する 世界規模の地図の特徴を理解する 世界各国や日本の位置関係を把握し領土問題を考える	中間 考査
	5月	2 結びつく現代世界 (1) 交通・通信の発達と世界の一体化 (2) 世界の国家群 (3) 貿易で結びつく世界	情報・通信・交通の発達による世界の一体化について理解する 貿易・国家間の結合（EU、ASEANなど）を理解する 人々の様々な行動が地理的環境と関連があることを様々な事例を通して理解する	
	6月	3 世界的視野から見た自然環境と文化 (1) 生活の舞台としての地形 (2) 生活の舞台としての気候	国際化を身近な事例からとらえる 図表・写等資料を通しての国際化を理解する 日本の国際化について考察する 地形や気候と人々の生活との関係についての理解する	
	7月	(3) 生活の様式としての文化	ケッペンの気候区分を理解する	
	8月		言語・宗教等の特徴と分布の理解 ハサグラフ、雨温図のよみとりと作成をおこなう	
	9月			期末 考査
後期	10月	4 諸地域の生活・文化と環境 (1) ヨーロッパ (2) 北アメリカ (3) 中部・南アメリカ (4) オセアニア (5) 東南アジア (6) 南アジア (7) 西アジア (8) 中・南アフリカ *上のうちいくつかを選択	各地域の特色（自然、民族、農牧業、文化、生活習慣等）について理解する。 各地域の人々が、環境に対してどのような工夫をしているのか理解する 各地域が抱えている課題を理解し、どのようにすれば解決できるのかを考察する	中間 考査
	11月	5 近隣諸国の生活・文化と日本 (1) 韓国 (2) 中国 (3) ロシア *上のうち、1～2つを選択	さまざまな資料をもとに近隣諸国について理解を深め、今後の日本との関係について考える。	
	12月	6 地球的課題とその解決策 (1) 人口問題 (2) 居住・都市問題 (3) 食料問題 (4) 資源・エネルギー問題 (5) 環境問題 *上のうち、2～3つを選択	地球全体で解決しなければならない諸問題について、原因を追究し、実態を把握する。また、解決のためにどうすればいいのかを考察する。	期末 考査
	1月			
	2月 3月	自宅学習		

系列	人文国際	教科	地理歴史	選択科目の種類	選択必履修科目 (2年次)
講座名	地理B		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>自然環境（地形や気候など）、資源（エネルギー資源、鉱産資源）、産業（農業、工業など）、都市と村落、生活文化（言語、宗教、生活習慣など）について、世界全体に視野を広げて、それぞれの分野で詳細な事項まで学習します。</p> <p>必要な知識を身につけるだけでなく、さまざまな課題を解決するためにはどうすればいいのかということを考えたり、地図・グラフ・写真など地理的な資料をもとにした作業的な内容の学習もおこないます。</p> <p>また、上級学校進学に向けて地理の力を養うための科目でもあります。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 世界に対して興味関心を深める。 2 世界の人々の生活・文化の地域的な特色、課題を正しく理解する。 3 国際化の進展など、世界情勢の変化を的確に理解し、判断するための知識や、見かた・考え方を身につける。 4 地図・資料などの情報を有効に活用する能力を養う。 5 上級学校受験に必要な能力を身につける。 				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	教科書「詳解地理B」（二宮書店）、資料集「新詳地理資料」（帝国書院）、地図帳（帝国書院）				
評価の観点 評価の方法	<p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界に対して深い関心を持つ。 ・ 写真、地図、図表から地理的な情報を読み取り、諸問題について考察を深める。 ・ 地図化、グラフ化、読図などの地理的な技能をのばす。 ・ 世界各地の特徴についての基礎的知識を身につけ、民族・環境など世界の諸問題についての理解を深める。 <p><評価の方法></p> <p>定期考査の結果（知識や思考力が身に付いているか）を基礎とし、提出物の状況、資料作成能力、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	日本史A・日本史B・地理A・地理Bのいずれか1科目以上を履修すること。ただし、2年次に地理Bを履修した場合、3年次に地理Aを履修することはできない。また、2年次に地理Bを履修していなければ、3年次に地理演習（4単位）を履修することができない。				
選択する上での心得	上級学校の受験科目として必要な者のみ選択すること。地理演習とセットで選択することが望ましい。				
備考	具体的事例としてとりあげる国・地域については、各国の事情・国際情勢の変化に応じて変更となる場合があります。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1 地形 2 気候 3 自然と生活	<ul style="list-style-type: none"> 山地、平野、海岸などの地形の特徴を具体的な事例を通して理解する。 地形図の読図をおこなう。 気温・降水量・大気循環・水の循環などの特徴を理解する。 ケッペンの気候区分に従い、世界の気候の特徴と分布傾向を理解する。 自給的農業、商業的農業、企業的農業の特徴と分布を理解する。 日本と世界の漁業の特徴を理解し、課題について考える。 エネルギー資源と鉱産資源の分布を通して、エネルギー問題について考える。 どのようなところでどのような工業が発達するのか資料をもとに考え、工業地域の分布傾向を理解する。 村落（集落）や小都市、大都市などがどのような理由で発達するのかを、世界の村落や都市を事例に考える。 	中間 考査	
	5月				
	6月	第2章 資源と産業 1 農業水産業			
	7月	2 エネルギー・資源			期末 考査
	8月	3 工業			
	9月	第3章 村落・都市 1 村落・都市			
後期	10月	第4章 生活文化と民族・宗教 1 言語と宗教 2 民族と国家	<ul style="list-style-type: none"> 宗教や言語の伝播・拡大過程を理解する。 国家の要素と領域について把握する 世界や日本でどのような領土問題があるかを理解するとともに、その要因を考察する。 各国について、自然、民族、歴史、工業、人々の生活などさまざまな角度から調査し、各国が抱えている課題について考える。 各地域の共通性と地域差に着目して、地理的な項目から調査する方法を学び、各地域の特徴を理解する。また、各地域がかかえている課題についても考察する。 	中間 考査	
	11月	現代世界の地誌的考察 第2章 現代世界の諸地域			
	12月	1 中国 2 インド 3 西アジア・中央アジア 4 EU 5 ロシア			
	1月	6 アメリカ 7 ブラジル 8 オーストラリア			期末 考査
	2月				
	3月				

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	選択必履修科目 (2年次)
講座名	物理基礎		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>物理的な事物・現象についての観察、実験などを行いながら、物理学の基本的な概念や法則について学習をする科目です。</p> <p>○物体の運動とエネルギー ・ ・ ・ 運動、力、慣性の法則、運動の法則、力学的エネルギー</p> <p>○物理現象とエネルギーの利用 ・ ・ ・ 熱、波、電気、エネルギーとその利用</p>				
科目の目標	<p>物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。</p>				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	教科書「物理基礎」(数研出版) 問題集「ベストフィット 物理基礎」(実教出版)				
評価の観点 評価の方法	<p>・評価の観点…</p> <p>①物理学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。</p> <p>・評価の方法… 定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p>				
選択条件	2年次に「理科演習(物理)」を履修すること。 3年次に「物理」を選択することが望ましい				
選択する上 での心得	<p>基本的な数学の力を有していることが望ましい。 問題集等を活用した自主的な学習や、中学校の物理分野についての復習が不可欠です。論理的な思考力や数学的な計算力を必要とし、家庭学習を怠ると単位修得は難しくなりますので、その点を注意してください。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	物理の世界 ・物理学とは ・物理量の測定	○単位と次元、有効数字について理解し、今後の学習の基礎とする。	中間考査
	5月	物体の運動 1. 運動の表し方 ・身のまわりの物体の運動 ・速度 ・加速度	○直線運動における変位、速度、加速度、速度の合成、相対速度など運動の表し方を学び、その概念を理解する。	
	6月	2. 力 ・様々な力 ・力のつりあい ・作用と反作用	○力の合成、分解、つり合いなど、力の性質を理解する。	
	7月	3. 運動の法則 ・慣性の法則 ・物体の落下運動	○ニュートンの古典力学の基本である運動の三法則を学習する。	期末考査
	8月	エネルギー 1. 運動とエネルギー ・運動エネルギーと位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則	○運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。	
	9月			
後期	10月	2. 熱とエネルギー ・熱と温度 ・熱と仕事 ・気体の法則と分子運動	○熱容量と比熱について学び、熱量保存の法則を理解する。 ○熱と仕事の関係を理解し、熱力学の第一法則について学習する。	中間考査
	11月	3. 波 ・波の性質 ・光 ・音 ・ドップラー効果	○単振動と正弦波について学習する。 ○音の三要素を理解し、波の性質が音としてはどのような性質になるのかを理解する。	
	12月	4. 電気 ・電流 ・電気抵抗 ・電気の利用	○オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続、抵抗率について理解する。 ○直流と交流の違い、交流の実効値について理解する。	
	1月	5. エネルギーとその利用 ・さまざまなエネルギー ・日常生活と物理 ・物理学の未来	○放射線、核エネルギー、原子力発電について理解する。 ○物理の応用と日常生活、物理の未来について理解する。	期末考査
	2月			
	3月			

系 列	自然科学	教 科	理科	選択科目の 種類	選択必履修科目 (2年次)
講座名	地学基礎		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>地学的な事物・現象についての観察、実験などを行いながら、地学の基本的な見方・考え方や原理・法則について学習をする科目です。</p> <p>○宇宙における地球・・・惑星としての地球、宇宙の構成</p> <p>○変動する地球・・・活動する地球、移り変わる地球、大気と大洋、地球の環境</p>				
科目の目標	<p>日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。</p>				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	教科書「地学基礎」(実教出版) 問題集「ベストフィット 地学基礎」(実教出版) 図 説「スクエア最新図説地学」(第一学習社)				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①科学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p> 				
選択条件	2年次選択必履修科目				
選択する上 での心得	<p>地学の基礎についての学習を行いますので、中学校の理科・第2分野の復習をしておくとう理解しやすくなります。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1章 地球の構成と運動 1節 地球の形と大きさ 1 地球の形と大きさを調べる 2 地球の形 2節 地球内部の構成 1 地球内部の層構造 2 地球内部の状態と構成物質 3 地殻を構成する物質	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形や大きさの探求の歴史 詳しい地球の形と大きさ 地球の内部構造の調べ方 地球内部の構成する物質 岩石の分類や成因, 性質 鉱物の種類と特徴 	中間考査
	5月	3節 火山と地震 1 火山活動 2 地震活動	<ul style="list-style-type: none"> マグマの性質と噴火様式・火山の形 地震と断層運動 	
	6月	4節 プレートの運動 1 プレートテクトニクス 2 大地形の形成	<ul style="list-style-type: none"> プレートテクトニクスとブルームテクトニクス 	
	7月	第2章 地球の変遷 1節 地層と化石 1 地層のできかた 2 地質構造の形成 3 化石と地質時代の区分 2節 古生物の変遷と地球環境 1 初期生命と大気の変化 2 多様な生物の出現と脊椎動物の発展 3 哺乳類の繁栄と人類の発展	<ul style="list-style-type: none"> 地層のでき方と時間的経過 地質構造と地殻変動 化石記録と生物界の変遷 地質時代の区分の仕方 	期末考査
	8月		<ul style="list-style-type: none"> 地球の大気の変化の変遷 生命の誕生と進化 多様な生物の出現と繁栄、大量絶滅 人類の誕生 	
	9月	第3章 大気と海洋 1節 大気の構造と運動 1 大気の層構造 2 大気の動きと天気	<ul style="list-style-type: none"> 大気の層構造, 大気圧, 大気組成 対流圏と気象現象 大気の状態変化と雲のでき方 	
後期	10月	2節 大気の大循環 1 地球のエネルギー収支 2 大気大循環 3 気象と気候 3節 海洋の構造と海水の運動 1 海洋の層構造 2 海水の運動と循環	<ul style="list-style-type: none"> 太陽放射と地球放射 大気とエネルギーの大循環 日本周辺の気団と季節変化 海洋の層構造と循環 水の大循環 	中間考査
	11月	第4章 太陽系と宇宙 1節 太陽系の中の地球 1 太陽系の概観 2 太陽系の構成 3 太陽系の形成と地球の誕生 4 生命の星 地球	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の天体 太陽系の成り立ちと地球の誕生 地球の形成と生命誕生 	
	12月	2節 太陽とその進化 1 太陽の構造と活動 2 恒星としての太陽 3 太陽の誕生と進化	<ul style="list-style-type: none"> 恒星としての太陽の構造と活動 太陽の過去と未来 	
	1月	3節 宇宙のすがた 1 宇宙の誕生 2 銀河とその分布	<ul style="list-style-type: none"> ビッグバンと宇宙の膨張 銀河系の構造と分布 	期末考査
	2月	第5章 地球の環境 1節 日本の自然環境 1 日本列島がつくる自然の特徴 2 自然がもたらす災害と恩恵	<ul style="list-style-type: none"> 日本列島の地形の特徴 日本の気候(四季)の特徴 日本列島の災害と防災 	
	3月	2節 地球環境の科学 1 気候変動と異常気象 2 地球環境問題と未来の地球	<ul style="list-style-type: none"> 地球の気候変動と環境問題 	

系 列	芸術表現	教 科	音楽	選択必修科目（1年次）		
講座名	音楽 I		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>歌唱、器楽、創作、鑑賞等幅広い音楽活動を通して、音楽表現の基礎的な知識や実技能力を身につける。さらに、思いや意図を音楽で表現できるようにするため、創造力や感性を高める。</p>					
科目の目標	<p>音楽の様々な分野の基礎的な知識・技術の能力を伸ばす。 音楽を愛好する心情を育てる。 音楽文化についての理解を深める。 思いや意図を持って個性豊かな表現力を養う。</p>					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	O n ! 1					
評価の観点 評価の方法	<p>【観点】 音楽に対する興味・関心を持ち、意欲的・主体的に音楽活動を行ったか。自己のイメージを持ち、創造的な表現・鑑賞の能力を身に付けられたか。 【方法】 定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>					
選択条件	1年次選択必修科目（音楽 I ・美術 I のいずれかを履修すること）					
選択する上 での心得	準備物をしっかりすることや、授業におけるルールを守ること。					
備考	資料をまとめるファイルを各自準備すること。					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	【斉唱】 『校歌』『翼をください』 『少年時代』『ふるさと』	・校歌練習を通して校風を理解する。 ・曲種に応じた発声の違いを理解する。	中間考査
	5月	【楽典・創作】 リズムアンサンブル	・リズム（音符）について理解し、アンサンブルをする。また、リズムによる作曲をし、発表する。	
	6月	【歌唱】 イタリア歌曲『Caro mio ben』 ドイツ歌曲『Heidenroslein』	・芸術歌曲について理解し、響きのある声で歌えるようにする。また、原語歌詞で歌うことにより、詩と旋律の密接なかかわりについて理解する。	
	7月			期末考査
	8月	【鑑賞】 舞台芸術 歌舞伎『京鹿子娘道成寺』 オペラ『椿姫』 ミュージカル『ウエストサイドストーリー』	・様々な曲種の声、旋律の特徴などを感じ取り、鑑賞したり歌唱したりする。	
	9月			
後期	10月	【器楽】 ギター 『カントリーロード』『Edelweiss』 など	・ギターの奏法の基礎について理解し、簡易コードでの伴奏や旋律を演奏する。	中間考査
	11月	【鑑賞】 『ボレロ』	・楽曲の背景や作曲者について理解を深め、西洋音楽の歴史について学ぶ。	
	12月	【器楽（日本伝統音楽）・創作】 箏 『さくらさくら』	・箏の音色や奏法について理解を深める。また、日本の音階を用いて、変奏する。	
	1月	【歌唱】 日本歌曲 『椰子の実』『夏の思い出』 授業内発表	・日本語の発音に留意しながら独唱や重唱をする。	期末考査
	2月		・独唱、アンサンブルなどの演奏携帯通して、演奏会を行う。	
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択必修科目（1年次）		
講座名	美術 I		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>絵画、彫刻、デザイン、鑑賞等幅広い分野にわたる美術表現の基礎を学びます。中学校美術の学習で養った美的直観力や創造的発想力、構想力をいっそう育て、美術の基本的な学習を効果的に学びます。</p>					
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、美術の幅広い創作活動を通して美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 2、美術のさまざまな分野の基礎的知識や技能を修得する。 3、美術の表現に意欲的・主体的に取り組み美術活動の喜びを求め味わおうとする。 4、感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、美術作品などのよさや美しさを感じ取り、表現を構想する。 5、主題をより豊かに伝えるために必要な技能を身につけ、ふさわしい方法を選択し自己の表現に効果的に適用できる。 					
授業形態	作品制作を中心にしながら造形言語や造形技法の知識を学ぶ。					
教科書 使用教材等	教科書：美術 I（光村）					
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への関心・意欲・態度 2 芸術的な感受や表現の工夫 3 鑑賞能力 4 創造的な表現の技能 5 定期考査 					
選択条件	1年次選択必修科目（音楽 I・美術 I のいずれかを履修すること）					
選択する上 での心得	<ol style="list-style-type: none"> 1、美術の基本的な内容を学習しますので準備物など事前に必要とするものや事柄はきちんと指示に従うことが大切です。 2、作品の提出はもちろんその期限も守ること。 3、制作課題（授業態度）や、自己の作品反省をしっかりと行い次に繋げていけるよう意欲的に取り組むこと。 4、作品を広く鑑賞する心を持つ。 					
備考	絵の具、画用紙など教材は年度初めに集める教材費（年間2000円）より購入					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	(1) デザイン ■色彩と配色計画 ①色について学ぶ	※「色彩と配色計画」では、色につ いての基礎知識を習得します。ま た、学んだ知識を活かし、デザイ ンとして美しく完成させるための 技術を身につけます。	期末 考査
	5月	②配色計画と実際 ■幾何形体による平面構成 ①平面構成について学ぶ	※「幾何形体による平面構成」では、 テーマに即し、形と色の組み合わせ を考え、デザインとしての美しさ を追求するとともに、丁寧な作品 制作をしていきます。	
	6月	②スケッチ（形について） ③スケッチ（色について） ・配色のコツと配色計画		
	7月	④作品制作 （テーマに基づく平面構成） (2) 絵画 ■素描基礎 ①単純形体の素描	※「素描基礎」ではデッサンにおけ る鉛筆や消しゴムの使い方を習得 します。また、形のとりかたや陰 影の付け方など基本的な技術的を 会得するとともに白黒濃淡による 造形美を考察します。	
	8月	■静物画（アクリル絵の具） ①下絵制作	※「静物画」では素描で得た知識や 技術を基に、デザイン分野で学ん だアクリル絵具の特性を活かしな がら、表現豊かな静物画を制作し ます。完成度の高さを追求し、よ り良い作品を描きあげることが必 要です。	
	9月	②着彩 ・着彩の表現と方法 ・描き込みと仕上げ		
後期	10月	(3) 彫塑 ■人体モデルを立体で表現 ①動くモデルのクロッキー	※「人体モデルを立体で表現」では 動くモデルをどう捉えるかを追究 しながら、個性的で表現豊かなク ロッキーを数多く描き上げます。 このクロッキーをもとに、立体 としてのダイナミズムを考慮した 作品制作をします。	期末 考査
	11月	②立体化へのエスキース ③造形制作（粘土） (4) 工芸 ■木彫栓抜き制作		
	12月	①用途に合わせたデザイン考察 ②アイディアスケッチ	※「木彫栓抜き制作」では、工芸作 品の「用の美」を理解し鑑賞する とともに、素材の特性を活かしな がら、美しい木彫栓抜きを制作し ます。	
	1月	③制作 ・計画的な制作 ・完成と鑑賞	※「世界のアニメーション鑑賞」で は、多様な表現方法で制作された 各国の短編アニメーションを紹介 鑑賞するとともに、その表現方法 について考えます。	
	2月	(5) 映像メディア表現 ■世界のアニメーション鑑賞 ①世界のアニメーションと 日本のアニメについて		
	3月	②映像表現の仕組みについて		

3 選択科目

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	国語表現		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面に応じて適切に書いたり話したりする能力を身につけ、コミュニケーション行為としての表現力を向上させる。 ・様々な表現の特色、語句や語彙の成立・役割について理解を深める。 				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。 ・国際化・情報化の進んだ現代社会において必要とされる総合的な表現力を身につけさせる。 ・日常生活の様々な場面において必要な言語活動に関する常識を身につけさせる。 				
授業形態	教室での一斉授業				
教科書 使用教材等	教科書「国語表現」教育出版 国語辞典・副教材				
評価の観点 評価の方法	<p>○評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしているか。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞きとったりしているか。 3. 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じて適切に文章を書くことができるか。 4. 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ることができるか。 5. 表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているか。 <p>○評価の方法</p> <p>上記観点に基づき、定期考査の結果を中心に課題の提出状況や発表の評価、授業への取り組み等を重視しながら総合的に評価する。</p>				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	興味関心のある者。 自らが主体となって読み書きしたり、発表したりする機会があります。積極的な姿勢で授業に取り組んで下さい。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	・ことばについて	・早く正確に書き写したり、絵を言葉 に変えたりするなど、ことばの性質 や使い方について理解する。	中間 考査
	5月	・話すことについて ・文章表現①	・発声、発音について学習する。 ・スピーチの方法を身につける。	
	6月	・小論文①	・仮名遣いや表記記号の使い方などの 正しい表記のあり方について学習す る。	
	7月		・小論文とは何かを理解する ・独自の視点で物事をとらえる ・問題点をとらえる	
	8月	・文章表現②	・敬語表現や慣用的な表現など正しい 文章の書き方について学習する。	
	9月	・ことば遊びと創作	・ことば遊びや川柳の作成を通して言 語感覚を磨く。	期末 考査
後期	10月	・小論文②	・論理的文章の書き方について学習す る。 ・課題文を読み、問題の意図を理解す る。	中間 考査
	11月		・比喻などを効果的に使った文章の書 き方を学習する。	
	12月	・文章表現③		
	1月	・小論文③	・統計資料から、課題を見つける。 ・手順を踏み、小論文を完成させる ・テーマ型小論文や課題文型小論文な ど様々な小論文に取り組み、完成さ せる。	期末 考査
	2月			
	3月	・様々な表現について	・手紙などの場面に応じた書きことば や面接などでのことばについて学習 し、身につける。	

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	△現代文B（2年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>国語総合での現代文の学習を更に発展させ、現代の様々な文章を通して、ものの見方、考え方を深めていく。</p> <p>評論・小説・詩・短歌・俳句に触れることにより、語句の意味や用法を理解する。評論では論理の展開や要旨を的確にとらえることによって、評論の読み方の基礎を確立する。小説では人物、情景、心情などをとらえ、表現を味わい、自らのものの見方・考え方を深めていく。詩・短歌・俳句については特有の技法を学び、短い文の中に込められた作者の意図心情を読み取っていく。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。 ・日常生活の中に埋もれている問題を認識し、それについて考えてみる。 ・小説、詩歌を読み味わい、感受性を深める。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書「精選現代文B」明治書院・「精選現代文B 学習課題ノート」明治書院 国語辞書等				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解しようとしているかどうか。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ筋道を立てて話したり的確に聞きとっているかどうか。 3. 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、適切に文章を書けるかどうか。 4. 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読みとったり読書に親しんでいるかどうか。 5. 表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 6. 文章の要点や組み立てを押さえながら、書き手の主張や文章の内容を捉えることが出来たかななどを、定期考査、提出物、授業態度などにより、総合的に評価する。 				
選択条件	△現代文B（3年次）を履修すること				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必ず、難解な語句の意味を調べておくこと。 ・授業には必ず、国語辞典を持参すること。 <p style="text-align: right;">など準備や予習などが必要である。</p>				
備考	国語の基礎を確立するために、履修することが望ましい				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	随想	<ul style="list-style-type: none"> 随想の文章から筆者のものの見方・考え方・感じ方を読み取る。 読書の意味について考えを深める。 登場人物の人物像や心情の推移を的確に読み取る。 小説を自己の問題に引きつけて味わう姿勢を養い、自己について考えを深める。 具体例や対比の表現などから筆者の主張をとらえる。 論の展開に即して内容を的確に把握し、筆者の問題意識や主張をとらえる。 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにする。 文体や修辞など表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう。 	中間考査	
	5月	小説			
	6月	評論			
	7月				
	8月	評論			
	9月	詩			期末考査
後期	10月	評論	<ul style="list-style-type: none"> 時代や社会に対する関心を高め、問題意識をもって物事を考察する姿勢を養う。 主人公の心理と行動の変化を読み取る。 小説の多様なあり方を理解する。 具体例、比喩、引用などの工夫によって展開をわかりやすくし、説得力をもって物事を論じる方法を学ぶ。 長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。 作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。 語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにする。 個々の作者の作風の特徴をつかみ、感動の焦点を明らかにし、作品の主題をあきらかにする。 	中間考査	
	11月	小説			
	12月	評論			
	1月	小説			
	2月	短歌・俳句			期末考査
	3月				

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	△古典B（2年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>古文においては、国語総合で学んだ古典文法・辞書の引き方などを生かし、古文の品詞分解・読解を自らの力で行い、文章中の基本単語を覚えていく。</p> <p>漢文は基本の句形をもとによく使われる故事成語の成り立ちを学び、漢詩文を読むことによって、長文の漢文に慣れていくとともに、日本文化と中国文化との関係について考え、日本文化の特質を考える。</p> <p>古文・漢文のいずれも国語総合での学習をさらに発展させ、古文・漢文に親しみ、その表現を味わう。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。 ・ 古典の理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、感じなどを理解し知識を身につける。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書「高等学校標準古典B」第一学習社・古語辞典・その他				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとしているかどうか。 2. 古典に表れた思想や感情を的確に読みとり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしているかどうか。 3. 古典の理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 4. 上記の観点を考査、授業態度などにより総合的に評価する。 				
選択条件	△古典B（3年次）を履修すること				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に必ず、難解な語句の意味を調べておくこと。 ・ 授業には必ず、古語辞典もしくは漢和辞典を持参すること。 など準備や予習などが必要である。 				
備考	上級学校進学希望者で、古典を必要とする者は履修すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	古文 説話	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説話を読み、その構成や展開に即してあら筋をとらえ、叙述された世界を読み味わう。 ・ 話の展開に即して、内容を正確に読み取り、登場人物の考え方を理解する。 ・ 話しの面白さを味わう。 ・ 作者の人生観や自然観に触れ、ものの見方・感じ方を豊かにする。 ・ 語彙の習得や、古典文法の習熟をはかる。 ・ 繰り返し音読し、簡潔で含蓄のある表現を味わう。 ・ 豊かな詩情や明確な主張を読み取る。 ・ 唐詩の規則と特徴を理解する。 	中間 考査	
	5月	漢文 故事・寓話			
	6月	古文 随筆			
	7月				期末 考査
	8月	漢文 漢詩の鑑賞			
	9月				
後期	10月	古文 物語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軍記を読み、登場人物がどのように乱世の世を生きたか読み取り、表現上の特色を理解する。 ・ 平安時代の人々のものの見方や感じ方を味わう。作者の素材の選択にはたらく鋭い感覚に迫る。 ・ 話の展開に即して、内容を理解する力を身につける。登場人物の性格を読み取り、歴史の劇的な面白さを味わう。 ・ 日本的な心が凝縮されている和歌を通じて「日本」に対する認識を深め、古人から受け継いできたものを尊重する。 	中間 考査	
	11月				
	12月	古文 随筆			
	1月	漢文 古代の史話		期末 考査	
	2月				
	3月	古文 和歌			

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	国語表現演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・文章（特に小論文）を書くことについて、その基礎から完成までを、文法・構成・技法・推敲に関して学習し、繰り返し実践します。 ・「書くこと」だけでなく、「話すこと」「聞くこと」についても学習し、社会生活や人間関係を支える言語表現力を養います。 				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てます。 ・進路実現に向け、正しい文章を書かせ、よりよい表現を目指させます。 				
授業形態	教室での一斉授業。課題に応じて、グループ学習や調べ学習、レポート作成などを実施します。				
教科書 使用教材等	教科書 小論文チャレンジノート 要約編、データ融合編、看護福祉医療編、AO入試編 第一学習社・国語辞典・副教材・その他（プリント教材）				
評価の観点 評価の方法	<p>（観点）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国語に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現するとともに、伝え合おうとしているかどうか。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞きとったりしているかどうか。 3. 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じて適切に文章を書けているかどうか。 4. 表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 <p>（方法）</p> <p>上記の観点を、定期考査の成績・課題・授業態度等により、総合的に評価する。</p>				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<p>一方的に講義を聞くだけでなく、自らが主体となって読み、書き、話す作業が多くなります。積極的な姿勢で授業に取り組んで下さい。</p> <p>2年次に国語表現を履修していなくても履修できます</p>				
備考	進路で作文や小論文が必要な生徒は、履修することが望ましい。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	・小論文入門	<ul style="list-style-type: none"> ・接続表現や指示表現に着目することで文章の構造や論理的展開を理解する。また小論文の「型」としての三段構成の特徴を理解する。 ・要約の基本的観点を理解し、トレーニングを通して読解力を身につける。 ・推敲の観点を具体的に学ぶ。 ・就職試験や推薦入試を前に、話すことにおける発音・発声の重要性を理解し、滑舌訓練や早口言葉に取り組むことによってわかりやすい発音・発声を心掛ける。 ・小論文は根拠に支えられた意見を述べるものであることを理解し、トレーニングする。 ・課題文の要約の仕方に習熟する。 	中間 考査
	5月	・小論文添削指導		
	6月			
	7月			期末 考査
	8月	・小論文の技術 意見を論理的に述べる テーマ型小論文の実際 課題文を読んで書く		
	9月			
後期	10月	・話し合いの技術 目的にあわせた話し合い。 ディベートの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの目的を意識し、その為にどのような工夫がされているか考える。 ・ディベートのプロセスと鉄則について確認し論題について調査結果から立案していく方法を学ぶ。 ・実際にディベートに取り組む。 ・論文作成の手順を知り、執筆以前の過程を具体的に理解する。 ・アウトライン作製の留意点について理解する。 ・引用のルールやマナーについて理解し、注や参考文献一覧など必要事項について習熟する。 	中間 考査
	11月			
	12月	論文作成の準備・論文作成の実際 論文の仕上げー執筆		
	1月			
	2月			
	3月	自宅学習		

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	古典A		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>「古典」の授業だけでは物足りない人の為に開講される科目です。古典作品に描かれた世界を理解するためには、有名な箇所を読むだけでは不十分です。それぞれの作品についてある程度まとまった分量を読んで、その作品が現代まで生き残ってきた理由を把握できる能力を養います。</p>				
科目の目標	<p>我が国の文化と伝統に対する興味と関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ姿勢と意欲を身につけることができるように質の高い古文・漢文を読解、鑑賞して、古典作品の普遍性（今に生きる力）を学びます。また、今まで学んできた文法事項や古典常識などの知識を更に深め、発展させていきます。</p>				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書 未定・古語辞典・漢和辞典・その他（プリント教材）				
評価の観点 評価の方法	<p>(観点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、生涯にわたって古典に親しんでいるかどうか。 2. 古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、生活や人生について考え、古典に親しんでいるかどうか。 3. 古典の理解に役立てるための音声、文法、表記。語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 <p>(方法)</p> <p>上記の観点を、平常授業の予復習や定期考査、レポート提出（自ら積極的に古典作品を読もうとしているかどうかの確認等）により評価する。</p>				
選択条件	2年次・3年次で△古典Bを履修していること。				
選択する上 での心得	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試等に古典が含まれる者は選択しておくことよい。 2. 古文・漢文の世界に興味がある者。 				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	古文 随筆	<ul style="list-style-type: none"> ・随筆を読んで、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。 ・表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・作品の概要を理解し、語りの体裁をとる文体の特色について考える。 ・動作主や敬語に注意しながら正確に読解し、話のおもしろさを味わう。 ・物語の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み取る。 ・語句の意味や文法事項などを理解し、解釈に生かす。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・句形・語句の意味などに注意し、正確に口語訳する。 ・故事や寓話にこめられた古代中国人のものの見方・考え方を理解する。 	中間考査	
	5月	古文 物語			
	6月				
	7月	漢文 故事・寓話		<ul style="list-style-type: none"> ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・句形・語句の意味などに注意し、正確に口語訳する。 ・故事や寓話にこめられた古代中国人のものの見方・考え方を理解する。 	期末考査
	8月				
	9月				
後期	10月	古文 物語	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の世界にふれるとともに、時代を超えた人間の真実を読み味わって、古典に親しむ態度を深める。 ・物語世界の時代背景や状況の設定、また登場人物の人物像や心情などを考え理解する。 ・長めの文章を読んで、漢文に親しみをもち、話の内容を理解する。 ・本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改める。 ・句形・語句の意味などに注意し、正確に口語訳する。 	中間考査	
	11月				
	12月	漢文			
	1月	自宅学習		自宅学習	期末考査
	2月				
	3月				

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	現代文演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>大学進学を目的としていて、「現代文」の授業だけでは物足りない人の為に開講される科目です。</p> <p>「現代文」および他の国語科の各科目を通して身に付けた理解力をもとに、基本的な現代語の用法や、慣用句、語句などを的確に理解し、身に付けた知識を文章読解において使用する能力を育成する。</p> <p>主に現代の作家による様々な文章を素材にした問題文を読解し、百字に要約したりテーマについて考察したりする。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教材を読み言葉に関する知識・理解を深め、より高度な学習に対応できる能力を育成する。 ・現代文の基礎的な語法を身に付けさせると共に、文章の論理を的確にとらえ、文学的文章の表現を味わうことを通して、読解力を身に付けさせる。 				
授業形態	クラス一斉授業				
教科書 使用教材等	<p>「改訂版錬成現代文」尚文出版</p> <p>「高校生必修語彙ノート」桐原書店</p>				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解しようとしているかどうか。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ筋道を立てて話したり的確に聞きとっているかどうか。 3. 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、適切に文章を書けるかどうか。 4. 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読みとったり読書に親しんでいるかどうか。 5. 表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 6. 文章の要点や組み立てを押さえながら、書き手の主張や文章の内容を捉えることが出来たかななどを、定期考査、提出物、授業態度などにより、総合的に評価する。 				
選択条件	2年次・3年次で△現代文Bを履修していること				
選択する上での心得	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習復習を行なえる者 2. 全国紙（朝日、読売、毎日）の社説を毎日読む習慣をつけられる者 3. 一般入試において現代文の学力検査を課される可能性がある者を対象とする（大学・短期大学・専門学校等） 				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	科目ガイダンス 随想 1親切 小説 2栗樹 評論 3言語の脳科学	・科目への取り組み方について 1 回一文読解する。 ・随想的文章に関する学習 筆者たちの視線の方向、関心のよせ方、感性や思考の動き方に注目する。 ・口語文法、修辭法に関する学習	中間 考査
	5月	小説 4 永遠の出口 韻文 5現代短歌 小説 6深い河 評論 7日曜日の読書	・評論文に関する学習 論理的な文章について、段落の要旨をまとめながら読み進め、その構成を理解する。	
	6月	評論 8日本語の外へ 高校生必修語彙ノート(P4 ～25) テスト範囲	・小説、物語文に関する学習 文学的な文章について、そこに描かれた人物の状況、行動、心情などを読み取る。	
	7月	随想 9 インターネット的 小説 10 カエサルを撃て 随想 11 失われた「道」の 豊かさ	・現代用語、語彙に関する学習と理解を深める	
	8月	評論 12 都市の感情 小説 13 青空のルーレット 評論 14 私探しゲーム 韻文 15 俳句 随想 16 乱世の宗教者 語彙ノート (P26～47)	・優れた韻文を読んで、そこに描かれた人物・ 情景・心情などを味わう。	
	9月			
後期	10月	小説 17花影の花 評論 18身体の零度 小説 19センセイの鞆 評論 20社会学入門	・論理的文章記述に関する学習 優れた小論文を素材に論理的文章展開を記述する練習をする。 ・筆者の意見や心境把握についての学習 筆者が自己の体験を効果的に構成して主旨を述べていることを理解する。	中間 考査
	11月	評論 21「切れ」の構造 小説 22千日の瑠璃 随想 23塵の中 語彙ノート(P48～75)	・論理の展開を把握し文章構成についての学習 資料や引用の用いられ方に留意しながら、筆者の考えを読み取る	
	12月	評論 24文学と技術 小説 25奉教人の死 評論 26「野性」の哲学 評論 27江戸という時代	・情景、心情の推移を把握することについての学習 小説を読み、印象深い点や感動的なことについてまとめ、論述できるようにする。	
	1月	随想 28働く女は敵ばかり 小説 29星々の舟 評論 30鴉外 戦う家長 語彙ノート(P76～107)	・文学史に関する学習 ・韻文に関する修辭法、鑑賞の手法を学ぶ。	
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	△現代文B（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>△現代文（2年）での学習を更に発展させ、現代の様々な文章を通して、ものの見方、考え方を深めていく。</p> <p>評論・小説・詩・短歌・俳句に触れることにより、語句の意味や用法を理解する。評論では論理の展開や要旨を的確にとらえることによって、評論の読み方の基礎を確立する。小説では人物、情景、心情などをとらえ、表現を味わい、自らのものの見方・考え方を深めていく。詩・短歌・俳句については特有の技法を学び、短い文の中に込められた作者の意図心情を読み取っていく。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> 近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。 日常生活の中に埋もれている問題を認識し、それについて考えてみる。 小説、詩歌を読み味わい、感受性を深める。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書「精選現代文B」明治書院・「精選現代文B 学習課題ノート」明治書院 国語辞書等				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解しようとしているかどうか。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ筋道を立てて話したり的確に聞きとっているかどうか。 3. 自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、適切に文章を書けるかどうか。 4. 自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読みとったり読書に親しんでいるかどうか。 5. 表現と理解に役立てるための音声・文法・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 6. 文章の要点や組み立てを押さえながら、書き手の主張や文章の内容を捉えることが出来たかななどを、定期考査、提出物、授業態度などにより、総合的に評価する。 				
選択条件	△現代文B（2年次）を履修していること。				
選択する上での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必ず、難解な語句の意味を調べる。 ・授業には必ず、国語辞書を持参する。 など準備や予習などが必要である。 				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	小説	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難しい言葉や表現を辞書で調べる。 ・ 小説の人物、情景、心情を的確にとらえる。 ・ 随想の文章から筆者のものの見方・考え方・感じ方を読み取る。 ・ 既成概念を離れて発想を転換することに目を向ける。 ・ 小説の時代背景、舞台状況を踏まえ、出来事の経過を追って登場人物の内面の変化を整理する。 ・ 登場人物の生き方を時代状況に沿って読み解く。 	中間考査
	5月	評論		
	6月			
	7月	随想		
	8月	小説		
	9月			
後期	10月	評論	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体例や対比の表現などから筆者の主張をとらえる。 ・ 言葉と対象の関係について理解を深める。 ・ 文体や修辞など表現上の特色と効果をとらえ、作風の特徴をつかみ、作品を深く味わう。 ・ 抽象的な用語や概念を正確につかみ、内容を深く理解する。 	中間考査
	11月	短歌・俳句		
	12月	評論		
	1月			
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	△古典B（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>古典B（3年次）の授業は2年次の教科書を継続して使用する。 古文においては、2年次での学習を生かし、品詞分解・読解を自ら行う力を高め、 文章中の重要語句や修辞法の知識を深める。 漢文においては、長文の漢文に慣れるとともに、日本文化と中国文化との関係につ いて考え、日本文化の特質に対する理解を深める。 古文・漢文のいずれも2年次での学習をさらに発展させ、古文・漢文に親しみ、その 表現を味わう。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。 ・古典の理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、感じなどを理解し知識を身につける。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書「高等学校標準古典B」第一学習社・古語辞典・その他				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとしているかどうか。 2. 古典に表れた思想や感情を的確に読みとり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしているかどうか。 3. 古典の理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけているかどうか。 4. 上記の観点を考査、授業態度などにより総合的に評価する。 				
選択条件	△古典B（2年次）を履修していること。				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に必ず、難解な語句の意味を調べておくこと。 ・授業には必ず、古語辞書もしくは漢和辞典を持参すること。 など準備や予習などが必要である。 				
備考	上級学校進学希望者で、古典を必要とする者は履修すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前 期	4月	古文 物語	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の文学的位置を確認し、特色をとらえる。 ・大意を把握する力を養う ・歴史物語を読み、登場人物が政治の世界でどのように生きたのかを理解する。 ・敬語表現や会話独特の文末表現に注意して読み味わう。 ・読みにくい語句・句法に注意しながら、訓読になれる。 ・それぞれの話に表れる中国人の物の見方・考え方を理解する。 ・日記文学とはどのようなものかを理解する。 ・作品の概要と作者について理解する。 ・作者の心の動きについて、理解を深める。 	中間 考査
	5月	古文 物語		
	6月	漢文 逸話		
	7月			期末 考査
	8月	古文 日記		
	9月			
後 期	10月	漢文 史記	<ul style="list-style-type: none"> ・作品と作者について理解する。 ・語句、句法の意味、用法を理解し、口語訳する。 ・本文の内容を読み取る。 ・作品の文学史での位置付けについて、理解する。 ・場面・人物をおって正確に読み取る。 ・全文を正確に書き下し文にし、口語訳できるようにする。 ・中国の代表的な文章を読み、作者の人生観・心情を味わう。 	中間 考査
	11月	古文 物語		
	12月	漢文 名家の文章		
	1月			期末 考査
	2月			
	3月	自宅学習		

系 列	人文国際	教 科	国語	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	創作と鑑賞		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>日本文学史の知識を学びながら、代表的な作品を鑑賞し、我が国の伝統と文化に対する理解を深める。</p> <p>古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解したりする。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文学作品についての基礎的な教養を身につけ、文学にはどのような表現手段があるのかということについて理解を深める。自分自身が「表現したいこと」を適切な手段で創作し、表現できるようにする。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	「改訂版新日本文学史」 京都書房・文学史資料等・その他（必要に応じて）				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果的な文章表現能力を身につけるために、文法や語彙、基礎的な日本文学史の知識を習得しているかどうか（定期考査での確認）。 2. 自分の考えをまとめたり深めたりして、意欲的に文学作品を「創作」又は「研究」していたかどうか（平常評価）。 				
選択条件	2年次か3年次のいずれかで履修することができる				
選択する上 での心得	<p>多くの文学史的作品を読み味わう意欲を持っていること。</p> <p>自分の創作作品を人前に発表できること。</p> <p>自分の作品に対しては、どのような批評批判も受け入れることができること。</p> <p>小説、詩、短歌、俳句の創作をしてみたいという生徒。文学（文芸）系の進学希望者が好ましい。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に2、3年次が一緒に受講することになります。（ただし、履修人数によっては分割して行う場合もあります） 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	上代文学の鑑賞「万葉集」	<ul style="list-style-type: none"> 万葉集の代表的歌人、その作品について知識を深め、表現上の特色を理解する 	中間考査
	5月	中古文学の鑑賞「古今和歌集」	<ul style="list-style-type: none"> 古今和歌集の代表的歌人、その作品について知識を深め、表現上の特色を理解する 好きな歌人の作品を選び鑑賞文を書く。 短歌を創作する。 	
	6月	短歌の創作		
	7月	中世文学の鑑賞「平家物語」	<ul style="list-style-type: none"> 中世文学では平家物語を取り上げ、平家物語に対する知識を深め、表現上の特色を理解する 平家物語の主な登場人物についてふれ、(義経、静御前、敦盛、俊寛など)人物の心情について鑑賞する。 平家物語の好きな登場人物についてレポートを作成する。 	期末考査
	8月			
	9月			
後期	10月	近世文学の鑑賞 (俳諧)	<ul style="list-style-type: none"> 松尾芭蕉の『奥の細道』を読んで俳文・俳諧に対する知識を深め、表現上の特色を理解する 	中間考査
	11月	俳句の創作 近世文学の鑑賞 (近世小説)	<ul style="list-style-type: none"> コンクールに出品する俳句の創作 井原西鶴の『世間胸算用』を読んで、近世小説に対する知識を深め、表現上の特色を理解する。 江戸時代の庶民の生活についてレポートを作成する。 	
	12月			
	1月	近代文学の鑑賞(詩・小説)	<ul style="list-style-type: none"> 島崎藤村の詩・小説を読んで明治大正期における近代文学作品に対する知識を深め、表現上の特色を理解する。 	期末考査
	2月	(3年次 自宅学習) 小説の創作	<ul style="list-style-type: none"> 夏目漱石『坊ちゃん』を読んでレポートを作成する。 リレー小説を創作する 	
	3月			

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	世界史演習		単位数	4	ブロック 番号	
科目の概要	2年次「世界史B」では産業革命以降の近現代史を中心に学習していくが、本科目では、世界の歴史の流れを文明の始まりから現代史まで取り上げ、歴史上の諸事象を深く掘り下げて学習していく。問題演習などを通しての歴史的事項の知識・理解の定着をはかり、上級学校進学に向けて世界史の力を総合的に向上させるための科目である。					
科目の目標	世界の歴史の流れをより深く理解し、多角的・多面的に歴史を考察する力と国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を高める。					
授業形態	講義および演習を行う。					
教科書 使用教材等	「ウィニングコンパス世界史の整理と演習」(とうほう) (2年次世界史B使用教材：「新選世界史B」(東書)、「最新世界史図説タペストリー」(帝国書院))					
評価の観点 評価の方法	定期考査の結果(知識や思考力・判断力が身に付いているか)を基礎とし、提出物の状況(資料作成能力や技能・表現力が身に付いているか)、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。					
選択条件	特になし					
選択する上 での心得	世界史を大学受験科目とする生徒は、この科目を選択してください。 進路実現のためには、授業はもちろんのこと、予習・復習も大切です。自覚をもって講座に参加しましょう。 『歴史とは、現在と過去との絶えざる対話である』——これは、イギリスの歴史家E・H・カーの言葉です。この授業を通して過去との対話を重ね、今ここに生きる自分の立ち位置を知ること、激変する現代社会の中でどう生きるかを考え、これからの人生と未来とを切り拓くうえでの一助としてください。					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1 オリエントと地中海世界	<p>漢字文化や儒教など中国を中心とする東アジアの国際体制、南アジアの仏教の成立やヒンドゥー教とカースト制度、イラン文明の伝統とイスラームの成立と拡大、ヨーロッパにおけるギリシア・ローマ文明の伝統やキリスト教など、8世紀までに成立した諸地域世界の時代的特色について学ぶ。</p> <p>また、8世紀以降の諸地域世界の交流や深まり、そして東西交流と交易の活発化などについて考察する。</p> <p>さらに、大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアとの接触・交流をあつかい、16世紀以降の世界商業の進展と、その影響をうけた17・18世紀の世界の特色について学ぶ。</p>	中間 考査
	5月	2 アジアの古代文明		
	6月	3 東アジアの形成と発展		
	7月	4 内陸アジアの変遷		期末 考査
	8月	5 イスラーム世界の形成と発展		
	9月	6 ヨーロッパ世界の形成と発展		
	10月	7 アジア諸地域の繁栄		
	11月	8 近代ヨーロッパの成立		
	12月	9 ヨーロッパ主権国家体制の展開		
後期	1月	問題演習	この授業でこれまでに学んだこと、および2年次で学んだ世界史B(産業革命から現代の世界)の問題演習を行う。必要に応じて、大学入試問題などの演習も行う。	期末 考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	日本史演習		単位数	4	ブロック 番号	E 1
科目の概要	<p>2年次の日本史Bに引き続いて、日本の近現代史の展開を学習し、かつ問題演習などを通して、古代から現代に至る日本の歴史を深く掘り下げて学習します（日本史Bの科目の概要を参照）。 上級学校進学に向けて日本史の力を総合的に向上させるための科目です。</p>					
科目の目標	<p>日本の歴史の展開を、世界史的視野に立って深く考察し、わが国の文化と伝統について認識を深める。そうすることによって、より高い歴史的思考力を培い、国際社会において主体的に生きる日本人としての資質を高める。</p>					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	<p>2年次日本史Bで使用した教科書『高校日本史B（実教出版）』と図説『新詳日本史図説（浜島書店）』及び新たに『日本史史料集（実教出版）』を使用する。</p>					
評価の観点 評価の方法	<p>日本の歴史に関心を持ち、課題意識を高め、意欲的に追求しようとしているか。【関心・意欲】 日本の歴史を、世界史的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断できるか。【思考・判断・表現】 日本の歴史に関する資料を読み取り、適切に活用することができるか。【技能】 日本の歴史についての基本的な事項についての知識を身に付け、歴史の展開について正しく理解しているか。【知識・理解】</p>					
選択条件	2年次に日本史Bを履修していること。					
選択する上 での心得	<p>日本史を大学受験科目とする生徒は、この科目を履修しなければならない。 進路実現のためには、授業はもちろんのこと、予習・復習も大切。自覚をもって講座に参加すること。</p>					
備 考	進捗等の状況により、学習内容を精選する場合がある。					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	近代 ○ 大日本帝国の形成	<p>第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る日本の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察する。</p> <p>第二次世界大戦の終結から今日に至る日本の歴史について、世界の動向と関連付けて考察するとともに、広い視野から日本の文化や課題について理解する。</p>	<p>中間 考査</p> <p>期末 考査</p>
	5月			
	6月	○ 大日本帝国の展開		
	7月			
	8月	○ 15年戦争と日本・アジア		
	9月			
後期	10月	問題演習または日本史講読、または現代史	<p>実際に問題を解くという作業を通じて、原始・古代から近現代までを復習する。その活動を通して大学入試の対策を講じ、実力を養成する。また、必要に応じて、大学入試問題などにチャレンジする。</p> <p>または、日本史関連の著作物を読みながら、日本史の造詣を深める。</p> <p>また、センター試験を受験する生徒がいれば、現代史を学習する。</p>	<p>中間 考査</p> <p>期末 考査</p>
	11月			
	12月			
	1月			
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	地理演習（4単位）		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>自然環境（地形や気候など）、資源（エネルギー資源、鉱産資源）、産業（農業、工業、水産業など）、村落と都市、生活文化（言語・宗教・生活習慣など）について、世界全体に視野を広げて学習します。</p> <p>必要な知識を身につけるだけでなく、さまざまな地理的課題を解決するためにはどうすればよいのかといったことを考えたり、地図・グラフ・写真など地理的な資料をもとに作業的な内容の学習もおこないます。</p> <p>上級学校受験に必要な能力を養うための科目です。</p> <p>前期は、講義と問題演習を並行しておこない、後期は、問題演習を中心におこないます。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 世界に対して興味関心を深める。 2 世界の人々の生活・文化の地域的な特色、課題を正しく理解する。 3 国際化の進展など、世界情勢の変化を的確に理解し、判断するための知識や、見かた、考え方を身につける。 4 地図、資料などの情報を有効に活用する能力を養う。 5 上級学校受験に必要な能力を身につける。 				
授業形態	講義と演習				
教科書 使用教材等	「ウイニングコンパス地理の整理と演習」（とうほう）と、2年次地理Bで使用した教科書「詳解地理B」（二宮書店）、資料集「新詳地理資料」（帝国書院）、地図帳（帝国書院）を使用する。				
評価の観点 評価の方法	<p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界に対して深い関心を持つ。 ・ 写真、地図、図表から地理的な情報を読み取り、諸問題について考察を深める。 ・ 地図化、グラフ化、読図などの地理的な技能をのばす。 ・ 世界各地の特徴についての基礎的知識を身につけ、民族・環境など世界の諸問題についての理解を深める。 <p><評価の方法></p> <p>定期考査の結果（知識や思考力が身に付いているか）や演習の状況を基礎とし、提出物の状況、資料作成能力、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	2年次に地理Bを履修していること。				
選択する上での心得	<p>上級学校の受験を前提としている科目です。</p> <p>進路実現のためには、授業はもちろんのこと、予習・復習も大切。自覚をもって講座に参加すること。</p>				
備考	進捗などにより、学習内容を精選することがある。				

	月	単元／題材		学習内容	定期考 査等
前期	4月	1 グローバルに結びつ く現代世界 (1)現代世界の国家群 (2)世界を結ぶ交通・通信 (3)現代世界の貿易	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界における国際的組織（E U等の国際組織）の必要性を理解し、交通・通信、貿易が発達することにより世界が一体化してきていることを理解する ・近隣諸国（中国、ロシア）の研究と、各国と日本との今後の関わりについて考える。 ・資料を地図化するという作業を通して、南北問題等の地球的諸問題を理解し考察する ・さまざまな指標をもとにして、世界全体の区分（分類）方法を学ぶ ・地球全体で考えなければならない諸問題について理解を深め、どのようにすれば解決できるのか考察する <ul style="list-style-type: none"> ①人口・食料問題 ②都市居住問題 ③環境・エネルギー問題 ④民族・領土問題 	中間 考査
	5月	2 近隣諸国の研究 (1)中国の研究 (2)ロシアの研究			
	6月	3 地図化でとらえる現代世界 (1)地図化でわかること (2)地図化と南北問題			
	7月	4 地域区分と現代世界 (1)地域区分の目的と方法 (2)地域区分でとらえる現代世界の課題			期末 考査
	8月	5 人口・食料問題 6 都市居住問題 7 環境・エネルギー問題			
	9月	8 民族・領土問題			
後期	10月	9 演習 資源と産業 都市・村落と生活文化 地域学習		<p>問題練習を通して、地理Bやこの講座の前期に学んだことの理解を深める</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 産業（工業、林業、水産業） 2 都市・村落と生活文化 3 地域学習 <p>地図（世界地図の特徴、地形図の読図、統計地図の読み取りと作成など）</p> <p>各地域の研究（アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ大陸、オセアニア）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 地球的課題の研究（国際組織、通信・交通・貿易、人口・食料問題、環境・エネルギー問題、民族・宗教問題等） 	中間 考査
	11月	(1)地図の学習 (2) アジア・アフリカ (3) ヨーロッパ (4) アメリカ大陸 (5) オセアニア			
	12月	地球的課題 (1) 国家と国家群 (2) 通信・交通・貿易 (3) 人口・食料問題 (4) 環境・エネルギー (5) 民族・宗教問題			
	1月				期末 考査
	2月	自宅学習			
	3月				

系 列	人文国際	教 科	公 民	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	倫理		単位数	2	ブロック 番号	F 2
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人間の内面をいろいろな視点から考察し、「よりよく生きる」ということは何かということ学習します。 ○ 多くの思想家の考え方を学び、その中からなぜその思想家の考え方が多くの人々に受け入れられているのかを考えます。また、自分がどんな点に共感できたかを考えます。 ○ 青年期が人生の中で果たす役割を考え、自分の生き方、あり方考えます。 					
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青年期が人生の中で大きな意義を持っており、そのためには今何をなすべきか考えます。 ○ 多くの先哲の思想を手がかりに自分の今後の生き方をどうすべきなのかを考えます。 ○ 現代社会の特色を捉え、自分の将来と進路を考えます。 					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	教科書『高等学校 新倫理 最新版』(清水書院) 資料集『アプローチ倫理資料』(とうほう) プリント					
評価の観点 評価の方法	<p>(観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 思想、人間の生き方、現代的問題、青年期などの問題に関心を持ち、知識を理解することができるか。また、学んだ知識を活かし、自分の考えを持つことができるか。 ○ 教科書の資料を読むことができるか。 <p>(方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期考査の結果(知識や思考力が身についているか)を基礎とし、提出物の状況、発表表現などを総合的に判断します。 ○ ノートやプリントを整理し提出したかなども参考にします。 					
選択条件	特になし					
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分で考えることが大切な授業ですから、主体的に取り組む姿勢が欲しいです。青年期の特徴、多くの思想家の考え方を知識として理解するだけでなく自分の生き方を考えなければいけません。 ○ 授業に真剣に取り組まないと内容が難しく理解できない、授業についてこれないということもできます。 					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	○ 現代に生きる自己の課題 1 人間とは何か	青年期の意義と自己形成、青年期の課題と生き方、モラトリアム、劣等感、葛藤、欲求の構造、防衛反応、アイデンティティ	中間 考査
	5月	2 青年期の課題と自己形成 ○ 人間としての自覚と生き方 1 人生における哲学		
	6月			
	7月	2 人生における宗教	ユダヤ教思想、キリスト教思想、イスラーム教、仏教	
	8月			
	9月			
後期	10月	3 人生の知恵	中国思想（孔子や孟子）	中間 考査
	11月			
	12月			
	1月	4 人生における芸術	ピカソについて	期末 考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	人文国際	教 科	公 民	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	政治・経済		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治・経済・国際関係に関する事項を学習し、現代の諸問題について考えます。 ・中学校で学習した公民や、1年次で学習した現代社会の内容を基礎として、現代社会における諸問題やその解決方法を学習します。 ・将来、自分たちが生活する社会がどうあるべきかを考え、そのための政治・経済、国際関係について考えます。 					
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治・経済・国際関係に対する関心を持つようにします。 ・政治・経済に関する基礎的な事項を理解するようにします。 ・現代社会のなかで起こっているさまざまな問題を捉え、その背景や解決策について理解し、その解決にあたって自分がどう行動するかを考えるようにします。 ・就職希望者は試験の際に出題される内容が多いのでしっかり学習することが大切です。 ・現在、社会で起こっている諸問題を考え理解します。 					
授業形態	講義					
教科書 使用教材等	教科書〔「改訂版 高等学校 政治・経済」(数研出版)〕 資料集〔2016資料政治・経済〕(清水書院)・プリント					
評価の観点 評価の方法	<p><観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時事的問題について関心を持ち、教師の説明を理解しているかを確認します。 <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果を含め、ノート・提出物の状況、小論文などを含めて総合的に評価します。特に定期考査を重視します。 					
選択条件	特になし					
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、われわれの周りで起こっている問題に対し常に関心を持つことが大切です。知識としての理解だけでなく、さまざまな問題を捉え、自分ならどう解決するかという姿勢を常にもたなければいけません。 ・就職試験で出題される内容が多いので就職を希望する人が望ましいです。 ・説明を聞くだけでなく自分の考え方を持つことが大切です。 ・1年次「現代社会」の内容をより深く学習します。常に自分で考えなければいけません。 					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	第1編 現代の政治 第1節民主政治の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> 政治のはたらき、民主政治の基本原則、民主政治の歩み 民主政治の試練と課題 	中間 考査	
	5月	第2節日本国憲法と民主主義	<ul style="list-style-type: none"> 憲法の基本的性格、基本的人権の保証、憲法の平和主義、国会のしくみと役割、内閣のしくみと役割、裁判所のしくみと人権保障、地方自治 		
	6月	第3節現代政治の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 政党、選挙制度、世論と現代民主政治の課題 		
	7月	第4節国際政治と日本	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会の特質、国際社会と国際法、戦後国際政治の展開 		
	8月	第2編 現代の経済 第1節経済社会の変容	<ul style="list-style-type: none"> 経済主体と経済活動、企業の形態、資本主義経済・社会主義、家計・企業・政府 		期末 考査
	9月				
後期	10月	第2節現代経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済のしくみ、金融のしくみ、財政のしくみ、価格の決定、日銀と金融政策、経済成長と景気変動、戦後日本経済のあゆみ 	中間 考査	
	11月	第3節国民経済と国際経済	<ul style="list-style-type: none"> 貿易と国際収支、国際経済の展開、国際経済における日本 		
	12月	第3編 現代社会の諸課題 第1節現代日本の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展と市民社会、消費者問題と消費者保護、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧の問題、資源・エネルギー問題、公害防止と環境保全、地方分権 		期末 考査
	1月	第2節国際社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の諸問題、核兵器と軍縮、人種・民族問題、発展途上国、経済摩擦、国際社会における日本の役割 		
	2月	自宅学習			
	3月				

系 列	人文国際	教 科	地理歴史	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	世界地誌（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>地理分野に関する基礎的な知識を土台にして、世界の様々な国や地域をとりあげ、政治、経済、産業、宗教、歴史、生活習慣、文化などの様々な分野から研究する科目です。また、各国、各地域が抱えている問題点にも注目し、各地域間のつながりを意識し、世界全体を大きくとらえる視野をもって、学習に取り組みます。講義のみではなく、各自が資料を収集したりして、レポートを作成します。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域について研究する方法を学ぶ。 2 世界の様々な国・地域に関する興味関心を深める。 3 資料を有効に活用する能力や、必要な資料を収集する能力を身につける。 4 世界の様々な国や地域について理解を深め、抱えている問題点を認識し、そこに生活する人びとの苦労や工夫を学ぶ。 5 国際理解と異文化理解を深めるために積極的に行動する姿勢を身につける。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	「2016 データブック・オブ・ザ・ワールド」（二宮書店）、「アトラスワークブック」（二宮書店）、				
評価の観点 評価の方法	<p><評価の観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の国々に対して深い関心を持てたか。 ・ 写真、地図、図表から地理的な情報を読み取り、地図化やグラフ化などの技能をのばすことができたか。 ・ 世界各地の特徴についての基礎的知識を身につけ、民族・環境など世界の諸問題についての理解を深めることができたか。 <p><評価の方法></p> <p>定期考査の結果（知識や思考力が身に付いているか）を基礎とし、提出物の状況、資料作成能力、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	特になし				
選択する上での心得	<p>地理分野の基礎的事項についてある程度理解していることが必要です。また、定期考査のみではなく、レポートの作成、各国・地域に関しての調査活動、資料収集にも重点を置いているため、そのような活動に積極的に取り組む心構えが必要です。</p>				
備考	<p>具体的事例としてとりあげる国、地域については、各国の状況、国際情勢の変化に応じて変更する場合があります。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1 東アジア (1) 中国の自然環境と地域区分 (2) 変化する中国	<ul style="list-style-type: none"> 地域区分の仕方を学ぶ。 近年の中国の変化の様子を中心に東アジアの国々の抱えている問題点について学ぶ。 南アジア地域の抱えている課題について理解を深めます。 アジアの国について学習することを通して、日本がアジアの一員であることをより具体的に認識する。 唯一の超大国といわれるアメリカ合衆国について、民族・文化・農業・工業などについての特徴を学び、なぜ、超大国といわれるようになってきたのか考察する。 ラテンアメリカ諸国の共通点と相違点とについてブラジルを中心に学ぶ。 	中間 考査
	5月	2 南アジア (1) 南アジアの範囲と自然環境 (2) インド		
	6月	3 アングロアメリカ (1) 北アメリカ大陸 (2) 民族と文化 (3) 農業と工業		
	7月			
	8月	4 ラテンアメリカ (1) 南アメリカ大陸の自然 (2) ラテンアメリカの住民と社会 (3) 主要国と産業		期末 考査
	9月			
後期	10月	5 西ヨーロッパ (1) ヨーロッパの自然環境と地域区分 (2) ヨーロッパの統合 (3) ヨーロッパの農業 (4) ヨーロッパの工業	<ul style="list-style-type: none"> 西ヨーロッパ諸国がなぜEU結成に向かっていったのかを理解し、工業・農業など様々な分野で、EUがどのように機能しているのかを学ぶ。 西ヨーロッパ諸国の共通性と相違点について、自然、民族、農牧業、文化、生活習慣等を通して理解する。 農牧業の地域的な違いや世界有数のエネルギー大国であることを理解するとともに、民族問題などの課題にも気づかせる。 2つの国と3つの地域に大別できることを理解し、主要国であるオーストラリアを中心に学ぶ。 	中間 考査
	11月			
	12月			
	1月			6 ロシアと周辺諸国 (1) 旧ソ連の国々 (2) ロシア
	2月	7 オセアニア (1) オセアニアの地域区分 (2) オーストラリアの自然・産業・資源		期末 考査
	3月			

系 列	人文国際	教 科	公 民	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	時事問題研究		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>毎日、私たちは多くのニュースを目にします。しかし、ほとんどのニュースは表面的にしか理解されず、何となく私たちの前を通り過ぎていきます。</p> <p>この授業では、そうしたニュースのうちのいくつかをテーマとして取り上げ、主に地理、歴史、政治・経済の観点から学習します。それぞれのニュースの本質を正しく理解し、そのニュースの原因や今後の社会に与える影響などについても考えていきます。時にはそこから派生する世界や日本の諸問題に話題を広げて、さらに深く掘り下げます。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近年起きた出来事について理解を深め、その背景にあるものを追究する姿勢を育て、社会の動きに対する興味・関心を高める。 2. 現在の日本や世界が抱えている様々な問題についての理解を深め、その背景にあるものを追究する姿勢を育て、日本や世界の諸問題に対する興味・関心を高める。 3. 現代社会の仕組みやその歴史的背景について正しく理解し、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者としての資質を養う。 				
授業形態	講義、グループ活動				
教科書 使用教材等	2016-2017 図解まるわかり時事用語（ニュースリテラシー研究所編著） NHK 等 TV 番組、新聞記事等				
評価の観点 評価の方法	<p>(観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや新聞記事など社会の動きに関心を持ち、問題意識を高めているか。 ・現代の様々な出来事や事象から課題を見出し、その本質や解決のあり方について多面的・多角的に考察し、公正に判断できるか。 ・現代の社会に関わる資料を主体的に選択し読み取って、適切に活用することができるか。 ・現代の社会に関する基本的な事項についての知識を身に付け、諸問題の本質について正しく理解しているか。 <p>(方法)</p> <p>定期考査の結果を基礎とし、授業態度、提出物の状況などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	2年次または3年次のいずれかで履修することができる。				
選択する上での心得	<p>本校独自の科目です。</p> <p>中学校の公民の授業や1年次の現代社会の授業に興味を持った生徒はぜひ選択してください。より深く世の中の仕組みが理解できると思います。また、世の中の仕組みや動きを知って、卒業後社会人として役立てたい、という生徒にもお勧めです。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>以下の内容は平成27年度に実施した学習内容です。 学習順は以下の通りではなく、その時々 の社会情勢に対応しています。 年間を通して「難民」問題が大きく取り 上げられましたので、随時「シリア難民」 や「欧州や日本の難民受け入れ」などを テーマに学習しました。国内問題では、 「セーフティ・ネット」や「ブラックバ イト」、「マイナンバー制度」などタイ ムリーな話題も多く取り上げました。 今後も時々 の社会情勢に対応して学習内容は決定し ますので、以下の内容は学習内容の事 例ととらえてください。</p> </div>			中間 考 査
	5月				
	6月				
	7月	1 日本に関する分野 ・安倍内閣 ・社会保障（新セーフティ・ネット、困 窮者自立支援、等） ・世界遺産登録～軍艦島～	日本の政治・社会に関連する事項 と諸問題について、ニュースや新聞 記事と関連させながら学習する。	期末 考 査	
	8月	・新潟水俣病 50 年 ・労働問題（ブラックバイト、改正 労働者派遣法、中年フリーター の増加）	世界の政治・社会に関連する事項 と諸問題について、ニュースや新聞 記事と関連させながら学習する		
	9月	・18歳選挙権 ・マイナンバー制度			
後期	10月	2 世界に関する分野 ・米・キューバ会談 ・シリア内戦 ・押し寄せる難民 ・サミット ・冷戦の終焉とネット社会	経済に関連する事項と諸問題につ いて、ニュースや新聞記事と関連 させながら学習する。	中間 考 査	
	11月				
	12月	3 経済に関する分野 ・世界牛肉争奪戦 ・バブル景気とは何だったのか	期末 考 査 (3年) 期末 考 査 (2年)		
	1月	4 その他 ・靖国神社 ・戦後 70 年 ・家なき子たちの戦後 ・領土問題			
	2月				
	3月				

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	コミュニケーション英語Ⅱ		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>教科書に沿った授業を展開していきます。扱われる文章の内容は、コミュニケーション英語Ⅰと同様、風俗習慣・物語・エッセー・説明文など幅広く、それらを通して語法・英文法・語句などの基礎的な英語力と、グローバルな「ものの見方・考え方」を育成します。授業では、確かな英語力を身につけるために、サイトトランスレーションやシャドウイングなどの様々な活動も取り入れていきます。また、基礎力養成のために、単語テストなどの小テストを行なっていきます。</p>				
科目の目標	<p>コミュニケーション英語Ⅰで学習したことを、さらに発展させ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的かつ統合的な育成を図ります。また、英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばします。</p>				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・BIG DIPPER English CommunicationⅡ、ワークブック（数研出版） ・Data Base 3000（桐原書店） 				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加状況、出席状況、課題の提出状況・完成度・提出率（関心・意欲・態度） 2 定期試験、単語テスト、単元テスト（知識・理解） 				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<p>積極的に授業に参加しようとする姿勢が重要です。さらに、ワークブックを利用して、復習にもしっかりと取り組むこと。コミュニケーション英語Ⅱ（大）については、大学入試に対応できる力を確実に身につけるために、より発展的な学習に取り組んでもらいます。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季、冬季休業中にも課題が出されます。評価の対象となりますので、しっかり取り組んでください。 ・ 英語検定準2級取得を目標とします。積極的に受験してください。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	Lesson1 Sakura	桜にまつわる意外と知られていない事実 <文法事項> SVC(C=現在・過去分詞) / 復習(5文型) / 復習(現在・過去完了)	中間 考査 夏期 課題 期末 考査
	5月	Lesson2 How Good is Your Memory?	普通の勉強にも役立つ記憶力アップの秘訣 <文法事項> 復習(受動態) / 復習(関係代名詞) / 復習(関係副詞)	
	6月	Lesson3 When East Met West in the Kitchen	3つの洋食から学ぶ, 日本人の外国文化の受 け入れ方 <文法事項> 関係代名詞の継続用法① / SV0, O ₂ (O ₂ =that- 節), 復習(SV0(O=wh-節)) / 時間的順序	
	7月	Lesson4 Space Elevator	エレベーターで宇宙旅行する可能性を考える <文法事項> 関係副詞 where の継続用法 / 未来進行形 / 復習(仮定法過去) / 記事の読み方	
	8月			
	9月	Lesson5 Ueno Takahiro: The Dancer in Me	世界的ダンサーTAKAHIRO の挑戦し続ける姿 勢を学ぶ <文法事項> SVOC(C=過去分詞) / 仮定法過去完了 / 受動態の分詞構文 / 復習(分詞構文)	
後期	10 月	Lesson6 Speaking of Fashion	4人のショートスピーチから学ぶファッショ ン・トリビア <文法事項> 動名詞の意味上の主語/ 関係代名詞の継続用 法②/ 完了不定詞 / 助動詞+have+過去分詞	中間 考査 冬期 課題 期末 考査
	11 月	Lesson7 The Whimsical Robot	星新一著『きまぐれロボット』 <文法事項> 仮定法 as if / 仮定法 If S were to ~ / 推測・予測 / 未知語の推測	
	12 月	Lesson8 The Psychology of Shopping	買い物時における店員と客のかけ引きを心理 学的に検証する <文法事項> 進行形の受動態 / 省略 / 形式目的語(to-不 定詞/that-節) / つなぎ表現	
	1月	Lesson9 A Bridge to the Future for Orangutans	動物たちが自然に生きるために, 私たちにで きること <文法事項> used to / 関係副詞 when の継続用法 / 同格 を表す of, that	
	2月	Lesson10 Floating Education	船を学校にした実例から, 逆境を乗り越える ヒントを学ぶ <文法事項> 未来完了 / SVC(C=that-節) / 無生物主語	
	3月			

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	英語表現 I		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>自分の考えや相手に伝えたい情報を、場面や目的に応じて的確な英語を使って表現する方法を学習します。</p> <p>英語の語順や英語と日本語の表現の違いなど、英語で表現するための基本的なルールを身につけるとともに、読んだり聞いたりした内容を理解し、それについて自分の考えを、学習した表現を活用して相手に伝える活動を行います。</p> <p>表現する際の基礎となる英文法を基礎からていねいに学習することを主眼としました。さらに、読んだり聞いたりしたこと、既に知っていることなどをまとめて発表する活動、短いパラグラフを書く活動も適宜行います。</p>				
科目の目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 与えられた話題について即興で話す。 2 読み手や目的に応じて、簡潔に英文を書く。 3 聞いたり読んだり、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	BIG DIPPER English Expression I (数研出版)				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業に対する予習・復習、課題の提出状況、授業中の参加状況、出席状況 (関心・意欲・態度) 2 定期試験・小テストの成績、課題の完成度 (知識・理解) 				
選択条件	コミュニケーション英語Ⅱ (4単位) を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>大学または専門学校への進学を希望している者を対象とする授業なので、1年次で学習した基本的な英語力を身に付けていることが必要です。授業では、自分の意見などを英語で書いたり話したりする活動が主になります。よって、文法・構文・単語力が重要になってきます。意欲的に英語を学ぼうとする意志が不可欠です。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季、冬季休業中にも課題が出されます。提出が評価に大きく含まれますのでしっかり行なうこと。 ・ 文系の大学に進学を希望している生徒は選択することが望ましい。 ・ 自宅学習の習慣化と受験対策のため、週1回の小テストや各単元の終わりごとに復習テストを実施し、評価に加える予定です。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	< Part 1 > 基本的なルールの習得 Lesson 1 Lesson 2	文法事項 主語 動詞 主語の人称、単数・複数 肯定文・否定文・疑問文 時制（現在・過去／過去進行形） 未来表現 現在完了形／現在完了進行形 助動詞 ① 助動詞 ② 文型 受動態（受け身） 不定詞 ① 不定詞 ② 動名詞 分詞 比較 ① 比較 ② 関係代名詞 関係副詞 仮定法	週1回小テスト
	5月	Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5		Lesson 1-5 復習テスト
	6月	Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10		前期中間考査 Lesson 6-10 復習テスト
	7月	Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13		夏期課題
	8月	Lesson 14 Lesson 15 Lesson 16 Lesson 17		Lesson 11-15 復習テスト
	9月	Lesson 18 Lesson 19 Lesson 20		前期期末考査
	後期	10月		< Part 2 > 効果的な表現のへの活用 Lesson 1 Lesson 2
11月		Lesson 3 Lesson 4 Lesson 5	Lesson 1-5 復習テスト	
12月		Lesson 6 Lesson 7 Lesson 8 Lesson 9 Lesson 10	後期中間考査 冬季課題	
1月		Lesson 11 Lesson 12 Lesson 13	Lesson 6-10 復習テスト	
2月		Lesson 14 Lesson 15 Lesson 16	Lesson 11-15 復習テスト	
3月		Lesson 17 Lesson 18 Lesson 19 Lesson 20	後期期末考査 Lesson 16-20 復習テスト	

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	英語会話		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>原則的に ALT と日本人英語教諭の T・T で行われる授業で、指示などのほとんどが英語です。</p> <p>生徒には、英語でスピーチや物語等を書くような課題が出されます。また、ほかの生徒たちの前で、英語でのスピーチや会話などを発表することになります。このように、発表を通して英語で「聞く」「話す」活動を重視する科目です。</p>				
科目の目標	<p>「英語耳」を養いリスニング力を向上させる。</p> <p><input type="checkbox"/>ALT がスピードやポーズに配慮して話せば、日常生活の身近な話題を理解できたり、おおよその内容を理解できたりする。</p> <p><input type="checkbox"/>スピーチやプレゼンテーションを聞いて、トピックが何であるかを理解することができるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>まとまりのある英語を聞いて要点をつかんだり、トピックを理解できたりする。</p> <p><input type="checkbox"/>＜自分の考えとその理由＞を聞いて内容を理解し、反応することができる。</p> <p>積極的にコミュニケーションを図れるように学習していくことが目標です。</p>				
授業形態	講義の後、主に実技（英語によるスピーチ、プレゼンテーションなど）				
教科書 使用教材等	Hello there! English Conversation（東京書籍）				
評価の観点 評価の方法	定期考査を中心に、ALT との面接や提出物、授業態度などの平常点を加味して評価を行います。				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<p>英語でコミュニケーションを図ることに興味・関心のある者。</p> <p>将来英語を使う、または、日常会話程度の英語が話せるようになることを希望する生徒を対象とします。授業では冒頭からテーマを決めて英語で会話をしたり、前の週から宿題となっているテーマで英作文を発表したりします。授業中は、スピーチやドラマを通してクラスメートの前で英語を話すことになります。また、ALT との 1 対 1 での面接試験を定期的に行います。そのためにも、失敗を恐れず恥ずかしがらずに積極的に挑戦する姿勢や、ALT の先生にアドバイスを頼める姿勢が求められます。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査に ALT との英語による 1 対 1 の面接があります。 夏季休業、冬季休業中にも課題が出されます。提出物は評価に大きく含まれますので、しっかり取り組み必ず提出すること。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等			
前期	4月	自己紹介・友達紹介	<ul style="list-style-type: none"> ●自分を紹介する ●きき返す ●出身地を聞く ●挨拶する ●意味を尋ねる・説明する ●許可を求める・与える ●リストアップする ●方法を聞く 	ALTとのインタビューテスト			
	5月						
	6月	好きなことについて話し合う		<ul style="list-style-type: none"> ●意見を言う ●事柄を並べて説明する ●理由を列挙する ●誘う ●興味・関心を伝える 	中間考査		
	7月	食べ物や健康についての話し合う		<ul style="list-style-type: none"> ●許可を求める/許可するしない ●説明する ●同情する ●事情を理解する ●助言する 	ALTとのインタビューテスト		
	8月						
	9月					などの表現を学ぶ。	期末考査
後期	10月	自分の住む町について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ●出身地を言う ●距離と方角を言う ●場所の特徴を聞く ●自分の聞きたいことを伝える ●注意を促す ●行き方を教える ●場所を示す 	ALTとのインタビューテスト			
	11月	将来について話し合う			<ul style="list-style-type: none"> ●欲求や願望を伝える ●理由を説明する ●同意を求める ●描写する 	中間考査	
	12月			<ul style="list-style-type: none"> ●欲求や願望を伝える ●理由を説明する ●同意を求める ●描写する 	ALTとのインタビューテスト		
	1月						
	2月					などの表現を学ぶ。	期末考査
	3月						

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	英語基礎演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>毎時間、英文法に関して知っておくべきことについての講義と、その内容の演習を行ないます。英文法の知識だけではなく、様々な基礎的文法問題の演習を通して、入試に対応できる応用力をつけていきます。</p>				
科目の目標	<p>英文法を中心に学習する科目です。大学や各種専門学校等、進学に必要な英文法の基礎や、英文を読むために必要な英文法・慣用表現などを、演習を通して学習し、身につけていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な英文法を習得する。 2 大学・各種専門学校受験に対応できる応用力をつける。 3 単語力をつける。 4 教科書の例文を暗記する。 5 学習した文法の知識を活用し英作文をする。 				
授業形態	講義、演習				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ be New Edition English Grammar 23 (いっずな書店) ・ 総合英語 New Edition be (いっずな書店) ・ Data Base 3000 (桐原書店) 				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への参加状況、出席状況、課題の提出状況・完成度・提出率 (関心・意欲・態度) 2 定期試験、単語テスト、確認テスト (知識・理解) 				
選択条件	コミュニケーション英語Ⅱ (4単位) と同時履修すること				
選択する上 での心得	<p>英語基礎演習は文法に特化した授業です。扱う文法の多くはコミュニケーション英語Ⅰでも学習していますが、この授業では特に問題演習を通して英文法を再確認します。さらに、大学や各種専門学校等で頻出される問題に対応できる力を養います。かなり多くの問題に取り組み、構文等も暗記することになりますので、そのことをしっかり意識した上で選択すること。 受講者は、復習に力を入れて学習してください。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では(確認、単語)テストを実施します。出題範囲を確認し、各自勉強しておく必要があります。成績に反映されます。 ・ 夏季休業、冬季休業中にも課題が出されます。提出物は評価に大きく含まれますので、しっかり取り組み必ず提出すること。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	Lesson1 Basic1 Basic2	英語の語順（1） 名詞・冠詞・代名詞 動詞	確認 テスト 中間 考査 夏期 課題 期末 考査
	5月	Lesson2 Basic3 Basic4 Lesson3 Basic5	英語の語順（2） 形容詞・副詞 前置詞・接続詞 文の種類 否定文・疑問文	
	6月	Lesson4 Lesson5 Lesson6 Lesson7 Supplement	時制（1） 時制（2） 完了形（1） 完了形（2） 時制	
	7月	Lesson8 Lesson9	助動詞（1） 助動詞（2）	
	8月	Supplement	助動詞	
	9月	Lesson10 Supplement Lesson11 Lesson12 Lesson13	受動態 受動態 不定詞（1） 不定詞（2） 不定詞（3）	
後期	10月	Lesson14 Lesson15 Supplement Lesson16 Lesson17	動名詞（1） 動名詞（2） 不定詞・動名詞 分詞（1） 分詞（2）	確認 テスト 中間 考査 冬期 課題 期末 考査
	11月	Supplement Lesson18 Lesson19 Lesson20 Supplement	準動詞 関係詞（1） 関係詞（2） 関係詞（3） 名詞の後置修飾	
	12月	Lesson21 Lesson22 Supplement	比較（1） 比較（2） 比較	
	1月	Lesson23 Supplement Further Study1	仮定法 仮定法 代名詞	
	2月	Further Study2 Further Study3 Further Study4	接続詞 構文（1） 構文（2）	
	3月	Further Study5	話法	

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	コミュニケーション英語Ⅲ		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>教科書に沿った授業を展開していきます。特に英文を読むための様々な方法を身につけ、「読む力」をつけるために、まとまりのある文章を読んで、そこから必要な情報を得たり、書き手の考えなどを理解したりします。また、文章の概要や要点をまとめ、それについての自分の考えを発表したり、物語文などを読んで感想を話したり、書いたりもします。その他、文章の内容や自分の解釈が、聞き手に伝わるように読むための音読の練習も行っていきます。</p> <p>また基礎力定着のために、単語テストなどの小テストを毎週行なっていきます。</p>				
科目の目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。</p> <p>具体的には、必要な情報の読み取り方や、文章を読んで全体的な意味や大まかな論理の流れをつかむこと。そして、全体の中で書き手が伝えたかった内容をつかめるようにすることです。</p>				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	Vivid English CommunicationⅢ、ワークブック、 総合英語 be New Edition、Data Base 3000 4th Edition				
評価の観点 評価の方法	<p>1 授業への出席状況、参加状況、課題の提出状況・完成度・提出率 (関心・意欲・態度)</p> <p>2 定期試験、単語テスト、単元テスト (知識・理解)</p>				
選択条件	2年次にコミュニケーション英語Ⅱ(4単位)を履修していること				
選択する上 での心得	<p>コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱの言語活動を更に発展させて行う授業なので、基本的な英語力を身につけていることが必要です。また、かなり量のある英文を数多く読んでいくことになるので、食欲に英語を学ぼうとする意欲と姿勢が不可欠です。さらに、1文1文を読めるようになることはもちろんですが、文章レベルで作者の主張を読み取ることに力を入れて行うこととなりますので、文章を要約する力も必要になってきます。コミュニケーション英語Ⅲ(大)については、大学入試に対応できる力を確実に身につけるために、より発展的な学習に取り組んでもらいます。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業中・冬期休業中ともに課題が出されます。評価の対象となりますので、しっかり取り組んでください。 英語の語彙力や表現力を高め、家庭学習の習慣化を図るため、毎週小テストを実施します。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	Get Ready1 Get Ready2 Get Ready3 Get Ready4 Get Ready5	<ul style="list-style-type: none"> 意味のまとまりで区切って理解しよう 代名詞が指す内容に注意して読もう つなぎの語句に注意して読もう パラグラフの主題分を見つけよう 文章の構成を考えよう 	毎週単語テスト等実施
	5月	Lesson 1 Happy Nations	<ul style="list-style-type: none"> ・コスタリカとブータンを例に、幸福であることについて考えます。 A. 助動詞+have+過去分詞 B. 独立不定詞 	
	6月	Lesson 2 "Gamification" Games May Save the World	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活の中で、ゲームの考え方がさまざまな分野に利用されています。 A. 省略 B. 無生物主語 	中間 考査
	7月	Lesson3 Spider Silk Spun into Violin Strings	<ul style="list-style-type: none"> ・クモの糸でできたバイオリンの弦とはどのようなものでしょうか。 A. 代動詞 B. 部分否定 	夏期 課題
	8月	Lesson4 A Girl Goes on Dancing	<ul style="list-style-type: none"> ・第40回ローザンヌ国際バレエコンクールで優勝した菅井田加さんの活躍。 A. 完了形（受け身） B. 分詞構文（過去分詞） 	
	9月			
後期	10月	Lesson5 Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話をリサイクルすることとアフリカのゴリラにはどのような関係があるのでしょうか。 A. It is said that... B. 比較級+and+比較級 	中間 考査
	11月	Lesson6 Gagaku, the Music of the Universe	<ul style="list-style-type: none"> ・東儀秀樹さんの日本と日本文化に対する考え方と、彼が演奏する雅楽の魅力。 A. 分詞構文（完了形） B. 関係副詞の非制限用法 	
	12月	Lesson7 Etymology: Wonders of Words	<ul style="list-style-type: none"> ・語の起源にまつわる興味深い話を読んでみましょう。 A. 文修飾副詞 B. 準否定語 	冬期 課題
	1月	Lesson8 A Lesson from Steve Jobs' Life	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年に他界した Steve Jobs の生き様は、私たちに何を教えてくれるのでしょうか。 A. more A more B B. 強調構文 	期末 考査
	2月	Lesson9 Water: The Biggest Problem in the Century Lesson10 A Lucky Child	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の水危機に対して、私たちは何をすべきでしょうか。 A. 未来のことを表す仮定法 B. if it were not for... 	
	3月		<ul style="list-style-type: none"> ・ホロコーストの悲劇を生き延びた Tommy 少年の体験を通じて、第二次世界大戦と平和について考えます。 A. have+0+過去分詞 B. as if +仮定法 	

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	英語表現Ⅱ		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>相手に伝えたい情報や自分の考えを、場面や目的に応じて、的確な英語を使って書く練習をします。また、効果的に相手に伝えられるように、論理的に書く方法や、英文法・英語特有の語順を理解して、自分の表現したいことを正確に書ける方法を学習します。</p> <p>さらに、毎時間英文法についての知っておくべきことについての講義とその内容の演習を行います。英文法の知識だけでなく、大学入試に使われたものから基礎的な問題まで様々な英文法問題の演習を通して、入試に対応できる応用力をつけていきます。</p>				
科目の目標	<p>情報や自分の考えを、場面や目的に応じて、的確な英語を使って書く能力をつけていきます。また、それをコミュニケーションに役立てられるように学習していくことが目標です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英文を論理的に書く能力を養う。 2 英語と日本語の構造(語順)の違いを理解して、正確に書く能力を身につける。 3 すでに学習した文法事項の再確認と、それを効果的に使って英文を書く能力を養う。 <p>英文法の学習における目標は以下の2つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学・各種専門学校受験に対応できる応用力をつける。 2 英語基礎演習で学んだ基礎的な英文法を再確認し様々な問題を通じて英文法の力をさらに向上させる。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	未定				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業に対する予習・復習、課題の提出状況、授業中の参加状況、出席状況(関心・意欲・態度) 2 定期試験・小テストの成績、課題の完成度(知識・理解) 				
選択条件	2年次に英語Ⅱ(4単位)と英語基礎演習を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>大学または専門学校への進学を希望している者を対象とする授業なので、1・2年次で学習した基本的な英語力を身に付けていることが必要です。授業では、自分の意見などを英語で書く活動が主になります。よって、文法・構文・単語力が重要になってきます。意欲的に英語を学ぼうとする意志が不可欠です。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏季、冬季休業ともに課題が出されます。提出が評価に大きく含まれますのでしっかり行なうこと。 ・ 4年制大学の英語系学部に進学を希望している生徒が望ましい。 ・ 自宅学習の習慣化と受験対策のため、英文法問題集からの小テストを週1回行い評価に加えます。 <p>* 2年次総合選択科目の英語基礎演習同様に問題演習を中心に学習していきます。ただし、基礎演習で行なうことの復習も兼ねるため、基本的なことの説明は省くことがあるので、自分自身で分からないところは調べつつ授業に臨むことが必要です。</p>				

	月	単元／題材	学習内容		定期考 査等
前期	4月	テキスト（未定） 実施例 <u>Part I 英語のしくみをより深く知ろう</u>	文法 <u>(英語総合演習に準じる)</u>	ライティング <u>文法事項</u>	(週1回 小テスト)
	5月	Unit 1 英語表現 I の復習 1 英語表現 I の復習 2	① 基本事項の確認 ② 時制	時制、助動詞、受動態 の復習と発展	中間 考査
	6月	Unit 2 英語表現 I の復習 3	③ 完了形	不定詞、動名詞の復習 と発展	夏期 課題
	7月	英語表現 I の復習 4 Unit 3	④ 助動詞	比較表現、関係詞、仮 定法、否定表現の復習 と発展	
	8月	英語表現 I の復習 5 英語表現 I の復習 6	⑤ 受動態		
	9月	Unit 4 英語表現 I の復習 7	⑥ 不定詞 ⑦ 動名詞 ⑧ 分詞	重要構文の学習	期末 考査
後期	10月	<u>Part II パラグラフを書いてみよう</u> ▶Get Ready	⑨ 比較	<u>パラグラフ・ライティング</u>	(週1回 小テスト)
	11月	▶異文化を紹介しよう ▶動物の休息パターン ▶世界の住居を比較しよう ▶森林破壊の原因結果 ▶海外旅行者数の推移	⑩ 関係詞	▶パラグラフとは ▶「例示・列挙」 ▶「分類」 ▶「比較・対照」 ▶「原因・結果」 ▶「分析」 ▶エッセイとは何か	中間 考査
	12月	▶Essay Writing	⑪ 仮定法		冬期 課題
		<u>Part III ディベート、ディスカッションをしてみよう</u>	⑫ 疑問文	<u>ディスカッション、デ イベート</u>	
	1月	▶Get Ready ▶Discussion ▶Debate	⑬ その他の重要 事項	▶ディスカッション、 ディベートとは	期末 考査
	2月	自宅学習	自宅学習		
	3月				

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	英語総合演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>毎時間英文法についての知っておくべきことについての講義とその内容の演習を行ないます。英文法の知識だけでなく、大学入試に使われたものから基礎的な問題まで様々な英文法問題の演習を通して入試に対応できる応用力をつけていきます。</p>				
科目の目標	<p>英文法を中心とした学習をする科目です。英文を読むために必要な英文法はもちろん、それまで学んできた英語基礎演習・コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱなどで学んだ基礎文法を復習しながら、実際の入試問題などの演習を通してそれに対応できる応用力をつけていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大学・各種専門学校受験に対応できる応用力をつける。 2 英語基礎演習で学んだ基礎的な英文法を再確認し様々な問題を通じて英文法の力をさらに向上させる 3 暗唱例文を100文暗記する。 				
授業形態	講義、演習				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・書いて覚えるパターンプラクティス Practice 英文法道場 (桐原書店) ・Vintage 英文法・語法 New Edition (いいずな書店) ・総合英語 be New Edition (いいずな書店) ・暗唱例文100 				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①授業への出席状況、授業に対する予習や課題の提出状況、授業中の参加状況 (関心・意欲・態度) ②定期試験・課題テストの成績、課題の完成度、授業中の発言 (理解の能力、知識・理解) 				
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次に「コミュニケーション英語Ⅱ」と「英語基礎演習」を履修していること ・「コミュニケーション英語Ⅲ」と同時履修すること。 (「英語表現Ⅱ」との同時履修はできない。) 				
選択する上 での心得	<p>客観的問題を中心に、多くの問題形式を通じて今まで学んできた文法事項の総復習と問題形式の英文法に対応できるよう徹底的に勉強する科目です。予習復習はもちろん、かなりの量を暗記することが要求されます。もちろん試験だけでなく、普段の授業に対する取り組み方や、課題の提出なども重要ですので大学入試などの試験に本気で取り組む姿勢を持つことが必要です。日頃から、復習をして一度学習した問題は忘れないようにしてください。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休業・冬期休業ともに課題が出されます。提出が評価に大きく含まれますのでしっかり行なうこと。 ・大学や短大に進学希望している生徒は選択することが望ましい。 ・自宅学習の習慣化と受験対策のため英文法問題集からの小テストを週に1回行い評価に加えます。 <p>*2年次総合選択科目の英語基礎演習同様に問題演習を中心に学習していきます。ただし、基礎演習で行なうことの復習もかねるので、基本的なことの説明は省くことがあるので、自分自身で分からないところは調べ授業に臨むことが必要。また、問題数も英語基礎演習よりも多くなります。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	① 時制	基本時制として過去形、進行形、未来を表す表現について基本事項を確認し、応用力をつけます。	確認テ スト(毎 時間) 中間 考査 夏期 課題 期末 考査
	5月	② 完了形	現在完了、現在完了進行形、過去完了、未来完了について例題を通して復習と問題演習をします。	
	6月	③ 助動詞	can、must、should、ought to、had better、would、used to などについて例題を通して助動詞の復習と応用を学習します。	
	7月	④ 受動態	基本的な受動態、群動詞を含む受動態、進行形の受動態、第4・5文型の受動態、by以外の前置詞を用いる受動態について様々な応用問題を通して応用力をつけます。	
	8月	⑤ 不定詞	不定詞の3用法、結果を表す副詞的用法、疑問視＋to不定詞、It is to構文、SV0不定詞、否定語の位置、慣用表現、使役動詞、知覚動詞などを理解し、問題が解けるように学習します。	
	9月	⑥ 動名詞	基本的な動名詞の用法、動名詞の意味上の主語・否定・受動態、重要表現など、様々な語句のもつパターンを学習します。	
後期	10月	⑦ 分詞	現在分詞の限定用法、分詞構文などについて基礎から応用まで学びます。	
	10月	⑧ 比較	比較の基本事項を確認し、倍数表現、序列表現、劣等比較、応用表現、差と強調、書き換えについて問題演習を通して学びます。	確認テ スト(毎 時間)
	11月	⑨ 関係詞	関係詞の基本事項について確認し、目的格の省略、所有格、前置詞＋関係代名詞、限定用法と継続用法について応用問題に対応できるように学習します。	中間 考査
	12月	⑩ 仮定法	仮定法過去、仮定法過去完了、wishを用いた願望を表す表現、as if、慣用表現について基本事項を確認してから応用まで学びます。	冬期 課題
	1月	⑪ 話法	直接話法と間接話法について基本事項を確認し、様々な文における書き換えができるよう学習します。	期末 考査
	2月			
	3月			

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	英語会話上級		単位数	4	ブロック 番号	
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>原則的に ALT と日本人英語教諭の TT で、指示説明はほとんど英語で行われます。また毎回の ALT からの課題など「英語会話」(2単位)で行なうことや、目標としていることに以下のことが加わります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Speech などまとまりのある話の要点を聞き取り、それについて自分の考えをまとめる。 2 幅広い話題について情報や考えを整理し、効果的に発表 (Speech) する。 3 幅広い話題について話し合ったり (Discussion) 討論したり (Debate) する。 4 スキットなどを創作したり、演じたり (Drama) する。 					
科目の目標	<p>幅広い話題について、情報や考えなどを整理して英語で発表したり話し合ったりする能力をつけていきます。また、積極的にコミュニケーションを図れるように学習していくことが目標です。具体的には Speaking・Listening 能力といった英語の力だけでなく、自分の意見をどのように作り出し、論理的に組み立て、効果的に相手に伝えたり、聞き取ったりするコミュニケーション能力をつけることです。</p>					
授業形態	主に講義時に実技 (英語によるスピーチ、ディスカッション、ディベート、ドラマなど)					
教科書 使用教材等	未定					
評価の観点 評価の方法	<p>コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行う「意欲と態度」を評価します。また、幅広い話題についての考えを英語で発表・話し合う「表現能力」、相手の英語を聞いて理解しようとする「理解能力」、英語の言語運用についての「知識」を、総合的に判断して評価します。</p>					
選択条件	2年次に英語会話 (2単位) を履修していること。					
選択する上 での心得	<p>将来英語を使う、または、自分の意見を英語で言えるようになることを希望し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を対象としています。自分自身のことや、社会問題、文学、文化などについての意見を英語で説明し、相手の話を理解した上で、筋道を立てて議論できるようになることを目標としています。毎時間英語を聞き取り、スピーチやディスカッション、ディベートを通して自分の意見を論理的に話すことが多くなります。また、ALTとの1対1での面接試験を定期的に行うので、積極的に話そうとする姿勢と英語力が必要になります。</p>					
備考	<p>英語でコミュニケーションを図ることに興味・関心のある者。</p> <p>将来英語を使う、または、日常会話程度の英語が話せるようになることを希望する生徒を対象とします。授業では冒頭からテーマを決めて英会話をしたり、前の週から宿題となっているテーマ英作文を発表したりする。授業中は、スピーチやドラマを通してクラスメートの前で英語を話すこととなります。</p> <p>また、ALTとの1対1での面接試験を定期的に行います。そのためにも、失敗を恐れず恥ずかしくせずに積極的に挑戦する姿勢や、ALTの先生にアドバイスを頼める姿勢が求められます。</p>					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	自己紹介 自己表現と質問の仕方	自己紹介 質疑応答の仕方	中間考査
	5月	Unit 1-4 Money	・お金についての表現	
	6月	travel and tourism	・旅行で使用する表現	
		Food and drink	・食事などについての表現	
	7月	Entertainment	・娯楽で使用される表現	
		Unit5-8 health	・健康についての表現	
	8月	Self-improvement In the city	・自己についての表現 ・町で使われる英語表現	
9月	Customs	・習慣 などにおける表現を学ぶ。	期末考査	
後期	10月	Unit 9-12 Famous people	・有名人について ・家族について	中間考査
	11月	Home, sweet home Then and now The future	・過去、現在、将来について	
	12月	Unit13-16 Communication tasks	・コミュニケーションについて などにおける表現を学ぶ。	期末考査
	1月			
	2月	自宅学習		
	3月	自宅学習		

系 列	人文国際	教 科	英語	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	異文化理解		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>(授業について)</p> <p>教科書・資料を使った授業に加え、様々なアクティビティを通して文化とは何か？異文化に対するの自分たちの意識はどうか？異文化理解をし、国際交流をするためにはどうしていかなければならないかなどを考えていきます。</p> <p>この授業は、道具としての英語を学ぶことに加え、自分の意見をしっかり出せることを重視します。</p>				
科目の目標	<p>英語で書かれた書物を読むこと、また、英語を道具として使うことを通して外国の人々の生活や風俗習慣、地理・歴史、科学などについて学習します。また、外国の事情や異文化について知識を単に増やすだけではなく、日本文化との相違や類似性、異文化の背景となっている価値観やものの見方、考え方などについて考察を深めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語を通して外国の事情や異文化について理解を深める。 2 異文化をもつ人々と積極的にコミュニケーションを図るための能力や態度の基礎を養う。 3 英語による実際のコミュニケーションを通して異文化に対する認識を高める。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書（『英語百科』（大修館書店））・その他				
評価の観点 評価の方法	<p>(評価観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国について関心を持ち、日本文化との相対関係において異文化を理解できたか。 ・ 異文化を持つ人々の行動様式や考え方などに配慮する能力や態度を養えたか。 ・ 英語の理解力及び表現力を活用し、自分の意見を相手に伝える能力を伸ばせたか。 <p>(評価基準)</p> <p>基本としては毎時間のレポートとプレゼンテーションのでき具合を以下のような基準で成績として重視します。定期テストの評価と同じくらいの割合で考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これがわかった・知った というレベル……………C ・ 上記の評価Cに加え感想・感触・予測がついたレベル……B ・ 上記の評価Bに加え自分なりの具体的提案がある場合A 				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<p>評価の観点でも述べたように、定期テストはもちろんのこと、各授業で問われることに対し、自分の意見を論理的に考え、効果的に発表することも要求される科目です。また、他の英語の科目と異なり、“英語”を学ぶのではなく、“英語”をコミュニケーションや文化比較のための道具として活用することに力をおきます。英語を使って伝える内容である“自分の意見”を常に持って授業に臨んで下さい。</p>				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏期休業・冬期休業ともに課題が出されます。提出が評価に大きく含まれます。 ・ 東日本国際大学との連携授業が年10回（予定）行なわれます。その際の交流授業で1,000円程度徴収する予定です。 ・ 年間計画にある学習テーマは、順番が入れ替わる事があります。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	オリエンテーション ・自分たちは何者なのか？ ・文化について ・身近な文化の違い テーマ1	異文化理解年間計画を知り、この授業のねらいと 予定を知ります。 その後、1年を通じてさまざまなテーマの下に映像や アクティビティを通じて考えていきます。	中間 考 査	
	5月	「ALT文化紹介」 ・ALTの出身国の文化を知る テーマ2 「バファバファ」 ・ゲームを通して異文化を体験する	テーマ1 ALTの出身国の様々な文化について英語で学 び、自国の文化との相違と共通点について考えます。 テーマ2 異文化とは何なのか。実際に異文化を体験し、異 文化理解の際に必要な事は何なのかを考えます。		
	6月	テーマ3 「世界一大きな授業」 ・世界の教育の現状を知る	テーマ3 世界中で一斉に行われる授業に参加し、様々なア クティビティを通して教育について学び、私たちに できる事を考えます。		
	7月	テーマ4 「高大連携授業①中国」 ・東日本国際大学の教授による中国 の歴史、文化などについての授業 ・留学生との交流	大学教授による専門的な講義を通して、中国と日本 の関係を学びます。学んだ事を活かしながら、最後 の授業では実際に中国からの留学生との交流を行いま す。		
	8月	夏期休業中の宿題	JICA エッセイコンテストのためのエッセイ		夏期課題
	9月		*毎時間振り返りレポートが課されます。 *毎回のレポートの提出期限は授業の週の水曜ま で。その期限が過ぎると、レポート点は0点になり ます。		期末 考 査
後期	10月	テーマ5 「高大連携授業①韓国」 ・東日本国際大学の教授による韓国 の歴史、文化などについての授業 ・留学生との交流	テーマ5 大学教授による専門的な講義を通して韓国と日本 の関係を学びます。学んだ事を活かしながら、最後 の授業では実際に韓国からの留学生との交流を行いま す。	中間 考 査	
	11月				
	12月				
	1月	テーマ6 「日本文化発表とメディア」 ・英語での日本文化紹介 ・メディアによる報道の違い	テーマ6 これまで学んだ事を活かし、世界との相違点や類似 点に着目しながら英語で発表を行います。また、A LTとの質疑応答を通して、英語でのコミュニケー ション能力を高めます。	冬期 課 題	
	2月	テーマ8 「テーマ別研究と安全について」 ・世界の安全事情について知る ・各自テーマを決めまとめ、発表	テーマ8 世界に出る際に気を付けるべきこと、情報収集の仕 方を学びます。 それをもとに各自興味のある地域について調べ、発 表します。		
	3月		*上記は平成27年度の2年次生の場合 です。		期末 考 査

系 列	人文国際	教 科	外国語	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	中国語（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	中国語の発音、単語、文法を学習し、身近な話題について中国語でコミュニケーションを図るために必要な基礎的能力を習得します。また、中国の文化や歴史について知り、中国に暮らす人々について理解を深めます。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 中国語の基礎的な発音、単語、文法について理解する。 2 初歩的な中国語について相手の意向を理解し、自分の考えなどを伝える能力を身に付ける。 3 中国語を通じて中国を積極的に理解しようとする意欲を高める。 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「中国語 はじめの一步」（白水社） ・授業で配布するプリント 				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 中国語について積極的に関心を持ち、基礎を理解できたか。 2 習得した知識を活用し、コミュニケーションに必要な態度、能力を養えたか。 3 中国の文化や歴史について知り、中国に対する理解を一層深められたか。 				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前期は、中国語の基礎を徹底的に学習し、後期は応用に入ります。 ○ 言葉だけでなく中国の文化・習慣・歴史・音楽なども授業で触れていくので、興味・関心を持って積極的に授業に臨んでください。 ○ 授業だけでは言葉は身に付きません。授業中に学習したことを家庭学習で復習することが大切です。 ○ 発音の基本となるピンインは前期に必ず暗記する事になります。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業中の板書も重要ですので、ノートの準備をすること。 ○ 授業中にプリントを配布することが多いので、ファイルも準備すること。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期 考査等
前期	4月	ウォーミングアップ 発音 第1課	<ul style="list-style-type: none"> 中国の地理・歴史・民族・文化について学ぶ。 中国語の特徴、方言について知り、複雑な発音を身につける。 ピンインについて学ぶ。 人称代名詞 “是”の文 	中間 考査
	5月	第2課	<ul style="list-style-type: none"> 指示代名詞（1） 疑問詞疑問文 “的”の用法（1） 副詞 	
	6月	第3課	<ul style="list-style-type: none"> 動詞の文 「所有」を表す“有” 省略疑問の「～は？」の使い方 	
	7月	第4課	<ul style="list-style-type: none"> 量詞 指示代名詞（2） 形容詞の文 “几”“多少”の使い方 	
	8月	第5課	<ul style="list-style-type: none"> 数字 日付・時刻を表す語 「動作の時点」を言う表現 	
	9月	第6課	<ul style="list-style-type: none"> 完了を表す“了” 所在を表す“在” 助動詞（1）“想” 	期末 考査
後期	10月	第7課	<ul style="list-style-type: none"> 介詞（1）“在” 存在を表す“有” 反復疑問文 	中間 考査
	11月	第8課	<ul style="list-style-type: none"> 時間量を表す語 助動詞（2）“得” 介詞（2） 	
		第9課	<ul style="list-style-type: none"> 過去の経験を表す表現 是～的の文 介詞（3） 	
	12月	第10課	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞（3）“能”“会” 動作の様態を言う表現 動詞のかさね型 	期末 考査
	1月	第11課	<ul style="list-style-type: none"> 動作の進行を表す表現 選択疑問文 目的語を文頭に出す表現 	
	2月	第12課 自宅学習	<ul style="list-style-type: none"> 比較の表現 的の用法（2） 	
	3月		<ul style="list-style-type: none"> ◎ 年間を通じてピンインの発音を繰り返し行い、発音に慣れるようにする。 ◎ 随時、中国について様々な話題が出されるので、各自ノートにまとめておくこと。 	

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	第1章 式と証明	1. 整式の乗法と因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式の乗法・除法 5. 分数式の加法・減法 6. 恒等式 7. 等式の証明 8. 不等式の証明	中間考査	
	5月	整式の乗法・除法および分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。			
	6月				
	7月	第2章 複素数と方程式			
	8月	方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことおよび因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。			
	9月				期末考査
後期	10月	第3章 図形と方程式	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の平行と垂直 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 軌跡 8. 不等式の表す領域 9. 連立不等式と領域	中間考査	
	11月	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。			
	12月				
	1月				
	2月				期末考査
	3月				

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講 座 名	△数学Ⅱ* (3年次)		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>三角関数 …… 数学Ⅰで学ぶ三角比を関数として扱います。回転するもの・振動するもの・波や波動を表すには欠かせない関数です。</p> <p>指数・対数 …… 複雑な複利計算や非常に大きな数の計算を精密に行うために考えだされた関数です。科学技術の発展に非常に貢献しました。三角関数等と合わせて初等関数といいます。</p> <p>微分・積分 …… 高校数学のメインともいえる分野です。微分を学べば関数を精密に分析することができます。積分は図形の面積・体積を測る方法を与えてくれます。</p>				
科目の目標	三角関数・指数関数・対数関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
授 業 形 態	講義・演習・確認テスト				
教 科 書 使用教材等	教科書：最新 数学Ⅱ (数研出版)				
評価の観点 評価の方法	<p>◎積極的な姿勢で授業に取り組んでいるか…… 【関心・意欲・態度】</p> <p>◎自ら考えて課題を解決しようとしているか… 【思考・判断】</p> <p>◎計算や作図に工夫を凝らしているか…………… 【技能・表現】</p> <p>◎定期考査・確認テスト…………… 【知識・理解】</p> <p>提出物等を総合的に判断して評価します。</p>				
選 択 条 件	△数学Ⅱ* (2年次) を履修すること。				
選択する上での心得	4単位の数学Ⅱよりは余裕を持って学習しますが、週1回の授業なので計画的な学習が必要になります。(数学Ⅰの内容がベースになります。)				
備 考	<p>2・3年次で2単位ずつ分割履修します。</p> <p>数学Ⅱを進学のための受験科目等として考えている生徒は、4単位の数学Ⅱを履修することが非常に望ましい。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等		
前期	4月	第5章 指数関数と対数関数	1. 指数法則 2. 指数関数とそのグラフ 3. 対数 4. 対数の性質 5. 対数関数とそのグラフ 6. 常用対数 1. 平均変化率と微分係数 2. 導関数 3. 微分法の公式 4. 接線 5. 関数の増減 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小	中間考査		
	5月	指数関数および対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。				
	6月	第6章 微分法と積分法				
	7月	微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。				
	8月					
	9月				期末考査	
後期	10月	第4章 三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数および三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	8. 方程式・不等式への応用 9. 不定積分 10. 不定積分の計算 11. 定積分 12. 定積分の性質 13. 面積 1. 一般角 2. 弧度法 3. 三角関数 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 6. 三角関数を含む方程式、不等式 7. 加法定理 8. 加法定理の応用 9. 三角関数の合成	中間考査		
	11月					
	12月					
	1月				期末考査	
	2月					(自宅学習)
	3月					

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	数学Ⅱ		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>式と証明 …… n 次方程式の解法を学びます。また式の証明の初歩的な技法を学びます。</p> <p>複素数と方程式 …… 方程式について理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張します。高次方程式の解法を学びます。</p> <p>図形と方程式 …… いろいろな図形を、方程式を使って表す事を学びます。定規とコンパスを使っていた幾何学とはまた違ったものになります。(精密に計算ができる)</p> <p>三角関数 …… 数学Ⅰで学ぶ三角比を関数として扱います。回転するもの・振動するもの・波や波動を表すには欠かせない関数です。</p> <p>指数・対数 …… 複雑な複利計算や非常に大きな数の計算を精密に行うために考えだされた関数です。科学技術の発展に非常に貢献しました。三角関数等と合わせて初等関数といいます。</p> <p>微分・積分 …… 高校数学のメインともいえる分野です。微分を学べば関数を精密に分析することができます。積分は図形の面積・体積を測る方法を与えてくれます。</p>				
科目の目標	<p>高次方程式・式と証明・図形と方程式・三角関数・指数・対数・微分・積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p>				
授業形態	講義・演習・確認テスト				
教科書 使用教材等	<p>教科書：最新 数学Ⅱ (数研出版)</p> <p>問題集：3ROUND 数学Ⅱ (数研出版)</p>				
評価の観点 評価の方法	<p>積極的な姿勢で授業に取り組んでいるか (関心・意欲・態度)、自ら考えて課題を解決しようとしているか (思考・判断)、計算や作図・証明に工夫を凝らしているか (技能・表現)、定期考査・確認テスト (知識・理解)、提出物等を総合的に判断して評価します。</p>				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<p>数学Ⅱは、数学Ⅰと比べると等式の証明・様々な関数・新しい計算 (微分積分) など次々と新しい事が出てくる科目です。進度も速いので、予習・復習をしっかりと行うことが必要です。特に復習を中心に勉強することが大切です。</p>				
備考	<p>大学・看護医療系専門学校を希望する場合は、△数学Ⅱ (2・3年次) ではなく、この科目を履修するのが望ましい。 特に受験で数学Ⅱを利用する場合はこの科目を履修すること。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1章 式と証明 整式の乗法・除法および分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	1. 整式の乗法と因数分解 2. 二項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式の乗法・除法 5. 分数式の加法・減法 6. 恒等式 7. 等式の証明 8. 不等式の証明	中間考査
	5月			
	6月	第2章 複素数と方程式 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことおよび因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	1. 複素数 2. 2次方程式の解と判別式 3. 解と係数の関係 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式の解法	
	7月			期末考査
	8月	第3章 図形と方程式 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の平行と垂直 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 軌跡 8. 不等式の表す領域 9. 連立不等式と領域	
	9月			
後期	10月	第5章 指数関数と対数関数 指数関数および対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1. 指数法則 2. 指数関数とそのグラフ 3. 対数 4. 対数の性質 5. 対数関数とそのグラフ 6. 常用対数	中間考査
	11月			
	12月	第6章 微分法と積分法 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	1. 平均変化率と微分係数 2. 導関数 3. 微分法の公式 4. 接線 5. 関数の増減 6. 関数の極大・極小 7. 関数の最大・最小 8. 方程式・不等式への応用 9. 不定積分 10. 不定積分の計算 11. 定積分 12. 定積分の性質 13. 面積	
	1月			期末考査
	2月			

	3月	<p>第4章 三角関数</p> <p>角の概念を一般角まで拡張して，三角関数および三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般角 2. 弧度法 3. 三角関数 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 6. 三角関数を含む方程式，不等式 7. 加法定理 8. 加法定理の応用 9. 三角関数の合成 	
--	----	--	--	--

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	数学Ⅲ		単位数	6	ブロック 番号
科目の概要	<p>皆さんは登山の経験はありますか？ 苦しい辛い思いをして頂上にたどり着き、周りを眺めるとその景色の「美しさ」に登っていた間の苦しさも忘れ、達成感を覚えます。それに近い感覚を数学で体感できるのが高校数学の集大成と言える科目「数学Ⅲ」なのです。</p> <p>「数学Ⅲ」では、それまでに学んだいろいろな関数（初等関数という）と数学における種々の性質（微分積分を中心とした定理や公式など）を統合的に学ぶこととなります。これによって今まで別々に学んできた数学の各範囲の「つながり」が見え、また理解も深まるので数学の「美しさ」の一端に触れることが出来ます。</p>				
科目の目標	<p>「数学Ⅱ」の「微分と積分」と「数学B」の「数列」の内容を中心に、問題を取り扱う範囲を初等関数全般にまで広げ、より一層深化させます。</p> <p>極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てます。</p>				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	<p>教科書：最新 数学Ⅲ （数研出版）</p> <p>問題集：3 ROUND 数学Ⅲ （数研出版）</p>				
評価の観点 評価の方法	<p>進路を意識して授業に取り組んでいるか（関心・意欲・態度）、自ら考えて課題を解決しようとしているか（思考・判断）、計算や作図に工夫を凝らしているか（技能・表現）、定期考査（知識・理解）等を総合的に判断して評価します。</p>				
選択条件	2年次に「数学Ⅱ（4単位）」・「数学A」を履修していること				
選択する上 での心得	<p>理系大学希望者は選択することが望ましい。</p> <p>特に数学を必要とする、例えば理学部の数学科や物理学科、工学部の機械工学科や電気・電子工学科などなどを志望している生徒は必ず選択して欲しい科目です。</p> <p>「数学Ⅲ」の選択を希望する場合、2年次の「数学Ⅱ（4単位）」・「数学A」については出来ればブロック表上で<u>（理）付きの講座を選択して下さい。</u></p>				
備考	<p>「数学Ⅲ」が必要になるかどうかは、各大学の一般受験をする際の受験科目に指定されているかどうかでも判断できますので、志望する大学・学部等を調べてください。</p> <p>いずれにせよ理系学部の場合は大学入学後にもっとレベルの高い講義を受けなければならないので、高校で「数学Ⅲ」の授業を受けておくことを薦めます。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1章 複素数平面	1. 複素数平面 2. 複素数の和と差 3. 複素数の極形式 4. ド・モアブルの定理 5. 複素数と平面図形	中間考査
	5月	第2章 式と曲線	1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 曲線の媒介変数表示 7. 極座標と極方程式 8. コンピュータといろいろな曲線	
	6月			
	7月	第3章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	
	8月	第4章 極限	第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 極限の計算 3. 無限等比数列 4. 無限級数 第2節 関数の極限 5. 関数の極限 6. いろいろな関数の極限 7. 関数の連続性	
	9月			期末考査

後期	10月	第5章 微分法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微分係数と導関数 2. 積・商の導関数 3. 合成関数と逆関数の微分法 4. 三角関数の導関数 5. 指数関数の導関数 6. 対数関数の導関数 7. 第n次導関数 8. x、yの方程式で定められる関数の導関数 9. 媒介変数で表された関数の導関数 	中間調査
	11月	第6章 微分法の応用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の増減 4. 関数の極大・極小 5. 関数の最大・最小 6. 関数のグラフ 7. 不等式の証明 8. 速度と加速度 	
	12月	第7章 積分法とその応用	<p>第1節 不定積分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 <p>第2節 定積分</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 定積分とその基本性質 5. 定積分の置換積分法と部分積分法 6. 定積分の応用 <p>第3節 積分法の応用</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 面積 8. 体積 9. 速度と道のり 10. 曲線の長さ 	
	1月			
	2月		(自宅学習)	
	3月			

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	数学 A		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>数学を学習する上で 基礎・基本 となる科目です。</p> <p>学習テーマは大きく3つあり、中学校で学習してきた分野をさらに深く学びます。</p> <p>《場合の数と確率》下の問題のように日常生活により近い事柄について学びます。 ▼ 8個のケーキから2個選ぶとき、選び方は何通りありますか。 ▼ 3人でじゃんけんをするとき、1人だけが勝つ確率を求めよ。</p> <p>《図形の性質》三角形や円についての性質や定規とコンパスだけによる作図のしかた、また空間図形についても学びます。</p> <p>《整数の性質》ユークリッドの互余法、不定方程式など、数学の基本となる整数の性質について学習します。</p> <p>★★ 科目のしぼりで取れない生徒以外は、全員選択してほしい科目です ★★</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎・基本的な知識の習得と数学に対する興味関心を高める。 2. 事柄を数学的に考察し処理する能力を養う。 3. 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 4. 新たな課題の解決に数学を活用していこうとする態度を身につける。 (* ツール[道具]として数学を扱えることに気付き活用できる) 				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書：最新 数学A (数研出版) 問題集：3ROUND 数学A (数研出版)				
評価の観点 評価の方法	積極的な姿勢で授業に取り組んでいるか【関心・意欲・態度】、 自ら考えて課題を解決しようとしているか【思考・判断】、 計算や作図・証明に工夫を凝らしているか【技能・表現】、 定期考査【知識・理解】等を総合的に判断して評価します。				
選択条件	3年次に「数学基礎演習」「数学総合演習」「数学B」「数学Ⅲ」のいずれかを履修する者は必ず履修すること。				
選択する上 での心得	2単位(週1回)の授業なので、計画的な学習が必要になります。				
備考	◎数学の基礎を確立するために履修することが非常に望ましい。 ◎入試で頻出のため、進学希望者(大学・看護・医療系専門学校)は履修すること。 ○公務員希望者は履修することが望ましい。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1章 場合の数と確率	第1節 場合の数 1 集合 2 集合の要素の個数 3 樹形図、和の法則 4 積の法則 5 順列 6 円順列と重複順列 7 組合せ 第2節 確率 1 確率の意味 2 確率の計算 3 確率の基本性質 4 和事象の確率 5 余事象の確率 6 独立な試行の確率 7 反復試行の確率 8 条件付き確率	中間考査
	5月			
	6月			
	7月			期末考査
	8月			
	9月			
後期	10月	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 1 角の二等分線と比 2 三角形の外心、内心、重心 3 三角形の辺の比と角 4 円周角の定理 5 円に内接する四角形 6 円と接線 7 接線と弦の作る角 8 方べきの定理 9 2つの円 10 作図 11 線分の長さで作図	中間考査
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月	第3章 整数の性質	1 約数と倍数 2 整数の性質の活用	期末考査

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	数学B		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>数学Ⅱの発展として大学（国公立及び理系）進学希望者を対象にした科目で、主にベクトル、数列について学習します。</p> <p>ベクトルとは、向きと大きさをもつ量のことです。たとえば力や速度などが代表的です。ここでは、平面上のベクトル、空間のベクトルについて学びます。</p> <p>また、規則性をもつ数の列に着目したものが、ここで学ぶ数列です。$1 + 2 + 3 + \dots + n$の和がnの簡単な式で表されること等を学びます。</p>				
科目の目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てることが目標です。				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書：最新 数学B （数研出版） 問題集：3 ROUND 数学B（数研出版）				
評価の観点 評価の方法	進路を意識して授業に取り組んでいるか（関心・意欲・態度）、自ら考えて課題を解決しようとしているか（思考・判断）、計算や作図に工夫を凝らしているか（技能・表現）、定期考査（知識・理解）等を総合的に判断して評価します。				
選択条件	2年次に「数学Ⅱ」と「数学A」を履修していることが望ましい。				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2単位（週1回）の授業なので、計画的な学習が必要になります。 ・ 2年次で「数学Ⅱ」を履修していることが望ましい。 				
備考	大学進学希望者は、「数学B」を履修することが望ましい。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第1章 平面上のベクトル	第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの和 3. ベクトルの差 4. ベクトルの実数倍 5. ベクトルの成分 6. ベクトルの成分と演算 7. ベクトルの内積 8. ベクトルの平行・垂直 9. 内積の性質 第2節 ベクトルと平面図形 10. 位置ベクトル 11. ベクトルと図形 12. ベクトル方程式	中間考査
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
	9月	第1節 数列とその和 1. 数列 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	期末考査	
後期	10月	第2章 空間ベクトル	6. 和の記号 Σ 7. 自然数の2乗の和 8. いろいろな数列の和 9. 階差数列 第2節 漸化式と数学的帰納法 10. 漸化式と一般項 11. 数学的帰納法 1. 空間の座標 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分と演算 4. ベクトルの内積 5. 位置ベクトル 6. 空間図形への応用	中間考査
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月		「自宅学習」	

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	数学基礎演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p><u>就職希望者・数学に興味のある者</u>を対象に、問題演習を中心として行う科目です。</p> <p>就職試験に対応するため、教養的な数学の学習や数学 I・A の基本的な問題の演習を行います。</p>				
科目の目標	<p>一般教養的な数学、数学 I の復習・問題演習を中心に、就職試験に対応できる力を育成することが目標です。</p>				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	ベストステップ数学 I・A (中部日本教育文化会)				
評価の観点 評価の方法	<p>積極的な姿勢で授業に取り組んでいるか (関心・意欲・態度)</p> <p>自ら考えて課題を解決しようとしているか (思考・判断)</p> <p>様々な視点から解法を導いているか (技能・表現)</p> <p>定期考査 (知識・理解)</p> <p>等を総合的に判断して評価します。</p>				
選択条件	2年次に「 数学A 」を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>自分の進路について明確な目標を持っている人が選択してください。</p> <p>数学が大学入試等で必要な場合は「数学総合演習」の方を選択してください。</p> <p><u>「数学基礎演習」の方は一般教養的な内容や、基礎的な内容が含まれていますので、進学には向きません。</u></p>				
備考	<p>注意 「数学基礎演習」と「数学総合演習」は同時に履修できません。</p> <p>ブロック表の見方 「数学総合演習」・・・大学進学者、看護医療系希望者向け 「数学基礎演習」・・・・・・就職希望者、数学に興味のある者向け</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	数学的計算に関する問題 (講義・演習)	実数の計算	中間考査	
	5月		比と歩合		
	6月		整式		
	7月		関数とグラフ		
	8月		1次方程式		
	9月		2次方程式		期末考査
後期	10月	論理的思考力に関する問題 (講義・演習)	不等式	中間考査	
	11月		図形と計量		
	12月		面積・体積		
			集合・場合の数		
			確率		
	1月		文章題		期末考査
	2月		(自宅学習)		
3月					

系 列	自然科学	教 科	数学	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	数学総合演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>大学・看護医療系進学希望者を対象に、問題演習を中心として行う科目です。</p> <p>大学や看護医療系専門学校への進学のため、数学Ⅰ・Aを中心に標準的な問題の演習を行います。</p>				
科目の目標	<p>●大学進学・看護医療系進学希望者 数学Ⅰ・Aを中心に復習と問題演習を行い、入学試験に対応できる力を養う。</p>				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書：				
評価の観点 評価の方法	<p>積極的な姿勢で授業に取り組んでいるか (関心・意欲・態度) 自ら考えて課題を解決しようとしているか (思考・判断) 様々な視点から解法を導いているか (技能・表現) 定期考査 (知識・理解) 等を総合的に判断して評価します。</p>				
選択条件	2年次に「 数学Ⅱ (4単位) 」と「 数学A 」を履修していること。				
選択する上 での心得	自分の進路について明確な目標を持っている人が選択してください。				
備考	<p>注意 「数学基礎演習」と「数学総合演習」は同時に履修できません。</p> <p>ブロック表の見方 「数学総合演習」・・・大学進学者、看護医療系希望者向け 「数学基礎演習」・・・・・・就職希望者、数学に興味のある者向け</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	数学 I (講義・演習)	数と式	中間考査	
	5月		2次関数		
	6月				
	7月		図形と計量		
	8月				
	9月		データの分析		期末考査
後期	10月	数学 A (講義・演習)	場合の数と確率	中間考査	
	11月		図形の性質		
	12月		整数の性質		
	1月		数学 I・A総合演習 (入試対策)		期末考査
	2月		(自宅学習)		
	3月				

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	化学		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>無機物質の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>有機化合物の性質や反応を観察、実験などを通して探究し、有機化合物の分類と特徴を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p>				
科目の目標	<p>化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「化学」(啓林館) ・図 説「改訂版 フォトサイエンス化学図録」(数研出版) ・問題集「改訂版 リードα化学基礎+化学」(数研出版) 				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①化学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の成績、ノート・レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末及び年度末に評価を行う。 				
選択条件	3年次に「応用化学」を履修すること。				
選択する上 での心得	<p>四年制大学の理系、看護・医療系専門学校への進学を希望する者。 「化学基礎」との関連を図りながら、さらに学習を進めていくので、事前に「化学基礎」の内容を理解・整理しておくことが大切です。 3年次では、理科演習(化学)を選択することが望ましい。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第2部 物質の変化と平衡 第2章 化学反応と電気エネルギー	○化学基礎の酸化・還元の復習から、電池の仕組みや電気分解について学習し、電極での反応は酸化還元反応であることを再確認する。また、ファラデーの法則についても学習する。	中間考査
	5月	第1部 物質の状態と平衡 第1章 物質の状態変化	○分子間力や化学結合と関連付けて状態変化について学習する。気液平衡や蒸気圧についても学習する。	
	6月	第2章 気体の性質 第3章 固体の構造	○気体に関する諸法則について学習する。	
	7月	第4章 溶液の性質	○固体の結晶格子の概念と結晶の構造について学習する。	
	8月	第2部 物質の変化と平衡 第1章 化学反応と熱・光エネルギー	○溶解度と溶解平衡、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧について学習する。	期末考査
	9月		○熱化学方程式、ヘスの法則、結合エネルギーについて学習する。	
後期	10月	第3章 反応速度 第4章 化学平衡	○反応速度の表し方や反応速度に影響を与える要因について学習する。 ○化学平衡の法則、ルシャトリエの原理、pHおよび電離平衡について学習する。	中間考査
	11月	第3部 無機物質 第1章 非金属元素と周期表	○典型元素の単体と化合物の性質や反応について、周期表と関連付けて学習する。	
	12月	第2章 典型金属元素 第3章 遷移元素	○遷移元素の単体と化合物の性質や反応について学習する。	
	1月	第4章 生活と無機物質 第4部 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と構造	○無機物質が、その特徴を生かして人間生活の中でどのように利用されているかを学習する。 ○アルカン、アルケン、アルキンの構造、性質及び反応について学習する。異性体についても学習する。	期末考査
	2月	第2章 脂肪族炭化水素 第3章 酸素を含む脂肪族化	○アルコール、エーテル、カルボニル化合物、カルボン酸、エステル等について学習する。 ○芳香族炭化水素、フェノール類、芳香族カルボン酸、芳香族アミンについて学習する。	
	3月	第4章 芳香族化合物	○糖類、アミノ酸、医薬品、染料、洗剤等、人間生活の中で利用されている有機化合物について学習する。	
		第5章 生活と有機化合物		

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	生 物		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>生物や生物現象を広く取扱い、生物学的に探究する能力や、原理・法則の理解を深めていく科目です。</p> <p>(1) 生命現象と物質…生命現象を支えるタンパク質や核酸の働き及び代謝 (2) 生物の環境応答…生物個体が外界の変化を感知し、反応する仕組み (3) 生態と環境…生物の個体群および生態系の構造や変化の仕組み (4) 生物の進化と系統…生物界の多様性と系統について</p>				
科目の目標	<p>生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	教科書「生物」(数研出版) 図 説「三訂版スクエア最新図説生物」(第一学習社) 問題集「リードL i g h t ノート生物」(数研出版)				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①生物学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p> 				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	<p>四年制大学の理系学部及び、看護・医療系専門学校への進学を希望する者。 一年次で履修した「生物基礎」の上にさらに学習を進めていくので、生物基礎の内容を整理しておくことが大切です。 3年次では、理科演習(生物)を選択することが望ましい。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	○生命現象と物質 ◇細胞と分子	●細胞小器官の構造と構成物質について学習する。 ・生体物質と細胞 ・生命現象とタンパク質	中間考査
	5月	◇代謝		
	6月			
	7月	○生物の環境応答 ◇動物の反応と行動	●刺激に対する神経興奮の仕組みや、行動について学習する。 ・ニューロンとその興奮 ・刺激の受容と反応 ・情報の統合 ・動物の行動	
	8月			
	9月			
後期	10月	◇植物の環境応答	●刺激に対する植物の反応について学習する。 ●植物がホルモンを用いて成長の調節をしていることを学習する。 ●花芽形成と発芽の条件を学習する。 ●捕食被食関係や種内競争、社会性などについて学習する。 ・個体群 ・生物群集	中間考査
	11月	○生態と環境		
	12月	◇個体群と生物群集	●生態系に入るエネルギーの循環について学習する。 ・生態系の物質生産 ・生態系と生物多様性	
	1月	◇生態系		
	2月			
	3月	○生物の起源と進化		●生命の起源と進化の仕組みについて学習する。

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	物理		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>物理的な事物・現象についての観察、実験などを行いながら学習をする科目です。</p> <p>○様々な運動…平面内の運動と剛体のつり合い、運動量、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動</p> <p>○波 …波の伝わり方、音、光</p> <p>○電気と磁気…電気と電流、電流と磁界</p> <p>○原子 …電子と光、原子と原子核</p>				
科目の目標	<p>物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	教科書「物理」(数研出版) 問題集「エクセル物理[総合版]」(実教出版)				
評価の観点 評価の方法	<p>・評価の観点…</p> <p>①物理学的に探究する能力・態度が身についたか。</p> <p>②基本的概念や原理・法則が理解できたか。</p> <p>③科学的な自然観が身についたか。</p> <p>④授業に熱心に取り組んだか。</p> <p>・評価の方法…</p> <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p>				
選択条件	2年次に「物理基礎」を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>四年制大学の理学系・工学系分野に進学を希望する者。</p> <p>数学Ⅱを履修し、基本的な数学の実力を有していることが望ましい。</p> <p>問題集等を活用した自主的な学習や、「物理基礎」についての復習が不可欠です。論理的な思考力や数学的な計算力を必要とし、家庭学習を怠ると単位修得は難しくなりますので、その点を注意してください。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	様々な運動 1. 平面内の運動と剛体のつり合い 2. 運動量 3. 円運動と単振動 4. 万有引力 5. 気体分子の運動	○曲線運動の速度などがベクトルで表されること、斜法投射、剛体のつり合いを学ぶ ・曲線運動の速度と加速度 ・斜法投射 ・剛体のつり合い ○物体が、衝突や分裂する際の運動量、力積、運動量の保存などを学ぶ ・運動量と力積 ・運動量の保存 ・はね返り係数 ○円運動、単振動など物体に働く力の大きさや向きが一定でない運動について学ぶ ・円運動 ・単振動 ○万有引力による物体の運動について、その規則性を学ぶ ・惑星の運動 ・万有引力 ○気体の法則、微視的な立場から見た物質の熱的な性質及び気体についての熱力学第一法則を学ぶ ・気体分子の運動と圧力 ・気体の内部エネルギー ・気体の状態変化 ○水面波、音や光などの波動現象について、波の伝わり方や干渉、回折などを学ぶ ・波の伝わり方とその表し方 ・波の干渉と回折	中間考査
	5月			
	6月			
	7月			
	8月			
	9月	波 1. 波の伝わり方 2. 音 3. 光	○音の干渉、回折、ドップラー効果について学ぶ ・音の干渉と回折 ・音のドップラー効果 ○光の伝わり方、回折、干渉などを学ぶ ・光の伝わり方 ・光の回折と干渉 ○電気と電流について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電荷と電界 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電気回路 ○電流が作る磁界、電磁誘導、交流、電磁波について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電流による磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・電磁誘導 ・電磁波 ○電子の電荷と質量、電子や光が粒子性と波動性を持つことを学ぶ ・電子 ・粒子性と波動性 ○原子の構造、原子核を学ぶ ・原子とスペクトル ・原子核 ・素粒子	期末考査
後期	10月	電気と磁気 1. 電気と電流 2. 電流と磁界	○音の干渉、回折、ドップラー効果について学ぶ ・音の干渉と回折 ・音のドップラー効果 ○光の伝わり方、回折、干渉などを学ぶ ・光の伝わり方 ・光の回折と干渉 ○電気と電流について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電荷と電界 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電気回路 ○電流が作る磁界、電磁誘導、交流、電磁波について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電流による磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・電磁誘導 ・電磁波 ○電子の電荷と質量、電子や光が粒子性と波動性を持つことを学ぶ ・電子 ・粒子性と波動性 ○原子の構造、原子核を学ぶ ・原子とスペクトル ・原子核 ・素粒子	中間考査
	11月			
	12月	原子 1. 電子と光 2. 原子と原子核	○音の干渉、回折、ドップラー効果について学ぶ ・音の干渉と回折 ・音のドップラー効果 ○光の伝わり方、回折、干渉などを学ぶ ・光の伝わり方 ・光の回折と干渉 ○電気と電流について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電荷と電界 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電気回路 ○電流が作る磁界、電磁誘導、交流、電磁波について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電流による磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・電磁誘導 ・電磁波 ○電子の電荷と質量、電子や光が粒子性と波動性を持つことを学ぶ ・電子 ・粒子性と波動性 ○原子の構造、原子核を学ぶ ・原子とスペクトル ・原子核 ・素粒子	期末考査
	1月			
	2月	自宅学習	○音の干渉、回折、ドップラー効果について学ぶ ・音の干渉と回折 ・音のドップラー効果 ○光の伝わり方、回折、干渉などを学ぶ ・光の伝わり方 ・光の回折と干渉 ○電気と電流について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電荷と電界 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電気回路 ○電流が作る磁界、電磁誘導、交流、電磁波について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ ・電流による磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・電磁誘導 ・電磁波 ○電子の電荷と質量、電子や光が粒子性と波動性を持つことを学ぶ ・電子 ・粒子性と波動性 ○原子の構造、原子核を学ぶ ・原子とスペクトル ・原子核 ・素粒子	期末考査
	3月			

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	地 学		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>地学的な事物・現象についての講義・実験・実習を主体とした科目です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地球の大きさ、地磁気、地層、岩石、プレートを中心とした「地球内部の構造、地震・火山などの地球の諸活動に関すること」 ○ 地球誕生から現在までの歴史を中心とした「地形の形成と生命の進化に関すること」 ○ 地球上の「水のはたらきと海洋の構造および気象現象に関すること」 ○ 太陽を中心とした「太陽系・宇宙に関すること」 				
科目の目標	<p>地学的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。</p>				
授業形態	講義・実験・実習				
教科書 使用教材等	教科書「地学」(啓林館) 問題集「センサー地学」(啓林館) 図説「スクエア最新図説地学」(第一学習社)				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①地学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… 定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。 				
選択条件	2年次に「地学基礎」を選択していること。				
選択する上 での心得	<p>四年制大学の理系への進学を希望する者。 2年次の「地学基礎」との関連を図りながら、さらに学習を進めていくので、事前に「地学基礎」の内容を理解・整理しておくことが大切です。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 地球の概観 ○地球の形状	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形と重力 地球の磁気 	中間考査
	5月	○地球の内部	<ul style="list-style-type: none"> 地球内部構造 地震波の伝わり方と内部構造 地球内部の状態と物質 温度、密度、圧力、組成 	
	6月	2 地球の活動と歴史 ○地球の活動	<ul style="list-style-type: none"> プレートテクトニクス 成立過程 地震と地殻変動 プレートの境界での地殻変動 火成活動 マグマの発生と分化 火成岩の形成 変成作用と変成岩 造山運動 	
	7月			
	8月			
	9月	○地球の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 地表の変化と地形の形成 地層の観察と地殻変動 地球環境の変遷 日本列島の成り立ち 	
後期	10月	3 地球の大気と海洋 ○大気の構造と運動	<ul style="list-style-type: none"> 大気の組成と構造 大気の運動と気象 大循環と対流による現象 日本と世界の気象 	中間考査
	11月	○海洋と海水の運動	<ul style="list-style-type: none"> 海洋の構造 海水の組成と海洋の構造 海水の運動 海洋と大気の相互作用 	
	12月	4 宇宙の構造 ○太陽系	<ul style="list-style-type: none"> 地球の自転と公転 太陽系天体とその運動 太陽の活動 	
	1月			期末考査
	2月	○恒星と銀河系	<ul style="list-style-type: none"> 恒星の性質と進化 銀河系の構造 	
	3月	○銀河系と宇宙	<ul style="list-style-type: none"> 様々な銀河 膨張する宇宙 現代の宇宙像 	

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	理科演習 (物理)		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>物理に関する問題演習を主体とした科目です。物理基礎の基本的な内容の復習や、物理の発展問題、模擬試験、入試などの問題を自分で解き、授業で解答、解説を聴いて学力を高め、応用力をつけます。</p>					
科目の目標	<p>発展的な問題演習に取り組むことにより、物理基礎で学習した内容への理解を深め、物理に関する知識の習得と技術の習熟を図ることによって、物学的に考察し処理する能力を高める。</p>					
授業形態	問題演習・講義・実験					
教科書 使用教材等	教科書「リードLight ノート物理基礎」(数研出版)					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①物学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。 					
選択条件	2年次に「物理基礎」を履修していること。					
選択する上での 心得	<p>四年制大学の理系や工学系の進学を希望する者。 この授業は、2年次に履修する「物理基礎」の内容を中心に、問題演習を繰り返しながら定着させますので、並行して履修する「物理基礎」の内容が理解されていないと修得が難しくなります。「物理基礎」の復習をしっかりと行ってください。また、3年次で学ぶ「物理」の内容を一部学習します。</p>					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	○<物理基礎分野> 物体の運動 1. 運動の表し方 ・身のまわりの物体の運動 ・速度 ・加速度	○左記の各題材について選択された適切な問題を解答する。更に解説を受け定着を図る。 ○適宜、実験を行う。	中間考査
	5月	2. 力 ・様々な力 ・力のつりあい ・作用と反作用		
	6月	3. 運動の法則 ・慣性の法則 ・物体の落下運動		
	7月	エネルギー 1. 運動とエネルギー ・運動エネルギーと位置エネルギー ・力学的エネルギー保存の法則		
	8月	2. 熱とエネルギー ・熱と温度 ・熱と仕事		
	9月	・気体の法則と分子運動		
後期	10月	3. 波 ・波の性質 ・光 ・音 ・ドップラー効果	○左記の各題材について選択された適切な問題を解答する。更に解説を受け定着を図る。 ○適宜、実験を行う。 ○物理の問題演習、問題分析を行う。	中間考査
	11月	4. 電気 ・電流 ・電気抵抗 ・電気の利用		
	12月	5. エネルギーとその利用 ・さまざまなエネルギー ・日常生活と物理 ・物理学の未来		
	1月	○<物理分野> 1. 平面内の運動と剛体のつり合い 2. 運動量 3. 円運動と単振動		
	2月	4. 万有引力		
	3月	5. 気体分子の運動		

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	理科演習 (化学)		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>化学に関する演習や化学の時間で行うことのできなかつた内容を適宜実施する科目です。化学の理論分野の内容を中心に学習し、入試に対応できる応用力を高めます。また、化学基礎や化学の既習事項の復習を行ったり、化学基礎や化学の時間で行うことのできなかつた実験・実習等も適宜実施したりすることもあります。実験・観察に関連するレポート作成を行ってもらうこともあります。</p>					
科目の目標	<p>発展的な内容や問題演習に取り組むことにより学習内容への理解を深め、入試に対応できる応用力を高める。また、化学に関する知識の習得と技術の習熟を図ることによって化学的に考察し処理する能力を高める。</p>					
授業形態	講義・問題演習・実験					
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 2年次に使用していた教科書「化学」を使用 + 2年次に使用していた化学図説(資料集)を使用 ・問題集 2年次に「化学」で使用していた問題集を使用 					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①化学に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p> 					
選択条件	3年次に「応用化学」を履修していること。					
選択する上 での心得	<p>四年制大学の理系、看護医療系専門学校への進学を希望する者。 「化学」の理論分野の内容を中心に授業を行うため、しっかりと理解しようとする粘り強い姿勢が必要になります。</p>					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	<化学分野講義> 物質の変化と平衡 1. 化学反応と熱・光エネルギー	○ 反応熱と熱化学方程式 ○ 光とエネルギー ○ ヘスの法則	中間考査 期末考査
	5月			
	6月	3. 反応速度	○ 反応の速さ ○ 化学反応と触媒	
	7月	4. 化学平衡	○ 化学平衡とその移動 ○ 電離平衡	
	8月			
	9月			
後期	10月	<化学分野演習> 無機物質	○左記の各題材について選択された適切な問題を解答する。更に解説を受け定着を図る。 ○適宜、実験を行う。	中間考査
	11月			
	12月	<化学基礎分野演習> 物質の構成		
	1月	物質の変化		期末考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	自然科学	教 科	理科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	理科演習 (生物)		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	生物に関する問題演習を主体とした科目です。生物基礎の基本的な内容の復習や、生物の発展問題、模擬試験、入試などの問題を自分で解き、授業で解答、解説を聴いて学力を高め、入試に対応できる応用力をつけます。					
科目の目標	発展的な問題演習に取り組むことにより、生物基礎、生物で学習した内容への理解を深め、生物に関する知識と思考力を習得することによって、生物学的に考察し処理する能力を高める。					
授業形態	問題演習・講義					
教科書 使用教材等	教科書「三訂版スクエア最新図説生物」(第一学習社) 問題集「スタディアップノート生物基礎」(数研出版)					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①生物学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。 					
選択条件	2年次に「生物(4単位)」を履修すること。					
選択する上 での心得	四年制大学の理系学部及び、看護医療系専門学校への進学を希望する者。 この授業は、多くの問題を解きながら「生物基礎」、「生物」の内容を定着させていく科目です。様々な問題に直面しても自分で解こうとする粘り強い姿勢が必要になります。					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	<生物基礎分野> ○生物の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・生物の共通性と多様性 ・細胞とエネルギー 	○生物基礎・生物の復習を行う。 ○大学・短大・専門学校等の入試を意識した問題演習を行う。	中間考査 期末考査
	5月	○遺伝子とその働き <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報とDNA ・遺伝情報の分配 ・遺伝情報とタンパク質の合成 		
	6月	○生物の体内環境とその維持 <ul style="list-style-type: none"> ・体内環境 ・体内環境の維持のしくみ ・免疫 		
	7月	○生物の多様性と生態系 <ul style="list-style-type: none"> ・植生と遷移 ・気候とバイオフィーム ・生態系と物質循環 ・生態系のバランスと保全 		
	8月			
	9月			
後期	10月	<生物分野> ○生命現象と物質 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞と分子 ・代謝 ・遺伝情報の発現 	○生物基礎・生物の復習を行う。 ○大学・短大・専門学校等の入試に対応した問題演習を行う。	中間考査 期末考査
	11月	○生殖と発生 <ul style="list-style-type: none"> ・有性生殖 ・動物の発生 ・植物の発生 		
	12月	○生物の環境応答 <ul style="list-style-type: none"> ・動物の反応と行動 ・植物の環境応答 		
	1月	○生態と環境 <ul style="list-style-type: none"> ・個体群と生物群集 ・生態系 		
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	応用物理		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>「物理基礎」及び「物理」で学習した内容を更に発展させて、観察や実験を行いながら特に以下の分野について学習（演習）する科目です。</p> <p>○電気と磁気…（電場、電流、電流と磁場、電磁誘導と電磁波） ○原子…電子と光、原子と原子核</p>				
科目の目標	2年次に学んだ「物理基礎」及び3年次に履修する「物理」の内容を深化させ、物理的に探究する能力と態度を高め、科学的な自然観を育成する。				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	教科書「リードLight ノート物理」（数研出版）				
評価の観点 評価の方法	<p>・評価の観点…</p> <p>①物理学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。</p> <p>・評価の方法…</p> <p>定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。</p>				
選択条件	「物理」を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>四年制大学の理学系・工学系分野に進学を希望する者。 数学Ⅱを履修し、基本的な数学の実力を有していることが望ましい。 問題集等を活用した自主的な学習や、「物理基礎」「物理」についての復習が不可欠です。論理的な思考力や数学的な計算力を必要とし、家庭学習を怠ると単位修得は難しくなりますので、その点を注意してください。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	電気と磁気 1. 電気と電流	<p>○電気と電流について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電荷と電界 ・電界と電位 ・コンデンサー ・電気回路 <p>○電流が作る磁界、電磁誘導、交流、電磁波について、概念や原理、法則を系統的に学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電流による磁界 ・電流が磁界から受ける力 ・電磁誘導 ・電磁波 	中間考査	
	5月				
	6月	2. 電流と磁界			
	7月				
	8月				
	9月				期末考査
後期	10月	原子 1. 電子と光	<p>○電子の電荷と質量、電子や光が粒子性と波動性を持つことを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子 ・粒子性と波動性 <p>○原子の構造、原子核を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子とスペクトル ・原子核 ・素粒子 	中間考査	
	11月				
	12月	2. 原子と原子核			
	1月				
	2月				自宅学習
	3月				

系 列	自然科学	教 科	理 科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	応用化学（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>化学的な事物・現象について観察・実験を行いながら学習をする科目です。</p> <p>○無機物質・・・非金属元素、典型金属元素、遷移元素、他</p> <p>○有機化合物・・・脂肪族炭化水素、酸素を含む脂肪族化合物、芳香族化合物、他</p> <p>○高分子化合物・・・合成高分子化合物、天然高分子化合物、生活と高分子化合物</p>				
科目の目標	1年次に学んだ「化学基礎」及び2年次に履修する「化学」の内容を深化させ、化学的に探究する能力と態度を高め、科学的な自然観を育成する。				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 2年次に使用していた教科書「化学」を使用 + 化学総合資料（実教出版） ・問題集 2年次に「化学」で使用していた問題集を使用 				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①化学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… <ul style="list-style-type: none"> 定期考査の成績、ノート・レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。 				
選択条件	「化学」（4単位）履修者は必ず選択すること。 この科目を履修した場合、3年次の理科演習（化学）も履修することが望ましい。				
選択する上 での心得	四年制大学及び、四年制大学理系、看護・医療系専門学校への進学を希望する者。 「化学基礎」「化学」との関連を図りながら、さらに学習を進めていくので、事前にこれらの内容を理解・整理しておくことが大切です。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	無機物質 1. 非金属元素と周期表 2. 典型金属元素 3. 遷移元素 4. 生活と無機物質	○ 周期表と元素の性質 ○ 水素と希ガス ○ ハロゲンとその化合物 ○ 酸素・硫黄とその化合物 ○ 窒素・リンとその化合物 ○ 炭素・ケイ素とその化合物 ○ アルカリ金属とその化合物 ○ 2族元素とその化合物 ○ アルミニウム・亜鉛などとその化合物 ○ 遷移元素の特徴 ○ 金属イオンの分離と確認 ○ 金属の利用 ○ セラミックス	中間考査
	5月			
	6月			
	7月			
	8月	有機化合物 1. 有機化合物の特徴と構造 2. 脂肪族炭化水素 3. 酸素を含む脂肪族化合物	○ 有機化合物の特徴と分類 ○ 有機化合物の分析 ○ 飽和炭化水素 ○ 不飽和炭化水素 ○ アルコールとエーテル ○ アルデヒドとケトン ○ カルボン酸とエステル	期末考査
	9月			
後期	10月	4. 芳香族化合物	○ 芳香族炭化水素 ○ 酸素を含む芳香族化合物 ○ 窒素を含む芳香族化合物 ○ 有機化合物の分離 ○ 医療品 ○ 染料と洗剤 ○ 糖類とアミノ酸	中間考査
	11月	5. 生活と有機化合物		
	12月	高分子化合物 1. 高分子化合物の分類と特徴 2. 合成高分子化合物 3. 天然高分子化合物	○ 高分子化合物の分類と特徴 ○ 合成繊維 ○ プラスチック ○ ゴム ○ 糖類 ○ タンパク質 ○ 核酸 ○ 繊維 ○ 衣料 ○ 高分子化合物の利用	期末考査
	1月	4. 生活と高分子化合物		
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	自然科学	教 科	理科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	応用生物（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>生態系のバランスや生物多様性の重要性について考える能力と態度を身に付けていく科目です。</p> <p>(1) 生命現象と物質…遺伝情報の発現 (2) 生殖と発生…生殖と発生 (3) 生物の進化と系統…生物進化のしくみと生物の系統</p>				
科目の目標	1年次に学んだ「生物基礎」及び2年次に学んだ「生物」の内容を深化させ、生物学的に探究する能力と態度を高め、科学的な自然観を育成する。				
授業形態	講義・実験				
教科書 使用教材等	図 説「三訂版スクエア最新図説生物」(第一学習社) 問題集「リードL i g h tノート生物」(数研出版)生物資料集 2年次で用いた「生物」の教科書				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点… <ul style="list-style-type: none"> ①生物学的に探究する能力・態度が身についたか。 ②基本的概念や原理・法則が理解できたか。 ③科学的な自然観が身についたか。 ④授業に熱心に取り組んだか。 ・評価の方法… 定期考査の成績、レポート等の提出物、出席・学習態度等をもとにして、学期末および年度末に評価を行う。 				
選択条件	「生物(2年次)」を履修すること。 この科目を履修した場合、3年次の理科演習(生物)も履修することが望ましい。				
選択する上 での心得	四年制大学の理系学部及び、看護・医療系専門学校への進学を希望する者。 一年次で履修した「生物基礎」及び「生物」の上の学習をさらに進めていくので、 予めこれらの内容を整理しておくことが大切です。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	○生命現象と物質 ◇遺伝情報の発現	●DNAの構造や遺伝子の発現のプロセスを学習する。 ●遺伝子の発現調節を学ぶ。 ●バイオテクノロジーを学ぶ。 ・DNAと遺伝情報の発現 ・バイオテクノロジー	中間考査
	5月			
	6月			
	7月 8月			
	9月			○生殖と発生 ◇生殖と発生
後期	10月	○生物の進化と系統 ◇生物の系統	●子や卵の形成と成体への形成過程について学習する。 ・配偶子形成と受精 ・初期発生の過程 ・細胞の分化と形態形成 ●粉や卵の形成と被子植物の器官の分化について学習する。 ・配偶子形成と受精、胚発生 ・植物の器官の分化 ●生命の起源について学ぶ。 ●生物の変遷について考える。 ●進化のしくみ 自宅学習	中間考査
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			期末考査
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)						
講座名	△ファッション造形基礎(2年次)		単位数	2	ブロック 番号						
科目の概要	<p>衣生活について専門的に学ぶ。被服製作や手芸などを主に行います。 T P O (Time (時間)、Place (場所)、Occasion (場合)) を考慮した衣生活について考えます。</p>										
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製作の技術を高めるとともに、製作する楽しみや喜びを知るとともに、学んだ内容を発展、向上させることにより、応用技術を身に付けます。 ○ T P O を考慮した衣生活を創造できるようになります。 										
授業形態	講義・実習										
教科書 使用教材等	教科書(実教出版)										
評価の観点 評価の方法	<p>考査・出席状況・授業態度・実習作品・その他の提出物等総合的に評価します。 合否は問いませんが、被服製作技術検定を2級まで受験することが単位認定の条件になります。</p>										
選択条件	△ファッション造形基礎(3年次)を履修すること。										
選択する上 での心得	ファッションに興味のある者										
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習費(1,500円程度) 授業において履修者全員が共通に使用する材料や用具代を実習費より支出します。 ○ 検定受験料(2,500円) <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>全国高等学校家庭科被服製作技術検定 4級</td> <td style="text-align: right;">600円</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td style="text-align: right;">700円</td> </tr> <tr> <td>2級(和服)</td> <td style="text-align: right;">1,200円</td> </tr> </table> ○ その他 個別に必要な材料や用具は、各自で準備することになります。 					全国高等学校家庭科被服製作技術検定 4級	600円	3級	700円	2級(和服)	1,200円
全国高等学校家庭科被服製作技術検定 4級	600円										
3級	700円										
2級(和服)	1,200円										

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1 衣服の構成	(1)人の体と衣服 (2)立体構成衣服と平面構成衣服	中間 考査 期末 考査
	5月	2 洋服の製作 ○ 製作の基礎 ○ 小作品製作	(1)洋裁の基礎 ① 基礎縫い 小作品を製作し、基礎縫いを確認する。 ② 簡単な衣服の製作 小作品を製作し、基礎縫いを確実に身に付ける。	
	6月	○ 簡単な洋服の製作 「ハーフパンツ」		
	7月		ア 型紙の展開 (各自の製作するデザインに型紙を作り直す。)	
	8月		イ 縫製 裁断—仮縫い—補正 一本縫い	
	9月		ウ 着装 自作の下衣に、上着等を組み合わせ着装して、ファッションショーを実施する。	
後期	10月	3 和服の製作 ○ 製作の基礎 ○ 小作品製作	(2)和裁の基礎 ① 基礎縫い 小作品を製作して、和裁で使用する用具の使用方法・基礎的な技法を身に付ける。 ② 和服(日常着)の製作 ア 寸法の決め方 (各自の体型にあった寸法の割出し方を習得する。)	中間 考査 実技 試験 期末 考査 実技 試験
	11月	○ 和服(日常着)の製作 「甚平」	イ 縫製 裁断—しるしつけ 一本縫い	
	12月		ウ 着装 自分の作った上衣に下衣を組み合わせ着装して、ファッションショーを行う。	
	1月			
	2月	○ オリジナル作品の製作 (環境問題と衣生活)	残布を利用して、オリジナルポーチを製作 (ファスナー付け・接着芯・裏地の扱いを学ぶ。)	
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	△ファッション造形基礎(3年次)		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>2年次のファッション造形基礎で学習した内容を踏まえ、衣生活についてより専門的に学びます。</p> <p>アパレル産業として被服を捉えて、主に外出着の制作過程・着装について学ぶ実習が中心となる科目です。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門的技術を高めるとともに、製作する楽しみや喜びを知ります。 ○ 家庭科技術検定(洋服2・1級)程度の検定合格を目指します。 ○ アパレル産業について学びます。 				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書(実教出版)				
評価の観点 評価の方法	<p>考査・出席状況・授業態度・実習作品・その他の提出物等総合的に評価します。合否は問いませんが、被服製作技術検定を1級まで受験することが単位認定の条件になります。</p>				
選択条件	△ファッション造形基礎(2年次)を履修すること。				
選択する上 での心得	ファッションに興味のある者				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習費(7,300円程度) 授業において履修者全員が共通に使用する材料や用具代を実習費より支出します。 ○ 検定受験料(2,700円) 全国高等学校家庭科被服製作技術検定2級(洋服) 1,200円 1級(洋服) 1,500円 ○ その他 個別に必要な材料や用具は、各自で準備することになります。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	1 既制服のできるまで	(1)アパレル産業 (2) アパレル製品の生産と現状	中間 考査	
	5月	2 洋服の製作 ○ 日常着の製作 (シャツ・ブラウス)	(1)洋裁の応用① ア 型紙の展開 (各自の製作するデザイン に型紙を作り直す。) イ 縫製 裁断→仮縫い→補正 →本縫い ウ 着 装 自作のシャツ・ブラウスに、 下衣等をコーディネートして着 装し、ファッションショーを実 施する。		
	6月				
	7月				
	8月	○ 外出着の製作 (ジャケット)	(1) 洋裁の応用② ア 型紙の展開 (各自の製作するデザイン に型紙を作り直す) イ 縫製 裁断→仮縫い		期末 考査
	9月				
後期	10月	○ 外出着の製作 (ジャケット)	(1) 洋裁の応用② イ 縫製 補正→本縫い	中間 考査 実技 試験	
	11月		ウ 着 装 自作のジャケットに服飾品を コーディネートして、ファッ ションショーを行う。		
	12月			期末 考査 実技 試験	
	1月				
	2月	自宅学習			
	3月				

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	△子どもの発達と保育 (2年次)		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>家庭基礎で学んだ保育を発展させ、乳幼児の成長、発達を知り、保育の意義を考え、将来の生活に役立たせることができるようにする。実習を多く取り入れ保育について専門的に学習します。</p>					
科目の目標	<p>乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを学ぶ。 保育所などに行き実際に乳幼児と触れ合い集団保育の学習を通して乳幼児の発達や生活と保育に関する知識や技術を学ぶ。 家庭保育における子育ての不安、乳幼児への虐待等いろいろな問題を取り上げ、その原因や予防について考えさせる。</p>					
授業形態	講義・実習					
教科書 使用教材等	教科書「子どもの発達と保育」(実教出版)					
評価の観点 評価の方法	<p>考査・出席状況・授業態度・実習作品等総合的に評価します</p>					
選択条件	特になし					
選択する上 での心得	<p>絵本などの実習作品は必ず提出する。 保育実習などには積極的に参加する。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育・保育系進学希望者は選択することが望ましい。 ・ 高大連携にともない、いわき短期大学(幼児教育学科)において「保育原理」を前期(4月～7月)土曜日に1回聴講生として必ず参加する。 ・ 実習費(2,000円程度) 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	○子どもの発達の特徴 ・発達と乳幼児期の意義	○学習の意義や内容、座学や体験的 学習の方法などを理解します。 ○人間の発達に関心を持ち、乳幼児 期が人間の発達の基礎を培う時 期であることを理解します。	中間 考査
	5月	・絵本の読み聞かせ（通年） ・課題製作 ・高大連携授業参加	【カレンダー・絵本・折り紙など （5月～2月）】	
	6月	・発達と保育環境	○乳幼児期は、親を中心とした身近 な人とのかかわりにより心が安 定し、考え方・感じ方・行動の仕 方などが発達していくことを理 解します。	
	7月	・児童観と発達観	○子どもの人権が保障されるよう になった経過を理解します。	
	8月	○子どもの発達の過程 ・子どもの発育	○胎児の発育について理解し、生命 誕生にかかわる母体環境の重要 性を知ります。	
	9月		○乳幼児の生理的特徴を学び、養護 の重要性も理解します。	期末 考査
後期	10月	○子どもの精神発達 ・絵本展へ出展	○発達における方向性や順序性や 共通点を理解します。	中間 考査
	11月		○精神発達の特徴を学び、乳幼児期 が人格形成上重要な時期である ことを理解します。	
	12月		○精神発達のためには、外界からの 刺激、特に保育者からの働きかけ と意欲を高める環境づくりが大 切であることを理解します。	
	1月	○人間関係の発達	○乳幼児期は、特に基本的人間関係 の樹立のために「愛着」が重要で あり、「泣く」「笑う」などの行動 に適切にこたえることの大切さ を理解します。	期末 考査
	2月		○「第一反抗期」と「自我」につい て考えます。	
	3月	○子どもの生活	○乳幼児の生活の特徴を学び、健康 を保持増進し、順調な成長を促す 上で、発育・発達に応じた養護が 必要なことを理解します。	

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	△子どもの発達と保育 (3年次)		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>家庭基礎で学んだ保育を発展させ、乳幼児の成長、発達を知り、保育の意義を考え、将来の生活に役立たせることができるようにする。実習を多く取り入れ保育について専門的に学習します。</p>					
科目の目標	<p>乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを学ぶ。 保育所などに行き実際に乳幼児と触れ合い集団保育の学習を通して乳幼児の発達や生活と保育に関する知識や技術を学ぶ。 家庭保育における子育ての不安、乳幼児への虐待等いろいろな問題を取り上げ、その原因や予防について考えさせる。</p>					
授業形態	講義・実習					
教科書 使用教材等	教科書「子どもの発達と保育」(実教出版)					
評価の観点 評価の方法	<p>考査・出席状況・授業態度・実習作品等総合的に評価します</p>					
選択条件	特になし					
選択する上 での心得	<p>絵本などの実習作品は必ず提出する。 保育実習などには積極的に参加する。</p>					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育・保育系進学希望者は選択することが望ましい。 ・ 母親と就学前の子どもたちとのふれあい事業参加 (希望者) ・ 実習費 (2, 000円程度) 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	○生活習慣の形成	○生活習慣形成の意義と重要性を理解し、乳幼児の個人差に配慮することを学びます。	中間 考査
	5月	・絵本の読み聞かせ（通年） ・課題制作	実習：絵本の読み聞かせ 課題制作	
	6月	○健康管理と事故防止	○日常の健康状態の観察など、乳幼児の健康を守るための保育者の役割を理解します。	
	7月	○保育の意義と重要性	○乳幼児の成長段階における事故の実態と原因などを学習し、安全教育のために保育者が努めなければならないことを理解します。	
	8月	○家庭保育と集団保育	○保育の目標は、適切に養護しながら教育的にかかわることであり、子ども自身の成長・発達を援助、養護することを理解します。	
	9月		○家庭保育と集団保育のそれぞれの特徴や役割を学び、子どもの成長・発達に両方が必要であることを理解します。	
後期	10月	○保育者の役割	○保育者は乳幼児の発達過程を見通し、活動の場面や個々の乳幼児に応じてさまざまな役割を果たす必要があることを理解します。	中間 考査
	11月	○子どもの福祉	○児童福祉の理念や法律、制度について学び、単に保護するのみではなく、次代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解します。	
	12月	○子育て支援	○児童をとりまく環境の変化や子育て支援の現状を知り、子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解します。	
	1月			期末 考査

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	子ども文化		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>子どもの遊びの意義と重要性及び遊びの種類と発達とのかかわり、子どもの表現活動の意義とそれを支える児童文化財の重要性など事例を通して具体的に学ぶ。</p>				
科目の目標	<p>子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術の習得を目標とする。</p>				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「児童文化」(文部科学省)				
評価の観点 評価の方法	<p>子どもの生活の中の文化活動としてとらえ、実際の子どもの生活する姿を見つめ理解を深めるとともに、知識や技術を応用発展することができるかを定期考査、授業態度、提出物等を通して総合的に評価します。</p>				
選択条件	発達と保育を履修していることが望ましい。				
選択する上 での心得	<p>実習作品は必ず提出する。 保育実習などには積極的に参加する。</p>				
備考	・実習費(2,000円程度)				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1 児童文化とは何だろう	(1) 児童文化とは (2) 児童文化を歴史から見る	中間 考査
	5月	2 幼児の遊びの観察	(1) 幼児と出会う前に (2) 遊びの観察 [やってみよう]	
	6月	3 子どもと遊び	(1) 遊びの意義と発達 (2) 遊びの現状 (3) 遊びと遊具・玩具 (4) 遊びと伝承 [やってみよう]	
	7月	4 子どもと表現活動	(1) 子どもの表現活動の おもしろさ (2) 造る・描く (3) 言語表現活動 (4) 歌う、踊る、演奏する (5) 幼稚園における 表現活動の実際 [やってみよう]	
	8月			
	9月	5 子どもと文学	(1) 素話 (2) 紙芝居 (3) 絵本	期末 考査
後期	10月	6 現代の子どもの生活と文化	(1) テレビ、キャラクター、 ゲーム [やってみよう] (2) 子どもと年中行事 [やってみよう]	中間 考査
	11月	7 児童文化を支える活動	(1) 児童文化活動 (2) 児童文化のための施設 [やってみよう]	
	12月			期末 考査
	1月	自宅学習		
	2月			
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	着付け（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>和服の歴史や着付け（自装・他装）の方法・立ち居振る舞いを学び、日常生活の中に和服文化を取り入れることができるようにします。 和服文化の継承者としての基礎を学びます。</p>				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和服に関する知識を身に付けます。 ○ 浴衣の着付けや帯結びを身に付けます。 ○ 外出着の自装及び他装を身に付けます。 ○ 和服の立ち居振る舞いを身に付けます。 				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	自分でできるきものの着付けときものの着付けと帯結び（成美堂出版）				
評価の観点 評価の方法	意欲的に取り組む態度や、基礎的・基本的な技術・知識を身に付けているかを定期考査・出席状況・授業態度等を通して総合的に評価します。				
選択条件	△ファッション造形基礎（2年次）を履修していることが望ましい。				
選択する上 での心得	和服に興味のある女子生徒 持参しなければならない物が多数あります。選択するに当たり、準備できるかを必ず保護者と相談してください。				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習費（1,000円程度） 半襟代等 ○ 準備物 浴衣 半幅帯 肌襦袢 裾よけ、襟芯 長襦袢 足袋 腰紐・伊達締め2本・帯あげ 等 <p>※ 準備できない生徒は選択前に相談すること</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	1 日本服装史	(1)和服の種類 (2)和服の歴史 (3)和服の変遷 (4)現代の和服 (5)和服の部位の名称	中間 考査	
	5月	2 日常着の着付け (大裁女物単衣長着：浴衣)	(1) 着装に要する小物 (2) 浴衣の着付け (自装) (3) 女性の帯結び (半幅帯) ・蝶結び ・文庫結び ・片花文庫 ・都結び ・貝の口 ・一文字		
	6月				
	7月	2 外出着の着付け (大裁女物袷衣長着：小紋)	(1) 着装に要する小物 (2) 小紋の着付け (自装) (3) 女性の帯結び (名古屋帯) ・お太鼓 (4) 小紋の着付け (他装)		期末 考査
	8月				
	9月				
後期	10月	3 準礼装の着付け (大裁女物袷衣長着 ：つけ下げ・訪問着)	(1) 着装に要する小物 (2) 訪問着の着付け (自装) (3) 女性の帯結び (袋帯) ・二重太鼓 (4) 訪問着の着付け (他装) (5) 女性の帯結び (全通袋帯) ・文庫結び ・片流し	中間 考査 実技 試験	
	11月				
	12月	3 礼装の着付け (大裁女物袷衣長着 ：振袖・留袖)	(1) 留袖の着付け (自装) (2) 留袖の着付け (他装) (3) 振袖の着付け (他装)	期末 考査 実技 試験	
	1月	自宅学習			
	2月				
	3月				

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	フードデザイン《2年次》		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>家庭基礎で学んだ食生活を発展させ専門的な学習をする。また、調理実習を多く取り入れ、調理の基本技術を習得する。</p> <p>食生活の現状を理解させ、食生活を総合的にデザインする能力と態度を育てるとともに、学習した内容を生かして、家庭や地域において進んで食育の推進に寄与することができるようにする。</p>				
科目の目標	<p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を修得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。</p>				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「フードデザイン」(実教) ノート「フードデザインワークノート」(実教)				
評価の観点 評価の方法	人の一生における生活課題を見つけ、その解決を目指して自ら考え、適切に判断し意欲的に取り組む態度や、基礎的・基本的な技術・知識を身につけているかを、定期考査、授業態度、提出物等を通して総合的に評価します。				
選択条件	フードデザイン（3年次）を履修すること。				
選択する上 での心得	調理実習時は、爪を切り、三角巾・エプロン等の服装を整えて、きちんとして取り組んでください。				
備考	<p>食物系進学希望者は選択することが望ましい。</p> <p>3年次では、テーブルマナーを実施する。</p> <p>実習費（2年次は8,000円程度）</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	○調理の基礎 食物4級検定内容 ・実習	○調理の目的・調理操作 ○包丁の使い方 ・包丁の持ち方・食品の押さえ方・左手の動かし方・姿勢 ○計量・計量スプーンの使い方 ・計量カップの使い方	中間 考査
	5月	○食生活と健康	○食事の意義と役割 ・身体を作る栄養素としての食事 ・食生活を豊かにするものとしての食事	
	6月	・実習	○食品の衛生と安全 ・食中毒 ・台所の衛生 ・食品添加物	
	7月	○食品の特徴・表示・安全 ・実習	○食を取り巻く現状 ・栄養摂取の変化と現状 ・生活習慣病と欠食 ・ライフスタイルの変化 ・食料自給率 ・食品の安全性と環境の変化	期末 考査
	8月			
	9月	・実習		
後期	10月	○料理様式とテーブルコーディネート ○栄養素の働きと食事計画	○テーブルコーディネート ○からだのしくみと食べ物 ・からだのしくみ ・栄養素の役割 ・炭水化物 ・脂質 ・たんぱく質 ・ビタミン ・ミネラル ・水・その他の物質 ・消化と吸収 ・食事摂取量と食事計画 ・ライフステージと栄養計画	中間 考査
	11月	・実習		
	12月	・実習		
	1月	・実習		期末 考査
	2月	・実習		
	3月	・実習		

系 列	生活福祉	教 科	家庭科	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	フードデザイン《3年次》		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>家庭基礎で学んだ食生活を発展させ専門的な学習をする。また、調理実習を多く取り入れ、調理の基本技術を習得する。</p> <p>食生活の現状を理解させ、食生活を総合的にデザインする能力と態度を育てるとともに、学習した内容を生かして、家庭や地域において進んで食育の推進に寄与することができるようにする。</p>				
科目の目標	<p>栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を修得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。</p>				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「フードデザイン」(実教) ノート「フードデザインワークノート」(実教)				
評価の観点 評価の方法	人の一生における生活課題を見つけ、その解決を目指して自ら考え、適切に判断し意欲的に取り組む態度や、基礎的・基本的な技術・知識を身につけているかを、定期考査、授業態度、提出物等を通して総合的に評価します。				
選択条件	フードデザイン（2年次）を履修すること。				
選択する上 での心得	調理実習時は、爪を切り、三角巾・エプロン等の服装を整えて、きちんとして取り組んでください。				
備考	<p>食物系進学希望者は選択することが望ましい。</p> <p>3年次では、テーブルマナーを実施する。</p> <p>実習費（3年次は8,000円程度）</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	○食品の特徴・表示・安全 ○調理実習	○食品の特徴と性質 ・穀類 ・芋類 ・砂糖 ・豆類 ・種実類 ・野菜類 ・果物類 ・きのこ類 ・海藻類 ・魚介類 ・肉類 ・卵 ・牛乳・乳製品 ・油脂類 ・かんてん・ゼラチン ・嗜好食品 ・調味料・香辛料 ・加工食品と加工方法 ・特別用途食品と保健機能食品 ・食品実験	中間 考査 期末 考査
	5月	・実習		
	6月	・実習		
	7月	・実習		
	8月	・実習		
	9月	・実習		
後期	10月	○食品の生産と流通 ・実習	○食品の生産と流通 ・第一次産業の現状 ○食品の選択と表示 ・食品の多様化 ○食育の意義と推進活動 ・食育基本法 ・家庭や地域における食育推進活動 ○テーブルマナー実習	中間 考査 期末 考査
	11月	○食品の選択と表示 ・実習		
	12月	○食育 ・実習		
	1月	○テーブルマナー実習		
	2月			
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	看 護	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	基礎看護		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	看護の意義や目的、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護に関する基礎的な知識や考え方について学びます。また、看護を行なう上で望ましい看護観や職業観を養います。				
科目の目標	看護の意義と保健・医療・福祉における役割を理解させ、看護に関する基礎的知識を習得させる。また、看護を適切に行なう能力と態度を育む。				
授業形態	講義、演習				
教科書 使用教材等	教科書「基礎看護」 (文部科学省・教育出版) 写真とイラストですぐわかる介護術 (西東社)				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護に対して関心を持ち、意欲的に取り組み、望ましい看護観や職業観を身につけたか。 ・ 看護に関する諸課題の解決を目指し思考を深め意義や役割を判断する能力を身につけたか。 ・ 看護に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、その成果を適切に表現できたか。 ・ 看護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護の理念と意義、役割を理解したか。 ◎ 定期考査、課題レポート、演習の評価をもとに、総合的に評価します。				
選択条件	・ 3年次で「生活と看護」を履修すること。				
選択する上 での心得	・ 医療・看護に興味・関心があり、医療福祉系・高等看護専門学校への進学を考えている者。				
備考	・ 授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリーの装着、爪の長さ、化粧、頭髪の色・スタイル等」で臨むこと。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	1 看護の意義と役割 (1) 看護の対象の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象となる「人間」を理解する際に大切なことについて学びます。 ・人間の基本的欲求を理解することが基本的看護に結び付いていることを学びます。 ・成長・発達のプロセスについて学びます。また、人間の基本的欲求の現れ方と成長・発達のプロセスとの関係について理解します。 	課題レポート	
	5月	(2) 人間の基本的欲求と看護			
	6月	(3) 人間の成長・発達のプロセス		前期中間考査	
	7月	2 看護の意義 (1) 看護の目的と機能		<ul style="list-style-type: none"> ・看護の意義と目的、機能について学びます。 ・患者の理解には、患者を取り巻く家族や地域社会、職業などの社会背景への理解が重要であることを学びます。 ・看護の起原とその歴史的変遷について理解します。 ・現代の看護について保健・医療・福祉を取り巻く社会変化をふまえながら学びます。 	夏期休業課題（課題レポート）
	8月	(2) 患者とその家族の理解			
	9月	(3) 看護の変遷			前期期末考査
	(4) 現代の看護				
後期	10月	3 看護活動の分野 (1) 家庭における看護 (2) 学校における看護 (3) 職場における看護 (4) 病院における看護	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の対象、特徴、看護活動の実際について生活の場である家庭・学校・職場・病院に分けて理解します。 ・看護従事者に求められる資質や態度について考え、専門職としての看護について理解を深めます。 ・法律などからよりよい看護を行っていくための看護従事者としての倫理について考えます。 ・生命倫理について、現代の医療を取り巻くさまざまな課題を取り上げ、考えを深めます。 	後期中間考査	
	11月	4 看護職とその倫理 (1) 看護とは		冬季休業課題	
	12月	(2) 看護倫理			
	1月	(3) 生命倫理		課題レポート	
	2月			後期期末考査	
	3月				

系 列	生活福祉	教 科	看 護	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	生活と看護		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	看護を行うために必要な、心の健康やストレスの対処、生活環境と健康の関係、社会保障制度に関する知識を身につけます。				
科目の目標	看護を行うために必要な、精神保健、生活者の健康及び社会保障制度に関する知識を習得させ、社会生活における医療と保健及び福祉との関係について理解させる。				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	教科書「生活と看護」(文部科学省・教育出版)				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護を行うのに必要な心の健康について関心を持ち、生活と健康、社会保障制度に関し意欲的に考えようとする態度を身に付けたか。 ・ 心の健康や生活と健康、社会保障制度について思考を深めることができたか。 ・ 心の健康や生活と健康、社会保障制度と福祉に関する基礎的な知識を身につけることができたか。 ◎ 定期考査、小テスト、課題レポート、授業態度等の評価をもとに総合的に評価します。				
選択条件	2年次で「基礎看護」を履修していること。				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・看護に興味・関心があり、医療福祉系・高等看護専門学校への進学を考えている者。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリーの装着、爪の長さ、化粧、頭髪の色・スタイル等」で臨むこと。 ・ この科目を受講している生徒は、「介護総合演習」「コミュニケーション技術」「介護実習」「生活支援技術」を選択することができる。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 精神保健 (1) 心の働きと発達	脳の構造と精神機能を理解し、 心の概念について考える。	課題レポート
	5月	(2) 心の健康	心の健康の概念について学習し、 心の健康を保つ働きについて理解する。	
	6月	(3) ストレスとその対処	ストレスの概念について学習し、 ストレスによる心身や生活の障害との 関連からストレスが健康に及ぼす影響 について理解する。	中間考査
	7月		夏季休業課題	
	8月	(4) 精神保健活動	ストレスと社会環境のとの関連を 学習する。	期末考査
	9月			
後期	10月	2. 生活と健康 (1) 生活環境と健康	様々な環境要因と健康との相互作用、 衣食住と健康との相関について理解する。	課題レポート
	11月	(2) 人々の生活と健康	個人の生活行動と健康との関係、 家族の発達段階における健康課題 について理解する。	中間考査
	12月	3. 社会保障制度と福祉 (1) 社会保障と社会福祉	社会保障及び社会福祉の理念と 意義について理解する。	冬季休業課題
	1月	(2) 保健医療福祉制度 (3) 保健医療福祉関係法規	保健医療制度の仕組みについて 理解する。 関係法規についての目的、概要を 理解する。	課題レポート 期末考査
	2月		自宅学習	
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	福 祉	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	社会福祉基礎		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>社会福祉の基礎的知識を学び、その意義や役割について考えを深めます。 また、社会福祉や高齢者福祉の法律や制度、サービス内容について学び、福祉に関する視野を広めます。</p>				
科目の目標	<p>社会福祉に関する基礎的知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解する。</p>				
授業形態	講義、演習				
教科書 使用教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉基礎（実教出版） ・福祉住環境コーディネーター2級公式テキスト（東京商工会議所） 				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に対する関心をもち、福祉社会に向けた課題に意欲的に取り組むことができたか。 ・日常生活から派生する社会福祉に関する問題に興味をもち、解決を目指して思考を深めることができたか。 ・社会福祉に関する基礎的な知識を身につけ、社会福祉の理念と意義、役割を理解することができたか。 <p>◎ 定期考査、授業態度、レポートの内容等の評価をもとに、総合的に評価します。</p>				
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次で「介護福祉基礎」を履修し、3年次で「介護総合演習」を履修すること。 				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する社会の問題に積極的に考えようとする者 ・常にニュースや新聞などに目を通し、社会福祉問題に興味を持つことが必要です。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリーの不可、短い爪、化粧禁止、福祉に携わる人間としてふさわしい態度」で臨むこと。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	1 ガイダンス 2 福祉について知る (1) 社会福祉とは (2) 現代社会と社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉とボランティアの役割、福祉が求められるようになった背景について学びます。 ・社会福祉にはそれぞれ目的があり、その目的を達成するために、憲法、法律、条例などがあることを調べます。 ・欧米の社会福祉の歴史について学びます。 ・戦前と戦後の社会福祉のしくみを知り、どのように変化してきたか資料をもとに考えます。 	課題レポート	
	5月	3 社会福祉の理念と意義 (1) 社会福祉の理念			前期中間考査
	6月	(2) 社会保障と社会福祉			
	7月	4 社会福祉の歴史 (1) 世界の福祉 (2) 日本の福祉		夏季休業課題 前期期末考査	
	8月				
	9月				
後期	10月	5 社会福祉の現状と課題 (1) 児童・家庭の福祉 (2) 障害者の福祉 (3) 高齢者の福祉 ・「高齢者疑似体験」	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化や障害者問題を中心に、社会福祉の現状について学びます。 ・セーフティネットについて学びます。 ・今までの学習をもとに、「社会福祉」に対して、自分がどのようにかかわっていくかを考えます。 	後期中間考査	
	11月	(4) 公的扶助 (5) 地域の福祉			冬季休業課題 後期期末考査
	12月	6 社会福祉の担い手と福祉社会への展望 (1) 社会福祉の人材 (2) ボランティアの考え方と歴史的展開			
	1月				
	2月	7 まとめ (1) 次世代への展望			
	3月				

系 列	生活福祉	教 科	福祉	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	介護福祉基礎		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>社会福祉における「介護」の意義や目的、役割について理解します。その際、私たち人間の暮らしに対する理解を深めます。そのうえで、多様な介護ニーズをもつ高齢者や障害児・者に対して、本人の望む生活を実現させるために、適切な介護やかかわり方ができるように、介護の基礎知識と安全性や自立性、個別性等に配慮した介護技術の基本を学びます。</p>				
科目の目標	<p>介護の意義や高齢者と障害者における介護の役割を理解し、介護に関する基礎的な知識と技術を習得します。また、介護を適切に行う能力と態度を育みます。</p>				
授業形態	講義、演習、実技演習（ロールプレイ等）				
教科書 使用教材等	<p>「介護福祉基礎」（実教出版） 写真とイラストですぐ分かる介護術（西東社）</p>				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の意義や役割について関心を持ち、よりよい介護を目指して取り組む創造的・実践的態度を身につけたか。 ・ 介護に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、介護活動の現状について適切に判断し、創意工夫する能力を身につけたか。 ・ 高齢者に対する基礎的・基本的な介護技術を身につけ、介護活動を計画・展開し、その成果を的確に表現できたか。 ・ 高齢者や障害者に対する介護の基礎的・基本的な知識を身につけ、介護の意義や役割を理解したか。 <p>◎ 定期考査、小テスト、課題レポート、演習・実技演習の内容や態度、現場実習の評価をもとに、総合的に評価します。</p>				
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次で「社会福祉基礎」、3年次で「介護総合演習」を履修すること 				
選択する上での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉や介護に興味・関心があり、卒業後、即介護の現場へ就職を希望する者、福祉系4年制大学・保育系大学・短大・専門学校への進学を考えている者。 ・ 社会福祉に関する社会の問題に積極的に考えようとする者。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリ不可、爪は短く、化粧禁止・福祉にふさわしいスタイル」で臨むこと。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	I. 介護の意義と役割 1 介護の意義 *高齢者疑似体験 2 介護従事者の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の理念と定義、目的、原則について学びます。 ・介護の歴史、介護活動の場と特性、介護と看護・他職種との役割、関係について学びます。 ・介護の展開について、介護計画作成から学びます。 ・介護従事者に求められる資質や態度、倫理について理解を深めます。 ・高齢者の生活を私たちの今の生活と比べながら考えます。 ・高齢者の精神的・社会的機能の変化と生活への影響、老いへの適応やいきがい作りについて考えます。 ・運動機能、感覚・知覚機能、生理的機能の変化と生活への影響について学びます。 ・利用者の健康状況の把握と共に高齢者の疾病の特徴、主な疾病について理解します。 ・高齢者介護の基本について、理論と技術を確認し身につけます。 	課題レポート
	5月	3 介護過程の概要		
	6月	4 介護従事者の倫理		中間考査
	7月	II. 高齢者の生活と心身の特徴 1 高齢者の生活 2 加齢に伴う精神的機能の変化と高齢者の心理		夏季休業課題
	8月	3 加齢に伴う身体的機能の変化 4 高齢者の疾病 5 高齢者の介護		
	9月	(1) 環境整備 (2) 運動と移動 (3) 睡眠と休息 (安楽の技法) (4) 食事、排泄 (5) 身体の清潔 (6) 衣服の着脱と衣類		
後期	10月	III. 障害者の生活と心理 1 障害者の生活 2 障害者の心理 3 障害者の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・障害についての基本的な考え方や定義、範囲、障害者の生活課題と介護について学びます。 ・様々な障害のある人たちについて知り、理解を深めます。 	課題レポート
	11月	IV. 自立性と支援と介護 1 人間らしい生活		中間考査
	12月	2 自立への援助と介護 3 自立生活とリハビリテーション	冬季休業課題	
	1月	V. 地域生活を支えるシステム 1 保健・医療・福祉の連携		
	2月	2 在宅サービスと施設サービスの連携	課題レポート	
	3月	3 ケアサポートの状況と課題	期末考査	

系 列	生活福祉	教 科	福祉	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	コミュニケーション技術		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>「社会福祉」や「介護」の実践に必要な“コミュニケーションのとり方”や“人とのかかわり方”、“人間関係の築き方”など、高齢者や障害者に対する対人援助の知識と技術を習得します。また、さまざまな社会福祉現場における事例や援助場面を想定した実技演習（ロールプレイング等）を通して体験し、人間のよりよい生活について考えを深めます。</p>					
科目の目標	<p>対人援助に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動に活用する能力と態度を育む。</p>					
授業形態	講義、演習、実技演習（実教出版）					
教科書 使用教材等	コミュニケーション技術（中央法規）					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの基礎的・基本的な知識を身につけ、介護現場でのコミュニケーションの意義や目的を理解できたか。 ・ コミュニケーションの基礎的・基本的な技術を身につけることができたか。 ・ サービス利用者に応じたコミュニケーションを的確に、効果的に行えたか。 <p>◎ コミュニケーションの基礎的・基本的知識を身につけ、小テスト、定期考査、授業時の演習・実技演習の内容や態度、課題レポート等の評価をもとに、総合的に評価します。</p>					
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉系四年制大学(短大)進学希望者⇒2年次で社会福祉基礎と介護福祉基礎を履修し、3年次で介護総合演習を履修している。 ・ 医療福祉系大学等進学希望者⇒2年次で基礎看護を履修し、3年次で生活と看護を履修している。 					
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後、即介護現場へ就職を希望する者。 ・ 社会福祉や介護に興味・関心があり、社会福祉・保育系大学・短大・専門学校への進学を考えている者。 ・ 社会福祉に関する社会の問題に積極的に考えようとする者。 					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリーの装着、爪の長さ、化粧、頭髪の色・スタイル等」で臨むこと。 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 介護におけるコミュニケーション (1) コミュニケーションの意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの意義と本質について学びます。 ・言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションについて理解を深める ・特に、具体的なコミュニケーション方法、人間関係の形成について理論を知り、技術を習得します。 ・「受容、共感、共鳴」、「開かれた質問」「閉ざされた質問」といった、相談援助の基本を学びます。 	課題レポート
	5月	(2) コミュニケーションの基本技術 ・話を聴く技法		
	6月	・感情表現を察する技法 ・利用者の納得と同意を得る技法		中間考査
	7月	・質問の技法 ・相談助言指導の技法		夏季休業課題
	8月	・意欲を引き出す技法 ・利用者と家族の意向を調整する技法		
	9月	・複数の利用者のいる場面でのコミュニケーション		
後期	10月	2 サービス利用者や家族とのコミュニケーション (1) サービス利用者に応じたコミュニケーション	サービス利用者に応じたコミュニケーション技法について学びます。	課題レポート
	11月	・コミュニケーション障害の理解 ・コミュニケーション障害のある利用者への対応とコミュニケーションの実際		中間考査
	12月	3 介護におけるチームのコミュニケーション		冬季休業課題
	1月	自宅学習	期末考査	
	2月			
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	福祉	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	生活支援技術		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>「介護」に関する基礎的、基本的な学習をもとに、認知症を中心としたテーマを設定し課題研究や事例研究などの学習を行い「福祉」や「介護」の知識と技術を深めていきます。</p> <p>実際に実習を行うなど実践的な学習を通して、地域福祉の向上や介護に関わる問題や課題を明らかにし改善策や解決方法を考え、実践していきます。</p> <p>認知症高齢者や障害者の生活の様子・必要とする福祉的サービスとその背景を学ぶことにより、社会福祉に関する幅広い視野を養い、高齢者福祉や障害者福祉の理念、また、自分自身と地域社会の関わりについて考えます。</p>				
科目の目標	<p>介護福祉サービスの提供に必要な技術と知識を習得し、介護現場の現状と地域における役割を理解するとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。</p>				
授業形態	講義 生活支援実技演習				
教科書 使用教材等	生活支援技術（実教出版） 認知症ライフパートナー検定試験 3級公式テキスト				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護に対する関心を持ち、意欲的に取り組み福祉観や実践的な態度を身につけたか。 2 介護に関する諸課題の解決を目指し思考を深め意義や役割を判断する能力を身につけたか。 3 介護に関する様々な資料や情報を適切に選択して活用し、その成果を適切に表現できたか。 4 介護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、地域福祉の理念と意義、役割を理解したか。 <p>◎ 定期考査、課題レポート、演習評価をもとに、総合的に評価します。</p>				
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉系大学(短大)進学希望者⇒2年次で社会福祉基礎と介護福祉基礎を履修し、3年次で介護総合演習を履修すること。 ・医療福祉系大学等進学希望者⇒2年次で基礎看護を履修し、3年次で生活と看護を履修すること。 				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後、即現場への就職を希望する者。 ・社会福祉に関する社会の問題に積極的に考えようとする者 ・常にニュースや新聞などに目を通し、介護に関わる問題に興味を持つことが必要です。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリ不可、短い爪、化粧禁止、頭髪の色・福祉を目指すものとしてふさわしい態度」で臨むこと。 ・認知症ライフパートナー検定試験が受験できます。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	はじめに 1. 認知症とは 2. 生活支援の理解 3. 生活支援のアセスメント 4. 居住環境の整備 5. 家事の介護 6. ADL の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の症状などの概要を学びます。 ・認知症の方の生活支援を考えます。 ・認知症の方の生活支援のアセスメントを考えます。 ・認知症の方の居住環境の整備を考えます。 ・認知症の方の家事の援助を学びます。 ・認知症の方のADLの介護を学びます。 ①身支度 ②移動 ③食事 ④入浴・清潔 ⑤排泄	課題レポート
	5月			
	6月			中間考査
	7月			夏季休業課題
	8月			期末考査
	9月			
後期	10月	7. 睡眠の介護 8. レクリエーションにおける介護	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の睡眠の援助について学びます。 ・認知症の方のアクティビティについて考えます。 	課題レポート
	11月			中間考査
	12月	9. 終末期の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方の終末期の援助について考えます。 	冬季休業課題
	1月	10. 緊急時の介護	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の援助について学びます。 	期末考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	福祉	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	介護総合演習		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>「福祉」に関する基礎的、基本的な学習をもとに、福祉住環境整備を中心としたテーマを設定し課題研究や事例研究などの学習を行い「福祉」や「介護」の知識と技術を深めていきます。</p> <p>実際に調査・研究を行うなど実践的な学習を通して、テーマにおける問題や課題を明らかにし改善策や解決方法を考え、実践していきます。</p>					
科目の目標	<p>課題研究や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育む。</p> <p>福祉住環境整備とは何かを知り、福祉住環境コーディネーター2級取得を目標とする。</p>					
授業形態	講義、演習（調査・研究、ディスカッション、ロールプレイング等）					
教科書 使用教材等	社会福祉基礎（実教）介護福祉基礎（実教）継続使用 福祉住環境コーディネーター2級テキスト 継続使用					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉に関する様々な問題に課題意識を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組み、創造的・実践的に問題を解決する態度を身につけたか。 社会福祉に関する様々な問題の解決を目指して自ら思考し、知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけたか。 社会福祉の各分野における基礎的・基本的知識を深め、意義や役割を理解したか。 <p>◎ 定期考査、演習課題（調査・研究）の内容・取り組み態度等をもとに、総合的に評価します。</p>					
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉系大学(短大)進学希望者⇒2年次で社会福祉基礎と介護福祉基礎を履修し、3年次で介護総合演習を履修すること。 卒業後即介護の現場へ就職を希望する者。 					
選択する上での心得	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉や介護に興味・関心があり、社会福祉・保育系大学・短大・専門学校への進学を考えている者。 社会福祉に関する社会の問題に積極的に考えようとする者。 東日本国際大学との高大連携により、希望者は3年次に大学の教員による授業を受けることができ、取得単位が1単位増単になります。 					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業には、ガイダンスで指示された「服装、身だしなみ、アクセサリーの装着、爪の長さ、化粧、髪の色・スタイル等」で臨むこと。 福祉住環境コーディネーター検定試験2級の資格取得を目指します。 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	はじめに 1. 福祉住環境とは	・福祉住環境の概要を学びます。	中間考査
	5月	2. 障害や老化の理解とケアの基本	・住環境整備の基本を学びます。	
	6月	3. 環境整備の基礎知識	・身体状況に応じた住まい方を学びます。	
	7月	4. 検定試験①	・3級または2級にチャレンジ	期末考査
	8月	5. 社会資源とまちづくり	・介護保険制度に関わる地域社会のあり方について学びます。	
	9月			
後期	10月	1 調査・研究（個人） (1) ガイダンス	・調査・研究の進め方を学びます。	中間考査 ・口頭発表
	11月	(2) テーマの設定、設定理由の検討 (3) 調査・研究の内容、方法、研究計画の検討	①課題・テーマの設定 ②計画・方法の作成 ③情報収集、整理 ④資料の分析と考察 ⑤まとめ ⑥発表	
	12月	検定試験② (4) 個人研究の実施	・個人で課題・テーマを設定します。 ・個人で、①～⑤の順で、それぞれ調査・研究を行います。	期末考査 ・口頭発表
	1月	(5) まとめ (6) 発表	・③では文献・資料の集め方、活用の仕方等を学びます。 ・④では③の資料を使って、テーマにそった分析の仕方学びます。	
	2月		・⑤ではワープロで5枚(8,000字)以上にまとめ、レポート・論文のまとめ方を学びます。	
	3月	自宅学習	・⑥では模造紙、PCを使った発表方法を学びます。	
			自宅学習	

系 列	生活福祉	教 科	福祉	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	介護実習		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	<p>高齢者や疾病・障害をもつ人々が、日常生活を快適に営んだり、自分らしく生活したりすることができるような介護技術の理論とその方法の基礎を学びます。</p> <p>また、社会福祉施設等でのボランティア実習などを通して、講義・演習・校内実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、援助や介護に関する実践的能力を身につけます。</p>					
科目の目標	<p>社会福祉や介護等に関する体験的な学習を通して、社会福祉や介護の総合的な知識と基本的技術を身につけ、社会福祉の向上を図る実践的な能力と態度を育む。</p>					
授業形態	講義・演習・校内実習					
教科書 使用教材等	写真とイラストで見る介護術（西東社）継続使用					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の意義や目的を理解し、介護活動を展開するうえでの望ましい態度を身につけたか。 ・ 介護の現状を理解し、高齢者や障害者などの全体像を把握する能力を身につけたか。 ・ 高齢者や障害者、介護現場等の理解を深め、介護にするうえで必要な基本的介護技術を身につけたか。 <p>◎ 定期考査、小テスト、課題レポート、実習等の評価をもとに、総合的に評価します。</p>					
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉系大学(短大)進学希望者⇒2年次で社会福祉基礎と介護福祉基礎を履修し、3年次で介護総合演習を履修すること。 ・ 医療福祉系大学等進学希望者⇒2年次で基礎看護、3年次で生活と看護を履修すること。 					
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後、即介護現場への就職を希望する者。 ・ 社会福祉や介護に興味・関心があり、社会福祉・保育系大学・短大・専門学校への進学を考えている者。 ・ 社会福祉に関する社会の問題に積極的に考えようとする者。 					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業には、ガイダンスで指示された「正しい服装、身だしなみ、アクセサリ不可、短い爪、化粧禁止、頭髪の色・介護職としてふさわしい態度」で臨むこと。授業前に、毎回検査をします。 ・ この科目を選択した生徒には夏休みに5日間、福祉施設現場実習を実施します。(実習費 5,000 円程度徴収いたします。) 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 高齢者・障害者の日常生活の理解 (1) 介護の目的と機能、介護技術の役割 (2) 介護の理念と基本原則	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の意義や目的、介護を行う上で重要な基本原則について学びます。 ・ベッドメイキングの方法や臥床時でのシーツ交換の技法を学びます。 ・臥床者を水平移動、上方移動、仰臥位から側臥位、仰臥位から端座位にする方法を実践し学びます。 ・杖歩行の介助、車椅子移乗の介助方法を実践し学びます。 ・高齢者の食事の留意点、誤嚥や脱水の予防、食事の形態による種類について学びます。また、臥位・座位姿勢での介助を実践し、片麻痺、上肢障害者の場合の介助方法について学びます。 ・寝巻きやパジャマへの更衣の介助、自力更衣の介助について実践し学びます。 ・清拭・足浴・熱布浴・洗髪・口腔ケアの方法、入浴介助について実践し学びます。 ・ポータブルトイレの介助、尿器・便器の介助、おむつ交換の介助を実践し学びます 	<p>課題レポート</p> <p>中間考査</p> <p>課題レポート</p> <p>校外実習 (5日間)</p> <p>夏季休業課題</p> <p>期末考査</p>
	5月	2 介護技術の基本と実際 I (1) 環境・寝具（ベッド）の整え方 (2) 運動・移動の援助 ・体位変換 ・歩行と移動		
	6月	(3) 食事の援助 ・食事援助の基本的知識・技術と工夫 ・食事援助の実際 ・視覚障害者への食事援助の方法と実際（クロックポジション）		
	7月	(4) 衣服の着脱の援助 《場実習》		
	8月	4 介護技術の基本と実際 II (1) 清潔の援助 ・身体の清潔		
	9月	(2) 排泄の援助・介助方法		
後期	10月	(3) 環境の整え方 II ・居住環境の整備、周囲の環境、住居の条件とバリアフリー ・福祉用具の活用 (4) 緊急時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者に適した居住環境と整備の仕方、バリアフリーについて学びます。 ・さまざまな福祉用具の種類と活用法について学びます。 ・緊急時の気道確保、人工呼吸、心マッサージ、異物除去の方法、応急処置の方法を実践し学びます。 ・実際の事例をもとに、利用者理解とアセスメントの方法を学びます。また、ニーズの把握やそのニーズに応じた介護について考えていきます。 <p>自宅学習</p>	<p>課題レポート</p> <p>中間考査</p> <p>課題レポート</p> <p>冬季休業課題</p> <p>期末考査</p>
	11月			
	12月	6 高齢者と障害者の介護-介護事例検討- (1) 高齢者の介護 (2) 障害者（児）の介護 (3) 相談援助とケア計画の方法		
	1月	自宅学習		
	2月			
	3月			

系 列	生活福祉	教 科	福祉	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	手話・点字（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	手話・点字を通して、聴覚障害者・視覚障害者に対する理解を深めます。前期は手話、後期は点字を、外部講師を招いて学びます。				
科目の目標	障害に応じたコミュニケーションの方法、自己表現の仕方を習得し、聴覚障害者、視覚障害者についての理解を深める。				
授業形態	講義・実技				
教科書 使用教材等	手話・手話を学ぼう 点字・初めての点訳				
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的に取り組み、技術習得のために努力していたか。 ・聴覚、視覚障害に関心を持ち社会の課題に気づき、解決に向けて認識を深めることができたか ・コミュニケーションの1つの手段として、積極的に自己表現しようとしていたか。 ・手話、点字、聴覚障害、視覚障害に関する基本的な知識を理解することができたか。 <p>◎ 定期考査、授業態度、課題の提出等の評価をもとに、総合的に評価します。</p>				
選択条件	聴覚障害、視覚障害のある方に対し、生活支援に意欲のある者				
選択する上での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・手話・点字を意欲的に学び資格取得を目指す者が履修してください。 ・手話では、自己表現が中心になります。自分の殻を破って、テーマに沿って、表現することが求められます。 ・点字では、毎週、点訳や点字の課題が出されます。その課題をきちんと行うことが求められます。 				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・手話については、手話検定5級程度の力が半年で身につき、手話検定試験の受験資格が得られます。成績優秀者は4級受験も可能です。 ・受験級に応じて検定料がかかります。 <p>一昨年、受験会場には iwaki へアメイクアカデミーへ進学した卒業生も受験に来ていました。これからはサービス業の分野でも手話が必要とされています。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等		
前期	4月	1 聴覚障害について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害について、外部講師の聴覚障害者の方から生活で不便なことや聴覚障害者の生活について、体験を通した話を聞きます。 ・ 指文字（50音）を覚えます。 ・ 身振りで身近な単語を表現します。 ・ 指文字と手話を使って自己紹介をします。 ・ 疑問詞を使って会話をします。テキストの内容を手話で表現します。 ・ 歌詞を手話で覚えて音楽に合わせて表現します。1曲手話で歌を覚えることができます。 ・ 役割を決めて会話する。話し手と聞き手に分かれて、手話で表現します。 ・ 授業の感想を手話で発表します。ほとんどの人が手話で発表できるようになります。 	前期中間考査 (実技試験)		
	5月	2 伝えあってみましょう				
	6月	3 話しかけてみよう				
	7月	4 手話で歌おう				
	8月	5 話し合ってみましょう				
	9月	6 全国手話検定試験 5級または4級受験				
後期	10月	1 視覚障害について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害について、生活で不便なことや視覚障害者の生活について学びます。 ・ 50音の点の打ち方を覚えます。 ・ 点字の特殊な文法を学びます。 ・ 点字の読み方を学びます。 ・ 授業内で点訳した自分の作品を製本し、1冊の本にまとめます。 	中間考査 (筆記試験)		
	11月	2 点字を書こう ・ 点字を書く練習（基礎）				
		3 点字について詳しく知る				
	12月	4 点字を読もう ・ 点字を読む練習 ・ しおり作り				
	1月	5 視覚障害者への接し方 自宅学習			自宅学習	期末考査 (筆記試験)
	2月					
	3月					

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	スポーツ概論		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解するとともに、運動における歴史・文化及び実際の戦術・スポーツとの関わりについて理解する。				
科目の目標	体育・スポーツの指導者としての資質や能力を育て、運動の必要性や運動の効果や合理的な練習方法、また運動を行う上での安全面についての知識、体育・スポーツの運営について学習する。				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	「基礎から学ぶスポーツ概論」(大修館)				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解(運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む)				
選択条件	3年次にスポーツトレーナー実習を選択する者は履修することが望ましい。				
選択する上 での心得	スポーツに対して意欲関心を持ち、将来を考えて積極的に授業に参加すること。				
備考	スポーツライフの設計と実践について理解をすること。スポーツに対して意欲関心があり、体育系大学・専門学校に進学を希望する者。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	第1章 スポーツについて考えよう ① スポーツの魅力について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技スポーツ・生涯スポーツの魅力 ・ スポーツが生まれてから現代まで ・ 競技スポーツの問題点と生涯スポーツのあり方 ・ スポーツは社会・地域・経済・世界を変える 	中間 考査	
	5月	② スポーツのこれからとこれまでを考えよう ③ 現代スポーツの問題点を考えよう			
	6月	④ スポーツと社会のついて考えよう 第2章 スポーツの競技力を向上させよう			
	7月	① 競技力向上に必要な基礎知識を知ろう ② 競技力を向上させる練習方法・練習計画を知ろう			
	8月	③ メンタルトレーニングについて知ろう ④ 競技力向上に向けた指導体制や情報戦略について知ろう			
	9月	第3章 体カトレーニングをやってみよう ① 体力向上の科学的基礎について知ろう ② 体カトレーニングの方法を知ろう			期末 考査
後期	10月	第4章 スポーツライフのマネージメントを考えよう ① 自分の体をマネジメントしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーミングアップとクーリングダウン、応急処置や外傷について知る、テーピングなど ・ スポーツ栄養の基礎 ・ 危険感受性と安全教育 	中間 考査	
	11月	② 栄養でパフォーマンスを高めよう ③ 危険予知トレーニングについて知ろう			
	12月	第5章 スポーツ指導者をめざそう ① スポーツキャリアと職業について知ろう			
	1月	② 指導の場としての学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントについて知ろう			
	2月	③ 指導の場としてのスポーツクラブについて知ろう			
	3月	④ 効果的なスポーツの指導方法を知ろう			期末 考査

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	スポーツ I (2年次)		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	採点競技及び測定競技の特性について理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これからのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにする。				
科目の目標	体操競技・陸上競技・水泳競技の基礎・基本を身につける。				
授業形態	実技				
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ 競技用水着				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	採点競技及び測定競技の特性を理解し、自己の能力・適性等に応じて目標や課題をもち練習や競技を行える者。				
備考	3種目の科目に興味関心を持ち実践し意欲的に行動できる生徒（部に所属して技術の向上を目指す） 2年次では基礎的な実技を行います。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	オリエンテーション	・陸上競技の特性	中間 考査	
		競争種目	・ 走基本、30MTT、リレー練習 ・ ロングジョギング		
	5月	中長距離走	・ 50M走、バウンディング、跳躍基本練習 ・ メディシンボール投げ、補強運動		
		跳躍運動			
	6月	投運動	・ スティック走、加速走、補強運動 ・ ロングジョギング、インターバル走 ・ 跳躍基本、SD		
		競争種目			
	7月	中長距離走	・ ダッシュ、砲丸投げ、補強運動 ・ クロール、平泳ぎ、バタフライ		
跳躍運動					
8月	投運動	・ クロール、平泳ぎ、バタフライ			
	水 泳				
9月			期末 考査		
後期	10月	体 操	・ 前転・開脚前転・倒立前転 ・ 後転・後転倒立 ・ 倒立・倒立歩行・側転 ・ 演技発表	中間 考査	
	11月	競争種目	・ ハードル基本、ラダートレーニング・加速走 ・ 1500M・3000M		
		中長距離走			
	12月	跳躍運動	・ 加速走・跳躍基本（走り高跳び・走り幅跳び） ・ 突き刺し練習、基本動作練習		
		投運動			
	1月	競争種目	・ スタート練習、スティック走、ミニハードル、インターバルトレーニング ・ ロングジョギング、ファルトレク ・ サーキットトレーニング		期末 考査
	2月	中長距離走	・ サーキットトレーニング		
跳躍運動					
3月	投運動	・ 記録会			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	スポーツⅡ（2年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	球技の特性について理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これからのスポーツの高度な技術と審判法を習得できるようにするとともに、生涯を通して、スポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を習得する。				
科目の目標	球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指すこと及び主体的、合理的、計画的な実践を通して自己の課題を解決できるようにする。				
授業形態	実技				
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	各種目において、自ら意欲的に実践し、競技力の向上を目指すこと。規則（服装、時間など）を守り、安全に留意して行動すること。				
備考	種目、科目に興味関心を持ち実技を自ら実践し意欲的に行動できる生徒（部に所属して競技力の向上を目指す） 専門的指導可能な種目を限定し、開講する。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	各種目のオリエンテーション 球技	<ul style="list-style-type: none"> 各実施種目の特性と年間計画の確認。 基礎的技術 体力向上 技術の発展と戦略 安全の確保と対応 	中間 考査
	5月	ゴール型 ネット型 ベースボール型		
	6月			
	7月			期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	球技 ゴール型 ネット型 ベースボール型	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた実践 作戦や状況に応じた技能の向上 審判法と競技運営 	中間 考査
	11月			
	12月			
	1月			期末 考査
	2月			
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	スポーツⅢ		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>武道等についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、これらのスポーツの高度な技能と審判法を習得できるようにするとともに、技能を發揮して試合をすることができる資質や能力を育てる。</p>				
科目の目標	<p>武道の基礎・基本を身につける。主に剣道を実施する。</p>				
授業形態	<p>実技・講義</p>				
教科書 使用教材等	<p>ステップアップ高校スポーツ</p>				
評価の観点 評価の方法	<p>関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）</p>				
選択条件	<p>特になし</p>				
選択する上 での心得	<p>武道の特性を理解し、計画的に実践する。武道に興味関心を持ち実技を自ら実践し意欲的に行動できる生徒。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	オリエンテーション 剣道	① 着装、礼法	中間 考査	
	5月		② 足さばき		
	6月		③ 竹刀の握り方		
	7月		④ 素振り		
	8月		⑤ 打ち方 ・ 面 ・ 小手 ・ 胴		
	9月		⑥ 二段の技 ・ 小手一面 ・ 面一胴 ・ 小手一胴 ・ 面一面		期末 考査
	後期		10月		剣道
11月		⑧ 引き技 ・ 引き面 ・ 引き小手 ・ 引き胴 ・			
12月		⑨ 試合競技			
1月		⑩ 審判法			
2月		⑪ 日本剣道形の実技	期末 考査		
3月					

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	スポーツ総合演習（3年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	採点競技・測定競技または球技の専門的知識や特性についての理解と実践に関する課題の解決を目指した研究を行う。				
科目の目標	体操競技・陸上競技・水泳競技・球技の専門的な知識や高度な技能の総合的な活用をめざした課題研究を通して、生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及びスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。				
授業形態	実技、体験、発表				
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	スポーツ I または スポーツ II（2年次）を履修していること				
選択する上 での心得	採点競技・測定競技または球技の特性を理解し、自己の能力、適性等に応じて目標や課題をもち、将来指導者を目指す者。				
備考	意欲的に行動できる生徒（部に所属して技術の向上を目指す） 専門的指導可能な種目を限定し、開講する。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	オリエンテーション スケジュールの確認 資料の収集 テーマの研究	・陸上競技の課題研究 中長距離走の動作分析 跳躍運動の動作分析 投運動の動作分析 トレーニング方法 ルール及び審判法について	中間 考査
	5月	資料の収集 テーマの研究	・水泳の課題研究 クロールの動作分析 平泳ぎの動作分析 背泳の動作分析 バタフライの動作分析 着衣泳法 救助方法 トレーニング方法 ルール及び審判法について	
	6月	テーマの研究	・体操の課題研究 前転・開脚前転・倒立前転の動作 分析 後転・後転倒立の動作分析 倒立・倒立歩行・側転の動作分析 演技構成 トレーニング方法 ルール及び審判法について	
	7月	テーマの研究		期末 考査
	8月	テーマの研究		
	9月	テーマの研究 中間発表		
後期	10月	テーマの研究	・バスケットボール・ハンドボール・サッカーの 課題研究 シュート・パスの動作分析 ディフェンス・オフェンスの動作分析 作戦・戦術・ゲーム分析 トレーニング方法	中間 考査
	11月	テーマの研究 論文のまとめ	・卓球・テニス・バレーボールの課題研究 サーブ・レシーブの動作分析 ストロークのバリエーション・ホレー・ラリーの動 作分析 シングルス・ダブルスのゲーム分析 トレーニング方法	
	12月	テーマの研究 論文のまとめ	・野球・ソフトボールの課題研究 捕球及びスローイングの動作分析 バッティング及びバントの動作分析 ピッチングの動作分析 作戦・戦術・ゲーム分析	
	1月	テーマの研究 論文のまとめ		期末 考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	スポーツトレーナー実習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	スポーツ界に幅広く取り上げられている、ストレングス&コンディショニング等の実技・実習を段階的に学習するとともに、実際にスポーツの現場で活用できる資質や能力を育てる。				
科目の目標	ストレングス&コンディショニング等の意義を理解し、トレーニングの実技を通して習得する。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	トレーニング指導者テキスト実技編				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	2年次にスポーツ概論を履修していることが望ましい。				
選択する上 での心得	専門的な分野を学びますので、復習と自主的な態度が求められます。将来を考えた上で、積極的に技能習得をはかること。				
備考	体育系進学希望者は必ず選択すること。 25名程度				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	レジスタンストレーニング	<ul style="list-style-type: none"> • 上肢のエクササイズ、下肢のエクササイズ、体幹部のエクササイズ、クイックリフト • 下肢のプライオメトリクス、上肢のプライオメトリクス、体幹部のプライオメトリクス • 有酸素性持久力トレーニング、水中で行う有酸素性トレーニング、無酸素性持久力トレーニング • 上肢のスタティックストレッチング（セルフ）、体幹・下肢のスタティックストレッチング（セルフ）、上肢のスタティックストレッチング（パートナー）、体幹・下肢のスタティックストレッチング（パートナー）ダイナミックストレッチング（スタンディングベース、ウォーキングベース、フロアーベース）、スポーツ障害予防のコンプレッションストレッチング 	中間 考査
	5月	プライオメトリクス 持久力トレーニング		
	6月	柔軟性トレーニング		
	7月			期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	スピードトレーニング	<ul style="list-style-type: none"> • ランニングスピード向上のトレーニング、アジリティ向上のトレーニング • 静的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング、動的なバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング、その他のバランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング • セルフエクササイズ系、ウォーキング系、スキップ系、ステップ系、バランス系、スピード系 • 形態測定、体力測定 	中間 考査
	11月	バランス能力・姿勢支持能力向上のトレーニング		
	12月	ウォームアップのための運動		
	1月	形態測定・体力測定		期末 考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	コーチ学		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	専門とするスポーツ種目の技術・作戦などコンディション・イメージトレーニングの技法を習得するとともに、実際にスポーツを競技として取り組むことができる資質や能力を育てる。				
科目の目標	スポーツ・体育・運動心理学を通して、コーチとスポーツ、心理学との関わりや、コーチングの役割を習得する。				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	「知的コーチングのすすめ」(大修館)・ステップアップスポーツほか				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解(運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む)				
選択条件					
選択する上 での心得	運動競技を実践するに当たっては、知的な理解に基づいて行うことが効果的である。体育・スポーツの指導者などに関心があり、積極的に取り組む者。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等		
前期	4月	第1章コーチング哲学を考える鍵	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れない精神 ・コーチの語源に見る指導者の役割 ・独りよがりでないスポーツ観 ・日本独特のスポーツ観が生み出したもの ・知的文化としてのスポーツ ・競技スポーツにおける勝利学のすすめ ・コーチにとって一番大切なもの ・コーチがもつべき5つの顔 ・受け継がれるコーチの遺伝子 	中間 考査		
	5月					
	6月	第2章コーチングの指針を考える鍵			<ul style="list-style-type: none"> ・勝たせたコーチ、育てたコーチ ・競技者の成長に合わせた指導スタイルの変化 ・心技体＋「知」 ・スポーツ・フィールドにおいて求められる賢さ ・公としての義務をもつコーチの役割 ・ブランド・マネジメントの重要性 ・創造的ルール破りのすすめ ・競技スポーツに向き合うための「覚悟」 ・勝利者の条件 	期末 考査
	7月					
	8月					
	9月					
後期	10月	第3章コーチングの方法を考える鍵	<ul style="list-style-type: none"> ・向上を約束する論理的プロセスの構築 ・世界で戦うための資質とは ・トップアスリートを育てる鍵 ・コミュニケーション・スキル ・コミュニケーション・スキルを高める5つの鍵 ・知る・わかる・できる 	中間 考査		
	11月					
	12月	第4章練習を考える鍵			<ul style="list-style-type: none"> ・練習の構成を考える ・ゲームのように練習を組み立てる～ゲーム・ライク・プラクティス～ ・逆算して練習を組み立てる～M-T-M Method～ ・攻防形式だけで練習を組み立てる～ヴァイプルー方式～ ・スカウティング情報をもとに練習を組み立てる～情報戦略型練習～ 	期末 考査
	1月					
	2月					
	3月					
	1年間のまとめ					

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	スポーツⅣ（ダンス）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	ダンスの特性についての理解と課題の解決を目指した計画的な運動の実践を通して、その高度な技術を習得できるようにするとともに、交流し、発表することができる資質や能力を育てる。				
科目の目標	現代的なリズムに乗り、自由に相手に対応して踊る楽しさや喜びを学習する。テーマに沿って（創作ダンスで）自分の感情や考え方を身体表現する。				
授業形態	実技				
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	2年次か3年次のいずれかで履修することができる。				
選択する上 での心得	授業には正しい服装で臨むこと。 ダンスでは、自らダンスを創作することが求められますので積極的かつ自主的な態度で臨むこと。				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスに興味関心があり実践を通して、将来に役立てたい生徒を対象とします。 ・実習場所の条件から人数上限を20名とします。 				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	オリエンテーション	・学習の意義や内容・評価	中間 考査
	5月	基本運動	・身体づくり ・基本姿勢 ・身体各部位の運動 ・組み合わせた運動 ・リズムカルな音楽に合わせた運動 ・運動の発展	
	6月	リズム・伝承型ダンス	・よさこいソーラン	
	7月			
	8月			
	9月			
後期	10月	即興からの作品づくり	・ダンスを踊るための簡単な動き ・運動課題、イメージ課題をてがかりにした空間の変化を利用したダイナミックな踊り ・テーマに沿った表現を利用した作品作り	中間 考査
	11月		・自由創作（選曲から完成まで） ・既製の作品を模倣し、その動きを表現する。	
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンス ・現代的なリズムのダンス 		
	1月			
	2月			
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	スポーツⅤ（野外活動）（2年次）		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	自然とのかかわりの深い野外の運動の特性について理解し、その知識と技能を習得できるようにするとともに、自然の中での行動の仕方を身に付け、自然に親しむことができる資質や能力を育てる。				
科目の目標	野外活動として、キャンプ（磐梯青年の家）・スキー（猪苗代スキー場）を体験し、基礎、基本を習得します。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	特になし				
選択する上 での心得	講義と年2回の実習がありますので、積極的に授業に参加し、やる気があること。				
備考	野外活動に興味があり、実践を通して、将来に役だてたい生徒を対象とします。また、実習以外での講義がキャンプ11時間・スキー11時間、7校時目にあります。 諸経費 キャンプ15,000円、スキー32,000円				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	キャンプ実習基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 1 (テントの基礎知識) ・ 講義 2 (テントの組み立て) ・ 講義 3 (テントのはる場所を選ぶ) ・ 講義 4 (テントのたたみ方) ・ 講義 5 (ままどをつくる) ・ 講義 6 (上手な火の燃やし方) ・ 講義 7 (火の後始末と救急処置) ・ 講義 8 (野外炊飯) ・ 講義 9 (飯ごうの使い方) ・ 講義 10 (天気を調べる基礎知識) ・ 講義 11 (病気の応急手当) 	中間 考査
	5月			
	6月			
	7月	キャンプ実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 三角テント設営 ・ 2 五色沼散策 ・ 3 縄文焼き絵付け ・ 4 達沢沢登り ・ 5 ナイトハイク ・ 6 野外炊飯 ・ 7 猪苗代湖水浴 ・ 8 キャンプ実習テスト ・ 	期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	スキー基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 1 (スキーの歴史・特性) ・ 講義 2 (スキーの用具、部位) ・ 講義 3 (学習に使われる用語) ・ 講義 4 (スキーの実技説明) ・ 講義 5 (スキーの実技説明) ・ 講義 6 (スキーの実技説明) ・ 講義 7 (準備すべき服装・用具) ・ 講義 8 (ゲレンデのマナー) ・ 講義 9 (スキー事前調査アンケート) ・ 講義 10 (班分け) ・ 講義 11 (危険予測と応急手当) 	中間 考査
	11月			
	12月			
	1月	スキー実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 スキーの付け方の確認 ・ 2 グループ別レッスン ・ 3 ナイターレッスン ・ 4 スキースクールでのレッスン ・ 5 スキースクールでのテスト (国際スキー技術検定バッチテスト) 	期末 考査
	2月			
	3月			

系 列	スポーツ 健康	教 科	保健体育	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	ニュースポーツ		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	自分の能力に適した挑戦課題を設定し、スポーツの楽しさを生涯にわたって継続する大切さ理解するとともに、実際にスポーツに親しむことができる資質や能力を育てる。				
科目の目標	フラインディスク・インディアカ・ソフトバレーボール・ターゲットバードゴルフ・フィールドホッケーなどの新しいスポーツを体験し学習する。				
授業形態	実技				
教科書 使用教材等	ステップアップ高校スポーツ				
評価の観点 評価の方法	関心・意欲・態度・思考・判断・運動技能・知識・理解（運動の楽しさや喜びを深く味わうことができ、自ら進んで計画的に運動をし、健康・安全に関心を持ち意欲的に学習に取り組む）				
選択条件	2年次か3年次のいずれかで履修することができる。				
選択する上 での心得	ニュースポーツでは、体育の授業では学ぶ事のできないスポーツを学びます。ゲーム形式での授業が中心となるので、他の生徒と協力する心（協調性）や自ら進んで行動する態度（自主性）をしっかり持つこと。				
備考	スポーツに対して意欲関心があり社会体育において将来活躍し、役立てたい生徒を対象とします。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	オリエンテーション バードゴルフ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の意義や内容・評価 ・ 基本的な技術 ・ 羽根を打つ ・ アプローチ・パッティング ・ 簡易コースを回る 	中間 考査	
	5月				
	6月				
	7月	インディアカ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲーム ・ 試合・審判法 	期末 考査
	8月				
	9月				
後期	10月	フライングディスク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲーム ・ 試合・審判法 ・ 基本技術の練習 	中間 考査	
	11月	ソフトバレー			
	12月				
	1月	フットサル		<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本技術の練習 ・ 基本技術を応用した簡易ゲーム ・ 試合・審判法 	期末 考査
	2月				
	3月				

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	声楽基礎		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>姿勢や呼吸法、発声や共鳴などに関する基本的な知識や技術を習得します。そのためには楽譜が読めることが最低条件です。教科書として使用するコンコーネ50番は、様々な調で作曲された練習曲集です。長調から短調に転調もあります。このような専門的な知識をふまえて、声の質に合わせた発声法や共鳴の方法を学びます。</p> <p>主となる練習曲はイタリア歌曲や日本歌曲などの芸術歌曲になります。</p>				
科目の目標	<p>声楽に関する基礎的な知識・技術を身に付け、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を持って創造的に歌う能力を高める。</p>				
授業形態	演習、講義				
教科書 使用教材等	コンコーネ50番（全音楽譜出版社） 楽譜				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歌唱の基礎的な知識・技能を身に付けているか。 2 楽曲理解の上、思いや意図を持って創造的な表現ができたか。 3 授業に熱心に取り組んだか。 <p>評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況と授業への関心・意欲・態度の観察。 2 提出物。 3 年4回の実技試験。 				
選択条件	個人レッスンを行うため、選択人数20人以下を目安とする。				
選択する上での心得	<p>声楽が受験科目にある学校に進学しようとする者は選択することが望ましい。人前で独りで歌唱することも多くあるので、そのつもりで授業に臨んでください。</p> <p>楽曲は、クラシックの声楽曲が主になります。ポップスやロックの発声とは異なります。</p>				
備考	楽譜を印刷したものやプリント類を配りますので、各自ファイルを準備すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	発声の基礎（姿勢、呼吸法、共鳴） コンコーネ50番1 『Ave Maria』	・腹式呼吸、軟口蓋の共鳴、横隔膜の意識の仕方について、意識的に行えるようにする。	中間実技テスト
	5月	コンコーネ50番2, 3 イタリア歌曲 『Caro mio ben』	・イタリア語の発音、発声、歌い方について学ぶ。	
	6月	コンコーネ50番4, 5 ドイツ歌曲 『Haidenroselein』	・ドイツ語の発音、発声、歌い方について学び、イタリア歌曲と比較する。	
	7月	シューベルトの歌曲 『An die Musik』 『冬の旅』（鑑賞）	・シューベルトの歌曲について歌唱と鑑賞の視点から学ぶ。	期末実技テスト
	8月	文化発表会の練習	・合唱により授業の成果を発表する。	
	9月			
後期	10月	文化発表会の練習		中間実技テスト
	11月	コンコーネ50番8, 11 オペラ 「クセルクセス」 「魔笛」	・オペラを通して、声楽による多彩な表現方法を学ぶ。	
	12月	コンコーネ50番12, 13 日本歌曲 『浜辺の歌』 『この道』	・日本語の子音や母音の発音の重要性に気づき、表現に生かす。	
	1月	いろいろな「Ave Maria」 Schubert Caccini J. S. Bach	・様々な作曲家による Ave Maria を学び、楽曲の内容や曲想の違いを感じ取り、表現方法を工夫する。	期末実技テスト
	2月	授業内発表会	・独唱、アンサンブルなどの演奏形態を通して、授業内で演奏会を行う。	
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	ソルフェージュ		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>新曲視唱・・・コールユーブンゲン第1巻程度の曲を、初見で歌唱できる力を身に付けます。</p> <p>聴 音・・・旋律や和音を聴いて、リズムやメロディーを楽譜に書き取る力を身に付けます。</p> <p>楽曲分析・・・伴奏つきソルフェージュ1を使用し、調整判断や転調、テンポ等を分析し、それらをもとに表現の工夫を考えて歌う力を養います。</p> <p>基本的には歌うことをもとに授業を進めていきます。</p>				
科目の目標	音楽を構成する諸要素を正しくとらえ、音楽的に表現するための基礎的能力を養う。				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	コールユーブンゲン第1巻 伴奏つきソルフェージュ1				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 正しい音程・リズムで歌うことができるか。 2 正しい記譜法を理解しているうえで、聴音の書き取りができているか。 3 自ら楽曲を分析し、表現に生かすことができているか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	「音楽理論」と同時履修すること。				
選択する上 での心得	<p>階名唱ができること。</p> <p>ピアノなど音楽経験があること。</p> <p>家庭で予習復習ができること。</p>				
備考	五線譜を使用するので各自準備すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	<年間を通して、視唱と聴音は同時に学習を進める>		
	5月	視唱 コールユーブンゲン第1巻 2度音程 3度音程 4度音程	・正しい音程を理解し、歌うことができるようにする。	中間考査 実技テスト
	6月	伴奏付きソルフェージュ1 1～10	・リズムを正しく聞き取ることができるようにする。	
	7月	聴音 リズム聴音 2拍子、3拍子、 4拍子、6拍子	・音程が正しく聴き分けられるようにする。	
	8月	旋律聴音 2度、3度		期末考査 実技テスト
	9月			
後期	10月			
	11月	視唱 コールユーブンゲン第1巻 5度音程 6度音程 7度音程	・読譜力を身につけ、楽譜を見て音程やリズムを理解し、歌えるようにする。	中間考査 実技テスト
	12月	伴奏付きソルフェージュ1 11～20	・聞き取った音程やリズムを正しく記譜できるようにする。	
	1月	聴音 旋律聴音 4度、5度		
	2月			期末考査 実技テスト
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	器楽基礎		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>ピアノとギターの基礎的な奏法を学びます。ピアノを選択する場合、個人練習はキーボードを用いて、自ら練習計画を立て、練習を進めます。レッスンは一人ずつ順番に行い、一人一人に応じた指導をします。ギターは、初心者については初めに基礎の奏法を学びます。経験者は自ら楽曲を準備し、各自で練習を進めて技術を高めます。</p> <p>また、楽曲への理解を深め、豊かな表現力を目指します。</p>				
科目の目標	<p>器楽に関する基礎的な学習を通して、楽器の音色や奏法の特徴を理解し、表現上の効果を生かして演奏する能力を高める。</p>				
授業形態	演習				
教科書 使用教材等	<p>ピアノ初心者はバイエル教則本 ギターについては、個人で準備する。 楽譜は、各位で準備する。</p>				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 楽器の基礎的な奏法を理解し、演奏しているか。 2 楽曲理解の上、思いや意図を持って創造的な表現ができたか。 3 授業に熱心に取り組んだか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	<p>保育系の上級学校に進学を予定している者が履修することが望ましい。 楽器の経験がある者。 楽器の台数に限りがあるので、選択人数30人以下を目安とする。</p>				
選択する上 での心得	<p>楽器の台数に限りがあり、他の楽器が鳴っているところでの練習になるため、お互いに配慮して練習に臨んでください。</p>				
備考	<p>楽譜をまとめるためのファイルを準備すること。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 ピアノ・ギターの基礎奏法	・ピアノ・ギターの運指と姿勢について学習する。	中間考査 実技テスト (ピアノ・ギター) 期末考査 実技テスト (ギター、ピアノ)
	5月	2 ピアノ・ギターの独奏曲	・曲想に応じた表現を工夫できるようにする。 ・個人の目標に応じた練習計画に基づき、練習を進める。	
	6月	3 アンサンブル	・2人以上でアンサンブルまたは合奏をし、幅広い表現方法を学ぶ。	
	7月	4 発表会①	・発表会形式の相互評価を行う。	
	8月		※ピアノ選択者は個人練習曲の他に、個人レッスンでバイエルを同時に進める。	
	9月			
後期	10月	5 ピアノ・ギターの独奏曲	・個人の目標に応じた練習計画に基づき、練習を進める。	中間考査 実技テスト (ギター、中間発表会) 期末考査 実技テスト (発表会)
	11月	6 アンサンブル、合奏	・2人以上でアンサンブルまたは合奏をし、グループによっては編曲などをしてそれぞれに合った表現を工夫する。	
	12月	7 発表会②	・発表会形式の相互評価を行う。	
	1月		※ピアノ選択者は個人練習曲の他に、個人レッスンでバイエルを同時に進める。	
	2月			
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	音楽理論		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>音名、音符と休符、リズムと拍子、音程、音階などについて学習します。問題演習を中心に行いますが、鑑賞や表現とも関わらせて音楽についての理解を深めます。</p> <p>理論をもとに、楽曲の構造から音楽に向き合う学習をする科目です。</p>				
科目の目標	<p>音楽に関する基礎的な理論を理解させるとともに、表現と鑑賞に活用する能力を養う。</p>				
授業形態	演習				
教科書 使用教材等	新装版楽典 理論と実習				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 表現において、活用できる知識を身につけることができたか。 2 音楽を理論的に思考する能力を身につけることができたか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	「ソルフェージュ」と同時履修すること。				
選択する上 での心得	<p>楽器の演奏や歌唱の経験がある程度あり、楽譜を読めること。</p> <p>特に音楽大学や音楽専門学校を目指すものは履修することが望ましい。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	1 音価、音高 音符、休符、付点音符 付点休符、タイ、三連符 五線、加線、音部記号 譜表、音名、変化記号	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の仕組みを理解する。 ・幹音と派生音、派生音の音名と変化記号の効力、楽譜の書き方について理解する。 ・音程、度数、種類、二つの幹音による音程、派生音を含む2音による音程について理解する。 	中間考査	
	5月				
	6月				
	7月	2 幹音と派生音		<ul style="list-style-type: none"> ・音程、度数、種類、二つの幹音による音程、派生音を含む2音による音程について理解する。 	期末考査
	8月	3 音程			
	9月				
後期	10月	4 拍子	<ul style="list-style-type: none"> ・拍子記号、いろいろな拍子について理解する。 ・複音程、転回音程について理解する。 ・長音階、短音階、属音、下屬音、導音、音階の仕組み、音階の調号について理解する。 	中間考査	
	11月				
	12月				5 複音程、転回音程
	1月	6 音階 長音階 短音階		<ul style="list-style-type: none"> ・長音階、短音階、属音、下屬音、導音、音階の仕組み、音階の調号について理解する。 	期末考査
	2月				
	3月				

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	日本伝統音楽研究 I		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	箏曲と三味線の演奏を通して、日本伝統音楽への理解を深めます。				
科目の目標	1 箏曲と三味線の演奏形態や表現上の特質を知る。 2 音楽の種類の違いによる発声法や歌唱法、楽器及びその奏法、また、調弦の違いによる表現の多様性について理解を深める。				
授業形態	演習				
教科書 使用教材等	箏曲小曲集第1巻				
評価の観点 評価の方法	評価の観点 伝統音楽の学習を通して、自国の文化についての理解を深めることができたか。 評価の方法 実技テストと授業態度などで総合的に評価する。				
選択条件	3年次に日本伝統音楽研究Ⅱを履修する場合は必ず履修すること				
選択する上 での心得	和室での正座の授業になります。 箏および三味線の数に制限があり、多人数には対応できません。				
備考	琴爪、爪皮代を必要とします。 楽譜をまとめるファイルを各自準備すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 箏曲の歴史	・箏曲の歴史を理解する。	中間実技テスト(箏曲、三味線)
	5月	2 箏曲の基礎奏法 「さくらさくら」 「荒城の月」	・右手の奏法、左手の奏法について理解する。	
		3 演習 「雪華」	・箏曲の響きを生かした音色で弾けるようにする。	
	6月	4 三味線の基礎奏法	・右手の奏法、左手の奏法について理解する。	期末実技テスト(箏曲、三味線)
	7月	6 演習 「彩」	・三味線本来の音色が出るよう心がけて演奏する。	
	8月			
	9月			
後期	10月	7 演習 「さくらさくら」 「大江戸日本橋」 「とおoryんせ」	・「六段」を含めて、学年末発表会にふさわしい選曲を行う。 ・慎重に譜読みをし、表現の工夫を考える。	実技テスト (箏曲・三味線)
	11月			
	12月		・完成度の高い演奏ができるよう、弾き込みを重ね、間の取り方など日本伝統音楽の特徴を捉えた演奏ができるようにする。 また、相互評価をさせる。	
	1月			期末実技テスト(箏曲、三味線)
	2月	8 授業内演奏会		
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	声楽		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>1 「声楽基礎」で学んだ歌唱技術を踏まえ、イタリア歌曲などの独唱曲で歌唱表現を学びます。</p> <p>2 合唱や声楽アンサンブルを通して、アンサンブルの技術について学びます。</p>				
科目の目標	<p>声楽に関する基礎的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。</p>				
授業形態	演習				
教科書 使用教材等	<p>コンコーネ50番 イタリア歌曲</p>				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 楽曲分析に基づいて、豊かな表現で歌うことができたか。 2 授業に熱心に取り組み、主体的な音楽活動を行っているか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	2年次に「声楽基礎」を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>声楽が受験科目にある学校に進学を希望する者が履修することが望ましい。 人前で独りで歌唱する場面が多くあります。</p>				
備考	<p>楽譜を印刷したものやプリント類を配りますので、各自ファイルを準備すること。</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	コンコーネ50番16 イタリア歌曲 『Caro laccio, dolce nodo』 『Vaga luna che inargenti』	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりした腹式呼吸に支えられ、響きの位置が音高によって乱れずに歌えるようにする。 ・イタリア・ドイツ・日本のそれぞれの歌曲に発音にふさわしい表現ができるようにする。 	中間実技テスト
	5月	コンコーネ50番23 ドイツ歌曲 『An die Musik』		
	6月	コンコーネ50番29 日本歌曲 『くちなし』		
	7月	ミュージカル 「キャッツ」 「サウンドオブミュージック」	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージカル特有の表現方法を味わい、自らの表現に生かす。 	期末実技テスト
	8月	文化発表会練習	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱により授業の成果を発表する。 	
	9月			
後期	10月	文化発表会練習	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業演奏会を開催し、二年間の学びを発表する。 	中間実技テスト
	11月	卒業演奏会練習		
	12月	卒業演奏会		実技テスト (卒業演奏)
	1月			
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	ソルフェージュ演習		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	「ソルフェージュ」で学習した内容をふまえて、よりソルフェージュ能力（新曲視唱、聴音、楽曲分析等）を高めます。				
科目の目標	音楽を形づくっている要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための専門的な知識・技術を身に付ける。				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	コールユーブンゲン第1巻 伴奏付きソルフェージュ2				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各種音部記号による読譜を習得し、正しい音程で歌うことができたか。 2 演奏された音楽を楽譜に書き取ることができているか。 3 自ら楽曲を分析し、豊かな表現で歌うことができているか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	2年次に「ソルフェージュ」と「音楽理論」を履修していること。 「音楽理論演習」を同時履修していること。				
選択する上 での心得	楽器の演奏や歌唱の経験がある程度あり、楽譜を読めること。 特に音楽大学や音楽の専門学校への進学を希望する者は履修することが望ましい。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	<年間を通して、視唱と聴音は同時に進める>		中間考査
	5月	視唱 コールユーブンゲン第1巻から 8度音程	・正しい音程で歌えるようにする。	
	6月	跳躍音程 長調		
	7月	新曲視唱 伴奏付きソルフェージュ2 1～25	・初見で歌えるようにする。	期末考査
	8月	聴音 ハ長調 2拍子 3拍子 4拍子 6拍子	・正しい記譜法でかけるようにする。	
	9月			
後期	10月	視唱 コールユーブンゲン第1巻 短調	・正しい音程で歌えるようにする。	中間考査
	11月			
	12月	新曲視唱 伴奏付きソルフェージュ2 26～50	・伴奏の響きを参考に音程を取れるようにする。	
	1月	聴音 イ短調 2拍子 3拍子 4拍子	・旋律的短音階、和声的短音階の特徴をよくふまえて、記譜できるようにする。	期末考査
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	器楽		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>1 器楽基礎で学んだことをふまえ、さらに楽器演奏のための知識を深め、音楽表現力を高めます。</p> <p>2 楽器の特性を生かすための演奏法を工夫し、楽曲の構成を理解した音楽性豊かな演奏ができるようにします。</p>				
科目の目標	<p>器楽に関する専門的な学習を通して、楽曲の表現内容を理解し、表現意図を明確にして創造的に表現する能力を養う。</p>				
授業形態	演習				
教科書 使用教材等	<p>ピアノ初心者はバイエル教則本、中級者はブルグミュラー練習曲集 その他の楽器は、各自で準備する</p>				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 器楽に関する技能を向上させ、個性を生かした創造的な表現ができたか。 2 授業に熱心に取り組み、主体的な音楽活動を行っているか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	2年次に「器楽基礎」を履修していること。				
選択する上 での心得	<p>自ら練習の計画を立て、自主練習ができること。 人前で独りで演奏できること。</p>				
備考	楽譜をまとめるファイルを各自準備すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	1 選曲（編曲を含む）	・個人、グループなど演奏形態を決定し、選曲する。	中間実技テスト（中間発表会形式）	
		2 個人（またはパート）練習	・個人、またはパート毎に練習する。		
	5月	3 合奏練習	・互いのパートを聞き合い、呼吸の合わせ方や、音楽表現をそるえる工夫をする。		
	6月				
	7月	4 発表会	・完成度の高い演奏ができるよう、練習を積み重ねる。 ・相互評価を行う。		
	8月	5 卒業演奏会選曲 6 個人（パート）練習	・2年間の締めくくりにふさわしい選曲をする。 ・完成度の高い演奏ができるよう、しっかり譜読み、アナリゼをする。		期末実技テスト（発表会形式）
	9月				
後期	10月			中間実技テスト（中間発表会形式）	
		7 合奏練習	・豊かな音楽表現ができるよう練習を進める。		
	11月				
	12月	8 卒業演奏会	・表現したいことがわかる演奏を心がけ、相互評価をする。	学年末考査実技テスト（卒業演奏）	
	1月				
	2月	自宅学習			
	3月				

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	音楽理論演習		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	音楽理論学習した内容に続いて、和音、機能と声に基づく調性判断、旋法、楽式に関する学習をします。最終的に楽曲分析ができるように学習を進めます。					
科目の目標	音楽に関する理論の基礎的な知識を深め、個性豊かな音楽表現の能力を養う。					
授業形態	講義・演習					
教科書 使用教材等	楽典 理論と実習					
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点 音楽の知識をもちいて、楽曲分析ができるようになったか。</p> <p>評価の方法 定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>					
選択条件	2年次に「音楽理論」と「ソルフェージュ」を履修すること。 「ソルフェージュ演習」を同時履修すること。					
選択する上 での心得	楽器の演奏や歌唱の経験がある程度あり、楽譜を読めること。 特に音楽大学や音楽の専門学校の進学を希望する者は履修することが望ましい。					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 移調、関係調、転調	・移調、関係調、転調、五度圏、調号と調名について理解する。	中間考査
	5月	2 和音 三和音	・和音、和音記号、三和音の種類、和音の配置、和音の転回について理解する。	
	6月	七の和音	・七の和音、和音記号、和音の配置、和音の転回、終止、コードネームについて理解する。	
	7月	3 旋法	・旋法について理解する。	期末考査
	8月			
	9月			
後期	10月	4 機能と声	・機能と声について理解する。主和音、属和音、下屬和音、導音の働きについて理解する。	中間考査
	11月	5 調性判断	・調を確定するための法則を理解する。	
	12月	6 楽式 一部形式 二部形式 三部形式 ソナタ形式	・楽曲形式について理解する。	
	1月	自宅学習		期末考査
	2月			
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	日本伝統音楽研究Ⅱ		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	日本伝統音楽研究Ⅰの学習を更に深めた授業です。箏の合奏や三味線との合奏など、アンサンブルを主体にした内容です。日本伝統音楽ならではの、同じ旋律のようで同じではない特徴あるアンサンブルを経験します。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 箏曲合奏の特質を知る。 2 箏と三味線の合奏を通して、日本伝統音楽の特徴ある合奏について理解を深める。 				
授業形態	演習				
教科書 使用教材等	箏曲小曲集第1巻、				
評価の観点 評価の方法	伝統音楽の学習を通して、自国の文化についての理解を深めることができたか。実技テストと授業態度などで総合的に評価する。				
選択条件	2年次に「日本伝統音楽研究Ⅰ」を履修していること。				
選択する上 での心得	西洋音楽の合奏も楽しいものですが、日本伝統音楽の合奏もまた趣の違う楽しさやおもしろさがあります。仲間と気持ちを合わせて合奏するためには、自分のパートを責任もって演奏できるようにしなければなりません。自分の課題にきちんと向き合う姿勢が大事です。				
備考	三味線の糸代、譜尺代を必要とします。 楽譜をまとめるファイルを各自準備すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 箏曲 「祭花」	・譜読みをし、個人で演奏する。	中間実技テスト（箏曲合奏）
	5月			
	6月	2 箏曲 「六段の調べ」	・譜読みをし、個人で演奏する。	
	7月	3 三味線 「三弦による楽しいメロディー集」	・三味線の基礎的な奏法を学ぶ。	
	8月			
	9月			
後期	10月	4 箏曲 「月下美人」	・譜読みをし、表現の工夫を考える。	実技テスト（箏曲・三味線）
	11月	5 合奏	・箏と三味線の旋律がつかず離れずのヘテロフォニーになっていることを味わいながら、掛け合いの呼吸を感得する。	
	12月	6 学年末演奏会	・完成度の高い演奏ができるよう、弾き込みを重ね、間の取り方など日本伝統音楽の特徴を捉えた演奏ができるようにする。 また、相互評価をさせる。	
	1月			期末実技テスト（箏曲、三味線）
	2月			
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	音 楽	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	音楽史		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	西洋音楽史について、鑑賞や考察を通して学習します。				
科目の目標	我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解を深め、多様な音楽の文化的価値をとらえる能力を養う。				
授業形態	講義・演習				
教科書 使用教材等	音楽史〈作曲家とその作品〉				
評価の観点 評価の方法	<p>評価の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 音楽と社会の関わりや、時代の様式観について理解することができたか。 2 楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家・演奏者による表現の特徴を理解することができたか。 <p>評価の方法</p> <p>定期考査の成績、提出物、出席、学習態度等をもとに、総合的に評価する。</p>				
選択条件	2年次か3年次のいずれかで履修することができる。				
選択する上 での心得	<p>定期考査の内容は専門的なものになる。</p> <p>3年次で音楽系列の課題研究を選択する予定の者は2年次で履修することが望ましい。</p>				
備考	資料をまとめるためのファイルを用意すること。				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 古代	<ul style="list-style-type: none"> ・古代文明の中の音楽 ・ギリシャの音楽 ・ローマ時代の音楽 ・キリスト教音楽 ・グレゴリオ音楽 ・ローマ音楽 ・ポリフォニー、オルガヌム ・ノートルダム楽派 ・世俗音楽 ・定量記譜法 ・教会旋法 ・モテトゥス ・各国の音楽、楽派 ・鍵盤楽器、弦楽器、管楽器 ・宗教音楽の音楽 ○パレストリーナ ・歌劇 ・楽器と器楽 ○ビバルディ、J. S. バッハ、ヘンデル ・古典主義音楽の背景 ・オーケストラ音楽 ○ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン 	中間考査
	5月	2 中世		
	6月	3 ルネサンス		
	7月	4 バロック		
	8月	5 古典派		
	9月			
後期	10月	6 ロマン派Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・ロマン主義音楽の背景：文学 ○ロッシニー、ウェーバー、メンデルスゾーン、シューベルト ・標題音楽 ・楽劇とオペレッタ ○ベルリオーズ、シューマン、ショパン、リスト、ブラームス、ベルディ、ビゼー、ワーグナー ・各国の音楽の特徴 ○ムソルグスキー、チャイコフスキー、ドボルザーク、マーラー、シュトラウス、サンサーンス ・印象主義 ・12音音楽 ・各国の音楽の特徴 ○ドビュッシー、ラベル ○ストラビンスキー、シェーンベルク、レスピーギ、ペンデレツキ、ブリテン、ガーシュイン 	中間考査
	11月	7 ロマン派Ⅱ		
	12月	8 19～20世紀の音楽		
	1月	9 20世紀の音楽		
	2月	(3年次自宅学習)		期末考査
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	構成		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>近年、社会生活を豊かに営む上で、その役割がますます注目されるデザイン分野について、その背景となる歴史や文化、色彩学や図像学を学びます。</p> <p>また、様々な演習作品制作や、テーマ設定による作品制作を通して、形態、配色、バランスなどの美の法則性を学び、用と美の融合を目指した完成度の高い作品を制作します。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代生活の幅広い分野に広がるデザインについて、その歴史的背景を知り、都市生活や生活文化に密接に結びつくデザインの役割を理解する。 2 用と美の融合について、様々な考え方や方法、技術を知り、自分のデザイン作品制作のうえでのアプローチの方法を学ぶ。 3 目的やテーマ性を考えた配色、形態のデザイン化の技術や技法を習得する。 				
授業形態	講義・作品制作				
教科書 使用教材等	「デザインの色彩（日本色彩研究所）」				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への関心・意欲・態度 2 作品内容（完成度・形態・構図・配色の工夫、オリジナリティー・用と美の追求） 3 定期考査による評価・実技と筆記（年間4回） 				
選択条件	2年次での選択科目				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩、デザインの基礎的な技術等に関し、学問として学びます。 ・色彩や図像に関する講義もあり、その内容を踏まえ、数多くの課題に取り組み進学や就職にむけた力をつけていきます。 ・楽しく作品を創るという時間ではなく、ある課題やテーマ、条件をふまえ、より完成度の高い作品制作を目指す時間です。授業時間のみならず、放課後や自宅での作品制作に取り組む貪欲な姿勢が不可欠です。 ・美術系学校に進学を目指している者、美術表現系の仕事に興味を持っている者。 				
備考	教材費一年間2,000円（年度初めに一括徴収）				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	基礎デザインの学習 ポスターの制作 (視覚伝達デザイン)	○色の認識システム、色の構成要素について学ぶ。 ① 光と色 ② 眼の認識システム ③ 有彩色 ④ 色名 ⑤ PCCS トーン ⑥ 彩色の技法 演習1 色相環の作成 2 色相差、有彩色、無彩色によるグラデーションの作成 3 線の分割と円による「静」、「動」の平面構成の演習。 ○情報とデザインの間係を認識する。 ① デザインの歴史を学ぶ。 ② 構成の基本を学ぶ。 ③ 配色計画をたて、完成度を上げる。 演習 文化祭ポスター	中間 考査
	5月			
	6月			
	7月			期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	ロゴデザイン	○ レタリングの基礎を学び名前をレタリングする。 ○ ロゴデザインの特徴と要素を理解し、作成する。	中間 考査
	11月	ラッピングデザイン	○ 仮説上の商品のロゴデザインとロゴマークを用いて、手提げ袋と包装紙のデザインする。 ①商品の設定をする。 ②ロゴ、ロゴマークのデザインをする。 ③配色と絵柄の構成をし、商品としての完成度を高める。	
	12月	線による構成	○ 点から線へ、線から面への造形の基礎を認識する。 ○ オリジナルな発想と、線描道具のみで、豊かな造形を生み出す、おもしろさを発見する。 ○ 既存の生物をもとに、個性的な造形物を作成し、美的な完成度を追求する。	
	1月			
	2月			
	3月			期末 考査

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	素描		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>絵画的表現の基礎となる素描について、作品制作を通して技術や知識理解を深め、豊かな表現能力の育成と専門的技術の習得を目指します。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、絵画的表現の歴史や特徴を知り、その表現の可能性を理解する。 2、絵画的表現の技術を習得し表現の工夫ができるようにする。 3、個性豊かで創造的な表現ができる能力を高める。 4、美意識を高め主体的に美を味わい批評できるようにする。 				
授業形態	講義 作品制作				
教科書 使用教材等	教科書：「美術 表現と技法（日本文教出版）」 プリント資料 教材は年度初めに集める教材費より購入				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1、授業への関心・意欲・態度および技能・知識の理解 2、作品内容（完成度・形態、構図・配色の工夫、オリジナリティーの追求） 3、年4回の考査（実技内容も含む） 				
選択条件	2年次での選択科目				
選択する上 での心得	<p>週4時間の授業で絵画を中心に深く学習します。主体的に長時間にわたって制作する根気強さや自己の感性を磨く意志の強さが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術系統に進学を希望する者で特に油絵科、デザイン科、彫刻科、工芸科を考えている者は選択することが望ましい。 ・ 作品の出来はもちろん、制作時間中もしっかりと作品と向き合うことが大切です。 				
備考	教材費年間2,000円（年度初めに一括徴収）				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	クロッキー ・人物 ・静物	・素描用具(鉛筆・木炭・パステル・ペン)や諸技法の理解と実技 ・クロッキーからはじめ構図・ポーズの研究をする。人物画の歴史・性格描写の技法・色彩と形の研究をする。	中間 考査
	5月			
	6月	デッサン(鉛筆)	代表的な2種類のデッサンの対比により、描画素材の違いによる変化を感じる。構図とデリケートな明暗の調子に神経を研ぎ澄ます面白さを味わいたい。	
	7月	デッサン(木炭)		期末 考査
	8月			
	9月			
後期	10月	樹木を描く	鉛筆淡彩技法による水彩画の技法理解を図り、光と影や色彩の魔術的魅力を感じる。	中間 考査
	11月	細密描写	写真に写されたものを、そのものの細部まで写真同様に表現する。	
	12月			
	1月	油彩(グリザイユ)	油彩画の基礎知識、その表現について、古典的なグリザイユ(モノクローム描法)を通してデッサンの的に学ぶ。	期末 考査
	2月			
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	ビジュアルデザイン		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	<p>私達は標識を見て意味を理解したり、絵本を読んで優しい気持ちになったりします。生活のあらゆる所に色や形はあり、それによって生活が豊かになっています。この授業ではデザイン分野の学習を中心に、視覚的な伝達効果に関する美術表現について、幅広く学びます。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 美術を愛好する心情を育成する。 2 テーマに適した伝達手段や造形効果を選択できるようにする。 3 視覚的効果や伝達機能について理解を深め、それを活用できるようにする。 4 自分や友人の作品を鑑賞し理解することで、様々な個性を認め、理解しようとする心情を育成する。 				
授業形態	講義・作品制作				
教科書 使用教材等	「WATCH2 (秀学社)」				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への関心・意欲・態度 2 作品内容 (完成度・形態、構図・配色の工夫、オリジナリティー) 3 考査による評価 				
選択条件	2年次での選択科目				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・主としてデザイン分野における制作活動を行います。 ・美術における伝達手段である造形要素(色や形、その効果)とそれの扱い方に関して学習するので、構成Iの内容と重複する部分があります。 ・美術Iを履修していない生徒でも履修できる内容ですが、教養的に造ることを深めたい生徒、積極的に表現にこだわれることのできる生徒の選択を希望します。 				
備考	教材費年間2,000円(年度初めに一括徴収)				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	1. 四季のデザイン	○ 四季のイメージを文字と色で表現する。 ●色のイメージ、特性を学ぶ。 ●イメージを視覚化し、構成をする。	期末 考査
	5月			
	6月	2 ネームプレート	○ 木彫の技法の習得とレリーフの特徴を学ぶ。 ● レタリング ● 構成 ● 彫刻（薬研彫り、片きり彫り） ● 塗装	
	7月			
	8月	3 ギフトボックス	○目的、内容物にあったデザインを考える。 ●立方体の作成 ●展開図の作成 ●色、柄のデザイン	
	9月			
後期	10月	4. コラージュ (デザイン)	○ モダンテクニックを知り、表現の幅を広げる。 ●モダンテクニックの種類と表現方法を学ぶ。 ●コラージュ表現の特徴と素材（マチエール）の生かし方を考える。	期末 考査
	11月			
	12月	5 テキスタイルデザイン	○身近にある繊維製品のデザインの再認識をする。 ● インテリア、ファッションデザインを見直し、素材、季節、使用目的を考慮し、個性的な柄を考案する。	
	1月			
	2月			
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	構成演習		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>構成で学んだ内容を更に深め、より質の高い作品制作を目指します。 色彩や構成、造形要素についての知識を深めながら、それを踏まえた制作によって 進路決定に繋がる技術力を身に付けていきます。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、形体と色彩について理解を深め、ねらいをもちそれを活用することができる。 2、形体と色彩の性質を踏まえ、主題に適した構成をすることができる。 3、形体と色彩を扱う技術を高め、秩序だった構成をすることができる。 4、造形要素とその効果を踏まえ、表現意図や構成のねらいを理解する力を高める。 				
授業形態	講義・作品制作				
教科書 使用教材等	教科書：「デザインの色彩（日本色彩研究所）」				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への関心・意欲・態度 2 作品内容（完成度・形態、構図・配色の工夫、オリジナリティー・用と美の追求） 3 考査による評価（年間4回） 				
選択条件	2年次に「構成」を履修していること。				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学や就職に向け、各々の進路に対応した内容が中心。 ・ 授業時間のみではなく、放課後も活用し、個別の進路対策を進めます。進路実現のため、真摯に努力する姿勢が不可欠です。 ・ 実技試験や自己表現テスト（論述を含む）、感覚テストなどが進学・就職試験にある生徒中心。 				
備考	アクリル絵の具、ケント紙、色紙など教材は年度初めに集める教材費（年間2,000円）より購入				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等	
前期	4月	(1) 平面構成の応用 ■素材の形と色を活かし表現する 平面構成	※「平面構成の応用」では、与えられた素材のイメージと形と色の組み合わせを考えながら、より高度な平面構成作品の完成を目指します。	中間 考査	
	5月	①与えられた素材 のイメージスケッチ			
	6月	②アイディアスケッチ (平面構成用) ③アイディアスケッチ (色について) ④作品制作 (テーマに基づく平面構成)			
	7月	(2) 立体構成の基礎 ■動きまたは感情を立体で表現する 立体構成			※「立体構成の基礎」では、動く人または動く物の姿をどう捉えるか、または感情をどう形にすれば良いかを追究し、個性的で表現豊かな立体作品を制作します。
	8月	①動き・感情の表現について ②立体化へのエスキース			
	9月	③造形制作 (ボール紙・スチレンボードなど)			
10月	(3) 応用制作 ■ポスター及び広告を想定した 平面または立体作品制作	※「応用制作」では、構成Ⅱの総まとめとして制作を行います。	中間 考査		
11月	①参考作品の鑑賞と制作の流れ ②コンセプトシート制作 ③制作(立体及び平面) ※立体の場合は、写真撮影等 ・場面設定と照明設定 ・撮影構図と撮影技術 ・撮影とプリント ・完成と鑑賞	■この課題では、自分で架空の映画やイベントを企画し、それを宣伝するためのポスターや広告を制作します。 ①平面作品 コンセプトシートを基に、アクリルガッシュ等を使い平面作品を制作します。 ②立体作品(撮影含む) コンセプトシートを基に、立体イラストレーション(ボックスアート)を制作します。その後、写真撮影・プリント出力し、ポスターや広告として作り上げます。		期末 考査	
12月					
1月	(4) まとめ ■ファイルと作品の整理 ・作品制作の反省と鑑賞 ・ポートフォリオ制作 ・テーマ別課題制作	※「まとめ」では、年間を通じ制作してきた作品をファイルに綴じる作業をします。その際「作品集(ポートフォリオ)となるように題名や制作年月日なども記録します。またお互いの作品を鑑賞する時間を設けます。			
	2月	「3年次自宅学習」			
	3月				

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	絵画		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	「素描」で学んだ内容を更に深め、より質の高い作品制作を目指します。デッサンによる観察や描写の精度を上げながら、油彩をはじめとするその他の表現形式も学習し表現の幅を広げます。テーマは人物、静物、風景、抽象、構想等さまざまな分野から授業のねらいに応じて提示します。				
科目の目標	1、主題をもって、より主体的な作品表現ができるようにする。 2、主題を表現するための創造的に構想する力を伸ばす。 3、絵画的表現の技術を向上させ、より高い表現ができるようにする。 4、美意識を高め主体的によさを味わい批評できるようにする。				
授業形態	講義・作品制作				
教科書 使用教材等	教科書：「美術 表現と技法（日本文教出版）」				
評価の観点 評価の方法	1、授業への関心・意欲・態度および造形知識の理解と感受性。 2、作品内容（完成度・造形的工夫、オリジナリティーと美の追求） 3、考査による評価（年間4回）				
選択条件	2年次に「素描」を履修していること。				
選択する上 での心得	素描の大切さを知り、それを元にさらによい作品を目指す。				
備考	画用紙、木炭、油彩絵の具など教材は年度初めに集める教材費（年間2,000円程度）より購入				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	風景画(水彩)	デッサンをもとに水彩画を描く	中間 考査
	5月	テンペラ画(静物)	卵黄を混入させた油彩の原型とも言われる技法を理解し、その素朴な色調を堪能する。	
	6月		ハッチングと言う細密な線描技法の習得と作業に対する粘り強さを培う。	
	7月	ミクストメディアによる制作 ・ ブロックプリント ・ コラグラフ ・ ローレリーフ	ミクストメディアの歴史について技法の理解とテーマ設定 各テーマによる制作	
	8月			
	9月			期末 考査
後期	10月	自画像	素描から8号大キャンバスボードへ油彩	中間 考査
	11月			
	12月	版画(メゾチント技法)	金属板版画技法各種の理解と明暗の諧調を幅広く取るデリケートな感性を養う。	期末 考査
	1月			
	2月	「3年次自宅学習」		
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	立体造形		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	近年、都市計画や空間表現など、多岐な場面にその表現や知識が必要とされている立体表現について、塑像、彫刻、模型制作、抽象構成などの多様な立体表現を学ぶことによって、理解を深めます。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 立体表現の歴史や特徴を知り、その表現の可能性を理解する。 2 都市生活で果たす造形表現の役割を理解する。 3 立体表現の技術を習得する。 4 学んだ知識や技術を活かし、オリジナリティー性の高い立体造形表現を追求する。 				
授業形態	講義・作品制作				
教科書 使用教材等	教科書：「イラストでわかる建築模型の作り方（彰国社）」				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への関心・意欲・態度 2 作品内容（完成度・形態・構図・配色の工夫、オリジナリティー・用と美の追求） 3 考査による評価 				
選択条件	3年次選択科目				
選択する上 での心得	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築や彫塑分野における制作活動を行います。 ・ 学ぶ姿勢と、細やかなモノづくりへのこだわりを、長期にわたり持ち続ける自信がある生徒の選択を希望します。 ・ 美術系進学（特に建築科、彫刻科）を選択している者。 ・ 美術表現関係の仕事に興味がある者。 				
備考	スチレンボード、スチレンボンド、色紙、製図紙など教材は年度初めに集める教材費（年間2,000円程度）より購入				

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	美術概論		単位数	2	ブロック 番号	
科目の概要	人間が生きていく上で、自然や社会の中で美術が果たしてきた役割を理解し、美術を学ぶ上での基盤となる力を高めることを目指します。美しさを感じさせる造形理論などが自然を観察する中で生まれてきたことや、芸術作品やそれを生みだした作家の背景にある社会や文化に対する理解を図ります。					
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、美術文化とそれを作り出した人間生活を尊重し生活する態度を育む。 2、美術が果たしてきた役割について知り、美術の意義を理解する。 3、美術を生活に応用したり、活用したりする力を伸ばす。 4、作品の良さやその価値を根拠を挙げて批評する力を伸ばす。 					
授業形態	講義中心（作品制作もあり）					
教科書 使用教材等	教科書：「Art and You 創造の世界へ」、プリント資料					
評価の観点 評価の方法	美術への関心・意欲・態度。芸術的感受の高まり。 技法・知識の理解。鑑賞能力の向上。 自分と他者との関係理解。 自己表現能力の力量。根拠を伴った作品の批評能力 定期考査（年2回）					
選択条件	3年次選択科目					
選択する上 での心得	技術習得の授業ではなく、美術における知識的な学習を主にして美術とはどんなことなのかを思考し理解を深める授業です。知識欲・継続的な思考力・意志の強さなどが要求されます。安易な選択は継続を不可能にします。 美術の伝統・知識・文化を愛好する心情を持つ者もしくは芸術学志望者。将来学芸員など美術の担い手や啓蒙的存在になりたい者が履修してください。					
備考	墨汁、和紙、画用紙、筆など教材は年度初めに集める教材費（年間1,000円）より購入					

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	作家論	岡本太郎・ゴッホ・ピカソその他作家の作品とその背景から美術表現の根源を探る。	
	5月	日本・東洋美術について 墨絵制作	代表的作品の解説および鑑賞 墨絵制作により東洋絵画の本質に迫る。	
	6月	西洋美術について 芸術の哲学的基礎	代表的作品の解説および鑑賞 芸術とは何か、人間の精神の本質から理想が生じそれをどのように表現していくのかを考える。	
	7月			
	8月	美学入門	古代ギリシャ哲学から始まり自然と美・歴史と美・日本東洋・西洋美術とは何かについて考える。	
	9月			
	後期	10月	創作家の態度	創造的作家となるにはどのような心構えが必要であるか考察する。
11月		模倣と独立	真の芸術作品を作り上げる人はオリジナルの人でなければならないのではないか。	
12月		陶芸とは	美の根源を求めて古代の土器制作実習	
1月		美的要素とは	構図・色彩・形・遠近法などの理解を深める。	
2月		「自宅学習」		
3月				

系 列	芸術表現	教 科	美術	選択科目の 種類	自由選択科目
講座名	クラフトデザイン		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	工芸的分野の作品制作を通じ、実用と美の関連についてについて考えながら作品を制作する。ハンドクラフトのオリジナルで素朴な味わいは物作りの基本となる。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、現代生活の幅広い物分野の原点に広がるクラフトデザイン(手工芸的デザイン)について、その用途や美の特徴を理解する。 2、使用目的や美術性を考えた色や、形態のデザイン化の技術を習得する。 3、根気強く、味わいのある素朴な作品をつくる個性的な感性や、それを鑑賞できる感性を育てる。 				
授業形態	講義・作品制作				
教科書 使用教材等	「工芸Ⅰ（秀学社）」				
評価の観点 評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1、授業への関心・意欲・態度および造形的知識の理解および感性の高まり (※ 技術の習得のみならず、作品に向き合う制作姿勢を重視します) 2、作品内容（完成度・形態の工夫、オリジナリティーの追求） 				
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年次か3年次のいずれかで履修することができる。 ・ 制作スペースの確保と専門用具を使用するため、選択人数25人以下を目安とする。 				
選択する上 での心得	<p>より良い作品の完成を目指し、図面や縮小作品(エスキース)のパターンを作る等、手仕事が好きで地道な練習を嫌がらず、最後まで仕上げる根気と意欲が不可欠。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きちんとした態度で授業に臨むこと。 ・ 危険な道具を使つての制作もあるので、真剣に取り組める者のみ受講して下さい。 				
備考	皮革、金具、染料、絵の具など教材は年度初めに集める教材費(年間2,000円)より購入				

	月	単元／題材	学習内容	定期考 査等
前期	4月	七宝焼	金属工芸で唯一の多彩な色を使う工芸品として、その制作工程およびイッテンの色彩学を踏まえた学習を行う。	
	5月	木彫	美的要素と使用目的に適した形状のデザイン（機能美）と加工技術と学ぶ。	
	6月	シルクスクリーン	様々な版画技法への理解を深め、その一つであるシルクスクリーンを体験し、作品の美しさ、デザイン性を考え、日常で使えるものを制作する。	
	7月			
	8月	勾玉	古来の装身具としての勾玉の歴史的背景を学ぶとともに、オリジナルデザインの装飾品を制作する。	
	9月			
後期	10月	レザークラフト	皮革の特性や用具・制作方法への理解を深める。 時間をかけて基本の制作技法を学び、それらを応用してオリジナルの革小物を作る。	
	11月			
	12月		1、革にお種類と性質 2、用具とその使い方 ① スタンピング法 ② カービング法 ③ かがり 3、染色方法 4、仕上げ剤について 5、金具の取り付け方	
	1月			
	2月	(3年次選択者は 「自宅学習」期間)	制作品 ブレスレット コースター カードケース	
	3月		など	

系 列	芸術表現	教 科	演 劇	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)	
講座名	舞踊 I		単位数	4	ブロック 番号	D1 D2
科目の概要	演技に必要な身体を作るためモダンダンス・ジャズダンスを学ぶ。モダンダンスではクラシックバレエの基礎レッスン、ジャズダンスでは筋力トレーニングなどを行い、ダンスを通して"表現"するための身体作りを行います。					
科目の目標	モダンダンス・ジャズダンスを通して演技に必要な身体感覚を目覚めさせ、自分で自由に体をコントロールできるようにする。					
授業形態	実技					
教科書 使用教材等	「新クララのバレエ・レッスン バーレッスン&センターレッスン」(新書簡)					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ダンス技能の習得度を前・後期とも中間・期末考査において実技テスト。 ○ダンスという体系化された心身表現の知識を理解して、自己の表現の向上につなげているか。 ○1年間を通して出席状況と授業に参加する意欲・姿勢、表現者としての姿勢も評価の対象となる。 					
選択条件	「演技・演出」と同時履修すること。					
選択する上 での心得	<p>舞踊ではモダンダンスでダンスに必要な動きの基本を、ジャズダンスでリズムに乗って表現することを学びます。</p> <p>ダンスについて「楽しい」というイメージだけが先行してしまいがちですが、ダンスがある程度形になるまでには訓練と時間が必要です。「習ってすぐに踊れるようになるだろう」という安易な気持ちではなく、地道にレッスンを重ねる努力が必要であることを分かっておいてほしいです。</p>					
備考	<p>稽古着の購入 レオタード・タイツ・ダンSPANツ・ジャズスニーカーなど約2万5千円程度。 校内発表会等で実技発表あり。</p>					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	モダンダンス	ストレッチ・立ち方・ポジション・ポワント・ドミポワント・ルルベ・ア・テール	中間考査はジャズダンスのみ。期末考査についてはモダン・ジャズとも実施。モダンについては技術的なことが主に考査対象となる。授業中の小テスト有り。
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン	
	5月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・手の動き ドゥミプリエ・振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン、ステップ、振り付け。	
	6月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・手の動き タンジュ・振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン、ステップ、ロックミュージックによる振り付け。	
	7月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ ジュテ 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動き、ステップ、ロックミュージックによる振り付け。	
	8月	モダンダンス	7月までの学習内容の復習	
		ジャズダンス	7月までの学習内容の復習	
	9月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ ロンドウ・ジャンプ・ア・テール 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動き、ステップ、ロックミュージックによる振り付けの仕上げ。	
後期	10月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ バットマン・ 振り付け	中間考査・期末考査中に実技のテストを実施。その他授業中の小テスト有り。
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン、ステップ、スタンダードジャズによる振り付け。	
	11月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ グラン・バットマン 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン、ステップ、スタンダードジャズによる振り付け。	
	12月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ ストウーニュ 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動き、ステップ、スタンダードジャズによる振り付けの仕上げ。	
	1月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ アン・デ・オール アン・デ・ダン 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン、現代ポップスによる振り付け。	
	2月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ポールドブラ シェネ・振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、基本的な身体の動きのレッスン、ステップ、現代ポップスによる振り付けの仕上げ。	
	3月	モダンダンス	1年間の学習内容の復習	
		ジャズダンス	1年間の学習内容の復習	

系 列	芸術表現	教 科	演 劇	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)	
講座名	演技・演出		単位数	4	ブロック 番号	C1・G1
科目の概要	<p>前期 演技をするための解放された心と身体作りのレッスン。発声法のレッスン。 舞台技術の基礎（照明・音響）について学ぶ。</p> <p>後期 モノローグ作品『自画像』作品創作を中心に、表現の基礎を学ぶ。 学年末に『自画像』校内公演を実施。公演を通して、舞台仕込み・広報活動など公演のための様々な制作活動を体験する。</p>					
科目の目標	演技に必要な声と身体を獲得するための基礎レッスン、訓練方法を習得する。 また、実際に作品を創作、公演を打つことにより舞台制作の現場を体験する。					
授業形態	実技					
教科書 使用教材等	『発声と身体のレッスン』（増補新版）白水社					
評価の観点 評価の方法	<p>前期・・・心身解放・発声法などの技能の習得度を中間・期末考査において実技テストを行う。</p> <p>後期・・・演技・舞台技術などで習得した知識・技能を応用して、『自画像』公演制作へ意欲的に関わることができたか。</p> <p>1年間を通して出席状況と授業に参加する姿勢・表現者としての姿勢も評価の対象となる。</p>					
選択条件	「舞踊Ⅰ」と同時履修すること。					
選択する上 での心得	演劇の授業は教師が一方的に何かを生徒に教える、生徒はただ教師のいうことを聞いているだけでよいという授業ではありません。毎日の授業メニューの中から自分で何かを学び取っていかうとする意欲と、表現に対するアンテナの高さが必要となります。自分で考え、自分で学ぶ。この姿勢が何よりも必要になってきます。また、実技なので2コマ連続で授業を行います。身体を使う運動性の高いメニューも多いということも知っておいて下さい。					
備考	<p>※実習費</p> <p>7月外部参加事業（東京研修旅行）1万円 および3年次卒業公演積立金 1万5千円 舞台技術実習費 千円</p>					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	声 身体 信頼	身体と声を使って心身を解放するウォーミングアップ・ゲーム等を通して創作活動を共にする仲間との信頼関係を築く。また、表現の元となる「自分」に気づく。	中間考査における実技試験
	5月	声 身体 信頼	引き続き心身解放のワークショップの他、野口体操、アレクサンダーテクニーク等、声を響かせる身体を作る基礎レッスン及び、響く声を出すための発声法について学ぶ。	
	6月	声 身体 信頼	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。	
	7月	声 身体 信頼	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。	
	8月	声 身体 信頼 表現	3年次生卒業公演の制作実習。劇場仕込み、公演運営などを通して舞台制作の現場を学ぶ。長期休業後であることから思いっきり心身を解放する。	
	9月	声 身体 信頼 表現	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。台詞の解釈と分析について学ぶ。	
後期	10月	舞台技術講座 ・舞台スタッフ概説 ・照明	舞台技術講習その1 劇場舞台の仕事についての基礎知識を学ぶ。 照明についての基礎知識を学ぶ。	後期中間考査：舞台技術に関するペーパーテストによる評価。 2月末、演技公開試験：モノログ『自画像』公演による評価
	11月	舞台技術講座 ・音響	舞台技術講習その2 音響についての基礎知識を学ぶ。	
	12月	声・身体 舞台技術講習 モノログ『自画像』公演 作品制作	10・11月で学んだ照明・音響について、実際に劇場に出向いて体験学習する。モノログ『自画像』の作品を創作する。	
	1月	声・身体 モノログ『自画像』作品 制作	引き続き心身解放のワークショップ。 モノログ作品『自画像』の公開試験に向けて作品を制作する。ポスター作成、広報活動を行う。	
	2月	声・身体 アトリエ公演作品制作	引き続き心身解放のワークショップ。 モノログ作品『自画像』の公開試験に向けて作品を制作する。ポスター作成、広報活動を行い、アトリエで『自画像』公演を実施する。	
	3月	1年間を振り返って	公演終了後のふりかえり作業。 1年間の活動から学んだこと、「自分」について考えたことを文章化する。	

系 列	芸術表現	教 科	演 劇	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	舞踊Ⅱ		単位数	4	ブロック 番号	A・B2
科目の概要	舞踊Ⅰに引き続き、演技に必要な身体を作るためモダンダンス・ジャズダンスを学ぶ。モダンダンスではクラシックバレエの基礎レッスン、ジャズダンスでは筋力トレーニングなどを行い、ダンスを通して"表現"するための身体作りを行う。					
科目の目標	モダンダンス・ジャズダンスを通して演技に必要な身体感覚を目覚めさせ、自分で自由に体をコントロールできるようにする。					
授業形態	実技					
教科書 使用教材等	「新クララのバレエ・レッスン バーレッスン&センターレッスン」(新書簡)					
評価の観点 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ダンス技能の習得度を前・後期とも中間・期末考査において実技テスト。 ○ダンスという体系化された心身表現の知識を理解して、自己の表現の向上につなげているか。 ○1年間を通して出席状況と授業に参加する意欲・姿勢、表現者としての姿勢も評価の対象となる。 					
選択条件	2年次に「舞踊Ⅰ」を履修していること					
選択する上 での心得	<p>舞踊ではモダンダンスでダンスに必要な動きの基本を、ジャズダンスでリズムに乗って表現することを学びます。</p> <p>ダンスについて「楽しい」というイメージだけが先行してしまいがちですが、ダンスがある程度形になるまでには訓練と時間が必要です。「習ってすぐに踊れるようになるだろう」という安易な気持ちではなく、地道にレッスンを重ねる努力が必要であることを分かっておいてほしいです。</p>					
備考						

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・2年次の復習	中間・期末考査による 実技試験
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、ターン、2年次の復習。	
	5月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ドゥミプリエ グランプリエ・振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 ミュージカルダンスによる振り付け。	
	6月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・タンジュ シャンジュマン・振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 ミュージカルダンスによる振り付け。	
	7月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・タンデュ アントルシャ・カトル 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 ミュー ジカルダンスによる振り付けの仕上げ。	
	8月	モダンダンス	7月までの学習内容の復習	
		ジャズダンス	7月までの学習内容の復習	
	9月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ピケ・ターン ストゥーニュ 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 スタンダードジャズによる振り付け。	
後期	10月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・ジュテ ソテ・ 振り付け	中間・期末考査による 実技試験
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 スタンダードジャズによる振り付けの仕上げ。	
	11月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・カブリオル アラベスク 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 自己を表現する。	
	12月	モダンダンス	ストレッチ・バーレッスン・グリッサード グランジュテ 振り付け	
		ジャズダンス	ストレッチ、筋力トレーニング、ステップ、 自己を表現する。	
	1月	モダンダンス	1年間の学習内容の復習	
		ジャズダンス	1年間の学習内容の復習	
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	演 劇	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	演劇総合演習		単位数	4	ブロック 番号	E2・G2
科目の概要	<p>二年次の「演技・演出」で学んだ事をベースとして、表現者として必要な基礎的な知識と技術を修得し、それらを活かすための身体能力を身につける。また、夏期休暇の最後に行う卒業公演においては、外部講師の指導の下で作品を作り上げていくことで、作品の立ち上げから公演に至るまでの作業を実際に体験する。</p>					
科目の目標	<p>1、表現者として必要な演技・演出・舞台技術の知識・技術を身につける。 2、自身がコントロールし、より高度な表現をすることの出来る身体を作る。 3、多人数での表現の核となる、創造的な集団作りを学ぶ。</p>					
授業形態	実技演習・卒業公演（いわき芸術交流館アリオス小劇場）					
教科書 使用教材等	演劇入門（講談社現代新書）					
評価の観点 評価の方法	出席状況と授業に対する関心・意欲、身体解放・各表現技能を理解し、卒業公演・授業内発表で活用することが出来たか、卒業公演・授業内発表においてそれぞれの役割・能力を理解し、より積極的に取り組めたかを評価の対象とする。					
選択条件	2年次に「演技・演出」「舞踊Ⅰ」、3年次に「舞踊Ⅱ」を履修していること。					
選択する上 での心得	演劇の授業は教師が一方的に何かを生徒に教える、生徒はただ教師のいうことを聞いているだけでよいという授業ではありません。毎日の授業メニューの中から自分で何かを学び取っていかうとする意欲と、表現に対するアンテナの高さが必要となります。自分で考え、自分で学ぶ。この姿勢が何よりも必要になってきます。また、実技なので2コマ連続で授業を行います。身体を使う運動性の高いメニューも多いということも知っておいて下さい。					
備考	卒業公演制作費（約20,000円）を徴収する。 卒業公演の練習については夏期休業中も行うので参加すること。 後期に外部公演を行う場合もある。					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	身体解放 表現 ヴォイス	響く身体をつくる 卒業公演作品制作 上演作品の検討、制作 日程と役割の決定をする	中間 考査 実技 試験 演技 公開 試験： 卒業公演に よる評価
	5月	身体解放 ヴォイス 表現 卒業公演作品制作	距離と関係性を知る 卒業公演作品制作 上演作品を決定する	
	6月	身体解放 ヴォイス 表現 卒業公演作品制作	イメージの伝達について学ぶ。 卒業公演作品制作 音響・照明・舞台美術・衣装・小道具・情報宣伝などのプラン 決定	
	7月	身体解放 ヴォイス 表現 卒業公演作品制作	イメージの伝達について学ぶ。 卒業公演作品制作 劇場との打ち合わせ、 広報活動を実際に体験する	
	8月	身体解放 卒業公演	卒業公演作品制作・発表 劇場での公演準備、 舞台稽古後に発表。公演終了後の礼状 作成・発送などの作業をする	
	9月	表現	言葉と身体の両方向から、表現や伝達の 可能性について探る。	
後期	10月	表現	言葉と身体の両方向から、伝達や表現の 可能性について探る。	中間 考査 実技 試験 期末 考査 実技 試験
	11月	表現	言葉と身体の両方向から、伝達や表現の 可能性について探る。	
	12月	表現	言葉と身体の両方向から、伝達や表現の 可能性について探る。	
	1月	授業内発表作品制作・発表	2年間のまとめ 2年次からの2年間で 学んだことを考え、文章化してまとめる。	
	2月			
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	演 劇	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)	
講座名	日本舞踊		単位数	2	ブロック 番号	C2
科目の概要	日本舞踊を学ぶ。浴衣の着付け・日本舞踊の所作・扇の扱いなどの基礎知識、舞踊の振り付けを記録するための振り書き、日本舞踊史を学び、男型・女型・組踊り・江戸舞踊のそれぞれの曲を、一年間を通して習う。					
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本舞踊の所作を身につけ、伝統芸能の中の美意識を知る。 2、習った舞踊を全曲通して踊れるようにし、日本舞踊に対する理解を深める。 3、振り書きの仕方を覚え、習った振りを自分で記録・復習できるようになる。 					
授業形態	実技演習・講義					
教科書 使用教材等	日本舞踊ハンドブック（三省堂）					
評価の観点 評価の方法	出席状況、授業態度、日本舞踊に対する意欲・関心とともに、振り書きを習得・活用することができたか、各曲の振りや特徴を理解し表現できたかを、前後期中間・期末考査での筆記・実技試験で判定する。					
選択条件	2年次に「演技・演出」を履修していること					
選択する上 での心得	日本舞踊は浴衣を着ての稽古になります。月曜5・6時間目の授業なので、昼休み中に浴衣に着替え、授業時間に遅れないようにしましょう。また、授業終了後も清掃に遅れることのないよう、速やかに着替えて移動することが最低限の心構えとして必要です。その他、演技や舞踊でも述べた心構え等も同じように必要です。					
備考	浴衣着用での授業参加とする 舞扇(2,300円)の購入					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	日本舞踊入門	浴衣の着付け 日本舞踊の所作 扇の扱い方	中間・期末 考査における 実技試験
	5月	女踊り	「春よ来い」 振り書きを学び、振り付けの記録を 取れるようになる	
	6月	女踊り	長唄「梅桜」	
	7月	女踊り	長唄「梅桜」	
	8月	男踊り	長唄「あやめうり」	
	9月	男踊り	長唄「あやめうり」	
後期	10月	組踊り	長唄「せせらぎ」	中間・期末 考査における 実技試験
	11月	組踊り	長唄「せせらぎ」	
	12月	組踊り	長唄「せせらぎ」	
	1月	全曲さらい	1年間のまとめ	
	2月	自宅学習		
	3月			

系 列	芸術表現	教 科	演 劇	選択科目の 種類	自由選択科目	
講座名	演劇表現		単位数	2	ブロック 番号	2年次 B1 3年次 F1
科目の概要	心身解放や信頼、コミュニケーションなど、演劇の手法を用いたワークショップを体験することで、自己の身体と心のつながりに気づき、自己の心の動きをみつめることで、自己と他者の関係やひいては人間そのものについての洞察を深める。					
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、身体を使った心身解放のためのプログラムを体験し、自己の身体と心のつながりに気づく。 2、声がエネルギーであることに気づき、自己の声やその使い方について意識化する。 3、信頼やコミュニケーションなどのプログラムから、自分自身の不安や恐れ、他者との関わり方について考える。 4、自己に気づくことで、他者との関係やひいては人間そのものについての洞察を深める。 					
授業形態	実 技					
教科書 使用教材等	『表現力のレッスン』 鴻上尚史（講談社）					
評価の観点 評価の方法	<p>前期・・・心身解放・声などの技能の習得度を中間・期末考査において実技テストを行う。</p> <p>後期・・・引き続き表現に関するプログラムの実技テストを行う。 また、「表現」に関する課題について製作。発表作品を評価する。 1年間を通して出席状況と授業に参加する姿勢・表現者としての姿勢も評価の対象となる。</p>					
選択条件	<ul style="list-style-type: none"> ・他の演劇科目を履修した場合、この科目を履修することはできない。 ・2年次か3年次のいずれかで履修することができる。 					
選択する上 での心得	演劇の授業は教師が一方的に何かを生徒に教える、生徒はただ教師のいうことを聞いているだけでよいという授業ではありません。毎日の授業メニューの中から自分で何かを学び取っていかうとする意欲と自主性が必要となります。自分で考え、自分で学ぶ。この姿勢が何よりも必要になってきます。また、実技なので2コマ連続で授業を行います。身体を使う運動性の高いメニューも多いということも知っておいて下さい。					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・実習場所の条件から人数上限を20名とします。 					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	解放 声 身体 信頼	身体と声を使って心身を解放するウォーミングアップ・ゲーム等を通して他者との関係を築く。また、関係の元となる「自分」に気づく。	中間考査における実技試験	
	5月	解放 声 身体 信頼	引き続き心身解放や信頼のワークショップを通して、コミュニケーションの元となる「自分」について考える。声を響かせる身体を作る基礎レッスンをを行う。		
	6月	声 身体 信頼 表現	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。		
	7月	声 身体 信頼 表現	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。		
	8月	声 身体	長期休業後であることから思いっきり心身を解放する。		
	9月	声 身体 表現	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。		期末考査における実技試験。
後期	10月	声 身体 表現	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。	中間考査実技試験による評価	
	11月	声 身体 表現 作品制作 シーン	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。		
	12月	声 身体 表現 作品制作 シーン	引き続き心身解放のワークショップの他、声を相手に届け、声による表現を学ぶ。言葉を使わずに相手とコミュニケーションを取り、身体表現の可能性に気づく。		
	1月	声 身体 表現	引き続き心身解放のワークショップ。「声」について、イメージやベクトルについて学ぶ。		
	2月	声 身体 表現 「名乗り」 授業内発表	引き続き心身解放のワークショップ。声について、イメージやベクトルについて学ぶ。全員の前で自分の名前を名乗る。		実技試験『シーン』授業内発表による評価
	3月	1年間を振り返って	1年間の活動から学んだこと、「自分」について考えたことを文章化する。		

系 列	情 報	教 科	商 業	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	△簿記演習* (2年次)		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>家庭において家計簿に記録・計算・整理することで、その家のお金の使い方や、管理の仕方がわかります。</p> <p>簿記では、企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得することを目標とし、計数的に把握する能力を育てていく科目です。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 簿記の基本的な仕組みを理解する。 2 企業における取引を合理的、能率的に記帳する知識と技術を習得させる。 3 会計帳簿や財務諸表を通して経営上の問題を適切に判断する能力の育成。 				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	新版日商簿記 3球 テキスト (実教出版) 新版日商簿記 3級 問題集 (実教出版)				
評価の観点 評価の方法	授業態度や定期考査、到達度などを加味して評価を行う。				
選択条件	△ワープロ演習* (2年次) と同時履修すること △簿記演習* (3年次) を履修すること				
選択する上 での心得	授業時間だけでなく、毎日の復習を中心とした自宅学習が必要です。 また、長期休暇中の復習課題や検定試験直前の課外があります。 必ず取得するために強い意志を持って臨んでください。				
備考	問題集 1, 100円から1, 500円 電卓 2, 000円程度 (12桁以上の表示、ソーラー充電) 検定試験 日商・・・日本商工会議所 簿記検定				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等		
前期	4月	1. 簿記の基本原理 2. 簿記一巡の手続き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記の目的・種類 ・ 簿記の基礎概念 ・ 取引 ・ 仕訳 ・ 勘定口座への記入方法 ・ 仕訳帳と総勘定元帳 ・ 試算表 ・ 決算の意味 ・ 帳簿の締め切り ・ 損益計算書と貸借対照表 ・ 精算表の作成 ・ 現金勘定 ・ 当座預金勘定 ・ その他の預貯金 ・ 小口現金勘定 ・ 夏休みの宿題 	中間考査		
	5月	3. 決算手続き				
	6月	4. 現金・預金取引				
	7月					
	8月	5. 商品売買取引				
	9月	6. 掛け取引 7. 手形取引			<ul style="list-style-type: none"> ・ 3分法 ・ 仕入諸掛、売上諸掛 ・ 仕入帳、売上帳 ・ 商品有高帳 ・ 人名勘定 ・ 売掛金元帳、買掛金元帳 ・ 受取手形、支払手形 ・ 手形裏書譲渡、割引 	期末考査
後期	10月	8. 有価証券取引 9. その他の債権・債務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手形記入帳 ・ 有価証券売買 ・ 有価証券利息、配当 ・ 未払金、未収金 ・ 商品券、他店商品券 ・ 有形固定資産取得 ・ 資本的主出、修繕費 ・ 有形固定資産売却 ・ 引出金勘定 ・ 税金処理 ・ 3伝票、5伝票 ・ 伝票集計 ・ 売上原価 ・ 貸倒れ、減価償却 ・ 費用、収益 繰延、見越 ・ 消耗品、消耗品費 ・ 損益計算書 ・ 貸借対照表 	中間考査		
	11月	10. 固定資産取引				
	12月	11. 資本取引、税金処理 12. 帳簿と伝票				
	1月	13. 決算整理（1） 14. 決算整理（2）				
	2月	15. 財務諸表作成				
	3月	16. 日商2級への取り組み 現金・預金			<ul style="list-style-type: none"> ・ 銀行勘定調整表 	期末考査 日商簿記検定

系 列	情 報	教 科	商 業	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	△ワープロ演習* (2年次)		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	一般社会で通常利用されている文書の作成や取り扱いなどについての知識と技術を習得することを目標とし、ワープロソフト (WORD) を操作・活用することでその習熟を図り、図形などのマルチメディアを利用した文書作成能力を育てる。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 文書を正確にすみやかに作成する知識・技術・技能 2 文書を正確にすみやかに伝達し合う知識・技術 3 文書の保管・保存・廃棄まで組織的に処理する知識・技術 				
授業形態	実習・講義				
教科書 使用教材等	日本語ワープロ問題集 (日本情報処理検定協会) パソコンスピード認定試験 (日本語) (日本情報処理検定協会) 60 時間でエキスパート Word & Excel 2007/2010 (実教出版)				
評価の観点 評価の方法	授業態度や定期考査、設定目標級に対する到達度を加味し、評価を行う。				
選択条件	△簿記演習* (2年次) と同時履修すること △ワープロ演習* (3年次) を履修すること パソコン室を使用するため、選択人数20人以下を目安とする				
選択する上 での心得	授業時間だけでなく、放課後の自習や自宅学習が必要です。 授業時間は、つねに時間を計測します。 自主的かつ継続的に学習しなければ、上位級は取得できませんので 強い意志を持って臨んでください。 また、長期休暇中の学習も欠かせません。				
備考	各種検定受験料 1, 500円から5, 000円 問題集 800円から1, 500円 ワープロ検定 10月、12月、2月 日本語スピード検定 10月、12月、2月				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	パソコン、ワープロソフト の基本操作	・初期設定	中間考査 日本語 ワープロ検定 (日情) スピード検定 (日情) 期末考査
	5月	ブラインドタッチ	・ブラインドタッチ練習	
		ビジネス文書の構成	・速度練習 ・ビジネス文書の構成について	
	6月	速度、通信文	速度 「到達目標・10分200文字」	
			・速度練習 ・通信文の練習 (文字の設定) (文字の配置) (表の作成方法) (体裁調整) (表の挿入方法)	
	7月	速度 「到達目標・10分300文字」		
8月	・速度練習 ・通信文の練習 (複数表の挿入)			
9月	・速度、通信文の練習			
後期	10月		速度 「到達目標・10分460文字」	中間考査
	11月		・速度練習 ・通信文の練習 (表の応用)	
	12月		速度 「到達目標・10分500文字」	日本語 ワープロ検定 (日情) スピード検定 (日情)
	1月		・速度練習 ・通信文の練習 (地図の作成、基本)	
	2月		・速度、通信文の練習	期末考査 日本語 ワープロ検定 (日情) スピード検定 (日情)
	3月		速度 「到達目標・10分600文字」	
	4月		・速度練習 ・通信文の練習 (地図の作成、応用) (図形の取り込み) (計算式処理)	

系 列	情 報	教 科	商 業	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	△簿記演習* (3年次)		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>企業会計の役割や財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、対外的な報告書式の作成ができるまでの能力と態度を習得することを目標とする。 製造業（メーカー）における簿記（原価計算）の基本的な知識と技術を取得させ、製造原価から得られる情報を活用する能力を育てる。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 財務諸表の作成に関する知識と技術を身に付ける。 2 財務諸表を活用して企業の姿を正しく把握する能力を育成する。 3 工業簿記の基本的な記帳方法を身に付ける。 4 原価計算の役割や有効な活用を理解する。 				
授業形態	講義				
教科書 使用教材等	新版日商簿記 2級 商業簿記 テキスト（実教出版） 新版日商簿記 2級 商業簿記 問題集 （実教出版）				
評価の観点 評価の方法	授業態度や定期考査、理解度、目標に対する到達度などを加味して評価を行う。				
選択条件	△ワープロ演習* (3年次) と同時履修すること △簿記演習* (2年次) を履修すること				
選択する上 での心得	論理的な学習内容になりますので、 授業時間以上に毎日復習を中心とした自宅学習が必要です。 また、積み上げ科目ですので継続的な学習が不可欠になります。 文章読解と処理スピードが大変重要となります。				
備考	各種検定受験料 3級 2,500円 2級 4,500円 使用教材等 1,600円から2,100円 年度開始時期 3,800円程度 検定試験 日商・・・日本商工会議所簿記検定 7月、 2月実施				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1. 手形	<ul style="list-style-type: none"> 自己受為替手形 自己宛為替手形 	中間考査
	5月	2. 有価証券	<ul style="list-style-type: none"> 有価証券差入、預かり、保管 	
	6月	3. 商品売買 (1)	<ul style="list-style-type: none"> 棚卸商品の期末評価 	
	7月	4. 商品売買 (2)	<ul style="list-style-type: none"> 委託販売、受託販売 割賦販売 	日商簿記検定
	8月	5. 固定資産	<ul style="list-style-type: none"> 無形固定資産 	
	9月	6. 繰延資産	<ul style="list-style-type: none"> 繰延資産償却 	
			7. 引当金	<ul style="list-style-type: none"> 負債性引当金
後期	10月	8. 社債	<ul style="list-style-type: none"> 社債の発行、利払い 社債の償還 	中間考査
	11月	9. 純資産	<ul style="list-style-type: none"> 株式の発行 剰余金処理、損失処理 企業結合 	
	12月	10. 帳簿組織	<ul style="list-style-type: none"> 特殊仕訳帳 	期末考査
	1月	11. 決算・財務諸表の作成	<ul style="list-style-type: none"> 精算表 決算集合勘定 	
	2月	12. 本支店会計	<ul style="list-style-type: none"> 内部取引の控除 	日商簿記検定
	3月		<ul style="list-style-type: none"> 本支店合併財務諸表の作成 	

系 列	情 報	教 科	商 業	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	△ワープロ演習* (3年次)		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	<p>文書の作成や取り扱いなどについての知識と技術を習得することを目標とし、ワープロソフト（WORD）を操作・活用することでその習熟を図り、図形や表などを文書内で利用できる文書作成能力を育てる。</p>				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 文書を正確にすみやかに作成する知識・技術・技能を身に付ける 2 文書の保管・保存・廃棄まで情報を適切に処理する知識を身に付ける 3 創造力を持って文書作成ができる能力を身に付ける 				
授業形態	実習・講義				
教科書 使用教材等	<p>日本語ワープロ問題集（日本情報処理検定協会） パソコンスピード認定試験問題集（日本語）（日本情報処理検定協会） 情報処理技能検定試験（表計算）（日本情報処理検定協会）</p>				
評価の観点 評価の方法	授業態度や定期考査、処理の正確さ、速さに対する到達度を加味し評価を行う。				
選択条件	<p>△簿記演習*（3年次）と同時履修すること △ワープロ演習*（2年次）を履修していること</p>				
選択する上 での心得	<p>授業時間だけでなく、放課後の自習や自宅学習が必要です。 授業時間は、つねに時間計測です。 正確かつ迅速な処理作業のためには日頃から、自主的かつ継続的に学習することが大切です。高い目標を持って日頃から練習が重要です</p>				
備考	<p>各種検定受験料 1, 500円から5, 000円 問題集 800円から1, 500円 日本語ワープロ検定 7月、10月、12月、2月 パソコンスピード認定試験 7月、10月、12月、2月 情報処理技能検定（表計算） 10月、12月、2月</p>				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	文書に関する必要な知識 速度、通信文 (2年次の続き)	・速度、通信文の練習	
	5月	文書をデザインする知識 ・ワードアートの利用 ・テキストボックスの利用 ・クリップアートの利用	・文書デザイン (図形の挿入、応用) (画像の挿入、応用) ・速度、通信文の練習	
	6月	・EXCEL 文書の挿入 ・文書の合成 ・静止画像の利用	速度 「到達目標・10分700文字」	中間考査
	7月		・速度、通信文、	日本語 ワープロ検定 (日情)
	8月		・表計算の練習	レポート検定 (日情)
	9月			期末考査
後期	10月		速度 「到達目標・10分750文字」	日本語 ワープロ検定 (日情) 情報処理技能検定 (日情)
	11月		・速度、通信文、 ・表計算の練習	
	12月		速度 「到達目標・10分800文字」	中間考査 情報処理技能検定 (日情)
	1月		・速度、通信文、 ・表計算の練習	日本語 ワープロ検定 (日情) 期末考査
	2月	自宅学習		日本語 ワープロ検定 (日情) レポート検定 (日情)
	3月			

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	アルゴリズムとプログラム		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	アルゴリズムとプログラミング及びコンピュータを活用して、問題解決におけるデータ構造に関する基礎的な知識と技術を総合的に習得します。				
科目の目標	1 アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を理解する。 2 アルゴリズムとプログラミング及びコンピュータを活用して、問題解決における能力と態度を習得する。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「アルゴリズムとプログラム(実教)」 副教材「30時間でマスター Visual Basic.NET&Express(実教)」				
評価の観点 評価の方法	(観点) 1 問題解決の方法等に関心をもち、意欲的、主体的に取り組み理解することができたか。 2 習得した知識・技術を実際に活用し工夫することができたか。 (方法) 定期考査の結果(知識や思考力が身についているか)を基礎とし、アルゴリズム及びデータ構造とプログラミングソフトウェアの活用技術、課題提出、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。				
選択条件	「情報テクノロジー* (2年次)」を同時履修すること。 パソコン室を使用するため、選択人数 35 人以下を目安とする。				
選択する上での心得	システムの設計・管理分野に関わる応用科目として、アルゴリズム及びデータ構造とアルゴリズムの表現方法について学習します。プログラミング言語 (C 言語、Visual Basic など) について、プログラミングソフトウェアを活用して学習します。学習した知識を、コンピュータを活用した実習や演習を通して、より深く理解することが大切です。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 アルゴリズムの基礎	1 アルゴリズムの基本要素 2 処理手順の図式化	中間考査 筆記試験 課題提出
		2 プログラミングの基礎	1 いろいろなプログラム言語 2 基本的な命令文 3 基本制御構造	
	5月	3 プログラミング演習 1	1 Visual Basic の基礎 1 簡単な計算 2 キッチンタイマー	
	6月	4 プログラミング	1 配列 2 関数 3 応用プログラム	
	7月	5 プログラミング演習 2	1 Visual Basic の基礎 ウィンドウの中で画像を動かす	
	8月	6 数値計算の基礎	1 基本的な数値計算 2 アルゴリズムの工夫 3 数値計算の活用	
	9月	7 プログラミング演習 3	1 Visual Basic の基礎 計算プログラム	
後期	10月	8 データ構造	1 基本的なデータ構造 2 リストと木構造 3 スタックとキュー	中間考査 筆記試験 課題提出
	11月	8 プログラミング演習 4	1 Visual Basic の基礎 複数の画像を動かす	
		10 探索	1 探索とは 2 線形探索 3 二分探索	
	12月	11 プログラミング演習 5	1 Visual Basic の基礎 グラフィックツールを作る	期末考査 筆記試験 課題提出
	1月	12 整列	1 整列とは 2 交換法 3 選択法 4 挿入法	
	2月	13 プログラミング演習 6	1 Visual Basic の基礎 1 色を選べるグラフィックツールを作る	
	3月		2 セットアッププログラムの作成	

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	情報テクノロジー* (2年次)		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	ハードウェアやソフトウェアにかかわる技術の構成や特徴について、実習などの体験的な活動を通して学習し、実際に活用する能力と技術を習得します。				
科目の目標	1 情報産業を支える情報テクノロジーの基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力を習得する。 2 アプリケーションソフトウェアにかかわる基礎的な知識と技術を確実に身に付ける。 3 職業資格に関連する学習に主体的に取り組み、情報関連分野の技術革新に対応できる能力を習得する。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「情報テクノロジー (実教)」 各種検定試験問題集				
評価の観点 評価の方法	(観点) 1 情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解することができたか。 2 情報の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、情報分野の諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができたか。 3 各種検定試験に目標を設定し取り組むことができたか。 (方法) 定期考査の結果 (知識や思考力が身につけているか) を基礎とし、アプリケーションソフトウェアにかかわる基礎的な知識と技術、課題提出、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。				
選択条件	「情報テクノロジー* (3年次)」を履修すること。 「アルゴリズムとプログラム」を同時履修すること。 パソコン室を使用するため、選択人数35人以下を目安とする。				
選択する上 での心得	ソフトウェアに関する基礎的な情報実習として、日本語ワードプロセッサ、表計算等のアプリケーションソフトウェアの操作について学習します。 職業資格の取得にも目標を設定し、主体的に学習に取り組むことが大切です。				
備考	各種検定受験料	1回	2,000円×2科目から	2,500円×1科目	
	問題集	1冊	658円から	756円	
			※2回受験予定 (10月と2月)		合計7,000円程度
			※3冊使用予定 (4月と9月)		合計2,100円程度

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	キーボード操作 第2章 ソフトウェア 1節 オペレーティングシステムの仕組み ソフトウェアの種類と役割 オペレーティングシステムの役割と特性	タッチ化 ^① によるキー操作 システムソフトウェア アプリケーションソフトウェア オペレーティングシステムの必要性・機能 OSの種類と特徴 組み込み型 OS	中間考査 筆記試験 課題提出
	5月	ファイルシステムの構造と機能 ミドルウェア 2節 アプリケーションソフトウェア アプリケーションソフトウェアの種類	ディレクトリ管理 ファイル共有 バックアップ 断片化と最適化 ミドルウェアの特徴・用途 日本語ワープロソフト基礎1 実習問題1 実習問題2 表計算ソフト基礎1 実習問題1 実習問題2	
	6月			
	7月		日本語ワープロソフト応用1 実習問題3 実習問題4 表計算ソフト応用1 実習問題3 実習問題4	
	8月			
	9月	オープンソースソフトウェア プログラム開発環境 ユーザインタフェース	オープンソースソフトウェアの特徴・種類 プログラム言語の種類 言語プロセッサ マークアップ言語 ユーザインタフェースの特徴	
後期	10月	3節 情報コンテンツに関する技術 情報コンテンツの概要 マルチメディア技術 データの圧縮・伸長 第1章 ハードウェア	ソフトウェアとコンテンツ コンテンツ保護 静止画像 動画像 音声 データの圧縮・伸長の概要 静止画像・動画像・音の圧縮	日情 日本語ワー プロ・情報 処理検定
	11月	1節 コンピュータの種類と構成 コンピュータの種類と特性 コンピュータの基本構成 2節 コンピュータの内部処理 データ表現	コンピュータの種類と特性 ハードウェアの機能と構成 10進数・2進数・16進数 基数と重み 基数変換 データの単位・補助単位	中間考査 筆記試験 課題提出
	12月	論理演算 コンピュータの動作原理	論理回路 半加算器と全加算器 CPUの基本的な仕組み 命令の実行 CPUの性能指標 メモリ 主記憶装置と高速化の手法	
	1月	第2章 ソフトウェア 2節 アプリケーションソフトウェア アプリケーションソフトウェアの種類	表計算ソフト応用2 実習問題5 実習問題6	期末考査 筆記試験 課題提出
	2月			
	3月			日情 情報処理検 定

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	情報の表現と管理		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	情報を収集、整理、加工、表現などをするために必要な基礎的な知識と技術について、実習などの体験的な活動を通して学習し、実際に活用、管理する能力と技術を習得します。				
科目の目標	1 情報の表現と管理に関する基礎的な知識と技術を習得する。 2 情報を目的に応じて適切に表現するとともに、管理し活用する能力と態度を身に付ける。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「情報の表現と管理（実教）」 各種検定試験問題集				
評価の観点 評価の方法	（観点） 1 情報機器に特有な表現方法等に関心を持ち、意欲的、主体的に取り組むことができたか。 2 情報や情報手段の特性などに応じた情報の表現や管理の方法を習得できたか。 3 各種検定試験に目標を設定し取り組むことができたか。 （方法） 定期考査の結果（知識や思考力が身についているか）を基礎とし、課題の状況、情報を適切に表現する能力、授業への関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。				
選択条件	パソコン室を使用するため、選択人数35人以下を目安とする。				
選択する上 での心得	基礎的な情報実習として、日本語ワードプロセッサのアプリケーションソフトウェアの操作について学習します。 職業資格の取得にも目標を設定し、主体的に学習に取り組むことが大切です。				
備考	各種検定受験料	1回	2,000円から3,000円		
		※2回受験予定（7月と2月）		合計	5,000円程度
	問 題 集	1冊	864円から1,306円		
		※2冊使用予定（4月と9月）		合計	2,170円程度

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 情報活用とメディア 1 メディアの種類と特性 2 コミュニケーションの基礎	1 メディアと表現 2 メディアと発達 1 コミュニケーションの成立 2 コミュニケーションの技法	中間考査 筆記試験 課題提出
	5月	文書デザイン実習 1	文書デザイン 1 ・図形の挿入、基本 ・画像の挿入、基本	
	6月	2 情報の表現 1 文書による表現 2 図解による表現	1 文書作成の基礎 1 図解表現の基礎 2 表・グラフの作成	
	7月	3 音による表現	1 音声・音楽表現の基礎	日情 文書デザイン 検定
	8月	4 画像による表現	1 画像表現の基礎 2 画像の取り込みと編集 3 画像の作成と編集	期末考査 筆記試験 課題提出
	9月	5 動画像による表現	1 映像表現の基礎	
後期	10月	6 プレゼンテーション	1 プレゼンテーションの意義と重要性 2 プレゼンテーションの準備 3 プレゼンテーションの技法 4 プレゼンテーションソフトの利用	中間考査 筆記試験 課題提出
	11月	文書デザイン実習 2	文書デザイン 2 ・図形の挿入、応用 ・画像の挿入、応用 ・表の挿入、応用	
	12月	7 ネットワークを利用した情報発信	1 電子コミュニケーションの意義と重要性 2 電子コミュニケーションの媒体 3 ネットワークの活用 4 情報発信者の心構え	
	1月	3 情報の管理	1 ドキュメンテーション 2 情報の管理	期末考査 筆記試験 課題提出
	2月		1 ファイリングシステム 2 データの保護とセキュリティ 3 情報の管理に関する法規	日情 文書デザイン 検定
	3月	3 コンピュータによる情報の管理と活用	1 ファイルと階層構造 2 コンピュータによる情報の管理 3 これからの情報社会	

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎科目)
講座名	情報メディア		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	情報コンテンツを制作・発信するために、必要な情報メディアにかかわる基礎的な知識と技術を習得します。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 産業社会や社会における情報メディアの果たす役割を理解する。 2 情報メディアに関する基礎知識を習得する。 3 情報メディアを実際に活用することができる態度を身につける。 				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「情報メディア(実教)」 副教材「30時間でマスター Photoshop Elements 5.0/6.0/7.0 (実教)」				
評価の観点 評価の方法	<p>(観点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 情報メディアが果たす役割や基礎的な知識と技術を習得することができたか。 2 画像処理ソフトウェアの基本操作ができ、独自の処理ができたか。 <p>(方法)</p> <p>定期考査の結果(知識や思考力が身についているか)を基礎とし、課題提出、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	パソコン室を使用するため、選択人数 35 人以下を目安とする。				
選択する上 での心得	<p>情報コンテンツの制作・発信分野の応用科目として、情報コンテンツを制作・発信するために、必要な情報メディアにかかわる知識や技術について学習します。実習を通して、これらを実際に活用する能力と態度を身に付けます。</p> <p>著作権などの知的財産権の取扱いに留意して、自ら積極的に学習に取り組むことや、計画的に実習に取り組むことが必要とされます。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等	
前期	4月	1 メディアの基礎	1 メディアの定義と機能 2 メディアの種類と特性	中間考査 筆記試験 課題提出	
	5月	2 画像処理ソフトウェア演習 1	1 画像処理ソフト 2 起動と終了 3 ツールボックス 4 パレット操作 5 フィルタ機能 6 エフェクト機能		
	6月	3 情報メディアの特性と活用	1 情報メディアの種類と特性 2 REPORT 制作現場 3 情報メディアの活用		
	7月	4 画像処理ソフトウェア演習 2	1 文字の入力と配置 2 簡単な画像合成 3 複雑な画像合成 4 画像と色調の補正 5 シェイプで作画		
	8月	5 課題制作 1	1 共通課題制作 2 自由作品制作		
	9月				期末考査 筆記試験 課題提出
後期	10月	6 情報メディアと社会	1 情報メディアが社会に及ぼす影響 2 情報メディアと情報産業	中間考査 筆記試験 課題提出	
	11月	7 課題制作 2	1 共通課題制作 2 自由作品制作		
	12月				
	1月	8 課題制作 3	1 共通課題制作 2 自由作品制作		
	2月				期末考査 筆記試験 課題提出
	3月				

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	ネットワークシステム		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	コンピュータ同士を接続したネットワークシステムなどについて、その役割、データ通信技術、設計構築、運用、保守及び安全対策などに関する基礎的な知識・技術や実際に活用する能力を習得します。				
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークを構成する機器の働きとデータが転送される仕組みを理解する。 2 ネットワークシステムの安全な運用ができる基本的な知識を理解する。 3 データ管理システムを実際に作成しサーバで管理し LAN で利用するしくみを実習を通して理解する。 				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「ネットワークシステム（実教）」				
評価の観点 評価の方法	<p>(観点)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ネットワークシステムに対する関心を深め、意欲的、主体的に取り組み理解することができたか。 2 ネットワークシステムの役割を理解し、習得した知識・技術を実際に活用し工夫することができたか。 3 実習等に目標を設定し取り組むことができたか。 <p>(方法)</p> <p>定期考査の結果(知識や思考力が身につけているか)を基礎とし、提出物の状況、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。</p>				
選択条件	<p>2年次で「アルゴリズムとプログラム」を履修していること。</p> <p>「情報テクノロジー（3年次）」と同時履修すること。</p> <p>パソコン室を使用するため、選択人数35人以下を目安とする。</p>				
選択する上での心得	<p>システムの設計・管理分野に関わる応用科目として、ネットワークシステムについて学習します。インターネットが普及した現在では、用意された環境でインターネットを利用するだけではなく、ネットワークに接続されたコンピュータを、コンピュータウイルスや外部の攻撃から守ったり、簡単なネットワークを構築・利用したりすることが求められています。このような知識や技術を身につけ、その成果を実社会の中で役立てていくために自ら積極的、計画的に学習に取り組むことが必要とされます。</p>				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 ネットワークの基礎	1 ネットワークシステムとは 2 ネットワークを構成する要素 3 ネットワークアーキテクチャ	中間考査 筆記試験 課題提出
	5月	2 ネットワークシステム実習 1	1 資源共有の実習 2 LAN の構成要素の確認	
	6月	3 TCP/IP とインターネット	1 TCP/IP 2 インターネット	
	7月	4 ネットワークシステム実習 2	1 MAC アドレスと IP アドレスの関係 2 ドメイン名から IP アドレスを調べる 3 ルータの転送機能の確認 4 スイッチングハブの機能を調べる	期末考査 筆記試験 課題提出
	8月			
	9月	5 ネットワークの構築	1 ネットワークの分析 2 ネットワークの設計	
後期	10月	6 ネットワークシステム実習 3	1 ネットワークマップ(物理配線)作成 2 アドレスマップの作成 3 ストレートケーブルとクロスケーブルの実習 4 ハブとスイッチングハブの違いの確認 5 パソコンに IP アドレスを手動設定 6 ping コマンドによるブロードキャストの確認	中間考査 筆記試験 課題提出
	11月			
	12月	7 ネットワークの運用と保守	1 ネットワークの運用 2 ネットワークの保守 3 ネットワークの安全対策	期末考査 筆記試験 課題提出
	1月	8 ネットワークシステム実習 4	1 暗号化の実習 2 バックアップの実習 3 アクセス権の設定	
	2月		自宅学習	
	3月		自宅学習	

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	表現メディアの編集と表現		単位数	4	ブロック 番号
科目の概要	コンピュータによる表現メディアの編集と表現に関する知識と技術や、実際に活用する能力を習得します。				
科目の目標	1 表現メディアの編集と表現に関する知識および技術を習得する。 2 習得した技術を活用できるよう、作品を構成し企画する実践的な能力を身につける。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	準教科書「表現メディアの編集と表現（実教）」 副教材「30時間でマスター ホームページビルダー Ver11, 12, 13（実教）」 副教材「Windows Live ムービーメーカー ビデオ編集テクニック（新紀元社）」 副教材「30時間でマスター Photoshop Elements 5.0/6.0/7.0（実教）」2年次 から継続使用				
評価の観点 評価の方法	（観点） 1 表現メディアの編集と表現に関する知識や技術を習得できたか。 2 習得した知識・技術を実際に活用することができたか。 （方法） 定期考査の結果（知識や思考力が身についているか）を基礎とし、課題の状況、作品制作の完成度、作品を構成し企画する実践的な能力、授業への関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。				
選択条件	2年次で「情報メディア」を履修していること。 パソコン室を使用するため、選択人数35人以下を目安とする。				
選択する上 での心得	情報コンテンツの制作・発信分野の応用科目として、必要な表現メディアにかかわる知識や技術について学習します。表現メディアの特質として、図形、画像や音などの情報をデジタル情報として一元化し、目的に応じて選択、統合し、利用者に効果的に伝達することができます。このような表現メディアのもつ伝達効果とその特質を理解し、作品を構成、企画することができるよう、自ら積極的、計画的に学習に取り組むことが必要とされます。 作品制作では、デジタルカメラやビデオカメラなどを活用し、必要な素材を収集するため、著作権や肖像権に配慮して取り組む必要があります。				
備考					

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	1 表現メディアコンテンツ	1 表現メディアとコミュニケーション 2 Webコンテンツ	中間考査 筆記試験 課題提出
	5月	2 Webコンテンツによる情報表現	1 制作プロセスと企画 2 Webコンテンツにおける情報の視覚化 3 ビジュアルイメージの決定 4 Webコンテンツによる統合 5 動作確認と評価	
	6月	3 課題作品制作 1	1 課題作品の制作 2 課題作品の評価	
	7月	4 映像	1 アニメーション 2 ビデオ 3 3Dグラフィックス 4 サウンド 5 映像コンテンツの制作	
	8月	5 課題作品制作 2	1 課題作品の制作 1 2 課題作品の制作 2 3 課題作品の制作 3 4 課題作品の評価	
	9月			
後期	10月	6 視覚表現の要素	1 形態 2 画面空間の分割と配置 3 色彩	中間考査 筆記試験 課題提出
	11月	7 文字と画像	1 タイポグラフィ 2 画像	
	12月	8 課題作品制作 3	1 課題作品の制作 1 2 課題作品の制作 2 3 課題作品の評価	
	1月			期末考査 筆記試験 課題提出
	2月		自宅学習	
	3月		自宅学習	

系 列	情 報	教 科	情 報	選択科目の 種類	総合選択科目 (基礎以外の科目)
講座名	情報テクノロジー* (3年次)		単位数	2	ブロック 番号
科目の概要	ハードウェアやソフトウェアにかかわる技術の構成や特徴、情報システムの基本的な形態としくみ、データベースの基本的な知識と技術について、実習などの体験的な活動を通して学習し、実際に活用する能力と技術を習得します。				
科目の目標	1 情報産業を支える情報テクノロジーの基礎的な知識と技術を習得し、実際に活用する能力を習得する。 2 アプリケーションソフトウェアにかかわる基礎的な知識と技術を確実に身に付ける。 3 職業資格に関連する学習に主体的に取り組み、情報関連分野の技術革新に対応できる能力を習得する。				
授業形態	講義・実習				
教科書 使用教材等	教科書「情報テクノロジー (実教)」2年次から継続使用 副教材「30時間でマスターExcel2007 (実教)」 各種検定試験問題集				
評価の観点 評価の方法	(観点) 1 情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解することができたか。 2 情報の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、情報分野の諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができたか。 3 各種検定試験に目標を設定し取り組むことができたか。 (方法) 定期考査の結果 (知識や思考力が身につけているか) を基礎とし、アプリケーションソフトウェア・データベースにかかわる基礎的な知識と技術、課題提出、関心・意欲・態度などを含めて総合的に評価する。				
選択条件	「情報テクノロジー* (2年次)」を履修していること。 「ネットワークシステム」を同時履修すること。 パソコン室を使用するため、選択人数35人以下を目安とする。				
選択する上 での心得	基礎的な情報実習として、表計算、データベースのアプリケーションソフトウェアの操作について学習します。 職業資格の取得にも目標を設定し、主体的に学習に取り組むことが大切です。				
備考	各種検定受験料 1回 2,500円から3,000円 ※1回から2回受験予定 (7月 10月) 合計3,000円程度 問 題 集 1冊 864円 ※1冊使用予定 (4月) 合計864円程度				

	月	単元／題材	学習内容	定期考査等
前期	4月	第2章 ソフトウェア 2節 アプリケーションソフトウェア アプリケーションソフトウェアの種類	表計算ソフト応用3 実習問題7 実習問題8 表計算ソフト応用4 実習問題9 実習問題10	中間考査 筆記試験 課題提出 日情 情報処理 検定 期末考査 筆記試験 課題提出
	5月	第1章 ハードウェア 3節 周辺装置 補助記憶装置 入力装置	磁気ディスク装置の構造と記憶方法 ハードディスク以外の補助記憶装置 キーボードとポインティングデバイス 読み取り装置とバーコード 解像度 デイスプレイの種類と特徴 プリンタの種類と特徴	
	6月	出力装置 入出カインタフェース 家電電化製品への組み込み	転送する方式 インタフェースの規格 組込システム RFID	
	7月	4節 標準化団体 標準化の意味やさまざまな標準化団体	規格を標準化することの必要性 や重要性 さまざまな標準化団体	
	8月	第3章 情報システム 1節 情報システム 情報システムの形態 情報システムの構成要素 情報システムの実際	処理形態による分類 利用形態による分類 システム構成・性能 ハードディスクの障害対策	
	9月			
後期	10月	2節 ネットワーク 無線 LAN 情報セキュリティ	無線によるネットワーク接続 無線 LAN の規格 CSMA/CA 方式 Wi-Fi 高速無線通信を実現する技術 無線 LAN のセキュリティ 暗号化とデジタル署名 認証と権限 セキュリティプロトコル ファイアウォール ハウジングサービス プロキシ・サーバ 脅威と脆弱性	(日情 情報処理 検定)
	11月	3節 データベース データベースの基本的な概念 リレーショナルデータベース トランザクション処理	データベースの型・管理システム リレーショナルデータベースの基本 排他制御 デットロック データベースのリカバリ	中間考査 筆記試験 課題提出
	12月	検索エンジンの仕事の流れ	データベースソフト基本1 データベースソフト基本2 実習問題1 実習問題2	期末考査 筆記試験 課題提出
	1月			
	2月		自宅学習	
	3月		自宅学習	